



DAIHATSU

01999-B2644

Mira e:S

取扱説明書

よくお読みになって使用してください。
取扱説明書はお車の中に保管しましょう。



このたびは、ダイハツ車をお買い上げいただき、 ありがとうございます。

本書は、ミライースの正しい取り扱い方や、お手入れの方法などについて説明しているほか、お車を操作する上で必ず守っていただきたいこと、また、万一のときの処置についても記載しています。安全で快適なカーライフをお楽しみいただくために、ご使用の前に必ずお読みください。

ご愛車のために

- 車種によって取り扱い方法が異なる場合は、車両型式やエンジン型式を確認した上で操作を行ってください。
- お車をゆずられる際は、次のオーナーのために必ず本書をお車に付けておいてください。
 - 本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管しておいてください。
 - ご不明な点は、ご購入先のダイハツサービス工場（営業スタッフ）におたずねください。

イラスト目次

イラストから検索

1 安全・安心のために

お客様に**必ず**お読みいただきたいこと

2 計器の見方

メーター・警告灯／表示灯の種類・見方など

3 各部の操作

ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整など

4 運転

運転に必要な操作やアドバイス

5 室内装備・機能

室内装備の使い方など

6 お手入れのしかた

お車のお手入れ・メンテナンスの方法

7 万ーの場合には

故障したときや、緊急時などの対処

8 車両情報

お車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報など

さくいん

症状から検索

音から検索

アルファベットで検索

五十音で検索

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	10
検索のしかた	11
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために	
運転する前に	20
安全なドライブのために	22
シートベルト	24
SRS エアバッグ	29
排気ガスに対する注意	36
1-2. お子さまの安全	
お子さまを乗せるときは	37
チャイルドシート	38
1-3. 盗難防止装置	
エンジンイモビライザー	
システム	54
セキュリティアラーム	55

2 計器の見方

2-1. 計器の見方	
警告灯／表示灯	60
計器類	65
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	66

3 各部の操作

3-1. キー	
キー	80
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
キーフリーシステム	83
ワイヤレスリモコン	92
ドア	
(フロントドア、リヤドア)	94
バックドア	103
3-3. シートの調整	
フロントシート	108
リヤシート	109
ヘッドレスト	111
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	113
インナーミラー	115
ドアミラー	116
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウインドウ	120

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	126
荷物を積むときの注意	134

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ（キーフリー システム非装着車）	135
エンジン（イグニッション） スイッチ（キーフリー システム装着車）	138
CVT 車の運転	142
方向指示レバー	144
パーキングブレーキ	145

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	146
AHB （オートハイビーム）	150
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	154
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）	156

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	158
---------------	-----

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト	162
衝突警報機能（対車両・ 対歩行者）、衝突回避支援 ブレーキ機能（対車両・ 対歩行者）	173
ブレーキ制御付誤発進 抑制機能（前方・後方）	186
車線逸脱警報機能・ 路側逸脱警報機能	196
ふらつき警報	201
先行車発進お知らせ機能	204
アイドリングストップ システム（eco IDLE）	207
コーナーセンサー	215
バックカメラ	221
プラスサポート （販売店オプション）	224
運転を補助する装置	229

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	235
--------------	-----

5 室内装備・機能**5-1. エアコンの使い方**

マニュアルエアコン	240
オートエアコン	245
シートヒーター	252

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧	254
-------	-----

5-3. 収納装備

収納装備一覧	256
ラゲージルーム内装備	260

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備	262
----------	-----

6 お手入れのしかた**6-1. お手入れのしかた**

外装のお手入れ	268
内装のお手入れ	272

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	275
ガレージジャッキ	278
エンジンオイルについて	279
ウォッシュ液の補充	280
タイヤについて	282
タイヤの交換	285
タイヤ空気圧について	291
エアコンフィルターの交換	293
ワイパーゴムの交換	295
キーの電池交換	300
ヒューズの点検・交換	304
電球（バルブ）の交換	307

7 万一の場合には**7-1. まず初めに**

故障したときは	320
非常点滅灯 （ハザードランプ）	321
発炎筒	322
車両を緊急停止するには	324
水没・冠水したときは	326
車中泊が必要なときは	327

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	328
フューエルポンプ シャットオフシステム	334
警告灯がついたときは	335
「スマアシ停止」が 表示されたときは	342
パンクしたときは	344
エンジンが かからないときは	356
電子カードキーが 正常に働かないときは （キーフリーシステム 装着車）	357
バッテリーが あがったときは	359
オーバーヒート したときは	363
スタックしたときは	366

8 車両情報**8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など) 368

8-2. カスタマイズ機能

カスタマイズ機能一覧 374

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 380

さくいん

こんなときは
(症状別さくいん) 382
お車から音が鳴ったときは
(音さくいん) 385
アルファベット順さくいん 386
五十音順さくいん 387

1

2

3

4

5

6

7

8

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

ダイハツサービス工場に取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- ダイハツが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、お車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
 - ・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
 - ・電装品・無線機の取り付け・取り外し
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては P. 9 も参照してください。
- フロントウィンドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けしないでください。視界を妨げるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

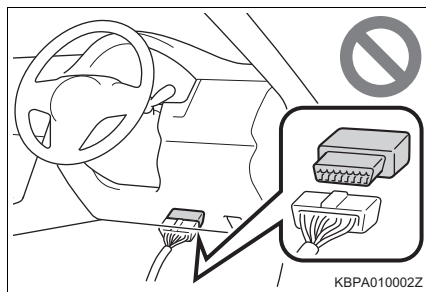
電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。

ダイハツ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してダイハツは保証いたしません。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けしないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

お車には、車両を制御するためのコンピューターが複数装備されており、車両の制御や操作に関するデータなどを記録しています。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

●データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者はコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生したときに車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせ使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。ダイハツに加え、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

●EDR データの情報開示

次の場合を除き、ダイハツは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ダイハツが訴訟で使用する場合

ただし、ダイハツは

- ・データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

- EFI※ コンピューター
- スマートアシスト
- VSC
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずダイハツサービス工場にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をダイハツサービス工場にてご提供します。

※“EFI”はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

ダイハツサービス工場で専用の電子カードキーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→ P. 224）の機能が利用可能になります。詳細については、ダイハツサービス工場にお問い合わせください。

本書の見方



警告

お守りいただかないと、お客様ご自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。



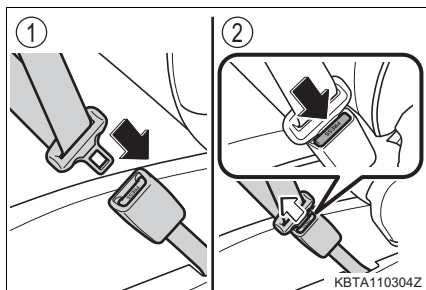
注意

お守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1**2****3**... 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

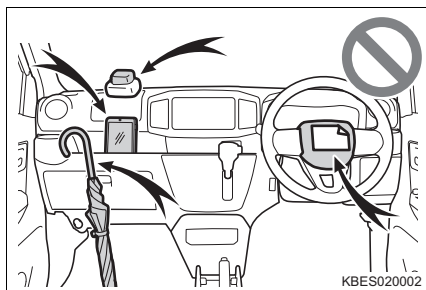
➡: 押す・回すなど、していただきたい操作を示しています。

➡: ふたが開くなど、操作後の作動を示しています。



➡: 説明の対象となるもの・場所を示しています。

⊘: “してはいけません”
“このようにしないでください”
“このようなことを起こさないでください”という意味です。



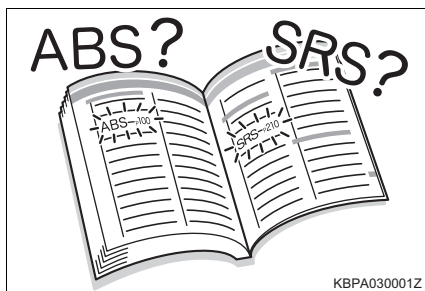
知識

機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

検索のしかた

▶ 名称から探す

- ・ 五十音順さくいん 387
- ・ アルファベット順さくいん 386



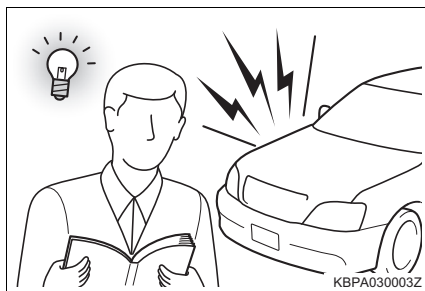
▶ 取り付け位置から探す

- ・ イラスト目次 12



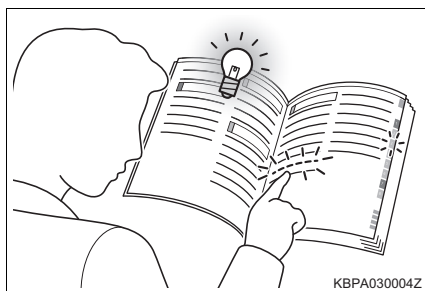
▶ 症状や音から探す

- ・ こんなときは
（症状別さくいん） 382
- ・ お車から音が鳴ったときは
（音さくいん） 385



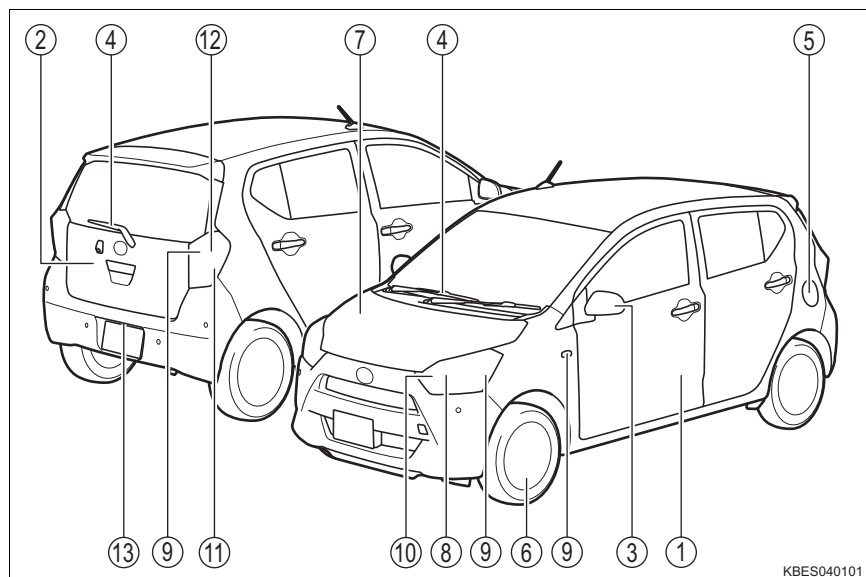
▶ タイトルから探す

- ・ 目次 2



イラスト目次

外観



KBES040101

ヘッドランプの形状は、グレードなどで異なります。

- ① ドア **P. 94**
 - 施錠／解錠 P. 83, 92, 94
 - ドアガラスの開閉 P. 120
 - キーでの施錠／解錠 P. 95, 357
 - 警告灯 P. 335
- ② バックドア **P. 103**
 - 施錠／解錠 P. 83, 103
 - 警告灯 P. 335
- ③ ドアミラー **P. 116**
 - 鏡面の角度調整 P. 116
 - ミラーの格納 P. 117
 - 曇りを取る（ミラーヒーター）★ P. 118
- ④ ワイパー **P. 154, 156**
 - 冬季の注意 P. 235
 - ワイパーゴムの交換 P. 295

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

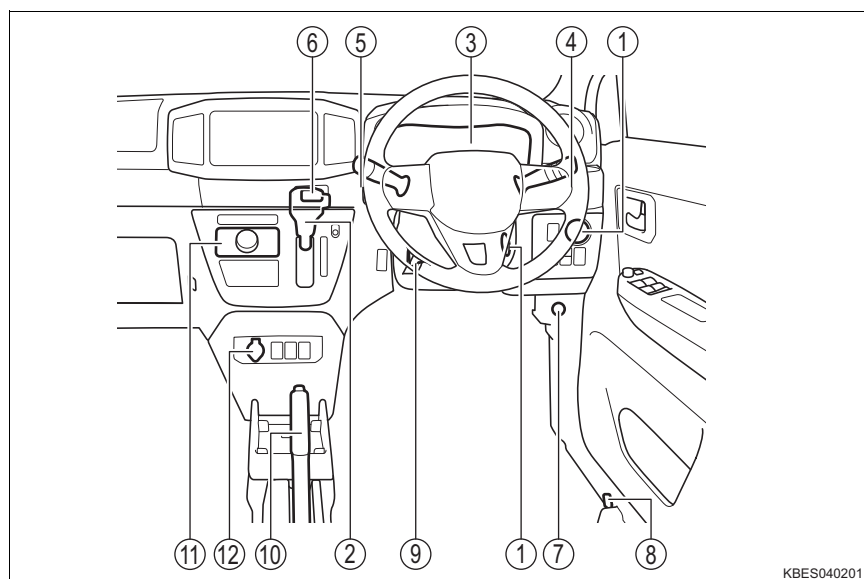
⑤ 給油口	P. 158
給油方法	P. 158
燃料の種類・燃料タンク容量	P. 368
⑥ タイヤ	P. 282
サイズ・空気圧	P. 372
冬用タイヤ・タイヤチェーン	P. 235
点検・ローテーション	P. 282
パンク時の対処	P. 344
⑦ ボンネット	P. 275
開け方	P. 275
エンジンオイル	P. 368
オーバーヒート時の対処	P. 363

走行にかかわる外装のランプバルブ

(交換要領：P. 307, ワット数：P. 372)

⑧ ヘッドランプ	P. 146
⑨ 方向指示灯	P. 144
⑩ 車幅灯	P. 146
⑪ 後退灯	
シフトポジションを R にする	P. 142
⑫ 尾灯	P. 146
⑬ 番号灯	P. 146

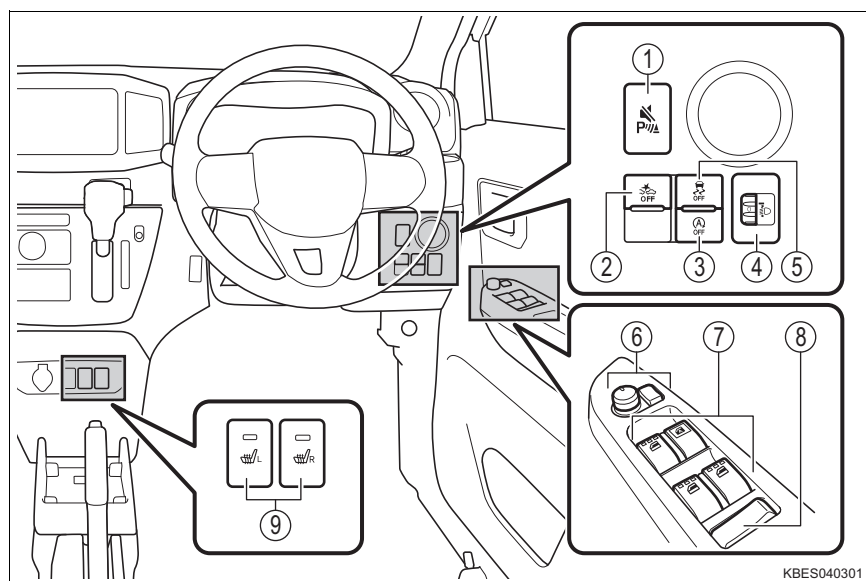
インストルメントパネル



- ① エンジンスイッチ P. 135, 138
 エンジンの始動・モード切り替え P. 135, 138
 エンジンの緊急停止 P. 324
 エンジンが始動できないときの対処 P. 356
 警告灯 P. 335
- ② シフトレバー P. 142
 シフトポジションの切り替え P. 142
 けん引時の注意 P. 328
 シフトレバーが動かないときの対処 P. 143
- ③ メーター P. 65
 見方・明るさの調整 P. 69
 警告灯／表示灯 P. 60
 警告灯点灯時の対処 P. 335
 マルチインフォメーションディスプレイ P. 66
 表示内容 P. 66

④ 方向指示レバー	P. 144
ランプスイッチ	P. 146
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯など	P. 146
⑤ ワイパー&ウォッシャースイッチ	P. 154, 156
使い方	P. 154, 156
ウォッシャー液の補充	P. 280
⑥ 非常点滅灯スイッチ	P. 321
⑦ ボンネット解除レバー	P. 275
⑧ 給油扉オープナー	P. 160
⑨ チルトステアリング★	P. 113
⑩ パーキングブレーキ	P. 145
かける・解除する	P. 145
冬季の注意	P. 235
警告ブザー	P. 64
⑪ エアコン	P. 240, 245
操作方法	P. 240, 245
リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォグガー）	P. 241, 247
⑫ アクセサリーソケット	P. 263

スイッチ類

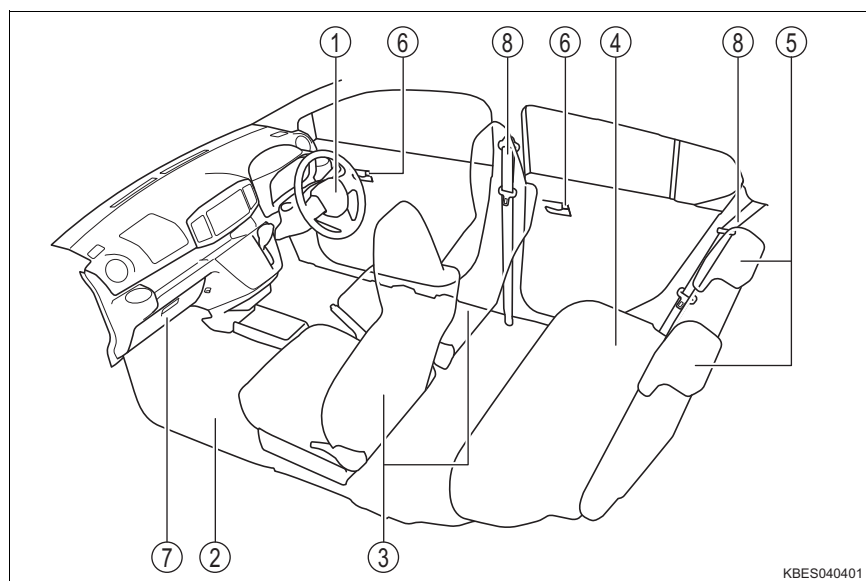


KBES040301

- ① コーナーセンサーブザー OFF スイッチ P. 217
- ② スマートアシスト OFF スイッチ P. 166
- ③ eco IDLE OFF スイッチ P. 207
- ④ 手動光軸調整ダイヤル P. 148
- ⑤ VSC・TRC OFF スイッチ P. 230
- ⑥ ドアミラースイッチ★ P. 116
- ⑦ パワーウィンドウスイッチ P. 120
- ⑧ ウィンドウロックスイッチ P. 120
- ⑨ シートヒータースイッチ★ P. 252

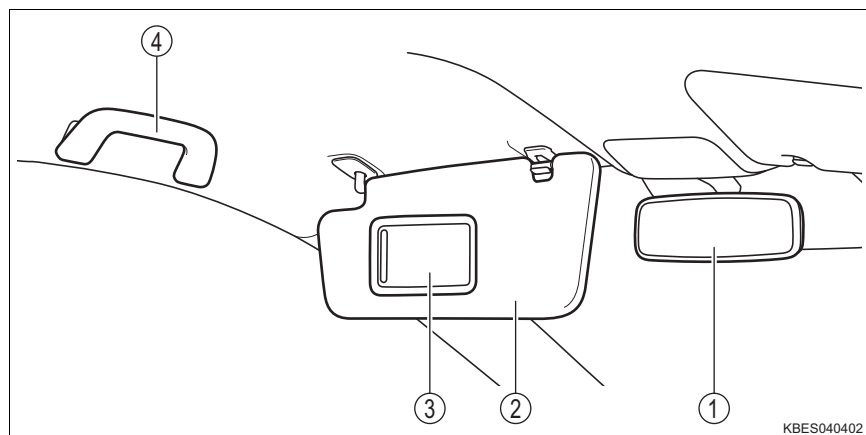
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

室内



- ① SRS エアバッグ P. 29
- ② フロアマット P. 20
- ③ フロントシート P. 108
- ④ リヤシート P. 109
- ⑤ ヘッドレスト★ P. 111
- ⑥ ロックレバー P. 95
- ⑦ グローブボックス P. 257
- ⑧ シートベルト P. 24

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- ① インナーミラー P. 115
- ② サンバイザー※ P. 262
- ③ バニティミラー★ P. 262
- ④ 格納式アシストグリップ P. 265

※ やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→ P. 42)



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	20
安全なドライブのために	22
シートベルト	24
SRS エアバッグ	29
排気ガスに対する注意	36

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	37
チャイルドシート	38

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザー システム	54
セキュリティアラーム	55

運転する前に

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、お車に異常がないことを確認してください。

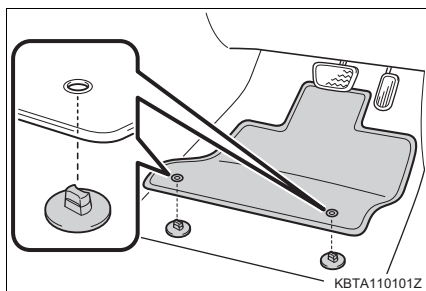
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、ダイハツサービス工場ですべて点検整備を受けてください。

フロアマット

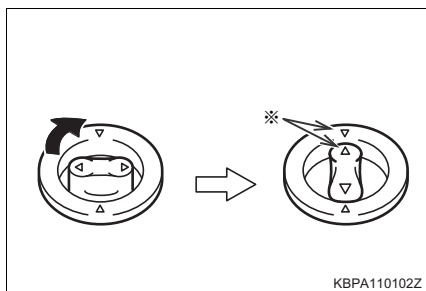
専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかり固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーを回して、フロアマットを固定する

※ △マークを必ず合わせてください。



固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

次のことを必ずお守りください。

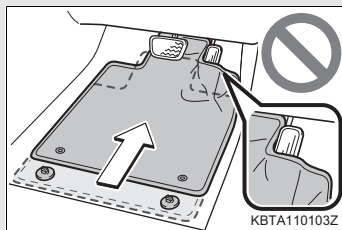
お守りいただかないと、フロアマットがすれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たりお車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 運転席にフロアマットを敷くとき

- ダイハツ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかり固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■ 運転する前に

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかり固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

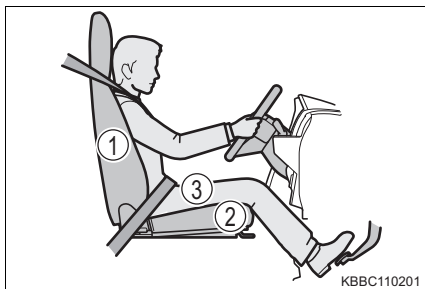


安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢について

- ① まっすぐ座り、運転操作時に背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→ P. 108）
- ② ペダルをしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→ P. 108）
- ③ シートベルトを正しく着用する（→ P. 24）



KBBC110201

シートベルトを正しく着用する

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→ P. 24）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→ P. 38）

ミラーを調整する

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。（→ P. 115, 116）

！ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。

正しい運転姿勢が取れないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。

ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

●ペダル操作が確実に行える履物を着用してください。ペダル操作が確実に行えないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。

●他車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

●飲酒運転は絶対にしないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

●運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

●長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。

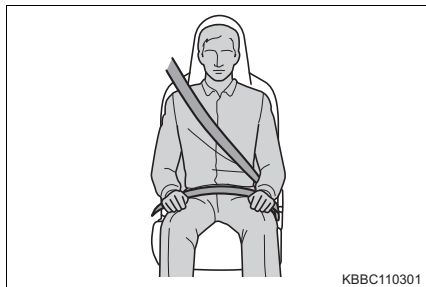
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、ただちに休憩してください。

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

正しく着用する

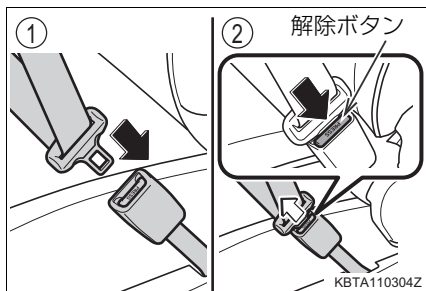
- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩から外れないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする



着け方・外し方

- ① ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートバックルに差し込む
- ② ベルトを解除するには、解除ボタンを押す

ベルトは自動的に収納されますので、ねじれや引っかかりなどがなければ確認しながら、プレートに手を添えてゆっくり戻してください。



シートベルトプリテンショナー & フォースリミッター（フロント席）

■ プリテンショナー

前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、後ろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



■ フォースリミッター

前方からの強い衝撃を受けた場合、シートベルトにある一定以上の荷重がかかったときに、それ以上荷重がかからないようにする機構で、乗員の胸部への衝撃を緩和します。

前方からの衝撃が弱いときや、後ろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■ シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターについて（フロント席）

シートベルトプリテンショナー&フォースリミッターは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

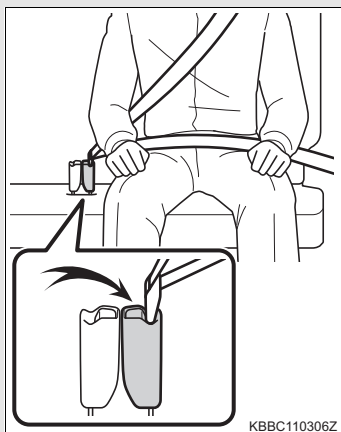
急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトの経路を妨げる荷物の積みかたはしない



- ハンドルやメーターに必要以上に近付いて運転しない
- シートベルトに、洗濯ばさみやクリップなどでたるみを付けない
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまは後席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する
- 後席のシートベルトを着用するとき
は、体に近いバックルを使用する



警告**■ お子さまのシートベルトの使い方**

このお車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトを正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→ P. 38)
- シートベルトを正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→ P. 24)

■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→ P. 24)

通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ 疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

→ P. 50

■ シートベルトが汚れた場合

中性洗剤を使用してください。ベンジンなどの有機溶剤を使用すると、シートベルトの性能が落ち、十分な効果を発揮できません。同様にシートベルトの脱色や染色もやめてください。

■ シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターについて（フロント席）

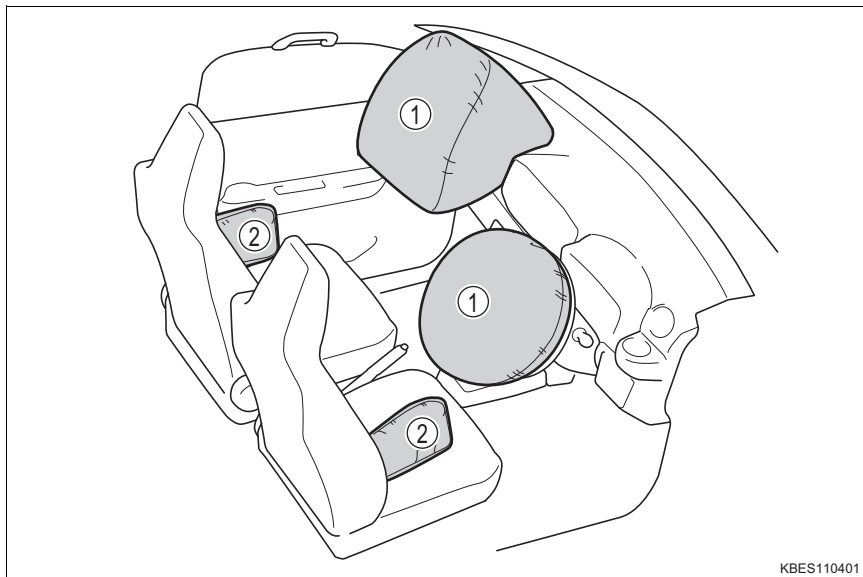
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点滅します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずダイハツサービス工場で交換してください。

 警告**■ シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- バックルや巻き取り装置の内部に異物などを入れないようにしてください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにダイハツサービス工場に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- シートベルトの取り付けや取り外し・改造をしないでください。衝突時に十分な効果を発揮できないおそれがあります。
- プリテンショナー & フォースリミッター付きシートベルトの取り付けや取り外し・分解・廃棄などは、ダイハツサービス工場以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

SRS エアバッグ

SRSエアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。



1

安全・安心のために

◆ フロント SRS エアバッグ

- ① 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

◆ SRS サイドエアバッグ

- ② SRS サイドエアバッグ
(前席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

警告

■ SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。

SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

- お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。お子さまは後席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。(→ P. 38)

- シートのふちに座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない



- フロントドアへ寄りかからない

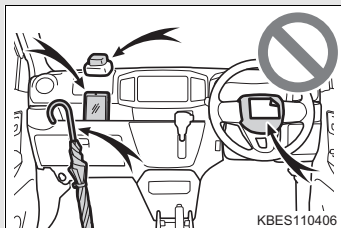


警告

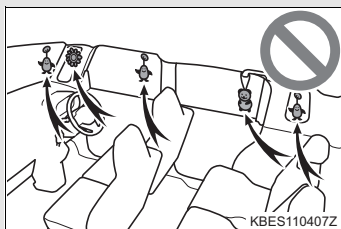
- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、手足や顔などを出したりしない



- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分やその周辺には何も取り付けたり、置いたりしない



- ドア・フロントガラス・ドアガラスなどには何も取り付けない



- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが展開する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのを妨げ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って展開したりするおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、触れないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずダイハツサービス工場と交換してください。

警告

■ SRS エアバッグが作動するとき

SRS エアバッグは高温のガスにより非常に高い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

■ 改造・廃棄について

ダイハツサービス工場への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取り外し・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮周辺の修理・取り外し・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

知識

■ SRS エアバッグが作動するとき

- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロントシートなどだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

- ・ 前方約 30° 以上の角度でコンクリートの壁やガードレールなどに衝突したとき
- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）
- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

知識

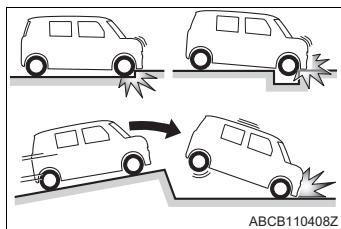
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイドエアバッグ）

- SRS サイドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が約 25km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイドエアバッグが作動します。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS サイドエアバッグが作動する場合があります。

- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



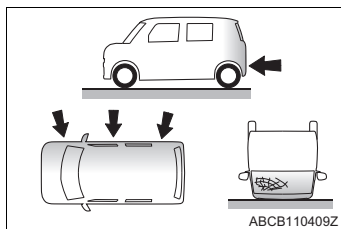
■ SRS エアバッグが作動しないとき

SRS エアバッグはエンジンスイッチが“OFF”、“ACC”のときに衝突しても作動しません。

■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

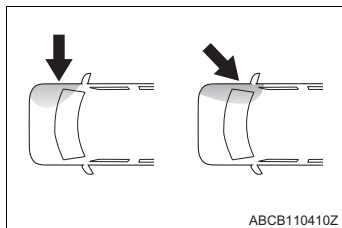


知識

■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイドエアバッグ）

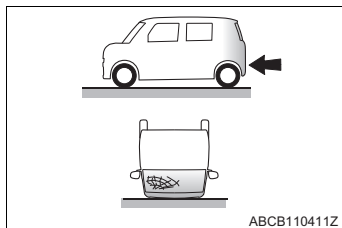
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

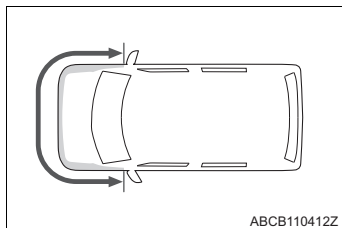
- 後方からの衝撃
- 横転



■ ダイハツサービス工場に連絡が必要な場合

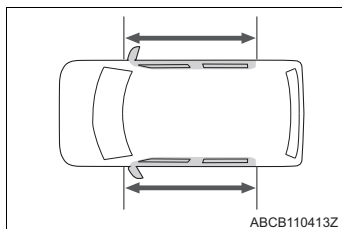
次のような場合には、修理・点検などが必要になります。できるだけ早くダイハツサービス工場へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

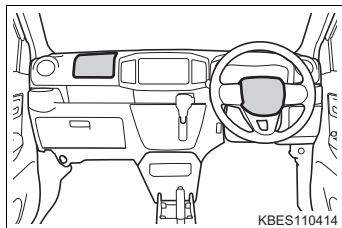


 知識

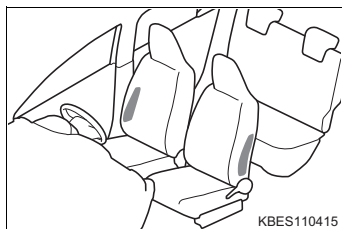
- SRS サイドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよび、その周辺部分を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れ替え、ただちにダイハツサービス工場で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。
やむを得ないときは、開かれた場所にお車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管などの腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→ P. 38)
- 運転装置に触れるのを防ぐため、お子さまは後席に乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター (→ P. 96) ・ウィンドウロックスイッチ (→ P. 120) を使用してください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ ・ ボンネット ・ ドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

- お子さまをお車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた P. 38 を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートを使用してください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

- ダイハツでは、より安全にお使いいただくために、ダイハツ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。

ダイハツ純正チャイルドシートは、ダイハツ車のために作られたチャイルドシートです。ダイハツサービス工場で購入することができます。

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトを着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。(→ P. 43)

チャイルドシートの適合性について

■ 質量グループについて

UN (ECE) R44※ の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次の5種類に分類されます。

グループ0：10kg まで

グループ0⁺：13kg まで

グループI：9～18kg

グループII：15～25kg

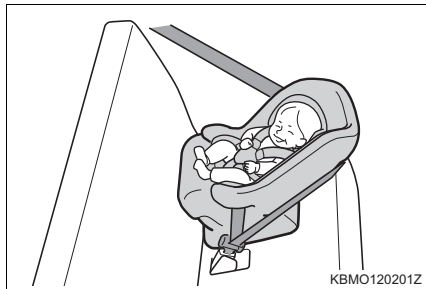
グループIII：22～36kg

※ UN (ECE) R44 は、チャイルドシートに関する国際法規です。

チャイルドシートの種類

▶ベビーシート

UN (ECE) R44 基準のグループ 0、
0⁺ に相当



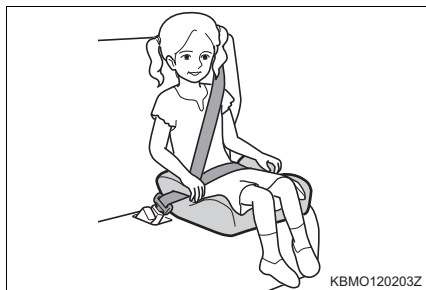
▶チャイルドシート

UN (ECE) R44 基準のグループ 0⁺、
I に相当



▶ジュニアシート

UN (ECE) R44 基準のグループ II、
III に相当



 警告**■ お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。
- ダイハツでは、お子さまの年齢や体格に合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故などで車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いので、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、お車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→ P. 43）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかり取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取り外しが必要な場合は、車両から外して保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

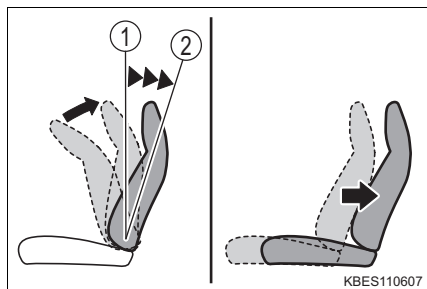
チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを前向きに取り付けてください。

- 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置 (①) まで起こし、4 段目の固定位置 (②) まで調整する
- シートをいちばん後ろに下げる



警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

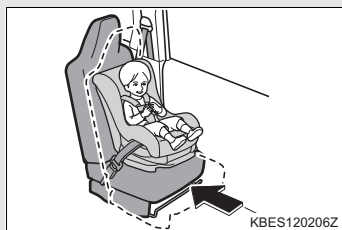
- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。

後ろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げて取り付けてください。

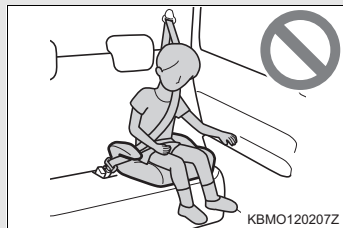
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



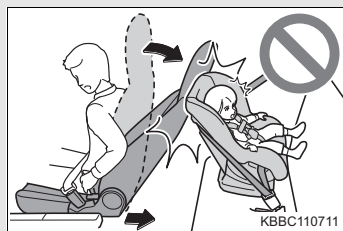
警告

■ チャイルドシートを使用するとき

- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRSエアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- お子さまの年齢や体格に合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤシートに取り付けてください。
- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。



シート位置別チャイルドシートの適合性

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→ P. 45）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→ P. 47）

次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

① チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44※¹ または、UN (ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

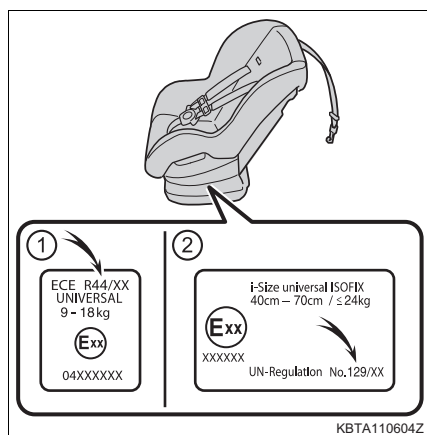
▶ 法規番号の表示例

① UN(ECE)R44 認可マーク※²

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

② UN (ECE) R129 認可マーク※²

対象となるお子さまの身長
の範囲および使用可能な体重が
記載されています。



※¹ UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

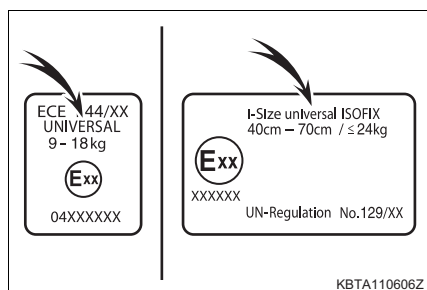
※² 表示されているマークは、商品により異なります。

② チャイルドシートのカテゴリーを確認する

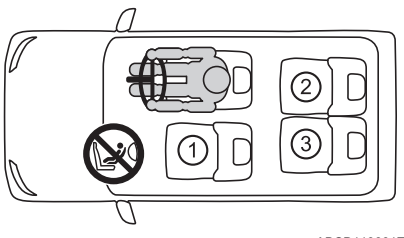
チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認いただくか、または販売業者へ確認してください。

- ユニバーサル
「universal (汎用)」
- セミユニバーサル
「semi-universal (準汎用)」
- リストリクティッド
「restricted (限定)」
- ビークルスペシフィック
「vehicle specific (特定車両)」



■ シート位置別チャイルドシートの適合性

 ABCB110801Z	① ※1、2 U ※4
	② ※3 U L 
	③ ※3 U L 

U 車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

L 推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→ P. 47）に記載されたチャイルドシートに適しています。

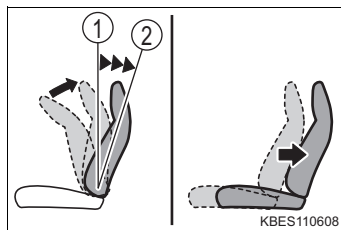
 i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

 トップテザーアンカーが装備されています。

 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けしないでください。

※1 シートをいちばん後ろに下げた状態で取り付けてください。

※2 背もたれを一旦前に倒し、1 段目の固定位置（①）まで起こし、4 段目の固定位置（②）まで調整してください。



※3 分離式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを最上段に固定するか、ヘッドレストを取り外してください。

※4 チャイルドシートは必ず前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式に搭載可能な着座位置（有／無）	有	有	有
i-Size 着座位置（有／無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート着座位置の治具（L1 / L2）	×	×	×
搭載可能な後ろ向きチャイルドシートの治具（R1 / R2X / R2 / R3）	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X / F2 / F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2 / B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型後ろ向きチャイルドシート
R2	小型後ろ向きチャイルドシート
R2X	小型後ろ向きチャイルドシート
R1	後ろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適用範囲	搭載する向き	着座位置		
			①	②	③
ダイハツ純正チャイルドシート (i-Size) (ISOFIX 固定専用)	身長：～ 83cm (体重：～ 13kg)	後向き	×	○	○
	月齢 15 か月以上かつ、 身長：76 ～ 100cm (体重：～ 18kg)	前向き	×	○	○

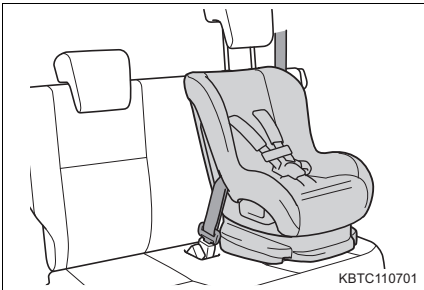
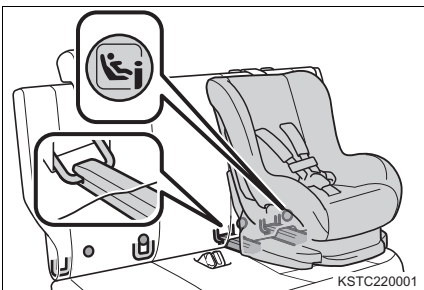
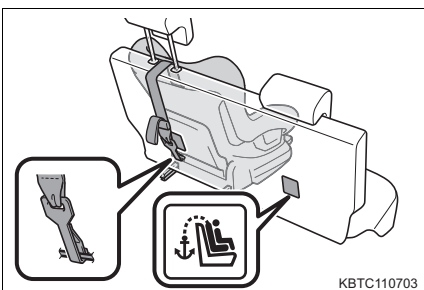
リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子さまやチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

⚠ 警告

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P. 49
ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する		P. 51
テザーベルトを固定する		P. 52

チャイルドシートをシートベルトで固定する

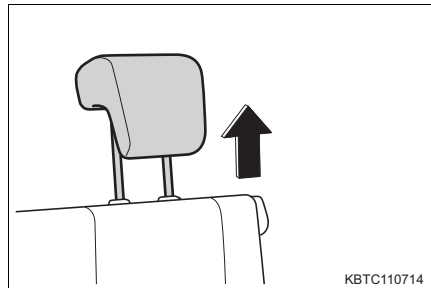
■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 45）

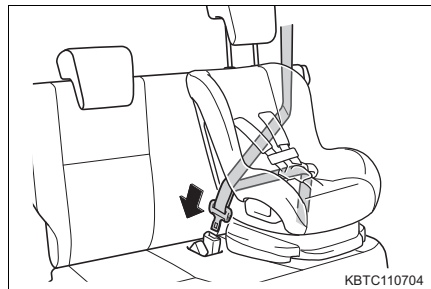
① やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整する（→ P. 41）

② 分離式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストをいちばん上まで上げる
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。（→ P. 111）



③ チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込み、ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかり固定させてください。



④ 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

■ チャイルドシートの取り外し

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取り外す

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。チャイルドシートを押さえながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

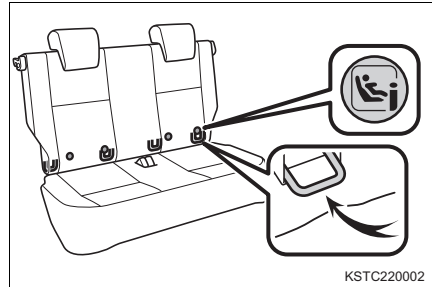
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルも外せない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートをISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーについて

このお車はリヤシートにISOFIX対応チャイルドシート固定専用バーが装備されています。(ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています)

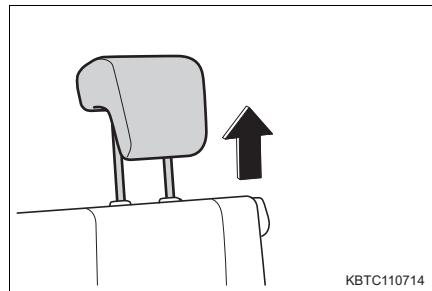


■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」 カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→ P. 45）

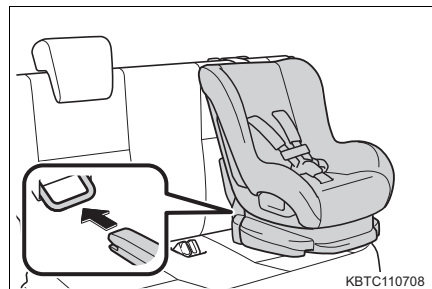
- ① 分離式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストをいちばん上まで上げる
ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストを取り外してください。（→ P. 111）



- ② チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- ③ 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

⚠ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

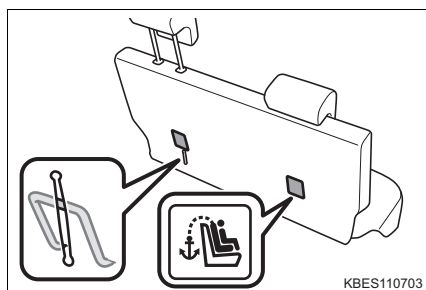
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカーを使用する

■ トップテザーアンカーについて

このお車はリヤシートにトップテザーアンカーが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



KBES110703

■ テザーベルトをトップテザーアンカーに固定する

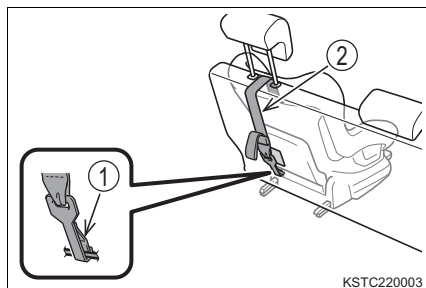
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。

① フック

② テザーベルト



KSTC220003

2 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する

 警告**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカー以外にかけないでください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

■リヤヘッドレスト★について

- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。ヘッドレストの上にかけると、チャイルドシートがしっかり固定されず、衝突したときなどに生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。ヘッドレストを下げると、テザーベルトがヘッドレストに当たってたるみ、衝突したときなどにチャイルドシートが動いて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ヘッドレストの取り外しが必要な場合は、安全な場所にしっかり固定しておいてください。

エンジンイモバイザーシステム★

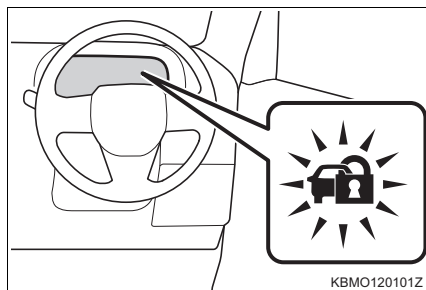
キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

エンジンスイッチを“OFF”にすると、システムの作動を知らせるためにメーター内のセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にするとシステムが解除され、メーター内のセキュリティ表示灯が消灯します。



知識

■ メンテナンスについて

エンジンイモバイザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他車のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

⚠ 注意

■ エンジンイモバイザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取り外しをしないでください。

システムが正常に作動しないおそれがあります。

セキュリティアラーム

セキュリティアラームとは

セキュリティアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。セキュリティアラームを設定すると、次の場合にセキュリティアラームが作動します。

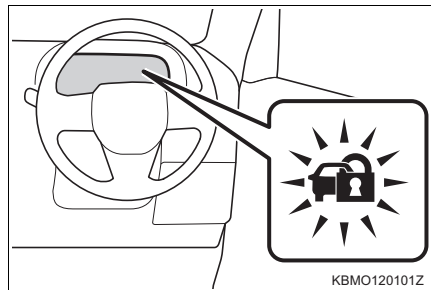
- 施錠されたドアが、キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠して、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき

セキュリティアラームを設定する

すべてのドアを閉め、キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。

30 秒以上経過すると自動的に設定されます。

セキュリティアラームが設定されると表示灯は点灯から点滅に変わります。



セキュリティアラームの設定を解除する

次のいずれかを行ってください。

- キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンでドアを解錠する
- エンジンスイッチを“ON”にする

セキュリティアラームの作動を停止する

次のいずれかを行ってください。

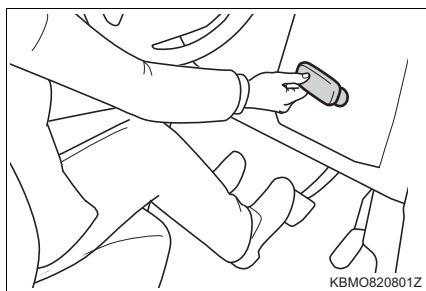
- ワイヤレスリモコンのロック・アンロックボタンを押す
- キーフリーシステム★で施錠・解錠する
- 電子カードキー★を携帯して乗車する
- エンジンスイッチを“ON”にする

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 電子カードキーが正常に働かないとき（キーフリーシステム装着車）

電池の消耗などで電子カードキーが正常に働かないときは、次の手順でセキュリティアラームの作動を停止してください。

- ① ブレーキペダルをしっかりと踏む
- ② 電子カードキーを図のようにエンジンスイッチに接触させる



知識

■ メンテナンスについて

セキュリティアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ ドアを施錠する前の確認

セキュリティアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ セキュリティアラームの設定が中断される場合

セキュリティ表示灯が点灯してから約 30 秒以内に次の操作をしたときは、セキュリティアラームの設定が中断されます。

- 運転席ドアを解錠したとき
- ドアを開けたとき
- キーフリーシステム非装着車で、キーがエンジンスイッチに差し込まれたとき
- キーフリーシステム装着車で、エンジンスイッチを“ON”にしたとき

■ セキュリティ表示灯について（キーフリーシステム装着車）

エンジンイモビライザーシステムの表示灯を兼ねているため、セキュリティアラームの設定を解除しても、エンジンスイッチを“ACC”にするまで消灯しません。

また、エンジンスイッチを“ACC”から“OFF”にすると点滅します。

 知識

■ セキュリティアラームの作動について

- セキュリティアラームは 2 段階で作動します。1 次作動の間に作動が停止されなかった場合、2 次作動に入ります。ただし、ボンネットが開けられてセキュリティアラームが作動したときは、すぐに 2 次作動が作動します。

▶ 1 次作動

- ・ セキュリティ表示灯が点滅
- ・ 室内ブザーが 10 秒間断続的に鳴る
- ・ ルームランプが点灯（スイッチがドアポジションのとき）

▶ 2 次作動

- ・ セキュリティ表示灯が点滅
 - ・ 非常点滅灯が 30 秒間点滅
 - ・ ホーンが 30 秒間断続的に鳴る
 - ・ ルームランプが点灯（スイッチがドアポジションのとき）
- セキュリティアラーム作動後にドアを閉めると、セキュリティアラームが再度設定状態になり、すべてのドアが施錠されます。

■ セキュリティアラームの作動履歴について

エンジンスイッチの操作で、セキュリティアラームが作動したことをブザーで確認することができます。（2 次作動までした場合のみ）

- エンジンスイッチを“ON”にしたときに、「ピーッピッ」とブザーが鳴ります。
- 作動履歴の確認は、2 次作動後、1 回のみ確認することができます。

 注意

■ セキュリティアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取り外しをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

計器の見方

2

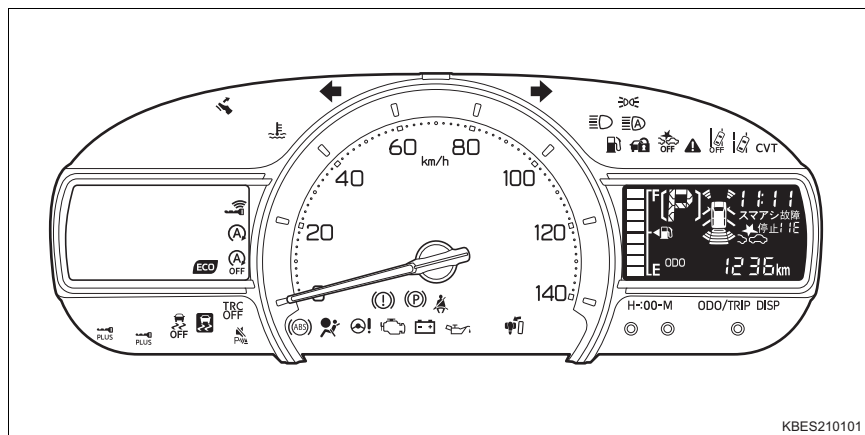
2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	60
計器類	65
マルチインフォメーション ディスプレイ	66

警告灯／表示灯

メーターの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。
次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

◆ メーター



警告灯

万一のシステム異常などを警告します。

警告灯			参照先
※1		ブレーキ警告灯	335
※1		充電警告灯	335
※1		油圧警告灯	335
※1		高水温警告灯（赤色）	335
※1		エンジン警告灯	335
※1		CVT 警告灯	335

警告灯			参照先
※1		SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	336
※1		ABS 警告灯	336
※1		パワーステアリング警告灯（赤色／黄色）	336
※1、2		キーフリー警告灯★	340
※1		AHB 警告灯（黄色）	336
※1、3		スマートアシスト OFF 表示灯（点灯または点滅）	336
※1、4		車線逸脱警報 OFF 表示灯（点灯または点滅）	336
※1、5		マスターウォーニング	336
		スマートアシスト故障警告灯	336
		スマートアシスト停止警告灯	342
※6		コーナーセンサー表示灯	337
※1、7		スリップ表示灯（点灯）	337
※8		eco IDLE OFF 表示灯（点滅）	337
※1		eco IDLE 表示灯（高速点滅）	341
※1		ブレーキオーバーライドシステム警告灯	337
		半ドア警告灯	338

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯			参照先
		燃料残量警告灯	338
		運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯	338
		プラスサポート警告灯（黄色）★	338
※1		急アクセル時加速抑制警告灯★	338

- ※1 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※2 点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。点滅した場合は電子カードキーが作動範囲外にある、または電子カードキーの電池切れに近い状態であることを示します。（→ P. 340）
- ※3 スマートアシストの機能を停止にしたときも点灯します。
- ※4 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報を停止にしたときも点灯します。
- ※5 スマートアシストが作動したときも点灯します。
- ※6 コーナーセンサーが作動したときも点灯します。
- ※7 点滅した場合はシステムが作動していることを示し、点灯した場合はシステム異常のおそれがあります。
- ※8 eco IDLE を非作動にしたときは点灯します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

表示灯

システムの作動状況を表示します。

	表示灯	参照先
		方向指示表示灯
		ハイビーム表示灯
※1		低水温表示灯（青色）
		セキュリティ表示灯
		尾灯表示灯
※2		スリップ表示灯（点滅）
※2		VSC OFF 表示灯
※2		TRC OFF 表示灯
※2		エコドライブインジケータランプ
※2		eco IDLE 表示灯（点灯）
※3		eco IDLE OFF 表示灯（点灯）
※2		スマートアシスト作動灯
※2、4		スマートアシスト OFF 表示灯（点灯）
※2		車線逸脱警報作動灯（点滅）
※2、4		車線逸脱警報 OFF 表示灯（点灯）

表示灯			参照先
		AHB 作動灯（緑色）	150
※5		コーナーセンサー表示灯	215
※6		パーキングブレーキ表示灯（点灯）	145
		コーナーセンサーブザー OFF 表示灯	217
※2		プラスサポート表示灯（緑色）★	224

- ※1 エンジン冷却水温が低いとき点灯します。エンジンの暖機を十分続けていても青色に点灯したままの場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※2 作動確認のためにエンジンスイッチを“ON”にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときは、システム異常のおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※3 eco IDLE システムに異常があるときは点滅します。
- ※4 スマートアシストに異常があるときは点滅します。
- ※5 コーナーセンサーに異常があるときも点灯します。
- ※6 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

⚠ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、エンジンスイッチを“ON”にしても点灯しない場合や、数秒後またはエンジンを始動しても点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

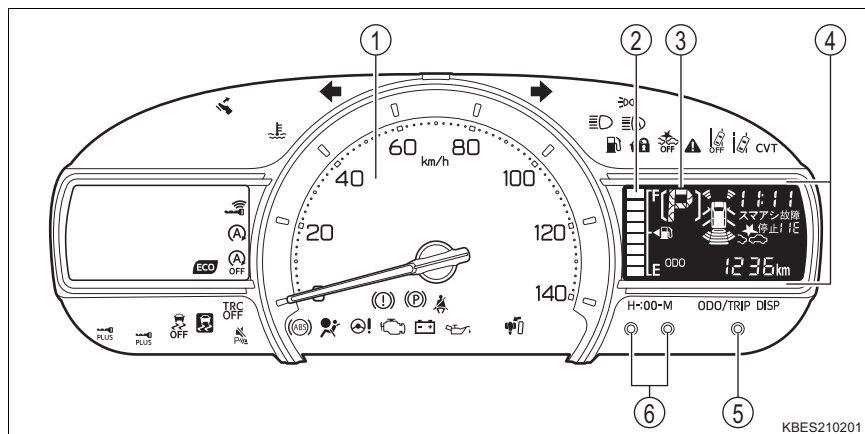
⚠ 注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

水温計の代わりに高水温警告灯（→ P. 335）が装備されています。高水温警告灯が赤色点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 363）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

計器類



- ① スピードメーター
車両の走行速度を示します。
- ② 燃料計
燃料残量を示します。
- ③ シフトポジション表示
選択されているシフトポジションを表示します。(→ P. 142)
- ④ マルチインフォメーションディスプレイ
車両に関する様々な情報を表示・設定します。(→ P. 66)
- ⑤ 表示切り替えスイッチ
マルチインフォメーションディスプレイの表示を切り替えます。(→ P. 68)
- ⑥ 時計調整スイッチ (→ P. 67)

 知識

■メーター・ディスプレイの作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

マルチインフォメーションディスプレイ

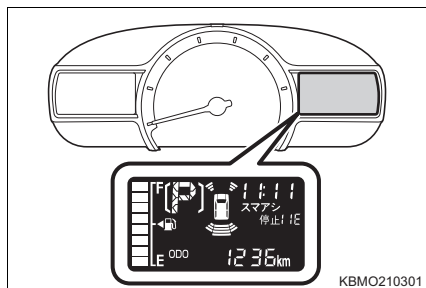
表示内容

マルチインフォメーションディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。

●トリップインフォメーション (→ P. 68)

表示される項目は次の通りです。

- ・ オドメーター
- ・ トリップメーター A / B
- ・ 平均燃費
- ・ 航続可能距離
- ・ 外気温
- ・ アイドリングストップ時間
- ・ アイドリングストップ積算時間
- ・ メーター照度調整



●燃料計

燃料残量を示します。

●シフトポジション表示 (→ P. 142)

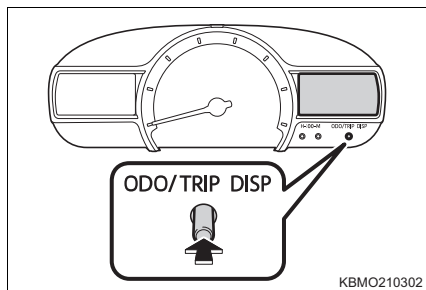
●時計表示 (→ P. 67)

●スマートアシスト機能停止コード 表示 (→ P. 342)

●コーナースエンサー表示灯 (→ P. 215)

表示切り替え

トリップインフォメーションの表示を切り替えるには、表示切り替えスイッチを押します。



時計表示

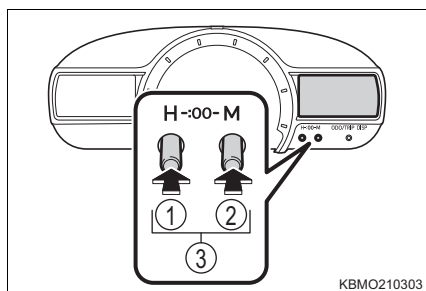
時計調整スイッチを押して時刻を調整することができます。

ユーザーカスタマイズ画面で時刻の自動補正を ON にした場合は、時刻の調整はできません。(→ P. 71)

- ① “時” を調整する (H)
- ② “分” を調整する (M)
- ③ “分” を 00 にする※

時計調整スイッチ (①)、(②) を同時に長押しします。

※ (例) 1:00 ~ 1:29 → 1:00
1:30 ~ 1:59 → 2:00



トリップインフォメーション

表示切り替えスイッチを押すごとに次のように切り替わります。

■ オドメーター



走行した総距離を表示します。

■ トリップメーター A※ / トリップメーター B※



リセットしてからの走行距離を表示します。



リセットするには、トリップメーター A またはトリップメーター B の表示中に表示切り替えスイッチを長押しします。

※ 区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 平均燃費



リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に表示切り替えスイッチを長押しします。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

■ 航続可能距離



現在の燃料残量で走行できる、およその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 航続可能距離表示中に表示切り替えスイッチを約 5 秒以上長押しすると、過去の平均燃費のデータが消去され、表示が更新されることがあります。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■ 外気温



●外気温を表示します。

外気温：-30℃～60℃の間で表示します。

●外気温が 3℃以下になると路面凍結警告を表示します。

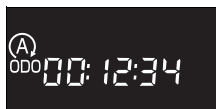
温度表示が点滅し、路面凍結の可能性があることを表示します。

■ アイドリングストップ時間



エンジンスイッチを“ON”から“OFF”にするまでのアイドリングストップ時間（eco IDLE によるエンジン停止時間）を通算で表示します。

■ アイドリングストップ積算時間



リセットしてからのアイドリングストップ時間（eco IDLE によるエンジンの停止時間）を通算で表示します。

リセットするには、アイドリングストップ積算時間表示中に表示切り替えスイッチを長押しします。

■ メーター照度調整



昼照度または夜照度（→ P. 75）のメーター照度を表示します。

- メーター照度調整表示中に表示切り替えスイッチを長押しすることで、メーター照度を 5 段階で調整できます。
- 昼照度は周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているときに調整します。
- 夜照度は周囲が暗いときに車幅灯を点灯して調整します。

ユーザーカスタマイズ画面

ユーザーカスタマイズ画面に切り替えることで、メーターの表示、機能の設定を変更することができます。

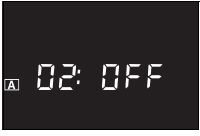
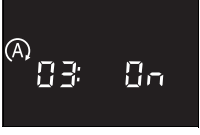
車両走行中は操作できません。必ず安全な場所に停車して操作してください。

■ 設定変更のしかた

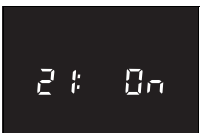
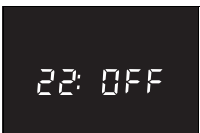
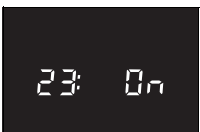
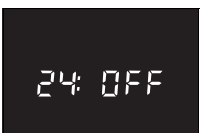
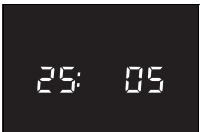
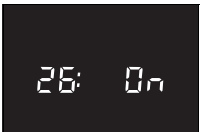
- ① オドメーター表示中に表示切り替えスイッチを長押しし、ユーザーカスタマイズ画面に切り替える
- ② 表示切り替えスイッチを押し、設定を変更する項目を表示する
スイッチを押すごとに項目が切り替わります。
- ③ 表示切り替えスイッチを長押しし、設定を変更する
スイッチを長押しするごとに表示が切り替わります。

ユーザーカスタマイズ画面を終了するには、画面に **End** が表示されるまで表示切り替えスイッチを押したあと、スイッチを長押ししてください。

■ 設定変更できる項目

項目	設定内容	表示（初期設定）
平均燃費の給油時リセット	ON	
	OFF	
給油時のトリップメーター A リセット	ON	
	OFF	
アイドリングストップ時間の表示自動切り替え	ON	
	OFF	
ブザー音量※1	大きい 	
	小さい 	

項目	設定内容	表示（初期設定）
エコドライブインジケータランプの表示／非表示	ON	
	OFF	
時刻の自動補正（純正ナビゲーションシステム装着車）	ON	
	OFF	
先行車発進お知らせ機能（→ P. 204）	ON	
	OFF	
先行車発進お知らせ機能の発進告知タイミング（→ P. 204）	標準 	
	やや早い 	
	早い 	
衝突警報機能の警報タイミング（→ P. 173）	遅い 	
	標準 	
	早い 	
車線逸脱警報機能の警報タイミング（→ P. 196）	標準 	
	早い 	
ふらつき警報（→ P. 201）	ON	
	OFF	

項目	設定内容	表示（初期設定）
コーナーセンサブザー音量（→ P. 215）	小 	
	中 	
	大 	
車速感応オートドアロック（→ P. 96）	ON※2	
	OFF	
シフト操作連動オートドアロック（→ P. 96）	ON※3	
	OFF	
シフト操作連動オートドアアンロック（→ P. 96）	ON※4	
	OFF	
エンジンスイッチ“OFF”連動オートドアアンロック（→ P. 96）	ON※5	
	OFF	
アンサーバックブザー音量（キーフリーシステム作動の合図）★（→ P. 83）	 (消音)	
	 (小さい)	
	 (大きい)	
ワイヤレスリモコン作動合図（非常点滅灯）（→ P. 92）	ON	
	OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

項目	設定内容	表示（初期設定）
ウェルカムドアロック解除★（→ P. 99）	ON	
	OFF	
車速感应式間欠ワイパー作動★（→ P. 154）	ON	
	OFF	
リヤワイパーリバース連動機能（→ P. 156）	ON	
	OFF	
方向指示レバーを途中まで操作したときに方向指示表示灯が3回点滅する機能（→ P. 144）	ON	
	OFF	
オートエアコン設定★	標準 	
	空調※6 	
ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動）（電子カードキーを携帯して車両に近付くと、室内灯が点灯）★（→ P. 102）	ON	
	OFF	
ウェルカムランプ設定（テールランプ連動）（ドアロック解除時に車幅灯、番号灯、尾灯が点灯）★（→ P. 102）	ON	
	OFF	
AHB（→ P. 150）	ON	
	OFF	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ※1 一部機能のブザー音量は変更されません。
- ※2 ONに設定すると、シフト操作連動オートドアロックの設定はOFFになります。
- ※3 ONに設定すると、車速感応オートドアロックの設定はOFFになります。
- ※4 ONに設定すると、エンジンスイッチ“OFF”連動オートドアアンロックの設定はOFFになります。
- ※5 ONに設定すると、シフト操作連動オートドアアンロックの設定はOFFになります。
- ※6 エアコンの作動が優先され、eco IDLE によるエンジン停止が可能な状態になるまでの時間が長くなったり、エンジン停止の時間が短くなったりする場合があります。(→ P. 207)

■ 設定初期化のしかた

- 1 オドメーター表示中に表示切り替えスイッチを長押しし、ユーザーカスタマイズ画面に切り替える
- 2 **DEFAULT** が表示されるまで表示切り替えスイッチを押す
- 3 **DEFAULT** の表示中に表示切り替えスイッチを長押しし、
CLEAR を表示後、再度長押しする
CLEAR の表示が点滅後、オドメーター表示に戻り、次の項目が初期化されます。

項目	初期設定
平均燃費の給油時リセット	OFF
給油時のトリップメーター A リセット	OFF
アイドリングストップ時間の表示自動切り替え	ON
ブザー音量※	小さい
エコドライブインジケータランプの表示／非表示	ON
時刻の自動補正（純正ナビゲーションシステム装着車）	ON

※ 一部機能のブザー音量は変更されません。

 知識

■ 平均燃費について

- エンジンスイッチを“ON”にした直後は、前回エンジンを停止したときの値を表示します。
- 表示を更新するときにデータが受信できない、または無効なデータを受信した場合は、平均燃費が表示されません。

■ 航続可能距離について

- 表示の更新時間は、運転状況（走行中・停車中）によって異なります。
- 新車を受け取った際に、航続可能距離として表示される数値は正しい数値を表示しないことがあります。
- 異常検出したときは、航続可能距離がしばらく表示されないことがあります。

■ 外気温について

- 外気温の測定が正しく行われないときは「ー℃」と表示されます。
- 次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）
- 実際の外気温が変化していなくても、車両の状態（車速・風向きなど）により、外気温表示が変動することがあります。

■ 路面凍結警告表示について

- 路面凍結警告表示は目安です。必ず路面状況を確認してください。
- エンジンスイッチを“ON”にしたとき、外気温がすでに 3℃以下の場合、警告表示されません。
- 路面凍結警告が一旦表示されると、外気温が 4℃以上に上がってから、3℃以下に下がらないと再度警告表示されません。

■ メーター照度について（昼照度と夜照度）

- メーターの照度には昼照度と夜照度があり、次のときに照度が切り替わります。
 - ・ 昼照度：周囲が明るいとき、または車幅灯を消灯しているとき
 - ・ 夜照度：周囲が暗いときに車幅灯を点灯しているとき
- 夜照度になるとメーター照明が減光されます。ただし、夜照度の設定をいちばん明るくした状態では、照明が減光しません。

知識

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、時計のデータはリセットされます。

■ 時刻の自動補正について

純正ナビゲーションシステム以外を装着した場合は、時刻の自動補正の設定はできません。

■ ユーザーカスタマイズ画面について

ユーザーカスタマイズ画面で操作を行っても、設定を変更できない場合は、「FAIL」が表示されます。



警告

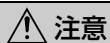
■ 走行中の警告

表示切り替えスイッチ、または時計調整スイッチを使うときは、安全のため走行中に操作をしないでください。走行中の操作はハンドル操作を誤るなど思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お車を停車させてから操作をしてください。なお、走行中にディスプレイを見るときは、必要最小限の時間にしてください。

■ 設定を変更するとき

エンジンがかかった状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ 低温時の画面表示について**

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてから使用してください。

■ ディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

■ 航続可能距離について

航続可能距離がまだ十分走行できる数値であっても、燃料計が“E”に近付くか、燃料残量警告灯が点灯したら、早めに燃料を補給してください。

各部の操作**3**

3-1. キー	
キー	80
3-2. ドアの開閉、ロックのしかた	
キーフリーシステム	83
ワイヤレスリモコン	92
ドア (フロントドア、リヤドア) ...	94
バックドア	103
3-3. シートの調整	
フロントシート	108
リヤシート	109
ヘッドレスト	111
3-4. ハンドル位置・ミラー	
ハンドル	113
インナーミラー	115
ドアミラー	116
3-5. ドアガラスの開閉	
パワーウィンドウ	120

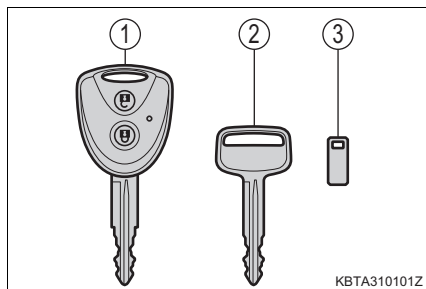
キー

キーについて

お客様へ次のキーをお渡しします。

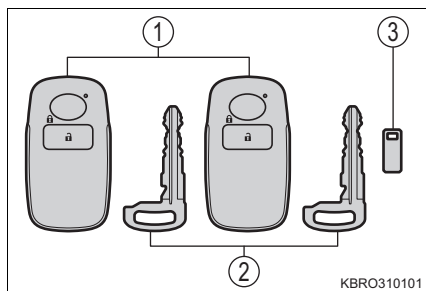
▶キーフリーシステム非装着車

- ① キー（ワイヤレスキー）
ワイヤレス機能の作動（→ P. 94）
- ② キー（スペアキー）
- ③ キーナンバープレート



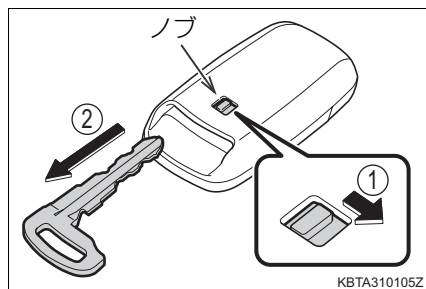
▶キーフリーシステム装着車

- ① 電子カードキー
キーフリーシステムの作動（→ P. 83）
ワイヤレス機能の作動（→ P. 94）
- ② エマージェンシーキー
- ③ キーナンバープレート



エマージェンシーキーを使うには（キーフリーシステム装着車）

- ① ノブをスライドする
- ② エマージェンシーキーを取り出す
使用後はもとに戻し、電子カードキーと一緒に携帯してください。電子カードキーの電池が切れたときやキーフリーシステムが正常に作動しないとき、エマージェンシーキーが必要になります。（→ P. 357）



知識

■ キー（キーフリーシステム非装着車）またはエマージェンシーキー（キーフリーシステム装着車）を紛失したとき

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、ダイハツサービス工場でダイハツ純正品の新しいキーを作ることができます。

キーナンバープレートはお車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

■ 航空機に乗るとき

航空機にキーを持ち込む場合は、航空機内でキーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

→ P. 89, 93

■ 電池の交換方法

→ P. 300

■ キーのご購入について

ワイヤレスキー★・電子カードキー★は最大 4 個まで設定することができます。ご購入方法、ご使用方法についてはダイハツサービス工場にご相談ください。

 注意**■ キーの故障を防ぐために**

- 直射日光や高温下に放置しない
- 電子カードキー★をズボンなどの後ろポケットに入れない
- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ キー取り扱いの注意

ワイヤレスキー★・電子カードキー★は電波法の認証に適合しています。必ず次のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内で使用してください。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ キーフリーシステム★の故障などでダイハツサービス工場に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子カードキーをお持ちください。

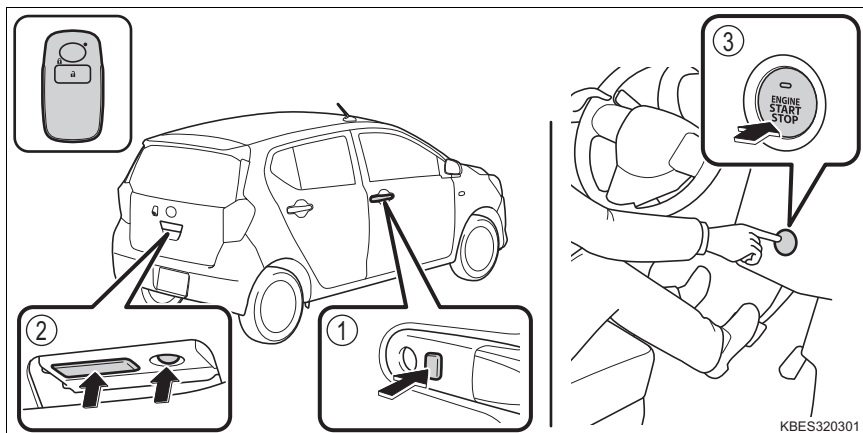
■ 電子カードキー★を紛失したとき

電子カードキーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子カードキーをすべてお持ちの上、ただちにダイハツサービス工場にご相談ください。

キーフリーシステム★

機能概要

電子カードキーをポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。(必ず運転者が携帯してください)



- ① 全ドアを施錠・解錠する (→ P. 94)
- ② 全ドアを施錠・解錠する (→ P. 103)
- ③ エンジンを始動する (→ P. 138)

知識

■ 作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■ カスタマイズ機能

作動の合図を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 374)

(マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 70)

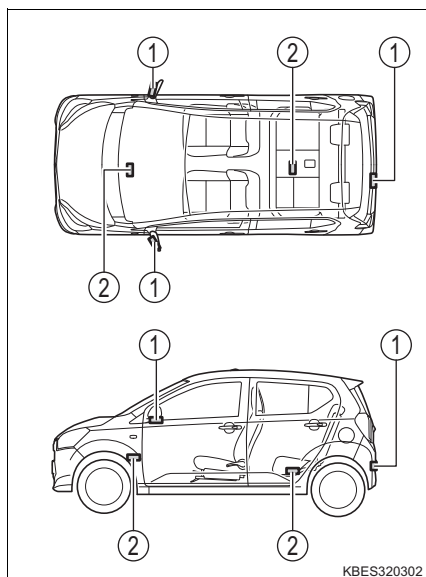
■ 解錠操作のセキュリティ機能

→ P. 99

アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

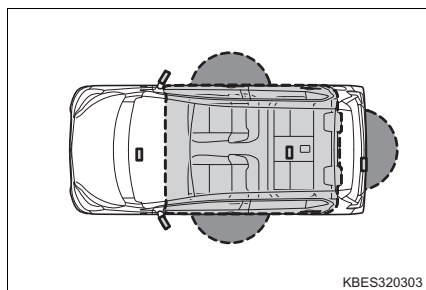
- ① 車外アンテナ
- ② 車室内アンテナ



■ 作動範囲（電子カードキーの検知範囲）

- : ドアの施錠・解錠時
ドアハンドルから周囲約 80cm 以内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。
(電子カードキーを検知しているドアハンドルのみ作動します)

- : エンジンの始動時またはモード切り替え時
車内で電子カードキーを携帯している場合に作動します。



知識

■ 警告音と警告灯について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴って、警告灯が点灯することがあります。警告灯が点灯した場合は、状況に応じて適切に対処してください。(→ P. 335)

警告音が鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピピピピ”、車外から“ピッピッピッ”と鳴る	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、いずれかのドアを開けて電子カードキーを車外に持ち出しドアを閉めた	電子カードキーを携帯して乗車してください
車内から“ポーンポーンポーン…”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチを“ACC”にした(“ACC”のときに運転席ドアを開いた)	エンジンスイッチを“OFF”にして、ドアを閉めてください
車外から“ピーツ”と鳴る	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとした	エンジンスイッチを“OFF”にして施錠してください
	車内に電子カードキーを置いたまま、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチで施錠しようとした	電子カードキーを携帯して施錠してください
	いずれかのドアが開いているときに、フロントドアまたはバックドアのリクエストスイッチやワイヤレスリモコンで施錠しようとした	すべてのドアを閉めて施錠してください

知識

警告音	状況	対処方法
車外から“ピーツ”と鳴って、すべてのドアが解錠した	エンジンスイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にして運転席のドアハンドルを引いたままドアを閉めた	電子カードキーを携帯して施錠してください
	エンジンスイッチが“OFF”のときに、車内に電子カードキーを置いたまま、すべてのドアが施錠されている状態で運転席以外のドアのロックレバーを解錠側にして、ドアを開けて閉めた	
車内から“ピッピッピッ”と鳴る	電子カードキーの電池切れが近いときに、エンジンスイッチを“OFF”にした※	新しい電池に交換してください（→ P. 300）

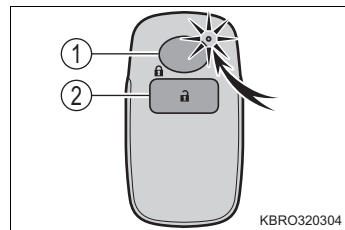
※ 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも警告ブザーが鳴ります。

■ 電子カードキーの節電モードについて

- 節電モードに設定すると、電子カードキーによる電波の受信待機を停止し、電子カードキーの電池の消耗を抑えることができます。

電子カードキーの施錠スイッチ（①）を押しながら、解錠スイッチ（②）を2回押し、電子カードキーのインジケーターが4回点滅することを確認してください。

節電モード中は、キーフリーシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子カードキーのいずれかのスイッチを押してください。



- 長期間使用しない電子カードキーは、節電モードにしておくことをおすすめします。
- 電子カードキーの電池交換直後に節電モードにするときは、約 10 秒経過後から行ってください。

 知識**■機能が正常に働かないおそれのある状況**

キーフリーシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子カードキーと車両間の通信を妨げ、キーフリーシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→ P. 357)

- 電子カードキーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・コインパーキング・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子カードキーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・金属製の財布やかばん
 - ・小銭
 - ・カイロ
 - ・CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子カードキーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・他車の電子カードキーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・パソコンや携帯情報端末（電子手帳）
 - ・デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき
- 充電器など電子機器の近くに電子カードキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

- 電子カードキーが作動範囲内（検知範囲内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ドアの施錠・解錠時に電子カードキーがドアガラスなどやドアハンドルに近付き過ぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・エンジンの始動時またはモード切り替え時に電子カードキーがインストールメントパネルやフロア上・ドアポケットまたはグローブボックス内などに置かれていた場合
- 電子カードキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。(作動範囲：→ P. 84)

 知識

- インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子カードキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があります、電子カードキーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。
- 電子カードキーが作動範囲内にあれば、電子カードキーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子カードキーを検知しているドア以外では、解錠できません。
場合によっては、解錠操作を行ったドアと反対側のドア付近に電子カードキーがある場合でも、電子カードキーを検知し、解錠されることがあります。
- 車外でもドアガラスなどに近い位置に電子カードキーがあるときは、エンジンの始動が可能になる場合があります。
- 電子カードキーが作動範囲内にあるとき、洗車などで水圧にてドアハンドルにあるスイッチが押され、ドアが施錠・解錠することがあります。その場合は、次のような処置をしてください。(ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠されます)
 - ・ キーを車両から約 3m 以上離れた場所に置く (盗難に注意してください)
 - ・ キーを節電モードに設定してキーフリーシステムの作動を停止する (→ P. 86)
- 車室内または車両に近い位置に電子カードキーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠を行うと、キーフリーシステムによる解錠ができなくなることがあります。(ワイヤレスリモコンで解錠すると復帰します)
- ドアハンドルにあるスイッチは確実に操作して、施錠・解錠したことを確認してください。スイッチをすばやく操作した場合、施錠・解錠されないことがあります。
- ドアハンドルにあるスイッチに氷や雪、泥が付着した場合、スイッチが操作できない場合があります。操作できない場合は表面に付着した氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- ドアハンドルにあるスイッチを操作するときに、爪がドアに当たる場合があります。ドアを傷付けたり、爪を割ったりしないように注意してください。
- 周囲の状況により、フロントドアのリクエストスイッチを操作しても施錠・解錠できないときがあります。ワイヤレス機能、またはエマージェンシーキーを使用して施錠・解錠してください。(→ P. 94, 357)
- 次のような状況では、電子カードキーの電池の消耗と車両のバッテリーあがりを防止するために節電機能が働き、キーフリーシステムによる施錠・解錠に時間がかかることがあります。
 - ・ 車両の周辺約 3m 以内に電子カードキーを約 2 分以上放置した
 - ・ 約 5 日間以上キーフリーシステムを使用しなかった

 知識

■ 施錠時の留意事項

車内に電子カードキーがあるときに、洗車機で洗車するなどして水をドアハンドルにあるスイッチにかけた場合、車内のブザーが鳴ることがあります。

■ 解錠時の留意事項

- ドアハンドルにあるスイッチを操作しながらドアハンドルを引いたときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度もとの位置に戻してから再度（バックドアを除く）スイッチを操作し、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。
- 作動範囲内に他の電子カードキーがあるときは、ドアハンドルにあるスイッチを操作してから解錠するまでの時間が少し長くなる場合があります。

■ 長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子カードキーを車両から約3m以上離しておいてください。
- あらかじめキーフリーシステムを非作動にすることができます。
詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

■ システムを正しく作動させるために

電子カードキーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子カードキーを車両に近付け過ぎないようにしてください。

作動時の電子カードキーの位置や持ち方によっては、電子カードキーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能（→ P. 100）が働かないこともあります。）

■ キーフリーシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠：→ P. 357
- エンジンの始動：→ P. 357

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。また、電子カードキーは常に電波を受信しているため、使用していない間でも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子カードキーの LED が点灯しない
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告ブザーが鳴ります。（→ P. 340）

 知識

- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子カードキーを保管しないでください。
 - ・ TV
 - ・ オーディオ
 - ・ パソコン
 - ・ AC アダプター
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 低周波治療器などの医療用電気機器
 - ・ 液晶表示器
 - ・ モーター類
 - ・ 電磁調理器
- 車内、または車両の近くに電子カードキーを置かないでください。電子カードキーと車両が常時通信状態になるため、電池が著しく消耗します。
常時通信状態になると、電子カードキーのインジケーターが点滅しますので、消灯するまで電子カードキーを車両から離してください。
- 長期間使用しない電子カードキーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。(→ P. 86)

■電池が切れたとき

→ P. 300

■ダイハツサービス工場で設定可能な機能

キーフリーシステムを非作動にすることができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 374)

■ダイハツサービス工場でキーフリーシステムを非作動にしたとき

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはエマージェンシーキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→ P. 94, 357)
- エンジンの始動・エンジンスイッチモードの切り替え：→ P. 357
- エンジンの停止：→ P. 139

 警告**■ 電波がおよぼす影響について**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→ P. 84）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の作動に影響を与えるおそれがあります。

キーフリーシステムを非作動にすることもできます。

詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

 注意

ドアハンドルにあるスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

ワイヤレスリモコン

機能概要

ドアを施錠・解錠できます。

▶キーフリーシステム非装着車

→ P. 94

▶キーフリーシステム装着車

→ P. 94

知識

■作動の合図

▶キーフリーシステム非装着車

非常点滅灯の点滅でお知らせします。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

▶キーフリーシステム装着車

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

■カスタマイズ機能

作動の合図を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 374)

(マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 70)

■解錠操作のセキュリティ機能

→ P. 99

■機能が正常に働かないおそれのある状況

▶キーフリーシステム非装着車

次のような場合、ワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれがあります。

●ワイヤレスキーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●ワイヤレスリモコンが金属製のものに接したり、覆われているとき

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

▶キーフリーシステム装着車

→ P. 87

 知識

■ ワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- ▶ キーフリーシステム非装着車
ドアの施錠・解錠→ P. 95
- ▶ キーフリーシステム装着車
ドアの施錠・解錠→ P. 357

■ 電池の消耗について

- ▶ キーフリーシステム非装着車
- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。
- ワイヤレスリモコンを使用しなくても電池は消耗します。
次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ ワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
- ▶ キーフリーシステム装着車
→ P. 89

■ 電池が切れたとき

→ P. 300

ドア（フロントドア、リヤドア）

ドアの施錠／解錠

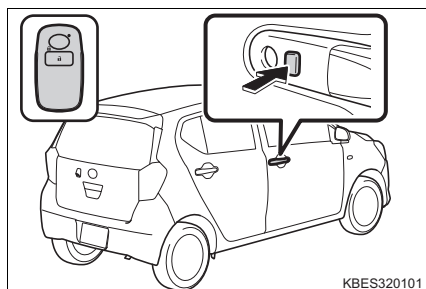
キーフリーシステム★やワイヤレス機能、キー、ロックレバーを使って施錠・解錠できます。

■ キーフリーシステム★

電子カードキーを携帯し、フロントドアのリクエストスイッチを押して全ドアを解錠・施錠する

スイッチを確実に押してください。

施錠したときは、必ず施錠されたことを確認してください。



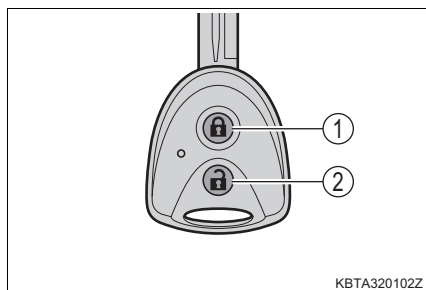
▶ ウェルカムドアロック解除★

電子カードキーを携帯してキーの解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠する（→ P. 99）

ウェルカムドアロック解除では施錠できません。

■ ワイヤレス機能

▶ キーフリーシステム非装着車

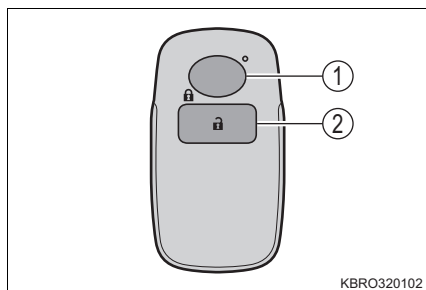


① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

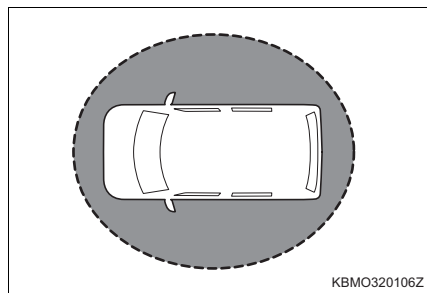
② 全ドアを解錠する

▶ キーフリーシステム装着車



▶ 作動範囲

● : 車両中心から周囲約 3m 以内

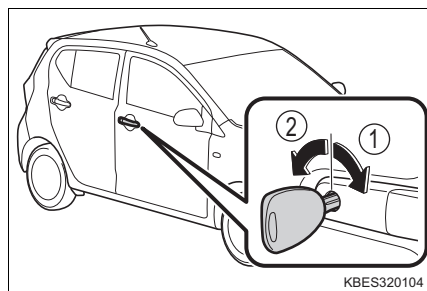


■ キー

キーを操作すると、ドアが次のように作動します。

▶ キーフリースystem非装着車

- ① 全ドアを施錠する
- ② 全ドアを解錠する



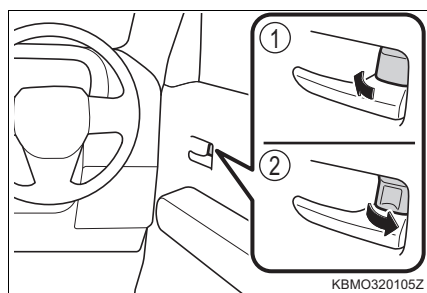
▶ キーフリースystem装着車

エマージェンシーキーを使ってドアを施錠・解錠できます。(→ P. 357)

■ ロックレバー

- ① ドアを施錠する
- ② ドアを解錠する

運転席のドアを解錠（または施錠）すると、すべてのドアが解錠（または施錠）されます。



キーを使わずに外側から運転席を施錠するとき

- ① ロックレバーを施錠側にする
- ② ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ キーフリースystem非装着車

キーがエンジンスイッチに差し込まれているときは施錠されません。

▶ キーフリースystem装着車

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときや車内に電子カードキーが放置されているときは施錠されません。

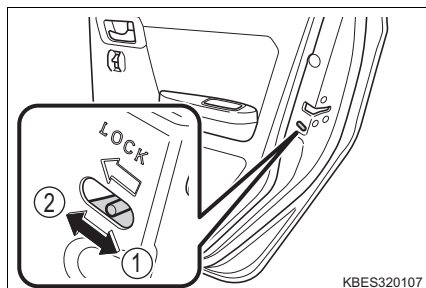
キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター

施錠側になると、リヤドアが車内から開かなくなります。

- ① 解錠
- ② 施錠

お子さまが車内からリヤドアを開けられないようにできます。両側のリヤドアを施錠側にしてください。



KBES320107

オートドアロック・アンロック機能

車両の状況に応じて、すべてのドアを自動的に施錠・解錠する機能です。次の機能を設定・解除することができます。

▶ オートドアロック機能

機能	作動内容
車速感応オートドアロック (初期設定)	車速が約 20km/h 以上になると、全ドアが施錠されます。
シフト操作連動オートドア ロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。

▶ オートドアアンロック機能

機能	作動内容
シフト操作連動オートドアアンロック（初期設定）	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
エンジンスイッチ“OFF” 連動オートドアアンロック	車速約 20km/h 以上で走行後、エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にすると全ドアが解錠されます。

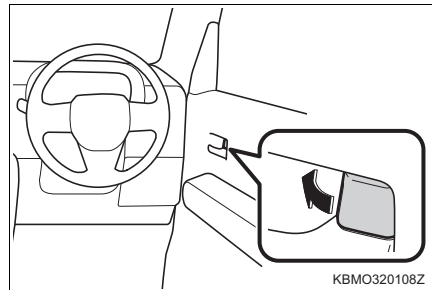
■ オートドアロック機能の切り替え方法

次の手順を完了するごとに、オートドアロック機能が①、②、③の順で切り替わります。

- ① 車速感应オートドアロック機能
- ② シフト操作連動オートドアロック機能
- ③ 機能停止

[1] 車両を次の状態にする

- ・ ランプスイッチを **AUTO** の位置にする
- ・ エンジンスイッチを“OFF”にする
- ・ 全ドアを閉める
- ・ 運転席ドアのロックレバーを施錠側にする



[2] エンジンスイッチを“ACC”にする（その後 5 秒以内に [3] を行う）

[3] ランプスイッチを ○ の位置に操作して手を離す（その後 5 秒以内に [4] を行う）

[4] 運転席ドアのロックレバーを解錠側にする

切り替え操作が完了すると、運転席ドアのロックレバーを解錠側にしたあと、約 3 秒以内に全ドアが施錠されます。

操作を途中で中断したときは、再度はじめてからやり直してください。

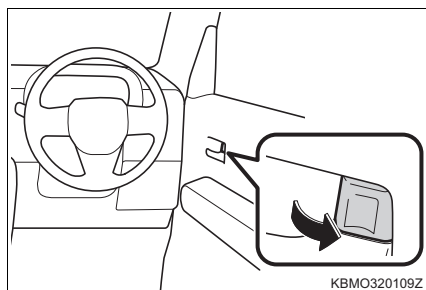
■ オートドアアンロック機能の切り替え方法

次の手順を完了するごとに、オートドアアンロック機能が①、②、③の順で切り替わります。

- ① シフト連動オートドアアンロック
- ② エンジンスイッチ“OFF”連動オートドアアンロック
- ③ 機能停止

1 車両を次の状態にする

- ・ ランプスイッチを **AUTO** の位置にする
- ・ エンジンスイッチを“OFF”にする
- ・ 全ドアを閉める
- ・ 運転席ドアのロックレバーを解錠側にする



2 エンジンスイッチを“ACC”にする（その後5秒以内に3を行う）

3 ランプスイッチを ○ の位置に操作して手を離す（その後5秒以内に4を行う）

4 運転席ドアのロックレバーを施錠側にする

切り替え操作が完了すると、運転席ドアのロックレバーを施錠側にしたあと、約3秒以内に全ドアが解錠されます。

操作を途中で中断したときは、再度はじめてからやり直してください。

ウェルカムドアロック解除★

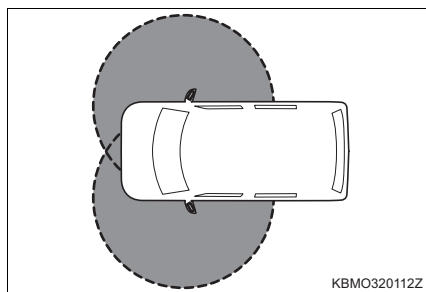
電子カードキーを携帯して解錠範囲に入ると、すべてのドアが解錠します。

■ ウェルカムドアロック解除の解錠範囲



：解錠範囲

ドアミラーから周囲約 1.5m 以内で
電子カードキーを携帯している場合
に作動します



■ 予約のしかた

- 1 お車から降り、キーフリーシステムまたはワイヤレス機能で施錠する（予約待機）
- 2 解錠範囲から出て、約 5 秒経過すると予約が完了する
予約の有効期間は約 5 日間です。有効期間を過ぎると、予約がキャンセルされます。



知識

■ セキュリティアラームがセットされている場合

キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠しドアを開けるとセキュリティアラームが作動します。作動した場合は、ただちにセキュリティアラームを停止してください。（→ P. 55）

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。

衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

キーフリーシステム★・ワイヤレスリモコンによる解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

- 施錠後、30 秒以上経過すると、セキュリティアラームが設定されます。
（→ P. 55）

 知識

■ キー閉じ込み防止機能

キーを車内に残したまま、施錠することを防ぐ機能です。

▶ キーフリーシステム非装着車

- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- ・ 運転席ドアが開いている状態で、運転席ドアのロックレバーを施錠側にしたとき
- ・ すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（エンジンスイッチが“ON”のときは作動しません）

▶ キーフリーシステム装着車

- エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- ・ 運転席ドアが開いている状態で、運転席ドアのロックレバーを施錠側にしたとき
- ・ すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき（エンジンスイッチが“ON”のときは作動しません）

- エンジンスイッチが“OFF”で車内に電子カードキーがあるときに、次の操作をするとキー閉じ込み防止機能が作動して、すべてのドアが解錠されます。

- ・ 車内の運転席ドアのロックレバーを施錠側にし、運転席ドアハンドルを引いたままドアを閉めたとき
- ・ すべてのドアが施錠されている状態で、運転席以外のロックレバーを車内から解錠し、ドアを開けて閉めたとき

■ 半ドア走行時警告ブザー

→ P. 338

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

→ P. 87

■ カスタマイズ機能

キーフリーシステム★の機能の一部、オートドアロック・アンロック機能の一部、ウェルカムドアロック解除★を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 374）

（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 70）

 知識**■ オートドアロック・アンロック機能について**

オートドアロック機能で施錠されたあとに解錠すると、再度施錠はされません。ただし、次のいずれかの状態になると再作動します。

- 停車中にいずれかのドアを開けた
- エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にした
- オートドアアンロック機能で解錠された

■ チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ ウェルカムドアロック解除★の作動について

- ウェルカムドアロック解除でドアを解錠したときは、ブザーと非常点滅灯の点滅（2回）で知らせます。
- 次のいずれかの場合は、ウェルカムドアロック解除の予約はできません。
 - ・ カスタマイズ機能でキーフリーシステムまたは電子カードキーの室外自動検知機能を非作動にしたとき（→ P. 374）
 - ・ ウェルカムドアロック解除を OFF にしたとき（→ P. 73）
- ドアロック後、解錠範囲を出てから約 5 秒以内に解錠範囲に入ったときは予約が完了せず、ウェルカムドアロック解除は作動しません。
- 電子カードキーが解錠範囲内にあっても、電子カードキーがドアガラスなどやドアハンドルに近付き過ぎる、または地面の近くや高い場所にある場合は正しく作動しないことがあります。
- 電子カードキーをポケットに携帯していても、ポケットの位置や形状によっては、正しく作動しないことがあります。
- 予約が完了するまでの間に次の状況になると予約がキャンセルされます。
 - ・ ドアを施錠したあと、解錠範囲内に電子カードキーがある状態が約 2 分以上続いたとき
- 解錠範囲に入りドアが解錠されてから、ドアを開けずに約 15 秒経過すると、ドアが自動的に施錠され予約がキャンセルされます。
- 予約完了後、車両の近くに電子カードキーがあると意図せずウェルカムドアロック解除が作動する場合があります。

■ ウェルカムドアロック解除★が正常に働かないおそれのある状況

キーフリーシステムが正常に働かないおそれのある状況にある（→ P. 87）

■ ウェルカムドアロック解除★使用時の電子カードキーについて

第三者に電子カードキーを受け渡すときは、予約していることを伝えてください。

 知識**■ ウェルカムランプ設定（テールランプ連動）★について**

次の方法でドアロックを解除したときに車幅灯・番号灯・尾灯を約 15 秒間点灯させ、ドアロック解除をお知らせすることができます。（→ P. 73）

- キーフリーシステムによるドアロック解除（ウェルカムドアロック解除★によるドアロック解除を含む）
- ワイヤレス機能によるドアロック解除

■ ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動）★について

- 次の条件をすべて満たしている場合、電子カードキーを携帯して車両に近付いた（ウェルカムドアロック解除★の解錠範囲に入った）ときに、室内灯を点灯させることができます。
 - ・ 電子カードキーの室外自動検知機能の作動（→ P. 374）が有効になっている
 - ・ ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動）が有効になっている（→ P. 73）
 - ・ 室内灯のスイッチがドアポジションになっている
- 室内灯の点灯時間は、イルミネーテッドエントリーシステム（→ P. 255）の点灯時間に連動します。

 警告**■ 事故を防ぐために**

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
- お子さまを後席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときの留意事項

- 傾斜地・ドアと壁などの間が狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。
- ドアを閉めるとき指などを挟まないように注意してください。

■ お子さまを乗せているときは

お子さまにドアの開閉をさせたり、いたずらをさせないでください。思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

バックドア

バックドアは次の方法で施錠・解錠および開けることができます。

車外からの施錠／解錠

■ キーフリースystem★

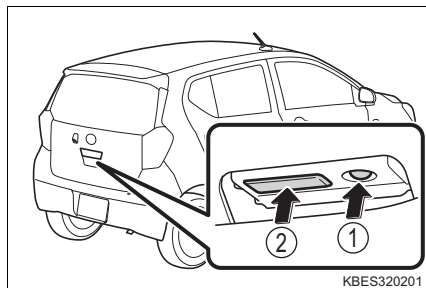
電子カードキーを携帯して操作します。

① 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

② 全ドアを解錠する

バックドアが半ドア状態になります。
施錠操作後約 3 秒間は解錠できません。



■ ワイヤレスリモコン

→ P. 94

■ キー

→ P. 95

車内からの施錠／解錠

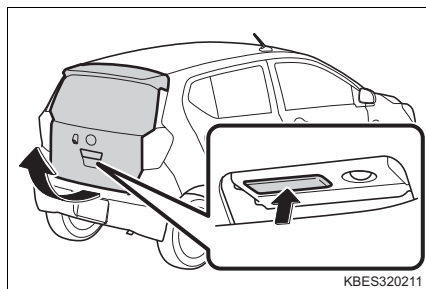
■ ロックレバー

→ P. 95

バックドアを開けるには

バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる

バックドアオープンスイッチを押したあと、約 1 秒間はバックドアを閉めることができません。

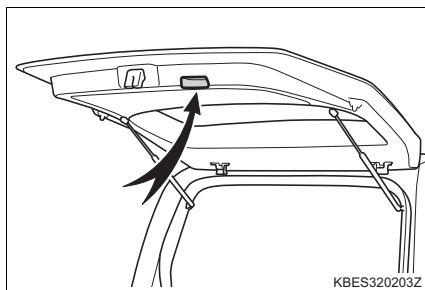


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

バックドアを閉めるとき

バックドアインナーハンドルを持ってバックドアを引き下げる

必ず外から押して閉めてください。



KBES320203Z

知識

■ バックドアを解錠するときは

バックドアオープンスイッチで解錠してバックドアを開けない場合は、バックドアが半ドア状態でないことを確認してください。

■ 半ドア走行時警告ブザー

→ P. 338

■ カスタマイズ機能

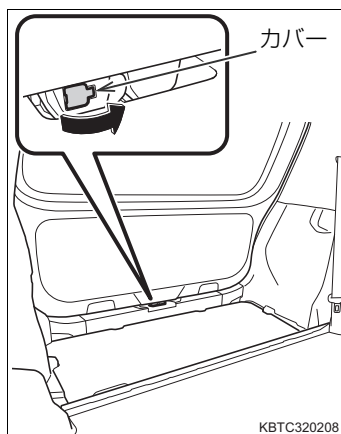
バックドアのスイッチ操作による作動を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 374)

■ バックドアが開かなくなったら

バックドアを内側から開けることができます。

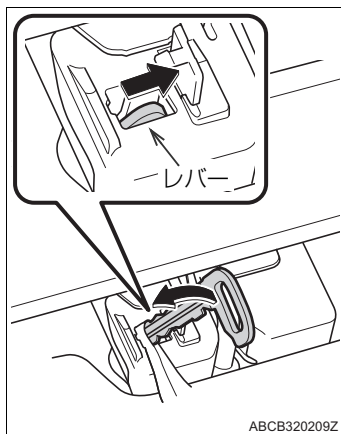
- 1 リヤシートの背もたれを前に倒す (→ P. 109)
- 2 カバーを開ける



KBTC320208

知識

- 3 キー、またはエマージェンシーキーなどを使ってレバーを矢印の方向に動かす (→ P. 80)
傷が付くのを防ぐため、キーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



警告

■ 走行中の警告

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。

- お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ラゲージルームの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。
 - お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■ バックドアの使用にあたって

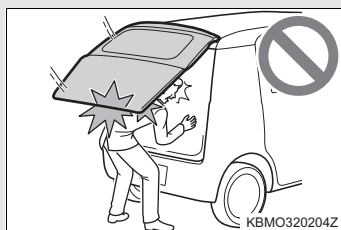
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- バックドアを開ける前に、バックドアに張り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。

バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

- 半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。
- バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアインナーハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。



- バックドアダンパーステアを持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。

手を挟んだり、バックドアダンパーステアが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、ダイハツ純正品を使用することをおすすめします。

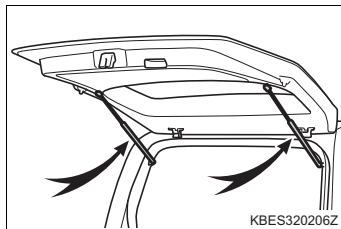
⚠ 注意**■ バックドアハンドルのスイッチについて**

バックドアハンドルのスイッチは強い力で押したり、鋭利なもので押さないでください。スイッチが破損するおそれがあります。

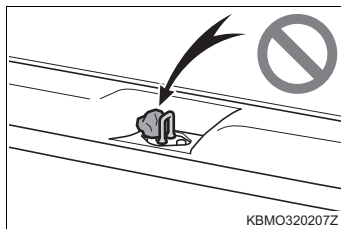
■ ダンパーステアについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステアが取り付けられています。ダンパーステアの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。

- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステアのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などで触れない
- バックドアにダイハツ純正品以外のアクセサリ用品を付けない
- ステアに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

**■ ストライカーバーについて**

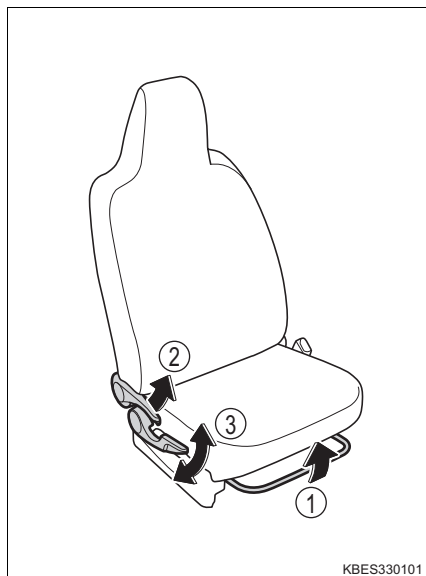
バックドアを閉めるときはストライカーバーに異物がかみ込まないようにしてください。バーが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。



フロントシート

調整のしかた

- ① 前後位置調整
- ② リクライニング調整
- ③ シート全体の上下調整
(運転席のみ)★



⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■ リクライニング調整について

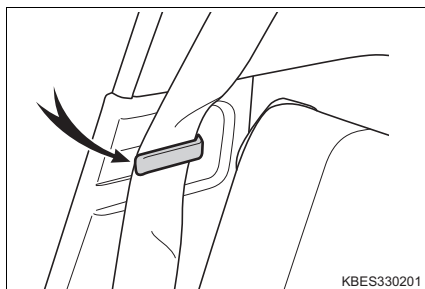
- 必ず背もたれを手で押さえながら操作してください。背もたれが急に倒れるおそれがあります。
- 背もたれにあまり力をかけないでください。背もたれに強い力がかかっていると急に背もたれが倒れ、けがをするおそれがあります。
- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒し過ぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり込み、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤシート

前倒しのしかた

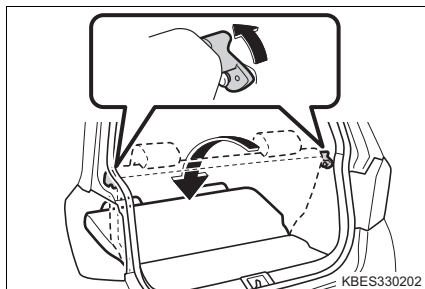
- 1 かみ込み防止のため、シートベルトハンガーにシートベルトをかける



- 2 分離式ヘッドレスト装着車：ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→ P. 111）

- 3 車両後側からシートバックフックを前側に押し、背もたれを前方に倒す

ロックが確実に解除されるまで、フックを押してください。



- 4 背もたれをもとに戻すときは逆の手順で行う

 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **背もたれを前に倒すときは**

- 走行中にリヤシートを操作しない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 操作をするときに、可動部や結合部に手や足などを挟まないように注意する
- 倒した背もたれやラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ **背もたれをもとに戻したあとは**

- シートを前後に軽くゆすり、確実に固定されていることを確認する
- シートの間にシートベルトが挟み込まれていないか確認する

 注意

■ **背もたれを前に倒すときは**

背もたれを倒す前に、必ずシートベルトをベルトハンガーにかけてください。
シート、またはシートベルトが破損するおそれがあります。

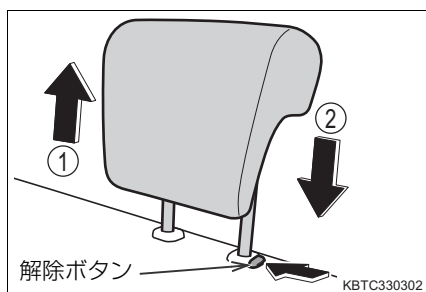
ヘッドレスト★

リヤシート

① 上げる

② 下げる

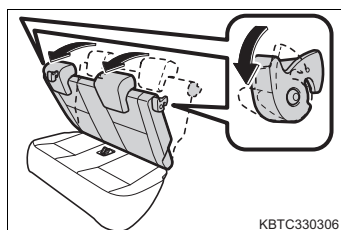
下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。



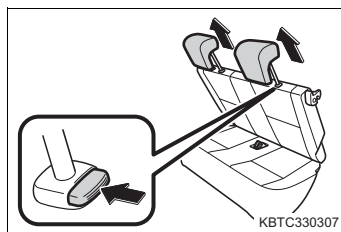
知識

■ヘッドレストを取り外すとき

- ① シートバックフックを引いて、背もたれを前に倒す
ヘッドレストを取り外すことができる位置まで前に倒してください。



- ② 解除ボタンを押しながら、ヘッドレストを取り外す



■ヘッドレストを取り付けるとき

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。＊

さらに下げるときは、解除ボタンを押しながら操作してください。

＊ 押し下げにくいときは、解除ボタンを押しながら操作してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ リヤシートヘッドレストの使用について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

 警告**■ ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。

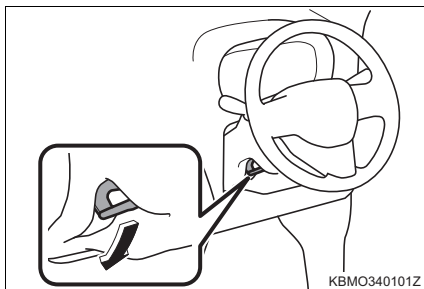
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを前後逆に取り付けない
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストを外したまま走行しない

ハンドル

調整のしかた★

- ① ハンドルを持ち、レバーを下げる

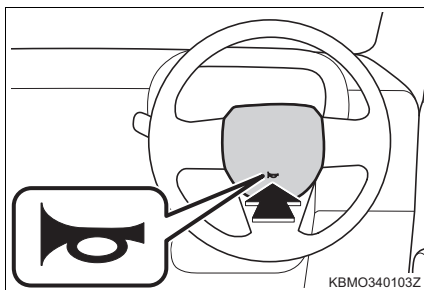


- ② ハンドルを上下に動かし、適切な位置にする
位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。



ホーン（警音器）

ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



知識

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ 走行中の留意事項**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。

固定が不十分だとハンドルの位置が突然変わり、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

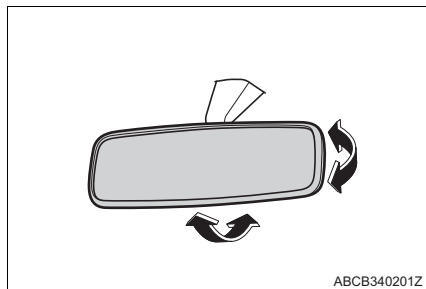
インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの角度を調整することができます。

調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの角度を調整することができます。

インナーミラー本体を持って調整する



⚠ 警告

■ 走行中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

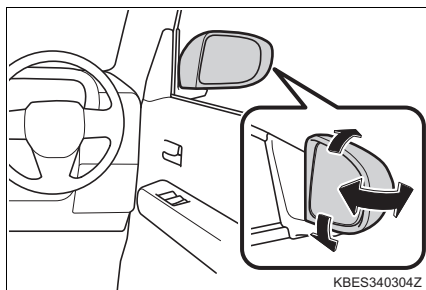
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ドアミラー

調整のしかた（手動タイプ）

ミラー全体を手で動かして調整する

調整後は運転席に座って、後方確認ができることを確認してください。

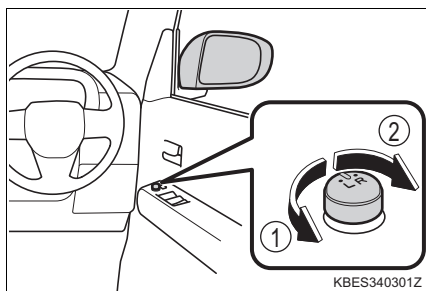


調整のしかた（電動タイプ）

スイッチで鏡面の角度調整をします。

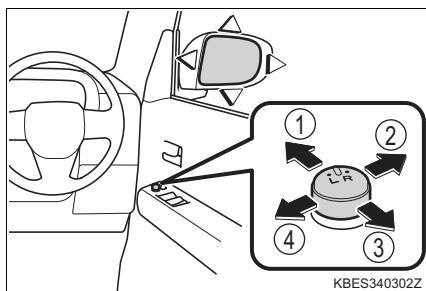
1 調整するミラーを選ぶ

- ① 左
- ② 右



2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

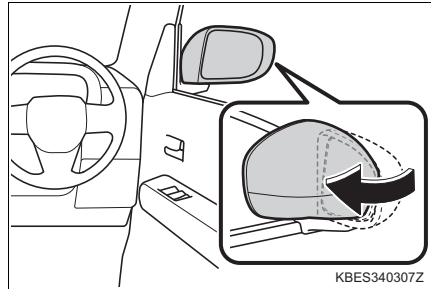
- ① 上
- ② 右
- ③ 下
- ④ 左



ドアミラーを格納する（手動タイプ）

ドアミラーを手で後方に押し格納する

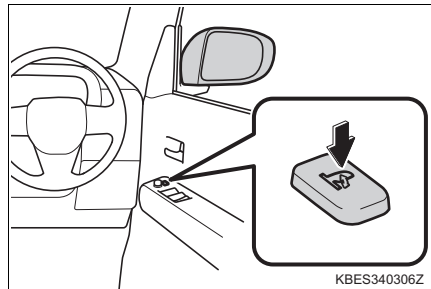
手で前方に押しもとの位置に戻します。



ドアミラーを格納する（キーフリーシステム非装着車の電動タイプ）

スイッチを押してドアミラーを格納する

再度押すと復帰します。

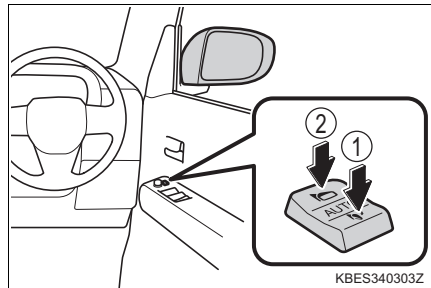


ドアミラーを格納する（キーフリーシステム装着車の電動タイプ）

■ マニュアル作動での格納・復帰のしかた

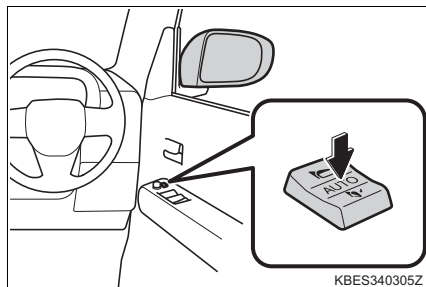
スイッチを押す

- ① 格納する
- ② 復帰する



■ オート作動

スイッチを中立の位置（AUTO）にするとワイヤレス機能、またはキーフリーシステムによるドアの施錠・解錠に連動して、ドアミラーが自動的に格納・復帰します。



□ 知識

■ 作動条件（電動タイプ）

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ ミラーが曇ったとき（ミラーヒーター装着車）

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。（→ P. 241, 247）

■ 寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

■ オート作動での格納（または復帰）をさせたくないとき （キーフリーシステム装着車の電動タイプ）

スイッチを復帰（または格納）の位置にしてください。

■ カスタマイズ機能

オート作動の作動内容などを変更できます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 374）

 警告**■ 走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず運転席側および助手席側のミラーをもとの位置に戻して、正しく調整する

■ ミラーが動いているとき

手を触れないでください。

手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーを調整するとき（手動タイプ）

汚れた手で調整しないでください。鏡面に汚れが付くと夜間など後方からのランプが乱反射し、視認が困難になるなどして大変危険です。

■ ミラーヒーターが作動しているとき（ミラーヒーター装着車）

鏡面が熱くなるので触れないでください。

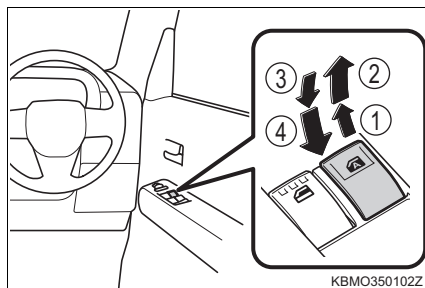
パワーウィンドウ

開閉のしかた

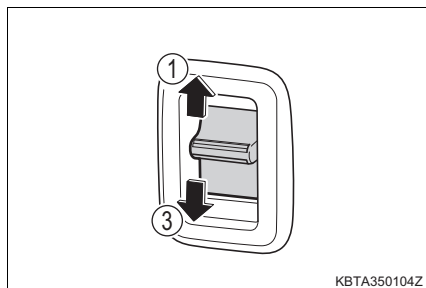
スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

▶ 運転席／助手席



▶ 後席



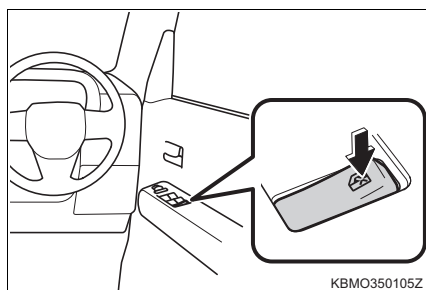
- ① 閉める
- ② 自動全閉（運転席のみ）※
- ③ 開ける
- ④ 自動全開（運転席のみ）※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ軽く操作します。

ウィンドウロックスイッチ

スイッチを押すと運転席以外のドアガラスが作動不可になります。

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ エンジン停止後の作動（運転席のみ）

エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にしたあとでも、約 40 秒間はドアガラスを開閉できます。

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、少し開き、作動が停止します。

■ パワーウィンドウモーターの過熱保護機能について

パワーウィンドウモーターには、過熱保護機能を内蔵しています。パワーウィンドウモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、過熱保護機能が作動し一時的にパワーウィンドウが停止することがあります。数十秒経過すると、通常通り使用できるようになります。

■ 運転席ドアガラスを閉めることができないとき

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、運転席ドアガラスを全閉できないときは、運転席ドアウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

- ① お車を停止し、エンジンスイッチを“ON”にする
- ② 運転席ドアウインドウスイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉にしたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、ダイハツサービス工場での点検を受けてください。

■ バッテリーを再接続したときは

パワーウィンドウを適切に作動させるために、初期設定を次の手順で行ってください。

- ① エンジンスイッチを“ON”にする
- ② 運転席ドアウインドウスイッチを下に長押しし、全開にする
- ③ 運転席ドアウインドウスイッチを「自動全閉」の位置まで引き続け、ドアガラスを全閉したあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける
ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、② からやり直しとなります。

警告

次のことを必ずお守りください。

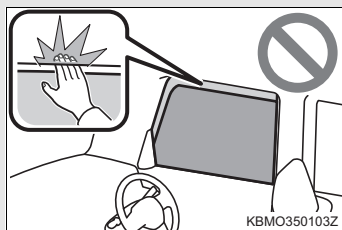
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するとき

- 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。(→ P. 120)

- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



- お車から離れるときはエンジンスイッチを“OFF”にし、キーを携帯してお子さまも一緒に連れて行ってください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能（運転席のみ）

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。
- 特に小さなものを挟み込んだとき、挟み込み防止機能が作動しないことがあります。

 注意

次のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となります。

■ **パワーウィンドウの故障を防ぐために**

- 運転席ドアウィンドウスイッチと他のスイッチを同時に逆方向へ操作しない
- ドアガラスを完全に開閉した状態でウィンドウスイッチを操作し続けない
- ガラスが凍りついて固着したような状態でウィンドウスイッチを操作し続けない

■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジン停止中は、必要以上にパワーウィンドウの開閉を行わないでください。

運転

4

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	126
荷物を積むときの注意	134

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション） スイッチ（キーフリー システム非装着車）	135
エンジン（イグニッション） スイッチ（キーフリー システム装着車）	138
CVT 車の運転	142
方向指示レバー	144
パーキングブレーキ	145

4-3. ランプのつけ方・ ワイパーの使い方

ランプスイッチ	146
AHB （オートハイビーム）	150
ワイパー & ウォッシャー （フロント）	154
ワイパー & ウォッシャー （リヤ）	156

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方	158
---------	-----

4-5. 運転支援装置について

スマートアシスト	162
衝突警報機能（対車両・ 対歩行者）、衝突回避支援 ブレーキ機能（対車両・ 対歩行者）	173
ブレーキ制御付誤発進 抑制機能（前方・後方）	186
車線逸脱警報機能・ 路側逸脱警報機能	196
ふらつき警報	201
先行車発進お知らせ機能	204
アイドリングストップ システム（eco IDLE）	207
コーナーセンサー	215
バックカメラ	221
プラスサポート （販売店オプション）	224
運転を補助する装置	229

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転	235
--------	-----

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

エンジンをかける

→ P. 135, 138

発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする (→ P. 142)
- 2 パーキングブレーキを解除する (→ P. 145)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

停車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にします。(→ P. 142)

駐車する

- 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏み、お車を完全に停止させる
- 2 ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかけて (→ P. 145)、シフトレバーを P にする (→ P. 142)
シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 3 エンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止する
- 4 ブレーキペダルからゆっくり足を離す
- 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

上り坂の発進のしかた

- ① パーキングブレーキをしっかりとかけ、シフトレバーを D にする
- ② アクセルペダルをゆっくり踏む
- ③ お車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■ 上り坂発進について

ヒルホールドシステムが作動します。(→ P. 229)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面が滑りやすくなったるので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がより滑りやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況に合わせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき

■ エンジン出力の抑制制御について（ブレーキオーバーライドシステム）

アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。

ブレーキオーバーライドシステム作動中は、警告灯が点灯します。(→ P. 337)

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂部品（バンパー、バックドアなど）に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

 知識

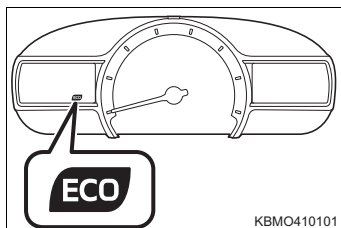
■ 環境に配慮した運転

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。

必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

次の場合、エコドライブインジケータランプは作動しません。

- シフトレバーがD以外のとき
- 車速が約110km/h以上のとき



エコドライブインジケータランプの表示／非表示を設定できます。(→ P. 70)

 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。(ブレーキ保持による停車時を除く) クリープ現象でお車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するとき

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるように注意してください。
 - ・ お車を少し移動させるときも正しい運転姿勢を取り、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近にお車を止めたりしないでください。

排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

！ 警告

- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 324を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用して速度を下げてください。フットブレーキを連続して使い過ぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→ P. 142)
- 路面状態や速度に応じて、次のようにシフトダウンしてエンジンブレーキを併用してください。
 - ・ シフトレバーを S にする
 - ・ より強いエンジンブレーキが必要な場合はシフトレバーを B にする
- 急激なエンジンブレーキ（シフトレバー操作）は避けてください。タイヤをロックさせ、スリップなどの原因となり、事故につながるおそれがあり危険です。
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部をお車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
また、4WD 車はオンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。
- 河を渡るなどの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- シートの上や付近に荷物を置いて走行しないでください。
急ブレーキをかけたときや、旋回しているときなどに荷物が飛び出して乗員に当たったり、荷物を破損したり、荷物に気を取られたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 大きな段差がある場所や、輪止めなどがある場所では慎重に走行してください。バンパーを損傷するおそれがあります。

 警告**■ 滑りやすい路面を運転するとき**

- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフトチェンジによるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、お車が横滑りするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られるおそれがあります。

■ シフトレバーを操作するとき

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いている間は、シフトレバーをPに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進している間は、シフトレバーをRに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退している間は、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くダイハツサービス工場で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすとともに摩耗していきます。摩耗の限度を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

 警告**■ 停車するとき**

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、お車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- お車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ 駐車するとき

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスが漏れたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターを収納装備などに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストールメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

！ 警告

- お車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P に入れ、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっている間は、お車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーを P にした状態では、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管に触れないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりかからないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他車に近付いたりしないでください。
また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。
ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、速度を下げてください。急ブレーキをかけるとハンドルを取られ、事故につながるおそれがあり危険です。

- ハンドルが取られる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 344 を参照してください。

 警告**■ 万一脱輪したときは（4WD 車）**

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

脱出できないときは、ダイハツサービス工場または専門業者へご連絡ください。

 注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、駆動力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーを P にしておかないと、お車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱい回した状態を長く続けないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ 冠水路を運転するとき

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずダイハツサービス工場次点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・トランスアクスル・トランスファー（4WD 車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（4WD 車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
 - ・ ふたのない小物入れ／トレイ
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかり安定させてください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
急ブレーキや事故の際に、投げ出され、乗員を傷付けるおそれがあります。
- リヤシートの背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけフロントシートの背もたれの真後ろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。
乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。
お守りいただかないと、急ブレーキや衝突の際に、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

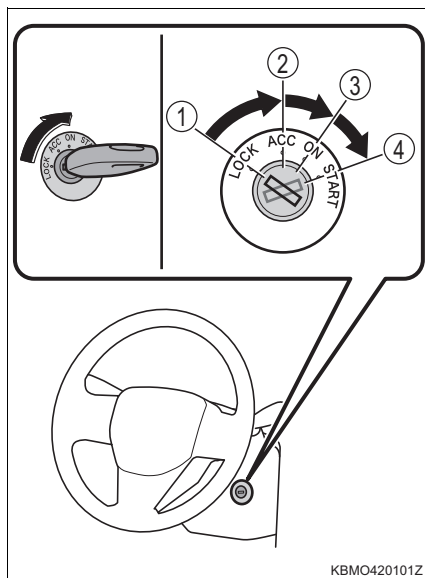
エンジン（イグニッション）スイッチ （キーフリーシステム非装着車）

エンジンのかけ方

- ① 正しい運転姿勢（→ P. 22）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- ② パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- ③ シフトレバーが P にあることを確認する
- ④ ブレーキペダルをしっかりと踏む
- ⑤ エンジンスイッチを“START”の位置に回す
エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

エンジンスイッチの位置の切り替え

- ① “LOCK”（“OFF”）
シフトレバーが P のとき、キーを抜き差しできます。
ハンドルロックがかかります。
非常点滅灯が使用できます。
- ② “ACC”
アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。
- ③ “ON”
すべての電装品が使用できます。
- ④ “START”
エンジンが始動できます。

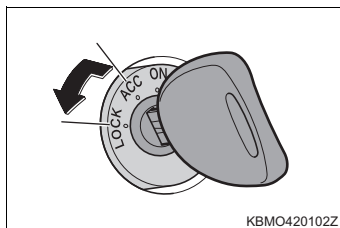


KBMO420101Z

知識

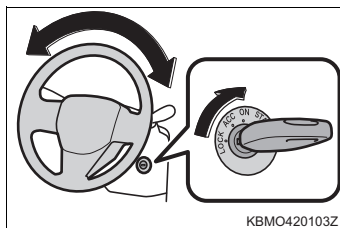
■ キーを“ACC”から“LOCK”（“OFF”）に回すには

- 1 シフトレバーがPにあることを確認する
- 2 キーを押し込みながら
“LOCK”（“OFF”）まで回す



■ ハンドルロックについて

- エンジンスイッチからキーを抜いて、ハンドルを左右どちらかに動かすとハンドルロック機能によりハンドルがロックされます。
- ハンドルロックを解除するには、ハンドルを左右に動かしながら、エンジンスイッチを回してください。



■ キー抜き忘れ警告ブザー

キーが差してあり、エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のとき、運転席ドアを開けると警告ブザーが鳴ります。

 警告**■ エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

走行中はエンジンスイッチを“OFF”にしないでください。

走行中にエンジンを停止すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したいときは、エンジンスイッチを“ACC”にしてエンジンを停止してください。(→ P. 324) 緊急時以外は走行中にエンジンスイッチに触れないでください。

走行中にエンジンを停止するとハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ エンジンを始動するとき

- 一度に 30 秒以上スターターを回さないでください。
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

エンジン（イグニッション）スイッチ （キーフリーシステム装着車）

電子カードキーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチモードを切り替えることができます。

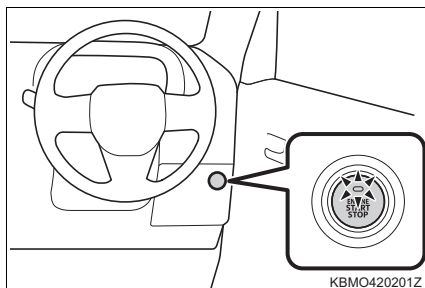
エンジンのかけ方

- 1 正しい運転姿勢（→ P. 22）が取れるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する
- 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 3 シフトレバーがPにあることを確認する

- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏む

エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。

緑色に点灯していないと、エンジンは始動しません。



- 5 エンジンスイッチを短く確実に押す

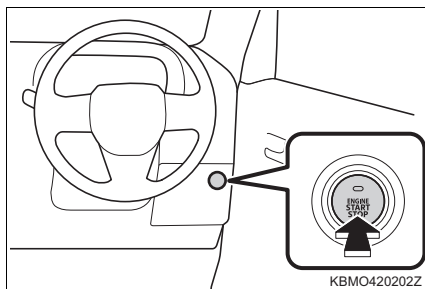
短く確実に押せば、長押しする必要はありません。

エンジンが始動するまで最大30秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモード（→ P. 139）からでもエンジンを始動できます。

プラスサポートをご使用の方は、P. 224 も併せて参照してください。



エンジンの停止のしかた

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→ P. 145)、シフトレバーを P にする
シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- 3 エンジンスイッチを押す
- 4 ブレーキペダルから足を離して、エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する

エンジンスイッチモードの切り替え

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切り替えることができます。(スイッチを押すごとにモードが切り替わります)

“OFF”※

非常点滅灯が使用できます。

“ACC”

アクセサリソケットなどの電装品が使用できます。

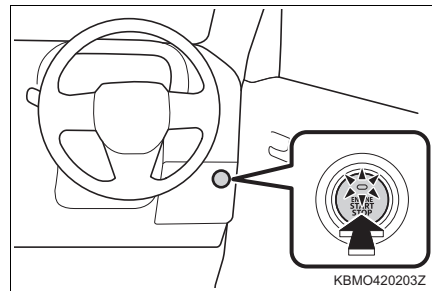
エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

“ON”

すべての電装品が使用できます。

エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅します。

- ※シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときは
“ACC” になり、“OFF” になりません。



シフトレバーが P 以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押しているときにエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチモードは“OFF”になりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P にする
シフトレバーを P にしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。

- 3 エンジンスイッチの表示灯が緑色にゆっくりと点滅していることを確認し、エンジンスイッチを2回押す
- 4 エンジンスイッチの表示灯が消灯していることを確認する



知識

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあり、シフトレバーのボタンを押していないとき、20 分以上“ON”（エンジンがかかっていない状態）か 1 時間以上“ACC”にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で“OFF”になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”、または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。

■ 電子カードキーの電池の消耗について

→ P. 89

■ キーフリーシステムが正常に働かないおそれのある状況

→ P. 87

■ ご留意いただきたいこと

→ P. 87

■ エンジンが始動しないとき

エンジンイモビライザーシステム（→ P. 54）が解除されていない可能性があります。

ダイハツサービス工場へご連絡ください。

■ エンジンスイッチの表示灯が黄色に点灯または点滅したとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ 電子カードキーの電池が切れたときは

→ P. 300

■ エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合や速く連続して押した場合は、モードの切り替えやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ“OFF”後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ“OFF”後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ カスタマイズ機能でキーフリーシステムを非作動にしたときは

→ P. 357

 警告**■ エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを 3 秒以上長押しするか、素早く 3 回以上連続で押してください。(→ P. 324)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチに触れないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、ただちに道路脇に停車してください。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンスイッチの表示灯が消灯していない場合エンジンスイッチが“OFF”になっていません。エンジンスイッチを“OFF”にしてから車両を離れてください。
- シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でエンジンを停止させないでください。シフトレバーが P 以外またはシフトレバーのボタンを押している状態でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチが“ACC”となるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

■ エンジンを始動するとき

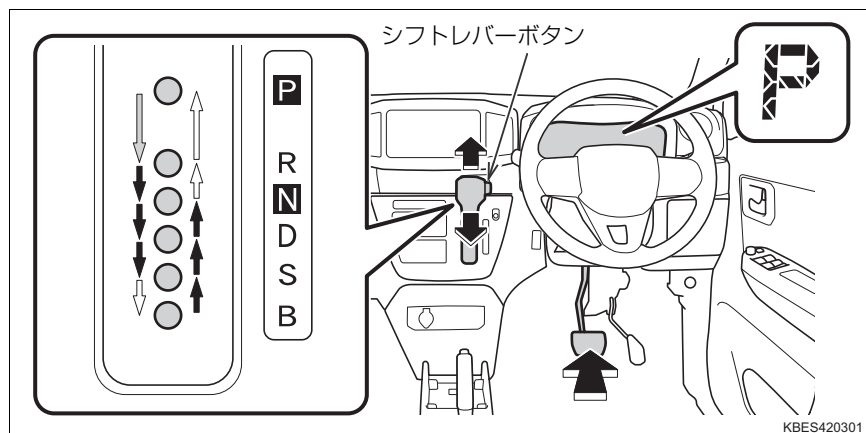
- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。ただちにダイハツサービス工場にご連絡ください。

CVT 車の運転

シフトレバーの動かし方



←： エンジンスイッチが“ON”の状態、ブレーキペダルを踏んだままシフトレバーボタンを押して操作します。

⇐： シフトレバーボタンを押して操作します。

➡： シフトレバーボタンを押さずに操作します。

シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※
S	坂道走行
B	急な下り坂走行

※ 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

知識

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。エンジンスイッチが“ON”でブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーをPからシフトできません。

■ シフトレバーをPからシフトできないときは

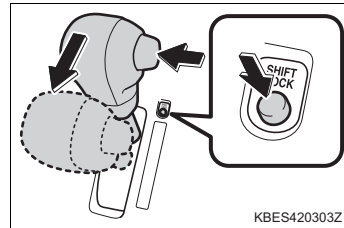
ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキをかける
- 2 エンジンスイッチを“OFF”にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押している間は、レバーをシフトできます。



■ リバース警告ブザー

シフトレバーをRに入れるとブザーが鳴り、Rにあることを運転者に知らせます。

警告

■ 滑りやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作やシフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横滑りやスピンの原因になりますので注意してください。

■ シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

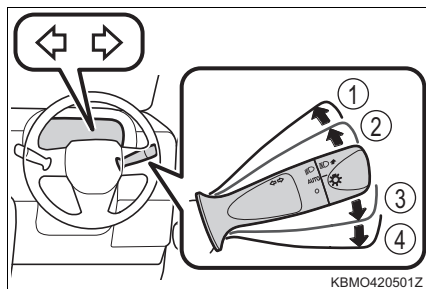
誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、お車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

方向指示レバー

操作のしかた

レバーを操作したあと、すぐにもとの位置に戻ります。

- ① 左折
- ② 左側へ車線変更（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。
- ③ 右側へ車線変更（レバーを途中で保持※）
レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。
- ④ 右折



※ ② または ③ の位置にレバー操作し、すぐに離れたときは方向指示灯が 3 回点滅します。

■ 右左折後に方向指示灯の点滅が停止しない場合や、点滅を中止させたいとき

レバーを逆方向の ② または ③ の位置に操作してください。レバーを ① または ④ の位置まで操作すると、選択した方向指示灯が点滅します。

□ 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

■ カスタマイズ機能

方向指示灯の設定を変更できます。

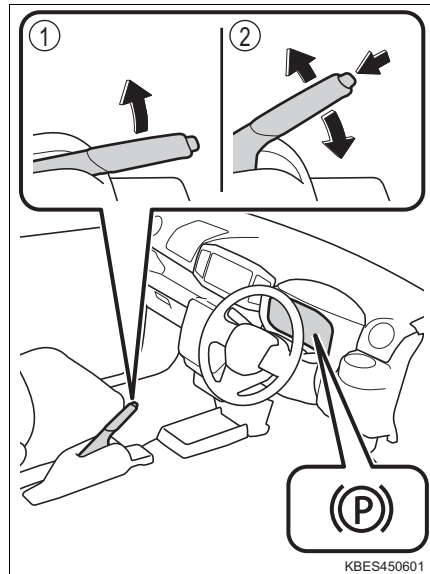
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 374）

（一部機能はマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 70）

パーキングブレーキ

操作のしかた

- ① パーキングブレーキをかけるには、ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引く
- ② パーキングブレーキを解除するには、レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下まで戻す



知識

- 冬季のパーキングブレーキの使用について
→ P. 236
- パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー
→ P. 64

注意

■ 走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。

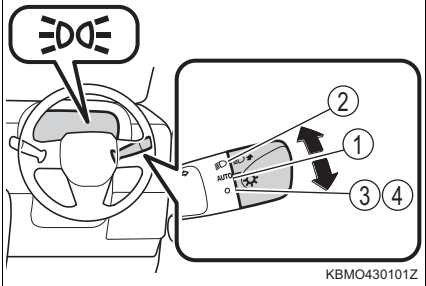
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効が悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

エンジンスイッチが“ON” のとき、次のように  スイッチを操作すると、次の表の通りランプ類が点灯・消灯します。



スイッチ位置		点灯・消灯するランプ	
		ヘッドランプ	車幅灯 番号灯 尾灯
①	AUTO	自動点灯・消灯	
②		点灯※1	
③※2、3	 (約 1 秒以上操作)	消灯	点灯
④※2、4	 (約 2 秒以上操作)	消灯	

- ※1 エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”のときも点灯します。
- ※2  スイッチを  の位置に操作して手を離すと、**AUTO** の位置に戻ります。
- ※3 自動点灯中で次のいずれかの状態のとき
- ・車速が約 3km/h 以下
 - ・停車中から発進後約 20 秒経過していない、かつ車速が約 15km/h 以下
- ※4 停車中で次のいずれかの状態のとき
- ・シフトレバーが P
 - ・パーキングブレーキがかかっている

■ ランプ類の再点灯について

※ スイッチを ○ の位置に操作してランプ類を消灯したあと、次のいずれかの場合、ランプ類が再点灯します。

- 再度 ※ スイッチを ○ の位置に操作したとき
- エンジンスイッチを再度“ON”にしたとき
- 車速が約 15km/h を超えたとき（③ のスイッチ操作時のみ）
- 車速が約 15km/h 以下（停車時を除く）の状態のまま約 20 秒経過したとき（③ のスイッチ操作時のみ）
- シフトレバーを P 以外にした、およびパーキングブレーキを解除したとき（④ のスイッチ操作時のみ）

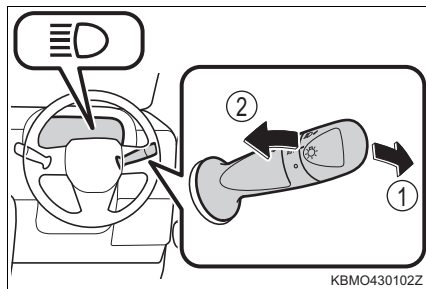
ハイビームにする

- ① ヘッドランプ点灯時ハイビームに切り替え

レバーをもとの位置へ戻すとロービームに戻ります。

- ② レバーを引いている間、ハイビームを点灯

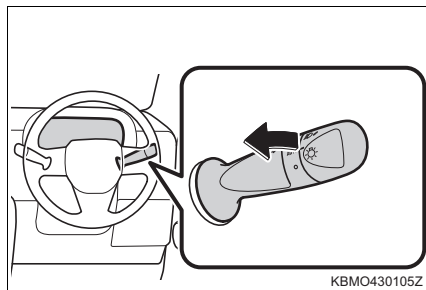
ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームに戻る、または消灯します。



ヘッドランプ点灯延長機能

エンジンスイッチが“OFF”の状態、ヘッドランプを約 30 秒間点灯させることができます。

エンジンスイッチを“OFF”にしたあと、ランプスイッチが **AUTO** の位置で、レバーを手前に引いて離します。



約 30 秒間経過する前に次の操作をすると、ヘッドランプが消灯します。

- エンジンスイッチを“ON”にしたとき※¹
- ランプスイッチを操作したとき※²
- ランプスイッチを再度手前に引いて離れたとき

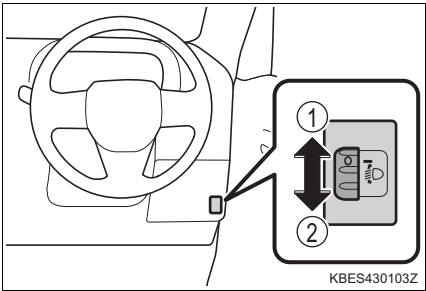
※¹ 周囲が暗いときは、点灯したままになる場合があります。

※² ランプスイッチを ⅡD に操作したときは、点灯したままになります。

手動光軸調整ダイヤル

乗車人数や荷物の量などによる姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を調整することができます。

- ① 上向きに調整
- ② 下向きに調整



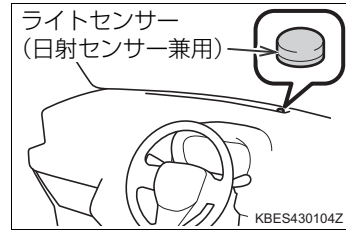
■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置			
乗員	荷物	ハロゲンヘッドランプ 装着車		LED ヘッドランプ 装着車	
		2WD 車	4WD 車	2WD 車	4WD 車
運転者	なし	0	0	0	0
運転者と 助手席乗員	なし	0	0	0	0
全乗員	なし	1.5	1.5	2	2
全乗員	ラゲージルーム 満載時	2	2.5	3	3
運転者	ラゲージルーム 満載時	2.5	3	3.5	4

知識

■ ライトセンサー

- 次のことをお守りください。
お守りいただかないと自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。
- ・ センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らない
- ・ ガラスクリーナーなどを吹きかけない



■ ランプ消し忘れ防止機能

- ランプ類が点灯している状態で、エンジンスイッチを“ON”から“ACC”または“OFF”にすると、点灯していたランプ類が自動で消灯します。
- 再度ランプを点灯する場合は、エンジンスイッチを“ON”にするか、再度  の位置にします。

■ ランプ消し忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”の状態で、ヘッドランプ・尾灯を点灯して運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。(ヘッドランプ点灯延長機能による点灯時は除く)

■ 節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチが“ACC”または“OFF”の状態で、ヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 10 分後にすべてのランプが自動消灯します。

自動消灯したあと、次のいずれかの操作を行うと、節電状態は解除され、ランプ類が点灯します。

- エンジンスイッチを“ON”にしたとき
- ランプスイッチを操作したとき（ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します）
- いずれかのドアを開閉したとき（ただし、約 10 分後に再度自動で消灯します）

■ カスタマイズ機能

ヘッドランプ点灯延長機能の設定を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 374)

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。また、お車から離れるときは、必ずランプ類を消灯してください。

AHB（オートハイビーム）

AHB は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラにより対向車または先行車のランプや街灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切り替えます。

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

AHBを過信しないでください。AHBは運転者の視界確保を補助、支援することを目的としていますが、状況によってはハイビームとロービームが切り替わらない場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り替えてください。

⚠ 注意

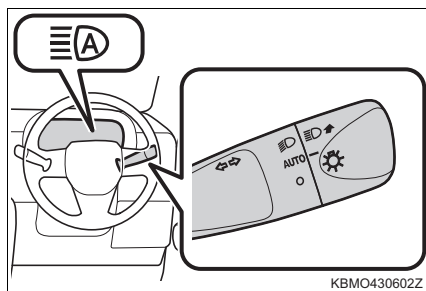
■ AHB を正しく作動させるために

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 車両を改造しないでください。

AHB の使い方

次の条件をすべて満たしているとき、AHB が作動し、AHB作動灯が点灯します。

- エンジンスイッチが“ON”のとき
 - ランプスイッチが **AUTO** で、ロービームが点灯しているとき
- 周囲が明るいときは、ヘッドランプが点灯しないことがあります。



ハイビームとロービームの自動切り替え条件

次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯します。

- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
- 前方の街灯が暗い

次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。

- 車速が約 20km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 対向車または先行車がランプを点灯している
- 前方の街灯が明るい

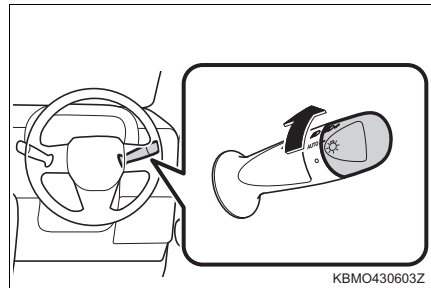
手動切り替えのしかた

■ ロービームへの切り替え

ランプスイッチを  にする

AHB 作動灯が消灯します。

AHB に戻すには、ランプスイッチを
AUTO に戻します。

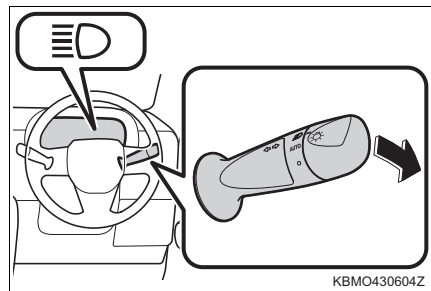


■ ハイビームへの切り替え

レバーを前方へ押す

AHB 作動灯が消灯し、ハイビーム表示灯
が点灯します。

AHB に戻すには、レバーをもとの位置に
戻します。



 知識

■ AHB について

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切り替わらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき
 - ・ 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・ 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切り替わる場合があります
- 街灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切り替わる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切り替えのタイミングが変化する場合があります。
 - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- AHB は車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を認識します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切り替わる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や対向車または先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切り替えてください。
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - ・ フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雨粒、シールなどでステレオカメラ前方が覆われているとき
 - ・ フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ・ ステレオカメラの温度が高いとき
 - ・ ステレオカメラが変形しているときや汚れているとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき

 知識

- ・対向車や先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- ・排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ・急激な明るさの変化が連続するとき
- ・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・カーブ、うねった道路、坂道のとき
- ・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・ヘッドランプの破損や汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
- ・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ハイビームとロービームを頻繁に切り替えているとき
- ・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者や付近の歩行者の迷惑になると思われるとき
- ・薄暗い早朝や夕暮れなどの暗さが不十分なとき
- ・著しくぬれた路面か圧雪路など、光を強く反射する路面のとき

■ AHB 警告灯が点灯したとき

システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ カスタマイズ機能

AHB の設定を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 374)

(マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 70)

ワイパー & ウォッシャー（フロント）

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

車速感应式間欠ワイパー装着車は  を選択しているとき、車速に応じて間欠作動の時間が変わります。

① ○：停止

② ：間欠作動

車速感应式間欠ワイパー装着車は車速が高くなると、作動頻度が増えます。

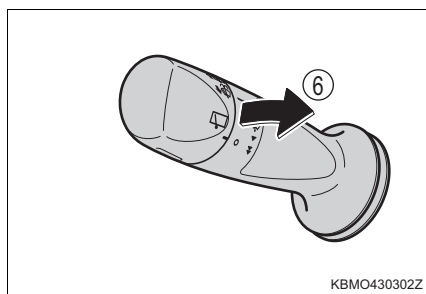
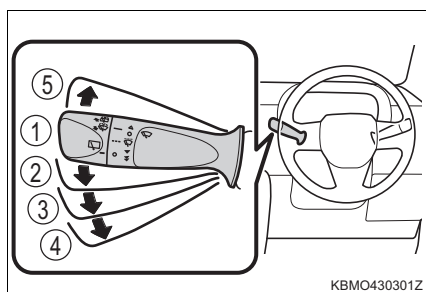
③ ▼：低速作動

④ ▼▼：高速作動

⑤ ▲：一時作動

⑥ ：ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。



 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON”のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ カスタマイズ機能

車速感応機能の設定を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 374)

(マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 70)

 警告

■ ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが温まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍り付き、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 注意

■ フロントウインドウガラスが乾いているとき

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはダイハツサービス工場へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために

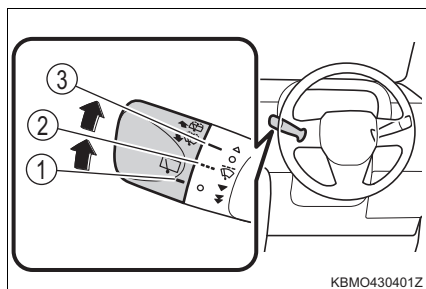
エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動させないでください。

ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

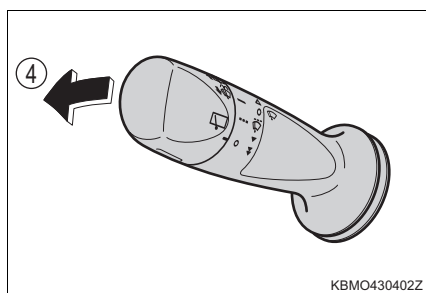
操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。

- ① ○：停止
- ② ---：約4秒間低速作動したあと、
間欠作動
- ③ —：通常作動



- ④ ：ウォッシャー液を出す
レバーを前方へ押すとウォッシャーが
作動します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ リバース連動機能

フロントワイパーが作動中、シフトレバーを R にするとリヤワイパーが数回作動します。フロントワイパーが停止後、約 10 秒以内にシフトレバーを R にしたときも、数回作動します。

■ カスタマイズ機能

作動の間隔などの設定を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 374)

(一部機能はマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：
→ P. 70)

 注意**■ リヤウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

■ ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはダイハツサービス工場へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

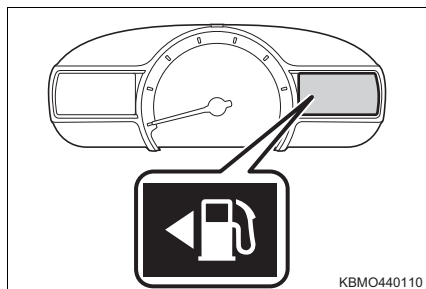
■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動させないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉めて、エンジンスイッチを“OFF”にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。
- メーター内に給油口の車両取り付け方向を示しています。



知識

■ 燃料の種類

無鉛レギュラーガソリンまたは無鉛プレミアムガソリン

警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分に触れて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内に戻ったり、他の人やものに触れないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。

静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が吹き出るおそれがあります。

- 気化した燃料を吸わないようにしてください。

燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

 警告

- 喫煙しないでください。
- 携帯電話などを使用しないでください。
- 吹きこぼれを防ぐため次の点に注意してください。
 - ・ 給油口にノズルを確実に挿入する
 - ・ 継ぎ足し給油をしない
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。

 注意**■ 給油するとき**

指定のガソリンを使用してください。

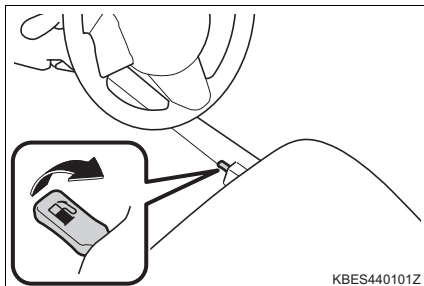
指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・アルコール含有燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。

次のような状態になるおそれがあります。

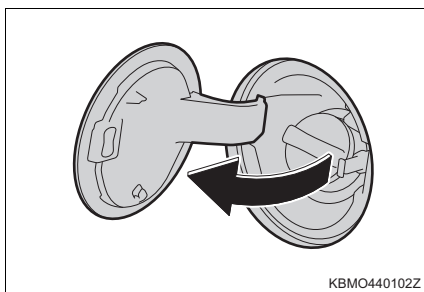
- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジンの出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

給油口の開け方

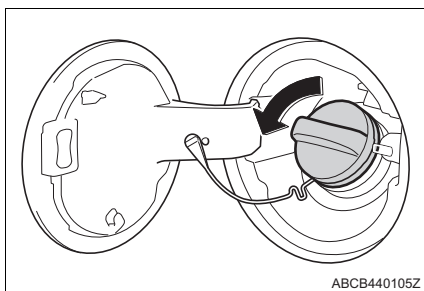
- 1 オープナーを引き上げて、給油扉を開ける



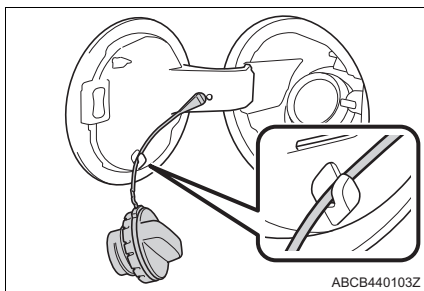
- 2 給油扉を止まる位置まで開ける
給油扉が戻らないことを確認する。



- 3 キャップをゆっくり回して開ける



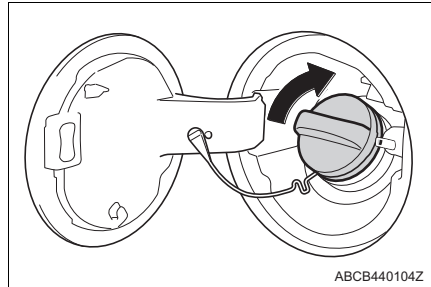
- 4 キャップをハンガーにかける



給油口の閉め方

- 1 キャップを“カチッ”と音がするまで回して閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少し戻ります。



- 2 給油扉を確実に閉める

⚠ 警告

■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずダイハツサービス工場へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

スマートアシスト

スマートアシストは、次の機能によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

→ P. 173

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

→ P. 173

◆ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

→ P. 186

◆ 車線逸脱警報機能

→ P. 196

◆ 路側逸脱警報機能

→ P. 196

◆ ふらつき警報

→ P. 201

◆ 先行車発進お知らせ機能

→ P. 204

◆ AHB

→ P. 150

 警告**■スマートアシストについて**

- スマートアシストは運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。スマートアシストは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。
- お客様ご自身でスマートアシストの作動テストを行わないでください。対象や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながる可能性があります。
- 次の状況ではシステムは正しく作動しません。スマートアシストの機能を停止してください。(→ P. 166)
 - ・タイヤの空気圧が適正でないとき
 - ・スペアタイヤやタイヤチェーンを装着しているとき
 - ・摩耗したタイヤ、摩耗差の激しいタイヤを装着しているとき
 - ・メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
 - ・タイヤパンク応急修理セットを使用したとき
 - ・サスペンションを改造したとき
 - ・ステレオカメラの視界を妨げるようなものを車両に取り付けたとき
 - ・ヘッドランプの汚れなどで、対象物を正しく照射できず、認識しづらいとき
 - ・ヘッドランプの光軸がずれているとき
 - ・ヘッドランプなどのランプ類を改造したとき
 - ・荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - ・車両を改造・架装したとき
 - ・けん引されるとき
 - ・キャリアカー・船舶・列車などに積載するとき
 - ・シャシーダイナモメーターやフリーローラーなどを使用するとき
 - ・リフトアップし、エンジンを始動してタイヤを空転させたいとき
 - ・垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、ビニールカーテン、草むらや茂みなどに触れながら通過するとき
 - ・サーキットなどでスポーツ走行するとき
 - ・脱輪したときやぬかるみから脱出するとき
 - ・冠水した道を走行するとき
 - ・事故や故障で自車の走行が不安定なとき
 - ・ブレーキ警告灯が点灯しているとき
 - ・洗車機を使用するとき

車両データの記録について

スマートアシストには、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、主に次のようなデータを記録します。

- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ハンドルおよびシフトレバーの操作状況
- 車速などの車両情報
- スマートアシストの各機能の作動状況
- 前方車両や歩行者、障害物との距離、相対速度などの情報
- ステレオカメラの画像情報（衝突回避支援ブレーキ作動時）

なお、会話などの音声や車内の映像は記録しません。

■ データの取り扱いについて

ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、コンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、ダイハツおよびダイハツが委託した第三者は、取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ダイハツが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

【ここでいうダイハツは、ダイハツ工業株式会社を意味しています。】

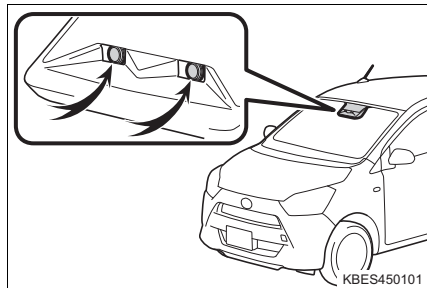
記録した画像情報は特別な装置を使用して消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。詳しくは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

ステレオカメラ

ステレオカメラは、次の機能に必要な情報を認識します。

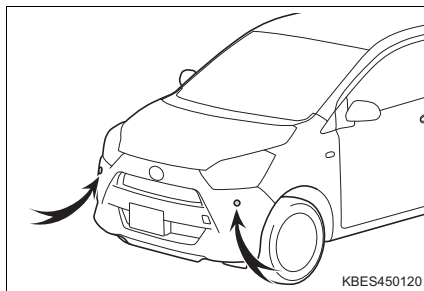
- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）
- 車線逸脱警報機能
- 路側逸脱警報機能
- ふらつき警報
- 先行車発進お知らせ機能
- AHB



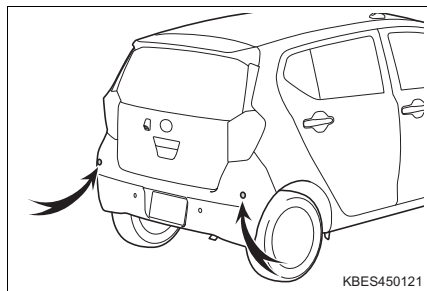
ソナー

ソナーは、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）に必要な情報を認識します。

▶ フロントソナー



▶ リヤソナー



スマートアシストの機能を停止するには

スマートアシスト OFF スイッチを押すことにより、スマートアシストの機能を停止することができます。

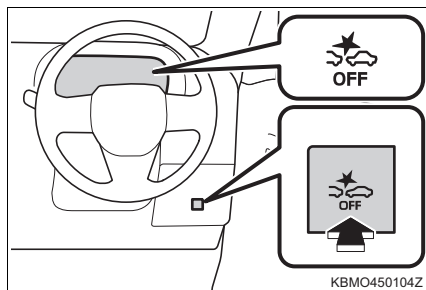
また、マルチインフォメーションディスプレイの設定を変更することにより、スマートアシストの一部の機能を停止することができます。(→ P. 70)

■ 衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）・先行車発進お知らせ機能を停止するとき

停車時にスマートアシスト OFF スイッチを 2 秒以上長押しする

“ピピッ” とブザーが鳴り、スマートアシスト OFF 表示灯が点灯します。

再度 2 秒以上長押しすると、“ピピッ” とブザーが鳴りスマートアシスト OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。

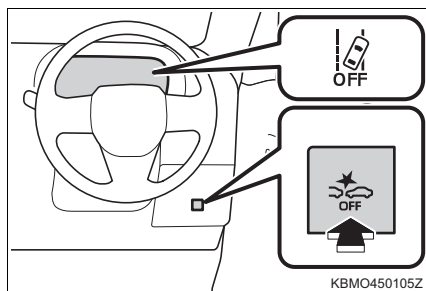


■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報を停止するとき

スマートアシスト OFF スイッチを押す

“ピピッ” とブザーが鳴り、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。

再度押すと、“ピピッ” とブザーが鳴り車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯し、作動可能状態に戻ります。



知識

■ ステレオカメラについて

- ステレオカメラは人の目と似た特性を持っています。そのため、運転者にとって前方が見えにくい状況では、ステレオカメラも同様に前方車両や歩行者、障害物、車線を認識しづらくなります。
- ステレオカメラによる前方車両や歩行者、障害物、車線の認識は視野範囲内に限られています。また、視野範囲に対象物が入ってから制御・警報の対象となるまでは数秒間かかります。

 知識**■ スマートアシストが作動しない場合**

次のいずれかの場合、スマートアシストの機能は作動しません。

- エンジン始動直後
- スマートアシスト OFF スイッチでシステムを停止しているとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が点灯または点滅しているとき
- 「スマアシ故障」が表示されているとき（システム異常）
- 「スマアシ停止」が表示されているとき※（機能停止）

※「スマアシ停止」が表示されていても、一部の機能は作動します。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■ スマートアシストの機能停止について

次のようなときは、状況によってはスマートアシストの認識性能が下がる場合や一時停止状態になる場合があります。（→ P. 342）

状況が改善されれば再度機能は作動します。

- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- お車を炎天下で放置したあとなど、ステレオカメラの温度が極端に高くなった場合
- エンジン始動直後
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
- 街灯などがなく、真っ暗で周囲に建物や車両などが無い場合
- ステレオカメラ、ソナー部に雪や汚れ、霜などが付着して覆っているとき
- 重い荷物を積んでいるとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき

機能によって認識性能の低下する条件が異なります。詳しくは各機能の説明をお読みください。

■ スマートアシストの自動復帰について

スマートアシスト OFF スイッチを押して次の機能を停止した場合でも、一度エンジンスイッチを“OFF”にしてから“ON”にすることによって、自動的に作動可能状態に戻ります。

- 衝突警報機能（対車両・対歩行者）
- 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）
- 先行車発進お知らせ機能

知識

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報について

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能・ふらつき警報の作動可能状態または停止状態は、エンジンを再始動しても維持されます。

■ スマートアシストの作動状態について

ブザーとメーター、ディスプレイの表示でスマートアシストの作動状態をお知らせします。

ブザー	メーター	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピピ ピッ”	—	 (点滅)	衝突警報機能が作動
“ピピピピピ”と 鳴り続ける		 (点滅)	衝突回避支援ブレーキ機能の 1 次ブレーキ、または 2 次ブレー キが作動
“ピピピッ”と鳴 り続ける	—	 (点滅)	衝突回避支援ブレーキ機能の 2 次ブレーキが作動したあと、車両 が停止 運転者の操作でブザーとディスプ レイの表示が終了します。
“ピピピピピ ピッ”	—	 (点滅)	ブレーキ制御付誤発進抑制機能 (前方) の警報が作動
“ピピピピピ”と 鳴り続ける		 (点滅)	ブレーキ制御付誤発進抑制機能 (前方) の警報が作動するととも にエンジンの出力を抑制
“ピピピピピ”と 鳴り続ける		 (点滅)	ブレーキ制御付誤発進抑制機能 (前方) のブレーキ制御が作動
“ピピピピピッ”	—	 (点滅)	ブレーキ制御付誤発進抑制機能 (後方) の警報が作動
“ピピピピピ”と 鳴り続ける		 (点滅)	ブレーキ制御付誤発進抑制機能 (後方) の警報が作動するととも にエンジンの出力を抑制
“ピピピピピ”と 鳴り続ける		 (点滅)	ブレーキ制御付誤発進抑制機能 (後方) のブレーキ制御が作動

 知識

ブザー	メーター	ディスプレイ	作動状態
“ピピピピッピ ピピピッ”	 (点滅)	—	車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動
“ピピッピピッ”	 (点灯)	—	ふらつき警報が作動
“ピピピッ”	—	 (点滅)	先行車発進お知らせ機能が作動
—	 (緑色)	—	AHB が作動

外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞き取りにくい場合があります。また、路面状況などにより、システムの作動を感じにくい場合があります。

 警告**■ステレオカメラの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ステレオカメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ステレオカメラ前面のフロントウインドウガラスは常にきれいにしてください。
 - ・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・フロントウインドウガラスにダイハツが指定したガラスコーティング剤以外は使用しないでください。フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、ステレオカメラ前面に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・フロントウインドウガラス内側のステレオカメラ取り付け部が汚れた場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスのステレオカメラ前面に、ステッカー（透明なものを含む）などを貼らないでください。やむを得ず取り付けなければならない（車検ステッカーなど）ときは、ステレオカメラの前面に重ならないようにしてください。
- フロントウインドウガラスが曇った場合は曇りを取ってください。（→ P. 241, 247）
- フロントウインドウガラスのステレオカメラ前部の水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換してください。（→ P. 295）
 - ・ワイパーブレードの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らないでください。
- 事故などでステレオカメラ周辺が変形した場合はダイハツサービス工場にご相談ください。
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換してください。特にステレオカメラ前面のフロントガラスに傷、ひびなどの損傷や部分修正があると、システムが正しく作動しなくなることがあります。

フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ダイハツ純正品以外のフロントウインドウガラスに交換しないでください。
- ステレオカメラに液体をかけないでください。

⚠ 警告

- ステレオカメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしないでください。レンズに汚れ、傷がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- ステレオカメラに強い衝撃を加えないでください。
- ステレオカメラ取り付け位置や向きを変更したり、取り外したりしないでください。
- ステレオカメラを分解しないでください。
- ステレオカメラ付近に電子機器やアンテナなど、強い電波を発信する機器を取り付けしないでください。
- ステレオカメラに強い光を照射しないでください。
- ステレオカメラをサンシェードで覆わないでください。覆うとステレオカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。
- インナーミラーなどのステレオカメラ周辺部品や天井を改造しないでください。
- インストルメントパネル上部にものを置かないでください。フロントウィンドウガラスに反射してシステムが正しく作動しなくなる場合があります。
- インストルメントパネル上面をケミカル剤などで光沢を持たせた場合、フロントウィンドウガラスへの映り込みにより、ステレオカメラが安定した認識ができずシステムが正常に作動しない場合があります。
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーなどに、ステレオカメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けしないでください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積むときは、ステレオカメラの視界をさえぎらないようにしてください。
- ダイハツ純正品以外のインナーミラー（ワイドタイプミラーなど）、サンバイザーを装着しないでください。

■ ソナーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、ソナーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ソナーは常にきれいにしてください。
 - ・雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着した場合は、取り除いてください。
 - ・お手入れする際は、ソナーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。
- ソナーにウォッシャー液やオイルが付着した場合は、ただちにふき取ってください。
- ソナーにワックスや撥水剤などをぬらないでください。

⚠ 警告

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えないでください。強い衝撃を受けたときは、必ずダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ソナーを取り外したり、分解したりしないでください。
- ソナーの取り付け位置を変更したり、周辺構造物を改造したりしないでください。また、ソナーを塗装したりしないでください。
- ソナー、およびその周辺部分にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしないでください。
- バンパー部分に腰かけたり、寄りかかったりしないでください。
- バンパーを交換・修理する場合や、事故などでソナー周辺が変形した場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ 汚れ検知機能について

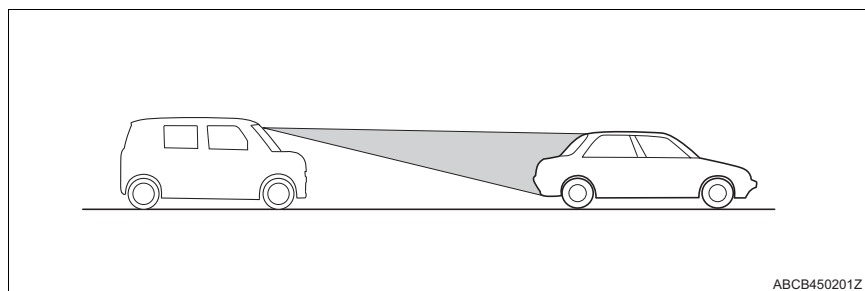
- ステレオカメラとソナーは汚れ検知機能を備えていますが、万全ではありません。汚れを検知した場合は、スマートアシストの機能が自動的に停止します。

衝突警報機能（対車両・対歩行者）、衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラで前方車両※¹、歩行者※²を認識して、衝突の危険性が高い場合に作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行い、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

※¹ 二輪車、自転車を含む（人が乗車している場合のみを対象物としています）

※² 昼間、夜間対応



◆ 衝突警報機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 168）で注意を促します。

状況によっては、壁、ガードレールなどの障害物に対しても衝突警報は作動します。

◆ 衝突回避支援ブレーキ機能（対車両・対歩行者）

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 168）で注意を促し、衝突の直前で緊急ブレーキが作動して、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

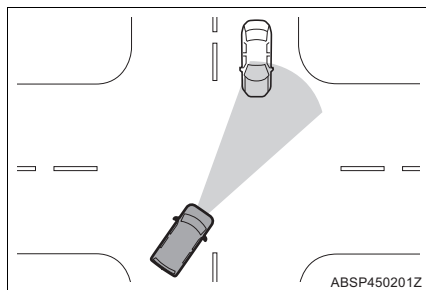
◆ 被害軽減ブレーキアシスト

緊急ブレーキ作動中、ブレーキペダルを踏み込むと、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

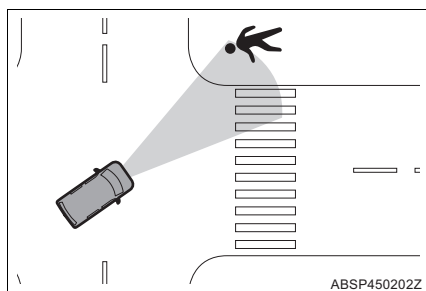
◆ 交差点衝突回避支援（右左折）

次のような状況で、衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報および衝突回避支援ブレーキによる支援を行います。交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

- 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき



- 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき



⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

衝突回避支援ブレーキ機能を日常のブレーキ操作の代わりには絶対に使用しないでください。衝突回避支援ブレーキ機能はあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりするとおそれる事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 衝突回避支援ブレーキ機能は、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としています。衝突が避けられないと判断した段階で緊急ブレーキが作動し、衝突直前で強いブレーキをかけるように設定していますが、常に同じ性能を発揮できるものではありません。その効果は様々な条件により変わるため、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・ 衝突の可能性がなくても機能が作動するおそれがあるとき：→ P. 182
- ・ 機能が正常に作動しないおそれがあるとき：→ P. 175, 182

 警告**■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能について**

- 衝突回避支援ブレーキ機能は、ステレオカメラが認識した前方車両[※]や歩行者に作動します。電柱、壁などに対しても作動することがありますが、これらへの衝突を回避することを目的とはしていません。
- 運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏んでいたり、ハンドルを操作していたりする場合、その操作状態によって衝突の可能性が低いと判断されると、衝突警報や衝突回避支援ブレーキが作動しない、作動が遅れる、または作動が解除されることがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ機能は、前方車両[※]との速度差が約 120km/h（対歩行者の場合は速度差が約 80km/h）を超える場合は作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、衝突回避支援ブレーキが作動したときに危険な場合があります。（→ P. 24）

[※] 二輪車、自転車を含む

■ 衝突回避支援ブレーキについて

緊急ブレーキ作動時は、強いブレーキがかかります。緊急ブレーキは車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動しないおそれのある状況

次のような場合は、衝突警報機能が作動しなかったり、衝突回避支援ブレーキ機能が作動せず、止まりきれないことがあります。

- 前方車両[※]や歩行者との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合
- 自車の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 前方の視界が悪いとき（豪雨、吹雪、濃霧、土ぼこりなど）
- 運転者の操作状態（アクセルペダル・ブレーキペダル・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- エンジン始動直後
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ フロントウィンドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき

 警告

- ・ ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
- ・ フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
- ・ フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
- ・ フロントウインドウウォッシャーの使用または使用後で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
- ・ フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
- ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- ・ ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）
- ・ 雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ・ ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ・ ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
- ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- ・ 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両※、歩行者に接近するとき
- ・ トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ・ ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
- ・ 強い光が車両※や歩行者、路面に反射しているとき
- ・ カーブ、うねった道路、坂道のとき
- ・ 路面に水たまりや水膜があるとき
- ・ 雪道や未舗装路など、凹凸やわだちのある道路のとき
- ・ 自転車や対象物がふらついているとき
- ・ 対象物が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 右折中に、対向車が自転車の走行する車線から離れた車線を走行しているとき
- ・ 右折中に、自転車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき
- ・ 右左折中に、横断歩行者が自転車と同じ方向から直進して近づいてくるとき
- ・ 移動する自転車が集団で前方にいるとき
- ・ 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- ・ 対象物が対向車であっても、対象物とシステムが認識する前に、自転車が対向車の進行路に進入している場合
- ・ 対象物が対向車であっても、自転車が対向車線に進入している場合
- ・ 前方車両※や歩行者との距離が極端に短いとき
- ・ 自転車の前方に車両※や歩行者が急に割り込んだり、飛び出したりしたとき
- ・ 急加速やハンドル操作をしながら、前方車両※、歩行者に接近したとき
- ・ 前方車両※の一部しかステレオカメラの認識範囲内に入っていないとき

 警告

- ・ 小さい速度差で接近する場合（接近してから制御を行うため、対象物の形状・大きさによっては最後面がステレオカメラの視野範囲から外れる場合があります）
- ・ 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- ・ 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ・ 自車が車線変更を行い、前方車両※のすぐ後ろに接近したとき
- ・ 前方車両※が急ハンドル、急加速、急減速したとき
- ・ 特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）のとき
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車、タンデム自転車など）
- ・ 前方車両の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- ・ 車両背面のガラスが大きく前が見えてしまうような前方車両に接近したとき
- ・ 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが前方車両のとき
- ・ 後端から積荷が飛び出している車両などのとき
- ・ 車両が斜め、または横向きに走行や停止しているとき
- ・ 二輪車が横向きに走行しているとき
- ・ 二輪車や自転車、または歩行者が斜めに走行・横断しているとき
- ・ 歩行者、二輪車や自転車の運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコートなどを着用しているとき）
- ・ 対向車※やバックしてくる車両などのとき
- ・ 車高の低い車両などのとき
- ・ 停車している車両※の前に壁などがあるとき
- ・ 重い荷物を積むなど、前方車両※が傾いているとき
- ・ 二輪車、自転車の運転者や歩行者の一部（頭や手足など）が荷物や傘、帽子、車両、建物などに隠れているとき
- ・ 二輪車、自転車の運転者や歩行者が背景にまぎれて、ステレオカメラが認識できないとき
- ・ 二輪車、自転車の運転者や歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢を取っているとき、横たわっているとき、手を振ったり走っているとき
- ・ 身長の子供や高身長歩行者のとき（接近してから制御を行うため、歩行者の体形によってはステレオカメラの視野範囲から外れてしまい、作動しなかったり、作動が解除されたりすることがあります）
- ・ 歩行者が大きな荷物を背負っていたり、抱えたり、自転車やカートなどを押しているとき
- ・ 歩行者が長いスカートや和服などを着用していて足元が見えないとき
- ・ 集団で歩いているときなど、ステレオカメラが歩行者として認識できないとき

⚠ 警告

- ・ ヘッドランプ照射範囲外に対象物がある場合
 - ・ 周囲一面が同じような色合いのとき（一面雪景色など）
 - ・ 対象物と背景のコントラストが少ないとき（森の中の黒車両、白壁前の白服歩行者、夜間の黒服歩行者など）
 - ・ 上方に構造物がある場所の下に対象物がいるとき
 - ・ 対象物が複数重なっているとき
 - ・ 2人以上乗車している自転車
- タイヤ径が小さい二輪車※ や全長が長い二輪車※ のとき
 - 歩行者や二輪車、自転車の移動速度が速いとき
 - 二輪車、自転車に運転者が乗車していないとき

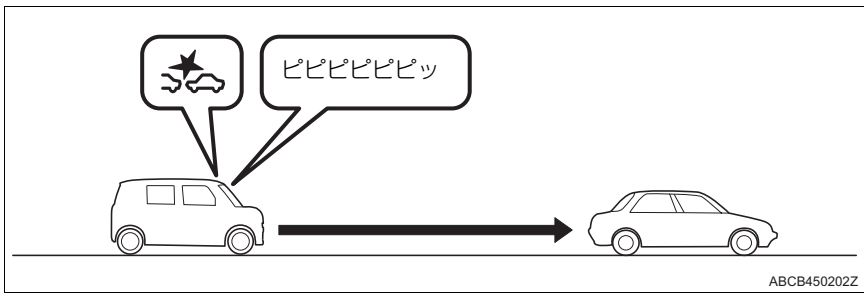
※ 二輪車、自転車を含む

衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能・被害軽減ブレーキアシストの作動

① ～ ④ の順にシステムが作動し、運転者への注意喚起とブレーキ制御を行います。

- システム作動中は、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示で運転者に注意を促します。
- ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏み込むと、被害軽減ブレーキアシストが作動し、踏んだ以上の制動力で減速をアシストします。

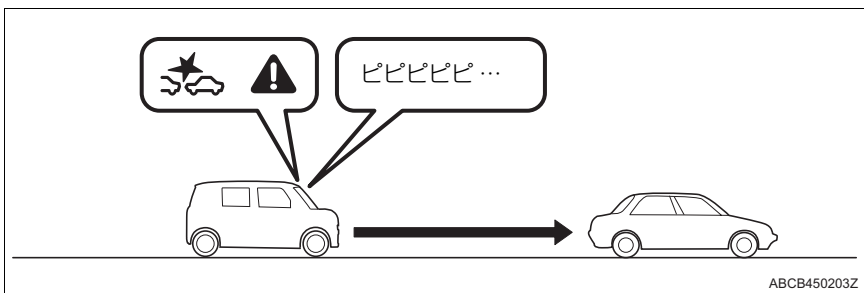
① 衝突警報



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性があると判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 168）で運転者に注意喚起して衝突回避操作を促します。

※ 二輪車、自転車を含む

② 1次ブレーキ

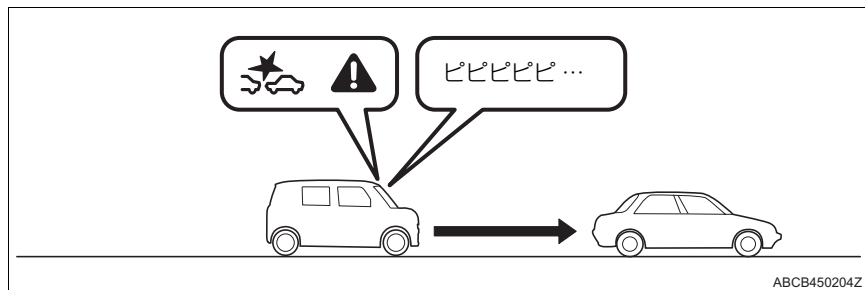


前方車両※・歩行者を認識して、衝突の可能性が高いと判断したときに、ブザーを変化させブレーキ制御を行います。

- ・ 前方車両※・歩行者と認識していない場合、またはブレーキペダルを踏んで減速し、適切な車間距離を取った場合は、ブレーキ制御を行いません。

※ 二輪車、自転車を含む

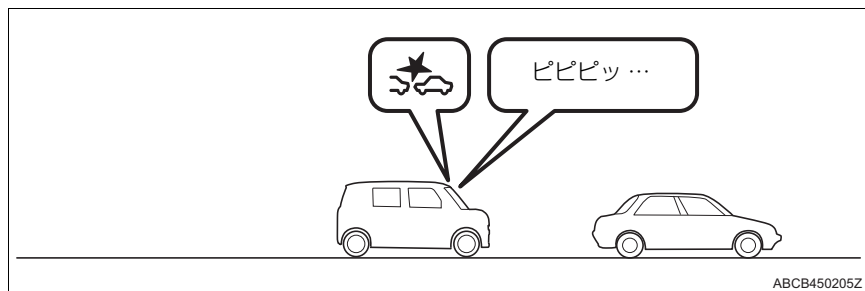
3 2次ブレーキ



前方車両※・歩行者に対し、衝突の危険性が非常に高いと判断したときに、1次ブレーキより強くブレーキ制御を行います。

※二輪車、自転車を含む

4 停止保持



停止後にブザーが鳴り、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。※

停止保持後にブレーキ制御が解除されると、クリープ現象により車両がゆっくりと動き出します。停車状態を継続するには、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

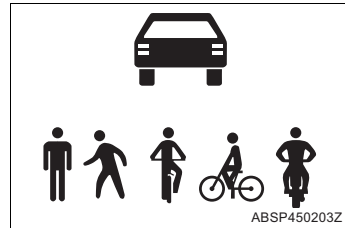
※アクセルペダルを踏んだときも、ブレーキ制御が解除される場合があります。

知識

■ステレオカメラについて

ステレオカメラは対象物の大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、対象物の動き・姿勢・角度などによっては、対象物を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシスト、交差点衝突回避支援の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON” のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- メーター内の VSC OFF 表示灯が消灯しているとき
- シフトレバーが P・R 以外のとき
- 次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき（交差点衝突回避支援以外の場合）

機能	対象	作動車速、速度差※ ¹
衝突警報機能	対車両	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者※ ²	約 4 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 4 ～ 120km/h
	横断自転車	約 4 ～ 80km/h
衝突回避支援 ブレーキ機能	対車両	約 4 ～ 120km/h
	対歩行者※ ²	約 4 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 4 ～ 120km/h
	横断自転車	約 4 ～ 80km/h
被害軽減 ブレーキアシスト※ ³	対車両	約 30 ～ 120km/h
	対歩行者※ ²	約 30 ～ 80km/h
	先行二輪車、自転車	約 30 ～ 120km/h

知識

- 次の表に示す機能のいずれかの作動車速および速度差で走行しているとき（交差点衝突回避支援の場合）

機能	対象	作動車速度	対向車速度
衝突警報機能	対車両※4	約 4 ～ 30km/h	約 20 ～ 60km/h
	対歩行者	約 4 ～ 30km/h	—
衝突回避支援ブレーキ機能	対車両※4	約 4 ～ 30km/h	約 20 ～ 60km/h
	対歩行者	約 4 ～ 30km/h	—

※1 自車と前方車両、歩行者との速度差は作動車速の数値と同じです。

※2 昼間、夜間対応

※3 緊急ブレーキ作動中にブレーキペダルを踏み込んだ場合

※4 方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

■ 衝突回避支援ブレーキについて

- 状況によっては、1 次ブレーキや 2 次ブレーキから作動することがあります。
- 衝突回避支援ブレーキ中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- 衝突回避支援ブレーキ中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがありますが、異常ではありません。

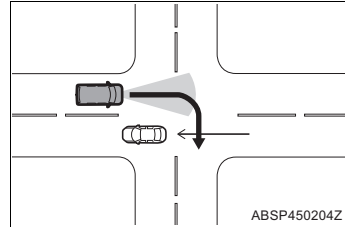
■ 衝突の可能性がなくても衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能が作動する場合

次のような場合は、衝突の可能性がなくても衝突警報機能・衝突回避支援ブレーキ機能が作動することがあります。

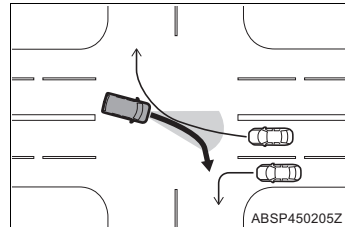
- 左折、または右折している前方車両※ がいるとき、または右左折待ちの車両がいるとき
- 先行車※ を追い越すときに車両に接近して走行する場合
- 車線変更や右左折している前方車両※ などを追い抜くとき
- 右左折待ちの前方車両※ などとすれ違うとき
- 前方車両※、横断歩行者などの対象物が自転車進路内に入る手前で停止したとき
- 道路上方に物体（道路標識、看板、または樹木の枝など）がある場所を走行するとき
- 右左折中に、対向車や横断歩行者が自車の前方を通過したとき
- 右左折中に、対向車や歩行者の手前を通過しようとしたとき
- 右左折中に、対向車や横断歩行者が自転車進路内に入る手前で停止したとき

知識

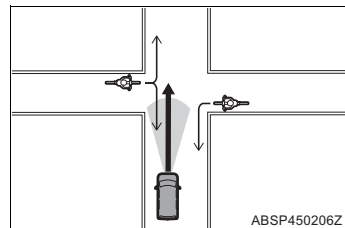
- 交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき
- 対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
- カーブの入口や道路脇に対象物が存在するとき
- 前方の壁に対象物と区別が付きにくい映り込みやペイントがあるとき
- 右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車が通過したとき



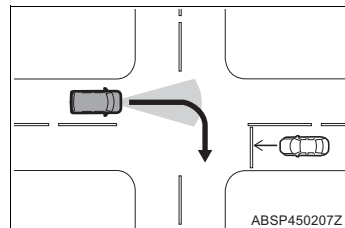
- 右左折時に、対向車線に進入する直前に右左折する対向車とすれ違ったとき



- 車両※ 歩行者が自車の前に飛び出してくる直前に、向きを変えて合流またはすれ違ったとき



- 右左折時に、対向車線に進入する直前に対向車が交差点手前で減速または停止したとき



- 狭い橋、小トンネル、田舎道、ETC ゲート、狭いガードレール、雪だまり、洗車機など、両脇に壁や障害物がある細い道を走行するとき
- 前方車両※ に接近して走行するときや、前方の壁や前方車両※ の寸前まで接近して停止するとき

 知識

- 停止車両※ などの横を至近距離で通過するときや対向車※ が自車に向かって接近するとき
- 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき
- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻き上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- ステレオカメラの光軸がずれているとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントなどがある場合
- カーブの入口や交差点にガードレールや看板、木立などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車※ があるとき
- 駐車場のバーや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- 下り坂走行中、路面にキャッツアイやマンホール、路面電車のレールなどがあるとき
- バンプや段差を乗り降りしたときに、目の前に標識の影や、路面の継ぎ目などがあった場合
- 複数台の前方車両※ などが重なって見えるような場合
- 上り坂走行中、上方に看板や樹木の枝があるとき
- 縦縞フェンス、タイル壁、縦縞服など、連続する縦模様があるとき
- 前方車両※ の方向指示／非常点滅灯、制動灯が点灯したとき
- 水たまり、ぬれた路面、ボデー鏡面への風景写り込みやランプ反射があるとき
- 外部から光の差し込みがあるとき
- 車両※ と車両※、車両※ と歩行者、歩行者と歩行者、遠方のランプ群など、並進物があるとき
- 進路脇に歩行者、または歩行者と同じような大きさのものが並んでいるとき
- すれ違う歩行者、前方車両※ の二車線変更など、二つのものが交差して入れ替わるとき
- ダンプカー、空荷トラック、スーツケースを持った人など、背面に前後差があるとき
- 複雑な形状の車両※ のとき
- 風に揺れる旗や木の枝、衣服の揺れがあるとき

※ 二輪車、自転車を含む

 知識

■ 衝突警報機能、衝突回避支援ブレーキ機能を停止するには

→ P. 166

■ カスタマイズ機能

衝突警報機能の設定を変更することができます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 374)

(マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 70)

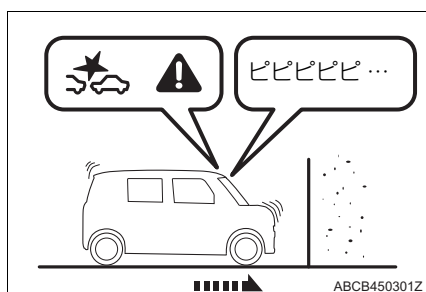
ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）

ブレーキ制御付誤発進抑制機能は、前方、または後方に障害物を認識している場合、停車または徐行（車速約 10km/h 以下）状態で、ペダルの踏み間違いなどにより必要以上にアクセルペダルが踏み込まれたとシステムが判断したときに、ブザーとメーター、ディスプレイの表示（→ P. 168）による運転者への警報とエンジンの出力の抑制制御に加え、ブレーキ制御を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

◆ 前方

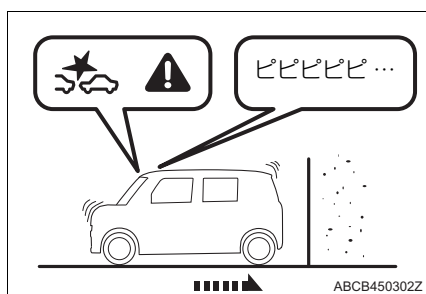
次の場合に作動します。

- ステレオカメラが前方約 4m 以内に障害物を認識している場合
- フロントソナーが前方約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合



◆ 後方

リアソナーが後方約 2 ～ 3m 先までの壁などの障害物を認識している場合に作動します。



 警告**■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能について**

- ブレーキ制御付誤発進抑制機能を過信しないでください。ブレーキ制御付誤発進抑制機能はあらゆる状況で衝突を回避、または衝突被害を軽減するものではありません。発進時はシフトレバーやペダルの位置および周囲の安全を十分に確認して操作してください。機能に頼っていると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は停止状態を保つものではありません。機能が作動していても、勾配が急な坂道などではお車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能は前方、または後方に障害物を認識している場合に作動するものであり、崖など対象物が見えない状況で作動するものではありません。
- 故意に対象物の近くでアクセルペダルを過剰に踏み込まないでください。アクセルの調節をブレーキ制御付誤発進抑制機能に頼っていると衝突事故を起こす場合があります。
- 前方と後方では、認識できる障害物が異なります。
- ブレーキ制御付誤発進抑制機能とコーナースエンサーでは作動の対象とする障害物が異なります。コーナースエンサーのブザーが鳴っていてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナースエンサーのブザーが鳴っていても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。
- 万一、自車が踏切内で閉じ込められた場合、ステレオカメラ、またはソナーが遮断機を対象物と認識し、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動することがあります。遮断機を押し進める場合は、あわてずにアクセルペダルを踏み続けるか、スマートアシストを停止してください。(→ P. 166)
- 運転者がハンドル操作をしていると、その操作状態によっては運転者の回避操作として判断され、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しない場合があります。
- TRC を停止、または VSC・TRC を停止にした場合、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- エンジン出力の抑制制御をしたときに、アクセルペダルを約 8 秒以上踏み続けると、作動を解除します。また、すばやく 3 回以上、全開まで踏み直すと、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は作動しません。
- ブレーキ制御が作動すると、ブレーキ制御付誤発進抑制機能は一定時間作動しません。
- シートベルトを着用し、必ず同乗者にも着用させてください。シートベルトを正しく着用しないと、ブレーキ制御が作動したときに危険な場合があります。(→ P. 24)

！ 警告**■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が適切に作動しないおそれのある状況**

次の条件の違いにより、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- 前方障害物との速度差、車間距離、接近の状態、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 車両の状態（積載量・乗員など）
- 路面の状態（勾配・滑りやすさ・形状・凹凸など）
- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）から運転者が回避操作をしたと判断したとき
- 車両の整備状態（ブレーキ関係・タイヤの摩耗・空気圧・スペアタイヤ装着など）
- 車両や二輪車などの急な割り込み、歩行者の飛び出し
- エンジン始動直後
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 前方障害物との距離や向き、横方向のずれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
 - ・ 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けたとき
 - ・ フロントウインドウガラスに曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこりなどが付着して覆っているとき
 - ・ ステレオカメラの温度が極端に高いとき
 - ・ 夕方、朝方の薄暗いときや、夜間に障害物に接近するとき
 - ・ 屋内の駐車場など暗い場所で障害物に接近するとき
 - ・ ヘッドランプ照射範囲外に障害物が存在するとき
 - ・ 雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、障害物の認識が不完全になったとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき

！ 警告

- ・ 荷物の積載などにより、極端に車両が傾いているとき
 - ・ 前方車両などの水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
 - ・ 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
 - ・ 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
 - ・ 障害物が道路標識やポールなどの細い棒状のもの
 - ・ 車両に非常に近い位置で車両中央からずれた位置に障害物が存在するとき
 - ・ 自車が進路変更して障害物のすぐ後ろに接近したとき
 - ・ 急なカーブ、急な上り坂、急な下り坂の場合
 - ・ ステレオカメラの認識範囲外に障害物が存在するとき
 - ・ 障害物の高さが低いとき（低い壁、低いガードレール、車高の低い車両、縁石など）
 - ・ しゃがんでいる人や横たわっている人などのとき
 - ・ 障害物が小さいとき（小動物、幼児など）
 - ・ 障害物や前方車両（トレーラーや対向車など）の自車からいちばん近い面および最後面が小さいときや、障害物に接近し過ぎたとき（自車からいちばん近いところではない部分を認識して作動し、効果が十分でないこともあります）
 - ・ 障害物がフェンス、均一な模様（縞模様やレンガなど）や模様の全くない壁やシャッターなどのとき
 - ・ 障害物がガラスや鏡の壁や扉などのとき
 - ・ 自車の前方に車、二輪車、自転車、歩行者などが横から割り込んだり、飛び出してきたとき
- ソナーが認識できない障害物（特に次のようなもの）
- ・ 背の低い障害物
 - ・ 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
 - ・ 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
 - ・ 急に前方に現れたもの
 - ・ 車両前方を横切るもの
 - ・ 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
 - ・ 地面に対して垂直でない壁、車両前面に対して斜めの壁
 - ・ 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
 - ・ ソナーの認識範囲外に存在する障害物
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
- ・ バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
 - ・ 動いているもの
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
 - ・ 障害物の面が車両の前方に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき

！ 警告

- ・ 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
- ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
- ・ 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
- ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
- ・ 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
- ・ ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリ用品などを取り付けたとき
- ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- ・ 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しない場合

次のような障害物に対しては、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）は作動しません。

- 背の低い障害物
- 小さい障害物（小動物・幼児など）、幅の狭い障害物
- 針金・金網・ロープ・道路標識やポールなどの細い障害物
- 急に後方に現れたもの
- 車両後方を横切るもの
- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
- 地面に対して垂直でない壁、車両後面に対して斜めの壁
- 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁
- ソナーの認識範囲外に存在する障害物

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が適切に作動しないおそれのある状況

次のような場合は、ブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動しなかったり、ブレーキ制御が作動しても止まりきれないことがあります。

- 運転者の操作状態（アクセル・ブレーキ・ハンドルなど）
- 路面の状態（勾配・凹凸など）
- 車両の状態（積載・乗員など）
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- エンジン始動直後

⚠ 警告

- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化した場合
- 後方障害物との距離や向き、横方向のすれ具合（自車の正面に障害物がないなど）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- 外気温が低いときや走行開始直後などでブレーキが冷えているとき
- 下り坂などでブレーキが過熱してブレーキの効きが悪くなっているとき
- 水たまり走行後や洗車後などブレーキがぬれてブレーキの効きが悪くなっているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ・ バンパーに非常に近い障害物や、地面から高い位置に存在する障害物
 - ・ 動いているもの
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物
 - ・ 障害物の面が車両の後面に対して斜めのときや、障害物に対して斜めに接近しているとき
 - ・ 障害物が車両の中央から横にずれた位置にあるとき
 - ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - ・ 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物がある場合
 - ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温の場合
 - ・ 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
 - ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
 - ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど）
 - ・ ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリー用品などを取り付けたとき
 - ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
 - ・ 衝突などでソナーの方向のすれが発生したとき

■ ブレーキ制御について

ブレーキ制御作動時は、強いブレーキがかかります。ブレーキ制御は車両が停止してから約 1.5 秒後に解除されるため、ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動

■ 警報

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルが必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 168）で警報し、運転者に衝突回避操作を促します。

- 後方で作動したとき、ブザーはリバース警告ブザーよりも早い間隔で鳴ります。（→ P. 168）

■ エンジン出力の抑制制御

車速が約 10km/h 以下で、アクセルペダルがすばやく、かつ必要以上に踏み込まれたと判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 168）で運転者に警報するとともに、エンジン出力の抑制制御を行います。

- エンジン出力の抑制制御はアクセルペダルを踏み続けている間、最長約8秒間継続します。
- エンジン出力の抑制制御中は、メーター内のマスターウォーニングが点灯します。

■ ブレーキ制御

エンジン出力の抑制制御が行われてもそのままアクセルペダルを踏み続け、障害物との衝突が避けられないとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の警告灯、およびディスプレイの表示（→ P. 168）で運転者に警報するとともに、ブレーキ制御を行います。

- ブレーキ制御中は制動灯、ハイマウントストップランプが点灯します。
- 停止後、ブレーキ制御を最長約 1.5 秒間継続したあと、ブレーキ制御を解除します。ただちにブレーキペダルに踏み替えてください。

 知識

■ ブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジン回転中
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 車速が 0 ～約 10km/h のとき
- 方向指示表示灯が消灯しているとき
- メーター内の VSC OFF 表示灯・TRC OFF 表示灯が消灯しているとき
- 前方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
 - ・ シフトレバーが D・S・B のとき
 - ・ 機能停止コード「5E」※¹、「6E」、「11E」※²、「12E」、「14E」が表示されていないとき
- 後方の場合は、次の条件をすべて満たしているとき
 - ・ シフトレバーが R のとき
 - ・ 機能停止コード「12E」、「14E」、「15E」、「16E」が表示されていないとき
- フロントワイパーを“高速”で作動させていないとき※³

※¹ 機能停止コード「5E」のみが表示されているときは、ステレオカメラの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

※² 機能停止コード「11E」のみが表示されているときは、「スマアシ停止」が表示されていても、ソナーの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

※³ フロントワイパーを“高速”で作動させていても、ステレオカメラの認識によるブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）は作動します。

■ ブレーキ制御について

- ブレーキ制御中に音が聞こえることがありますが、制御によるものであり異常ではありません。
- ブレーキ制御中にブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが固く感じられることがあります。異常ではありません。

■ 衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動する場合
次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方）が作動することがあります。

- 前方車両に接近して走行するときや、前方障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に変化する場所を走行するとき

 知識

- 水蒸気や霧、煙のかたまりを通過するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 停止車両などの横を至近距離で通過するときや対向車が自車に向かって接近するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 路面上に大きなペイントや段差、縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- カーブの入口にガードレールや看板などの路側物があるとき
- カーブですれ違う対向車があるとき
- カーブや交差点に障害物があるとき
- 縦列駐車から本線に合流するとき
- 駐車場ゲートや遮断機のバーが上がりきる前のとき
- キャリアカーに積載するとき
- 河川敷や生い茂った草むらや木立の中を走行するとき
- 縦列駐車をするとき
- 前方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- 他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレイキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のふた（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

 知識

■衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動する場合
次のような場合は、衝突の可能性がなくてもブレーキ制御付誤発進抑制機能（後方）が作動することがあります。

- 障害物の寸前まで接近して停止するとき
- 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン・旗などをもぐって通過するとき
- 水しぶき・雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 縦列駐車をするとき
- 後方に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- 立体駐車場や工事現場などで柱（H形鋼など）の付近を走行するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨・吹雪・濃霧・砂嵐など）
- 他車のホーン・二輪車のエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨・雪・氷・汚れなどがソナーに付着しているとき
- 排水溝などの金属のふた（グレーチング）の上や砂利道を走行するとき

■ブレーキ制御付誤発進抑制機能（前方・後方）を停止するには

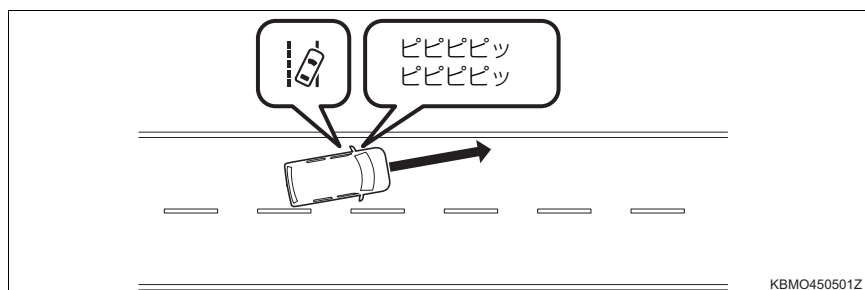
→ P. 166

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって左右の白（黄）線を認識し、車速が約 60km/h 以上で、運転者が意図せず車線または道路※から逸脱する可能性があるときシステムが判断したときに作動します。

車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は車線または道路※を認識し、ブザーとメーター内の表示灯（→ P. 168）で運転者に注意を促します。

※ アスファルトと草・土などの境界



警告

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について

- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は、車線・道路※の逸脱を防止するものではありません。また、わき見運転やぼんやり運転などの前方不注意、および雨、霧などの視界不良を補助するものではありません。車線の維持を車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能に頼っていると、車線・道路※の逸脱による事故につながるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動した場合は、周囲の状況に応じてハンドル操作を行うなどの適切な操作をしてください。
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能は路肩や側溝などの道路の端を認識して作動する機能ではありません。

※ アスファルトと草・土などの境界

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能について

車線または道路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動しない場合があります。

※ アスファルトと草・土などの境界

 警告**■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動しない場合**

次のような条件では、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動しない場合があります。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側にはみ出して走行してしまっているとき
- 車線／道路の幅が狭いときや広いとき
- 方向指示レバーを使用しているとき
- 急なハンドル操作などにより、運転者に回避の意思があるとシステムが判断したとき

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線または道路※を正確に認識できず、車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 白（黄）線と道路表面の区別ができないときや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき

警告

●道路の状態（特に次のような場合）

- ・車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- ・道路の修復や古い白（黄）線のため、アスファルトの継ぎ目や線状の補修痕、白（黄）線のかすれや重複、タイヤ痕などがあるとき
- ・交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- ・車線／道路の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
- ・車両などが白（黄）線の一部を隠しているとき、または幅が細いとき
- ・坂道や丘の頂上に近付いているとき
- ・段差などにより車両が大きく揺れたとき
- ・路上のもの（縁石・ガードレール・パイロンなど）を白（黄）線と認識したとき
- ・道路がうねって車線が歪んで見えるときや先が見通せないとき
- ・舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- ・車線や区画線が二重に描かれている道路を走行するとき
- ・凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- ・ぬれた路面や積雪路でのタイヤの跡などがあるとき
- ・分岐・合流路などを走行するとき
- ・急なカーブのある道路を走行するとき
- ・カーブの形状が変化するとき
- ・道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、車線以外の線が路面に描かれているとき

●ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）

- ・フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
- ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
- ・フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
- ・フロントウインドウウォッシャーの使用、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
- ・重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- ・先行車との車間距離が短いとき
- ・自車が白（黄）線に対してまっすぐに走行していないとき
- ・ステレオカメラが高温になったとき

●料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき

●白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき

●車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）

●コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき

 警告

- アスファルトと草・土などの境界が不明瞭または直線的でないとき
 - 照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
 - 横風を受けているとき
 - 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
 - 車線変更をした直後
 - 冬用タイヤなどを装着しているとき
 - 過度な高速走行をしているとき
 - 隣車線から車が割り込んできたとき
 - 路肩に縁石や側壁があるとき
 - 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
 - 白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
 - 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
 - 区画線に急に接近する場合
 - 雪景色など、周囲一面が同じような色合いのとき
- ※ アスファルトと草・土などの境界

 知識

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能の作動条件

次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON” のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- 方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 4 秒間は作動しません）
- 急なハンドル操作をしていないとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- システムが左右いずれかの白（黄）線または道路※を認識しているとき
- 走行している車線の幅が約 3m ～ 4m のとき

※ アスファルトと草・土などの境界

■ 機能の一時解除

作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能を停止するには

→ P. 166

■ カスタマイズ機能

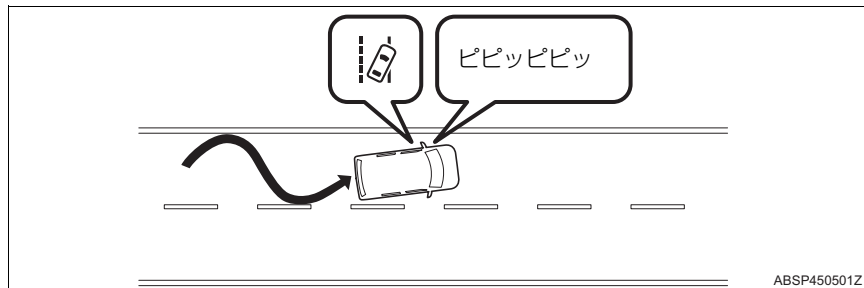
車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能の設定を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 374）

（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 70）

ふらつき警報

ふらつき警報は、フロントウインドウガラス上部に設置されたステレオカメラによって白（黄）線を認識し、長時間走行中、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したときに、ブザーとメーター内の表示灯（→ P. 168）で運転者に注意を促します。



ABSP450501Z

警告

■ ふらつき警報について

ふらつき警報を過信しないでください。ふらつき警報はあらゆる状況で機能を発揮できるものではありません。また、運転者に注意を促す機能であり、ふらつきを自動的に回避するものではありません。走行中は常に安全運転に努めてください。

知識

■ ふらつき警報の作動条件

次のような条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON” のとき
- 車速が約 60km/h 以上のとき
- 車線逸脱警報 OFF 表示灯が消灯しているとき
- カスタマイズ機能の設定で「ふらつき警報」を ON にしているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- 方向指示表示灯が消灯しているとき（方向指示表示灯が消灯してから約 5 秒間は作動しません）
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- システムが白（黄）線を認識しているとき
- 走行している車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
- 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能が作動していないとき

 知識

■機能の一時解除

作動条件が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、再度作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

■ふらつき警報について

- 車線がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は、ふらつき警報が作動しない場合があります。
- ふらつき警報は、運転者の操作と車両の動きから総合的にふらつきを判断しています。

■ふらつき警報が適切に作動しない、または不適切に作動するおそれのある状況

次の条件では白（黄）線を正確に認識できず、ふらつき警報が適切に作動しない、または不適切に作動することがあります。

- 白（黄）線と道路表面の区別ができないうきや、かすれたり汚れたりして見えにくいとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧、砂嵐など）により白（黄）線が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているときや、強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや、水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき、ガードレールなどの影が道路上に映っているとき
- 夜間で街灯のついていない道路を走行しているとき
- 道路の状態（特に次のような場合）
 - ・車線の幅が狭いときや広いとき、または変化しているとき
 - ・急なカーブのある道路を走行するとき
 - ・道路工事区間で以前の区画線が完全に消えていないなど、路面に線状のペイントがあるとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・フロントウインドウガラス外側が汚れ、泥、湿った雪に覆われているとき
 - ・ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・フロントウインドウガラス内側が曇っているとき
 - ・フロントウインドウウォッシャーの使用、または使用後などで、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・重い荷物を積んで車両が傾いているとき
 - ・先行車との車間距離が短いとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき



知識

- 照り返しなどにより明るくなった場所を走行しているとき
- 車線変更をした直後
- 過度な高速走行をしているとき
- 先行車や対向車が巻き上げた水や雪や土ぼこり、または風に舞う砂や煙、水蒸気が前方にあるとき
- 白（黄）線が縁石などの上に引かれているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき

■ ふらつき警報を停止するには

→ P. 166

■ カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。

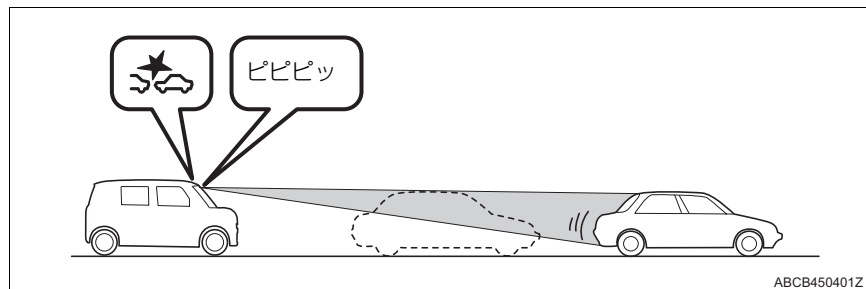
（カスタマイズ機能一覧：→ P. 374）

（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 70）

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能は、先行車の発進後に自車が停止し続けた場合に、ブザーとディスプレイの表示（→ P. 168）で運転者にお知らせします。

先行車に続いて停車中（車間距離が約 10m 以内、かつ自車がしばらく停車中）、先行車が発進して約 3m 以上進んでも自車が発進しないときに作動します。



警告

■ 先行車発進お知らせ機能について

安全に発進できる状態を知らせたり、あらゆる状況での先行車の発進を知らせたりするものではありません。先行車発進お知らせ機能に頼らず、十分に安全を確認して運転してください。

知識

■ 先行車発進お知らせ機能の作動条件

自車が次の条件をすべて満たしたときに作動可能となります。

- エンジンスイッチが“ON”のとき
- スマートアシスト OFF 表示灯が消灯しているとき
- 「スマアシ停止」が表示されていないとき
- 「スマアシ故障」が表示されていないとき
- シフトレバーが D・S・B でブレーキペダルを踏んでいる、またはシフトレバーが N のとき
- シフトレバーが D・S・B・N でブレーキ保持により車両が停止しているとき
- 停止してから数秒経過したとき

 知識**■ 先行車発進お知らせ機能が正常に作動しない場合**

次のような場合は、先行車が発進していなくても機能が働いてしまう場合や、発進していても作動が遅れたり、機能が働かない場合があります。

- 停止した先行車との間に二輪車などが割り込んできたとき
- 停止した先行車との間を歩行者などが通過した場合
- 天候や道路形状などにより先行車を認識できないとき
- ステレオカメラが先行車を見失ったとき
- 横方向のずれ具合（自車の正面にいないなど）
- 自車が停止したときに先行車が動いている場合
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が急発進や急旋回した場合
- 先行車が特殊な形状の車両（キャリアカー、サイドカーなどを含む）の場合
- 先行車が二輪車・自転車などのとき
- 先行車の最後面が小さい（トレーラーなど）、低い、または凹凸があるとき
- 車両背面のガラスが大きく、前が見えてしまうような先行車のとき
- 荷台にあおりがなく荷物が載っていないトラックなどが先行車のとき
- 後端から積荷が飛び出している先行車のとき
- 車高の低い先行車のとき
- 車両が斜め、または横向きに停まっているとき
- ハンドルを大きく切った状態で停止しているとき
- 凹凸道やオフロードなどの悪路を走行しているとき
- ステレオカメラが認識しにくい状態（特に次のような場合）
 - ・ フロントウインドウガラスの曇りや汚れ、雪、霜、雨粒、土ぼこり、シールなどでステレオカメラ前面が覆われているとき
 - ・ ダイハツ指定以外のガラスコーティング剤を使用したとき
 - ・ フロントウインドウガラスにフィルムを貼ったとき
 - ・ フロントウインドウガラスへの映り込みにより安定した認識ができないとき
 - ・ フロントウインドウウォッシャーの使用後または使用中で、フロントウインドウガラスが十分にふき取れていないとき
 - ・ フロントウインドウガラスに傷、ひびなどが生じたとき
 - ・ ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボード、カヌー、スキー板など）を積んで、ステレオカメラの視界がさえぎられたとき
 - ・ ダイハツ純正品以外のワイパーブレードを装着したとき（長さが短いタイプ含む）

 知識

- 雨滴やウインドウウォッシャーの水滴、またはワイパーブレードがステレオカメラの視野をさえぎることにより、対象物の認識が不完全になったとき
- ステレオカメラの前を手でふさぐなどしたとき
- ステレオカメラに衝撃が加わり、ずれや歪みが生じたとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 夜間または、トンネル内、屋内の駐車場など暗い場所で前方車両※、歩行者に接近するとき
- トンネルの出入り口や木、建物の影などで明るさが変化したとき
- ステレオカメラ前方から強い光（太陽光などによる逆光や対向車のヘッドランプの光など）を受けているとき
- 強い光が車両※や歩行者、路面に反射しているとき
- カーブ、うねった道路、坂道するとき
- 路面に水たまりや水膜があるとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 排気ガス、水蒸気、砂、煙、土ぼこりなど視界が十分でないとき
- 重い荷物を積むなど、前方車両※が傾いているとき
- 先行車が背景にまぎれて、ステレオカメラが認識できないとき
- 暗がりでは先行車のランプが片側のみ点灯しているときや、ランプが無灯火のとき

※ 二輪車、自転車を含む

■ **先行車発進お知らせ機能を停止するには**

→ P. 166

■ **カスタマイズ機能**

ブザーの音量、ブザーが鳴るタイミングを変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 374）

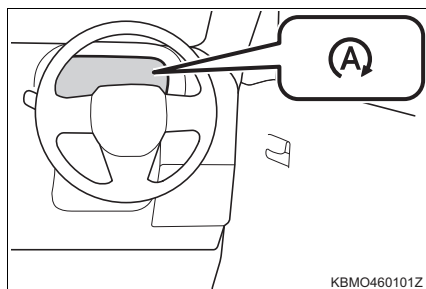
（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 70）

アイドリングストップシステム (eco IDLE)

赤信号や交差点などで減速した際、停車前（約 11km/h）または停車後に燃費向上やアイドリング騒音低下のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

エンジンが停止する

- ① シフトレバーを D で走行中、エンジン停止が可能な状態になると、eco IDLE 表示灯が点灯する



- ② ブレーキペダルを踏み減速すると、停車前または停車後にエンジンが自動的に停止する
eco IDLE 表示灯は点灯したままです。

エンジンが再始動する

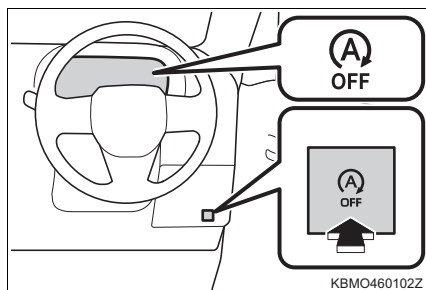
ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動する
eco IDLE 表示灯が消灯します。

eco IDLE を非作動にするには

eco IDLE を非作動にするには eco IDLE OFF スイッチを押す

eco IDLE OFF 表示灯が点灯します。

再度スイッチを押すと、作動可能状態に戻り、eco IDLE OFF 表示灯が消灯します。



■ eco IDLE OFF スイッチを押したとき

- eco IDLE によるエンジン停止中、eco IDLE OFF スイッチを押すとエンジンが再始動します。
- eco IDLE が非作動のとき、再度 eco IDLE OFF スイッチを押すと、eco IDLE が作動可能状態に戻りますが、エンジンは停止しません。
次に車両が停止したときに（eco IDLE が作動可能状態に戻る）、eco IDLE によって、エンジンが停止します。

ヒルスタートシステム

eco IDLE によって坂道でエンジン停止後の発進の際、ブレーキペダルを離してエンジンを再始動し駆動力が発生するまでの間、ブレーキ油圧（ブレーキの効き）を最長約 2 秒間保持して車両が後退するのを抑制し坂道発進を容易にします。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。

知識

■ eco IDLE の作動条件

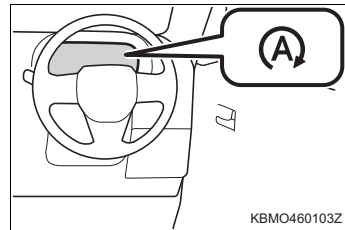
- 次の条件がすべて満たされたとき、eco IDLE 表示灯が点灯し、エンジン停止が可能な状態になります。
 - ・ eco IDLE OFF スイッチを押して、eco IDLE の作動を停止していないとき（eco IDLE 作動停止中は、eco IDLE OFF 表示灯が点灯します）
 - ・ エンジンが十分温まっているとき
 - ・ トランスミッションオイルが十分に温まっているとき
 - ・ エンジン冷却水温が高過ぎないとき
 - ・ エンジン始動後に約 10km/h 以上でしばらく走行したあと（走行せずにアイドリング状態を続けていても、エンジンは停止しません）
 - ・ バッテリー状態（充電・温度など）が良好であるとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ ボンネットが閉まっているとき
 - ・ 外気温が約 0℃ 以上のとき（メーター内に表示されている外気温と異なる場合があります）
 - ・ シフトレバーが D のとき
- ・  が OFF のとき（オートエアコン装着車）
- ・ 車内温度が快適なとき（オートエアコン装着車の冷房時）

知識

- ・システム（eco IDLE・エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC・エアコン・パワーステアリング・車両通信）が正常なとき
- 次の状況では、エンジン停止が可能な状態になるまで時間がかかる場合があります。
 - ・バッテリーが放電しているとき
 - ・バッテリー交換などにより、バッテリー端子を外したあと
 - ・冷房初期（オートエアコン装着車）
 - ・マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 70）で「オートエアコン設定：51」を「空調：02」にしているとき

■ eco IDLE 表示灯について

走行中に eco IDLE の作動条件がすべて満たされると、eco IDLE 表示灯が点灯し、停止時に eco IDLE が作動可能状態であることをお知らせします。



■ 停車前のエンジン停止条件

- eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件がすべて満たされたとき、停車前にエンジン停止します。
 - ・車速が約 11km/h 以下になったとき
 - ・ブレーキペダルを踏んでいるとき
 - ・アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・車幅灯が消灯しているとき
 - ・フロントワイパーが作動していないとき
 - ・ハンドルの切れ角が小さいとき
 - ・急減速していないとき
 - ・ABS、VSC が作動していないとき
 - ・衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
 - ・ブレーキオーバーライドシステムが作動していないとき
- 次の状況では、停車前にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
 - ・勾配が急な坂道を走行しているとき
 - ・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・ゆるやかに減速しているとき

 知識

■ 停車後のエンジン停止条件

- eco IDLE 表示灯が点灯して、次の条件がすべて満たされたとき、停車後にエンジン停止します。
 - ・ 停車しているとき
 - ・ ブレーキペダルを踏んでいるとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・ ハンドル操作をしていないとき
 - ・ ABS、VSC が作動していないとき
 - ・ 衝突回避支援ブレーキ機能が作動していないとき
- 次の状況では、停車後にエンジン停止しない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
 - ・ 勾配が急な坂道で停車したとき
 - ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき

■ エンジン停止中の操作について

- 右左折や合流時など、エンジン停止中に事前に発進準備をしたいときは、次の操作で事前にエンジンを再始動することができます。
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込む
 - ・ ハンドル操作をする
 - ・ eco IDLE OFF スイッチを押す
- エンジン停止中にシフトレバーを D から R 以外にしてもエンジン停止は継続します。
ただし、シフトレバーを N または P にしたあと他のシフトポジションにすると、エンジンが再始動します。
 - ・ エンジン停止中にシフトレバーを D から P に操作したときは、ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません。
- 給油時はシフトレバーを P にし、エンジンスイッチを“OFF”にしてエンジンを停止します。

■ エンジンの再始動について

- エンジン停止中に次のいずれかの操作を行うと、エンジンが自動的に再始動します。
 - ・ ブレーキペダルから足を離したとき（シフトレバーが P のときは除く）
 - ・ ブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき
 - ・ アクセルペダルを踏んだとき
 - ・ ハンドル操作をしたとき
 - ・ シフトレバーを R にしたとき

知識

- ・シフトレバーを N・P にしたあと、他のシフトポジションにしたとき
- ・eco IDLE OFF スイッチを押したとき
- ・ を押したとき（オートエアコン装着車）
- ・運転席ドアを開けたとき
- ・運転席シートベルトを外したとき
- エンジン停止中、次のいずれかのときはエンジンが自動的に再始動場合があります。（eco IDLE 表示灯は点滅後、消灯します）
 - ・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・バッテリーの放電量が多いとき
 - ・傾斜などで車両が動き出したとき
 - ・停車前にエンジンを停止したあと、下り坂で加速したとき
 - ・警告灯が点灯（→ P. 335）するなど、各システム（エンジン電子制御・CVT 電子制御・ABS・VSC・TRC・エアコン・パワーステアリング）に異常が発生したとき
 - ・冷房時、エアコン吹き出し口の風の温度が上昇したとき（オートエアコン装着車）
 - ・エンジン停止してから約 3 分経過したとき
- エンジン停止中に eco IDLE システムに異常が発生したり、スターターやバッテリーが交換時期になったときは、eco IDLE OFF 表示灯が点滅し、エンジンが自動的に再始動します。
- 次の状況では、エンジン停止の時間が短くなる場合があります。
 - ・外気温が高く、エアコンを使用している状態で頻繁にエンジン停止をしたとき
 - ・電装品などの消費電力が大きいとき
 - ・マルチインフォメーションディスプレイの設定（→ P. 70）で「オートエアコン設定：51」を「空調：02」にしているとき
- オーディオの音量が大きいなど、エンジン停止中の消費電力が大きい場合、エンジン再始動時にオーディオの電源が一時的に OFF になることがあります。
- エンジンが再始動すると、アクセサリソケットの電源電圧が低下するので、使用している電化製品によっては電源が一時的に OFF になることがあります。

■eco IDLE の自動再開

eco IDLE を eco IDLE OFF スイッチによって非作動にしても、一度エンジンスイッチを“OFF”にしてから“ON”にすることによって、eco IDLE は自動的に作動可能状態に戻ります。

 知識

■ ボンネットを開けたときは

エンジン停止中にボンネットを開けた場合、エンジンは自動で再始動しません。
エンジンスイッチでエンジンを始動させてください。

■ ヒルスタートシステムについて

- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ヒルスタートシステムの作動により、次の状態になることがあります、異常ではありません。
 - ・ ブレーキペダルの踏み応えが変わる
 - ・ ブレーキペダルが振動する
 - ・ ブレーキから音が発生する

■ eco IDLE について

eco IDLE は赤信号や交差点などの一時的な停車のときに使用し、長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。

■ 警告ブザーについて

eco IDLE によるエンジン停止中、次のようになったときは警告ブザーが鳴ると同時に eco IDLE 表示灯が高速で点滅します。

- 運転席ドアが開いたとき（シフトレバーが P 以外）
- 運転席シートベルトを外したとき（シフトレバーが P 以外）
- ボンネットが開いたとき

■ eco IDLE OFF 表示灯が点滅したままのときは

スターターの交換時期、またはシステムに異常がある場合があります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ エンジン始動中に eco IDLE OFF 表示灯が数秒間点滅したときは

バッテリーの交換時期です。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ エンジン停止中のエアコンについて

- エンジン停止中はエアコン（冷房、除湿機能）がオフになり、送風になります。エアコンを作動させるときは、ブレーキペダルをさらに強く踏むか、eco IDLE OFF スイッチを押してエンジンを再始動させてください。
- AUTO を押してエアコンをオート設定にしているときは、エンジン停止中に風量が少なくなったり送風を停止することがあります。エンジンが再始動すると、風量は自動調整に戻ります。（オートエアコン装着車）

 知識

■ エンジン停止中にフロントウインドウガラスが曇ったとき

ブレーキペダルをさらに強く踏むか、eco IDLE OFF スイッチを押してエンジンを再始動させてください。

マニュアルエアコン装着車は  を押してエアコンを作動させ、吹き出し口

を  に切り替える、オートエアコン装着車は   を押して曇りを取ってください。

断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、eco IDLE OFF スイッチを押し、eco IDLE を非作動にしてください。

■ アイドリングストップ時間表示とアイドリングストップ積算時間表示

→ P. 69

■ バッテリーを交換するとき

→ P. 362

■ eco IDLE を正常に作動させるために

- 次のようなときは eco IDLE が正常に作動しないおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅する
 - ・ 運転席シートベルトを外しているときに、メーター内の運転席シートベルト締め忘れ警告灯が点滅しない
 - ・ 運転席ドアまたはボンネットを閉めているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯する、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯するとき
 - ・ 運転席ドアまたはボンネットを開けているときに、メーター内の半ドア警告灯が点灯しない、またはルームランプのスイッチがドアポジションのときにルームランプが点灯しないとき
- バッテリーの端子から電化製品の電源を取らないでください。eco IDLE が正常に作動しなくなります。

 警告**■eco IDLE が作動しているとき**

- eco IDLE によるエンジン停止中（eco IDLE 表示灯が点灯中）は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- エンジン停止中はお車から離れないでください。（eco IDLE 表示灯が点灯している間）
次の操作を行うと、エンジンが自動的に始動するため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
 - ・ブレーキペダルから足を離す
 - ・運転席ドアを開ける
 - ・運転席シートベルトを外す
- エンジン停止中は、ブレーキペダルを踏んだまま、アクセルペダルを踏むとエンジンが再始動しますので、車両の発進には十分ご注意ください。

■ヒルスタートシステムについて

- ヒルスタートシステムは坂道で停車させる装置ではありません。装置が正常に作動していても、坂道で停車中にブレーキペダルをゆるめるとお車が動き出すおそれがありますので、停車中はブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。
- ヒルスタートシステムを過信しないでください。発進するときにお車が不意に動き出すなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
常に周囲の状況を確認して、適切にシフトレバー・ブレーキペダル・アクセルペダル・パーキングブレーキを操作して発進してください。
- ブレーキペダルから足を離したら、ただちに発進操作を行ってください。坂道などで惰性で後退した場合、エンストを起こし、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなるなど、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあり危険です。
- ゆるやかな上り坂で停車前にエンジン停止したあと、お車が停止する前にアクセルペダルを踏んで再加速しようとした場合、お車が後退することがあります。
お車が惰性で後退したときは、周囲の状況に応じてブレーキペダル、アクセルペダルを操作し、安全に発進してください。
- 重い荷物を車内に積んでいるとき、または勾配が急な上り坂では、ヒルスタートシステムが作動していてもお車が後退することがあります。パーキングブレーキをかけたりするなどして発進してください。

コーナーセンサー

コーナーセンサーは車速が約 10km/h 以下のときに、車両と障害物とのおよその距離をソナーによって認識してブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせする装置です。

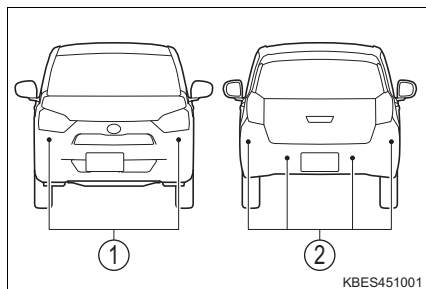
ソナーの位置・種類

① フロントソナー

フロントコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

② リヤソナー

リヤコーナーセンサーで必要な情報を認識します。

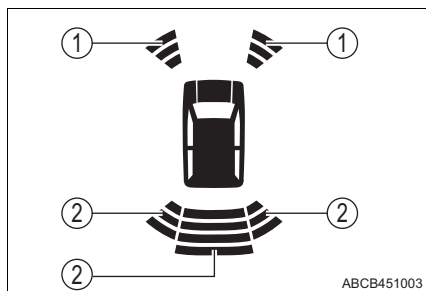


コーナーセンサーの表示のしかた

障害物を認識すると自動的に表示されます。

① フロントコーナーセンサー作動表示

② リヤコーナーセンサー作動表示



距離表示の見方

作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーとディスプレイの表示で運転者にお知らせします。

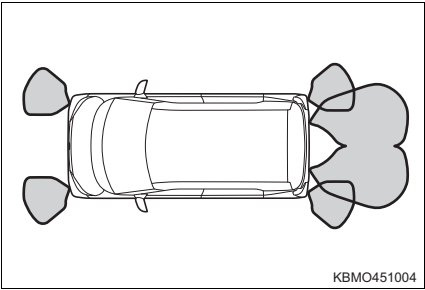
●障害物との距離が短くなると、ブザーおよびディスプレイの表示が次の表の通り変化します。

ブザー	ディスプレイの表示	ソナーと障害物との距離
ピッ … ピッ … ピッ … (断続音)		約 150 ～ 60cm
ピッピッピッ … (断続音)		約 60 ～ 45cm
ピピピ … (断続音)		約 45 ～ 30cm
ピー (連続音)		約 30cm 以内

●ソナーが複数の障害物を同時に認識しているときは、もっとも近い障害物との距離のブザーが鳴ります。

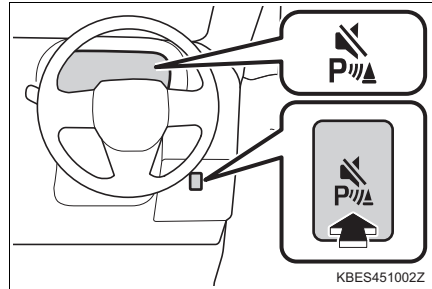
ソナーが障害物を認識できる範囲

認識できる範囲は右図の通りです。
ただし、障害物がソナーに近付き過ぎると認識できません。
障害物の形状・条件によっては認識できる距離が短くなることや、認識できないことがあります。



ブザーについて

コーナーセンサー作動中にコーナーセンサーブザー OFF スイッチを押すと、ブザーが止まります。このときコーナーセンサーブザー OFF 表示灯が点灯します。



知識

■ 作動条件

- フロントコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチが“ON” のとき
 - ・ シフトレバーが P 以外で、車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- リヤコーナーセンサー：
 - ・ エンジンスイッチが“ON” のとき
 - ・ シフトレバーが R のとき
- 作動条件をすべて満たした状態で、障害物を認識すると、ブザーが鳴ります。

■ ブザーについて

コーナーセンサーブザー OFF スイッチでブザーを止めたあと、次の操作をすると再度ブザーが鳴るようになります。

- コーナーセンサーブザー OFF スイッチを押す
- シフトポジションを切り替える
- 一定以上の車速で走行する
- 一度エンジンスイッチを“OFF” にしてから“ON” にする

■ ソナーの認識について

- ソナーの認識範囲は車両前部、および後部のバンパーのソナー周辺に限られます。
- 障害物を認識してから、コーナーセンサーが作動するまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でもブザーが鳴る前に、障害物に近付き過ぎると、ブザーが鳴らない場合があります。
- オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーが聞き取りづらくなる場合があります。

 知識**■ ブザーが「ピピピ、ピピピ、ピピピ」と鳴り、コーナーセンサーの作動表示が後方 1 か所表示されるか、前方 2 か所または後方 2 か所同時に表示されたときは※**

- コーナーセンサーの機能が低下しています。

コーナーセンサーの機能が一時停止しますので、雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着していないか確認し、取り除いて正常復帰させてください。

- マスターウォーニングが同時に点灯したときは、システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

※ 前方 2 か所および後方 1 か所、前方 2 か所および後方 2 か所、後方 3 か所、または 5 か所同時に表示されたときも含みます。

■ コーナーセンサーについて

次のような場合は、障害物が作動範囲になくても作動することがあります。

- 路面の勾配が急に变化する場所を走行するとき
- ビニールカーテン、旗などをくぐって通過するとき
- 水しぶき、雪などの巻上げがあったとき
- 障害物の横を至近距離で通過するとき
- 車両用エレベーターや機械式駐車場を利用するとき
- 付近に障害物がある状態で、段差などを乗り越えるとき
- 車両側面の近くに障害物があるとき
- 路面上に段差や縁石、突起物などがあるとき、地面にわだちや穴があるとき
- 狭いスペースに進入するとき
- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 他車のホーン、二輪車のエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど超音波を発生するものが付近にあるとき
- ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 積載状況などにより車高が著しく変化したとき
- 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき
- 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき

■ カスタマイズ機能

ブザーの音量を変更することができます。

（カスタマイズ機能一覧：→ P. 374）

（マルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 70）

！ 警告**■ コーナーセンサーをお使いになる前に**

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h を超えないようにしてください。
- ソナーの認識範囲、作動速度には限界があります。お車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）ソナーの認識範囲外の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- ソナーやその周辺部分にステッカーを貼ったり、アクセサリ用品などを取り付けしないでください。

■ コーナーセンサーについて

次のとき、コーナーセンサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- 路面の状態（勾配、凹凸など）
- 車両の整備状態（ブレーキ関係、タイヤの摩耗、空気圧、スペアタイヤ装着など）
- 悪天候時（豪雨、吹雪、濃霧など）
- 荷物を積載している、段差をまたいでいるなどにより、車両が極端に傾いているときや車高が著しく変化したとき
- 障害物との距離や向き、位置（車両中央付近に障害物がある）
- 勾配が急な坂道を走行しているとき
- ソナーが正しく障害物を認識できないとき（特に次のような場合）
 - ・ ソナーに非常に近い障害物のとき（障害物に接近し過ぎると、ブザーが連続音から断続音になる場合があります）
 - ・ 地面から高い位置に存在する障害物のとき
 - ・ 背の低い障害物のとき
 - ・ 小さい障害物（小動物、幼児など）、幅の狭い障害物のとき
 - ・ 動いているもの（急に現れたり、車両を横切るものなど）
 - ・ スポンジ状のものや雪などの表面がやわらかく音波を吸収しやすい障害物のとき
 - ・ 障害物の面が車両に対して斜めのとき
 - ・ 地面に対して垂直でない壁のとき
 - ・ 凹凸な壁、波打っている壁など、平面でない壁のとき
 - ・ 針金、金網、ロープ、道路標識、電柱やポールなどの細い障害物のとき
 - ・ 壁から柱や配管などが突き出しているとき
 - ・ 認識できる障害物と車両との間に、認識できない障害物があるとき
 - ・ ソナーの認識範囲外に存在する障害物のとき

 警告

- ・ 炎天下や寒冷時でソナー周辺部が著しく高温または低温のとき
- ・ 雨、雪、氷、汚れなどがソナーに付着しているとき
- ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったときや風が強いとき
- ・ 周囲で大きな音が鳴っているときや、周囲に超音波を発するものがあるとき（他車のホーン、二輪車のエンジン音、大型車のエアブレーキ音、車両感知器、他車のソナーなど）
- ・ ソナー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・無線アンテナなど）を取り付けたとき
- ・ 衝突などでソナーの方向のずれが発生したとき

■ コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能の作動について

- コーナーセンサーとブレーキ制御付誤発進抑制機能では作動の対象とする障害物が異なります。コーナーセンサーが作動していてもブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動しなかったり、コーナーセンサーが作動していなくても、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動する場合があります。

 注意**■ コーナーセンサーの異常について**

次のとき、ソナーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

- 障害物を認識していない状態で、コーナーセンサーが作動したとき
- ソナー、およびその周辺部分に強い衝撃や力を加えたとき
- 事故などでソナー周辺が変形したとき
- スマートアシストに異常があるとき、または「スマアシ停止」、「スマアシ故障」が表示されているとき（→ P. 336, 342）

■ 洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、ソナー部に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

バックカメラ★

バックカメラは車両を後退させるとき、ナビゲーションシステムの画面上に車両後方の映像を表示させることで、駐車時などの運転を補助する装置です。

装着されているナビゲーションシステムによっては、操作が異なる場合があります。詳しくは付属の取扱説明書をご覧ください。

本文中で使用している画面のイラストは例であり、イラストと実際に映し出される映像では車両の映り込みなどが異なることがあります。

バックカメラの画面表示について

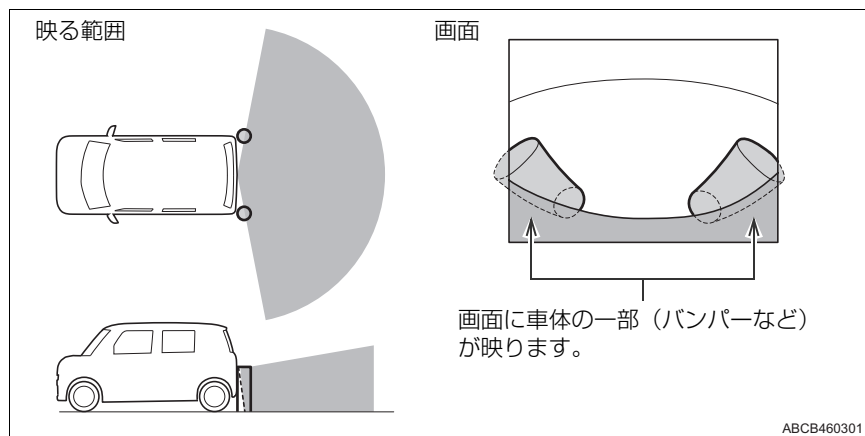
エンジンスイッチが“ON”のときに、シフトレバーをRにすると、ナビゲーションシステムの画面に車両後方の映像を表示します。

シフトレバーをR以外にすると、もとの画面に戻ります。

バックカメラの映像は、どの画面表示よりも優先して表示されます。

バックカメラの注意点について

■ 画面の映る範囲について



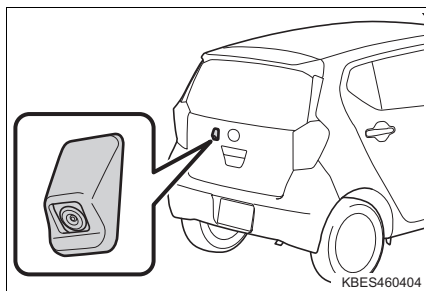
- 車や路面の状況により、映る範囲は異なることがあります。
- バックカメラの映像の範囲には限度があり、バンパーの両端付近やバンパーの下にあるものは映りません。
- バックカメラは特殊なレンズを使用しているため、映像の距離感覚は実際の距離とは異なります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- 後方の映像は実際の色合いと異なる場合があります。
- バックカメラより高い位置にあるものについては、モニターに映らないことがあります。

■ カメラについて

バックカメラは次の位置にあります。



●カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、水でカメラの汚れを流し、水で湿らせたやわらかい布でふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

知識

- 次のようなときは、画面が見づらくなることがありますが、異常ではありません。
 - ・ 暗いところ（夜間など）
 - ・ レンズ付近の温度が高い、または低いとき
 - ・ バックカメラに水滴がついたときや、湿度が高いとき（雨天時など）
 - ・ バックカメラ付近に異物（泥など）がついたとき
 - ・ 太陽やヘッドランプの光が直接バックカメラのレンズに当たったとき

警告

■バックカメラについて

次のことをお守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックカメラを過信しないでください。一般の車と同様、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。特に周辺に駐車している車や障害物、人などに接触しないようにしてください。
- 後退するときは、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら慎重に運転してください。

 警告

- 画面だけを見ながら運転操作することは絶対にしないでください。
画面に映し出されている映像と実際の状況は異なることがあります。また、カメラの映し出す範囲は限られていますので、画面だけを見て、後退することは絶対にしないでください。お車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。必ず目視やインナーミラー、ドアミラーなどで周囲の安全を確認し、十分注意した上で運転してください。
- 次のような状況では、使用しないでください。
 - ・ 凍結したり、滑りやすい路面、または雪道
 - ・ タイヤチェーン、スペアタイヤを使用しているとき
 - ・ バックドアが完全に閉まっていないとき
 - ・ 坂道など平坦でない路面
- 外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。特に動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

 注意**■ カメラの取り扱いについて**

- バックカメラが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。
 - ・ カメラ周辺にはカメラの視野に影響をおよぼすもの（視野をさえぎるもの、光を発するもの、光沢素材でできているものなど）は取り付けしないでください。
 - ・ カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけたりして、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。
 - ・ カメラ部は防水構造となっていますので、取り外し・分解・改造をしないでください。
 - ・ カメラレンズを洗うときは、水でカメラの汚れを流したあと、水で湿らせたやわらかい布でふき取ってください。
カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷付いて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。
 - ・ カメラのカバーは樹脂でできていますので、有機溶剤・ボデーワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。
 - ・ 寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。
 - ・ 高圧洗車機を使用して洗車するときは、カメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

プラスサポート※（販売店オプション）

プラスサポートは、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。

プラスサポートを使用するためには、専用の電子カードキー（プラスサポート用電子カードキー、以下、「サポキー※」といいます）が必要です。

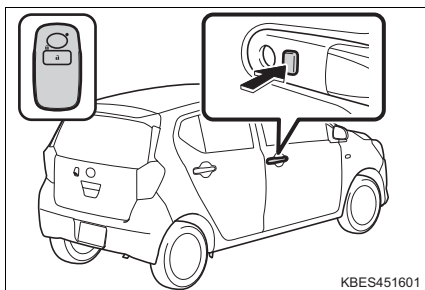
※“プラスサポート”、“サポキー”はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

- 1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する
(→ P. 94)

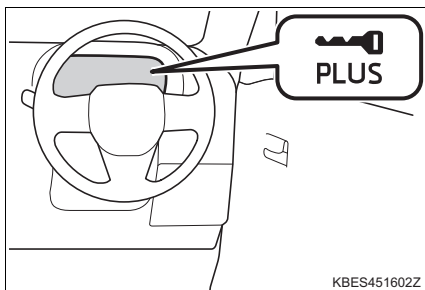
エンジンスイッチが“OFF”以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。



- 2 通常の手順でエンジンを始動する (→ P. 138)

- 3 プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

エンジンスイッチを“OFF”にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。



■ プラスサポートが不要なときは

標準装備の電子カードキーを携帯してドアを解錠し、エンジンを始動したときは、プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

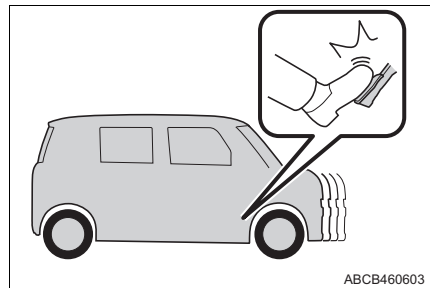
⚠ 警告

■ プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。標準装備の電子カードキーを携帯しているときは、プラスサポートが作動しません。
- サポキーと標準装備の電子カードキーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- エンジンの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください。(→ P. 64) プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、エンジンの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。



ABCB460603

⚠ 警告

■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。
- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制中も車両は動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。

警告

- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにもエンジンの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、エンジンの出力を抑制します。ただちにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだまましていると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

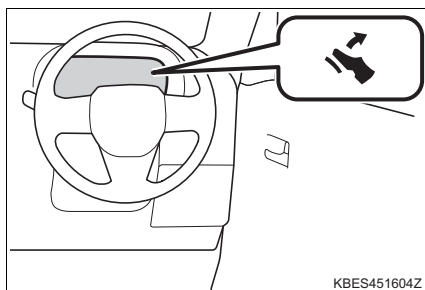
■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートによりエンジンの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、急アクセル時加速抑制警告灯（→ P. 338）が点灯します。

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ただちにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。



 知識**■急アクセル時加速抑制の作動条件**

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外のとき
- 車速が約 30km/h 以下のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、エンジンの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※ までゆるやかに加速します。

- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約 5 秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。

アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。

- 方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間
- 急な上り坂に自車がいるとき
- 衝突回避支援ブレーキ機能、被害軽減ブレーキアシスト、ブレーキ制御付誤発進抑制機能が作動中
- プラスサポート警告灯が点灯（→ P. 338）しているとき

 知識

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

● 車両の変化

- ・ 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ ローダウンサスペンション、純正と異なるサイズのタイヤなどを取り付けたとき

● 周辺環境の影響

- ・ 坂道・凹凸道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・ 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・ 坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
- ・ スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

● 運転操作の影響

急アクセル時加速抑制作動中にブレーキオーバーライドシステムが作動したとき

■ 加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくともシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

● 車両の変化

- ・ 積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ ローダウンサスペンション、純正と異なるサイズのタイヤなどを取り付けたとき

● 周辺環境の影響

- ・ 坂道・凹凸道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
- ・ 雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
- ・ 坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
- ・ スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

● 運転操作の影響

- ・ 車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
- ・ 惰性走行から急いで加速しようとしたとき
- ・ ETC ゲート通過後に急加速したとき

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

◆ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロック防止に貢献し、スリップを抑制します。

◆ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

◆ VSC※

急なハンドル操作や滑りやすい路面で旋回するときに横滑りを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

◆ TRC※

滑りやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力の確保に貢献します。

◆ ヒルホールドシステム

上り坂で発進するときにお車が後退するのを緩和します。

◆ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

◆ フルタイム 4WD★

オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD です。滑りやすい雪道や上り坂などでスムーズな発進、加速に貢献します。

通常の直進走行では FF（前輪駆動）に近い状態で走行します。

前・後輪に回転差が生じるとビスカスカップリングにより、その回転速度の差に応じた最適なトルクを後輪へ配分します。

◆ スマートアシスト

→ P. 162

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

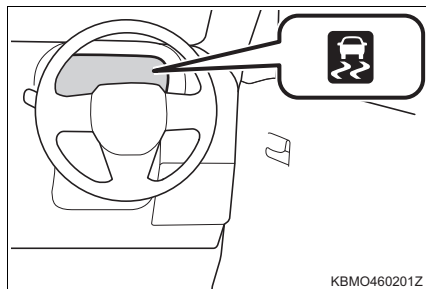
◆ エマージェンシーストップシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意を促し、追突される可能性を低減させます。

※“VSC”、“TRC”はトヨタ自動車株式会社の登録商標です。

VSC・TRC が作動しているとき

VSC・TRC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



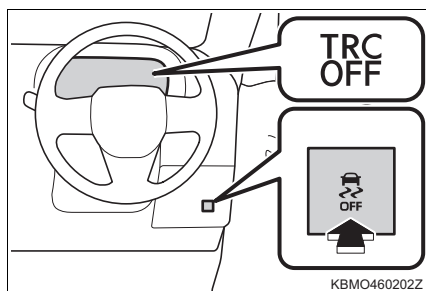
TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す

TRC OFF 表示灯が点灯します。

再度  を押すと、システム作動可能状態に戻ります。



 知識

■ VSC と TRC を停止するには

VSC と TRC を停止するには、停車時に  を 3 秒以上長押ししてください。

TRC OFF 表示灯と VSC OFF 表示灯が点灯します。

再度  を押すと、システム作動可能状態に戻ります。

■ を押さなくても TRC OFF 表示灯が点灯したとき

TRC およびヒルホールドシステムが作動できない状態になっています。ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ ABS・VSC の作動について

ABS・VSC は、低速では作動しません。通常のブレーキと同じ作動になります。

■ ABS・ブレーキアシスト・VSC・TRC・ヒルホールドシステムの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ VSC や TRC の自動復帰について

VSC や TRC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態に戻ります。

- エンジンスイッチを“OFF”にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合) 車速が高くなったとき
ただし、VSC と TRC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

 知識

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けると、EPS システムのオーバーヒート为了避免するため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。

その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、エンジンを停止してください。10 分程度でもとの状態に戻ります。

■ ヒルホールドシステムの作動条件

次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。

- シフトレバーが P または、N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- 車両停止状態
- アクセルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルホールドシステムの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- シフトレバーを P または、N にした
- アクセルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して約 2 秒経過した

■ スリップ表示灯が点灯したとき

システムに異常があるおそれがあります。ダイハツサービス工場に連絡してください。

■ エマージェンシーストップシグナルの作動条件

次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 60km/h 以上
- ブレーキペダルが踏み込まれ、車両の減速度から急ブレーキだと判断された、または ABS が作動した

■ エマージェンシーストップシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- ブレーキペダルを離した
- 車両の減速度から急ブレーキではないと判断された
- ABS が作動停止した

 警告**■ ABS の効果を発揮できないとき**

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩擦したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面や滑りやすい路面での高速走行時に、ハイドロブレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離を取ってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ VSC や TRC の効果を発揮できないとき

タイヤチェーンを装着したときなどには VSC や TRC が正確に機能しないおそれがあります。

■ TRC の効果を発揮できないとき

滑りやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ ヒルホールドシステムの効果を発揮できないとき

- ヒルホールドシステムを過信しないでください。急勾配の坂や、凍った路面ではヒルホールドシステムが効かないことがあります。
- ヒルホールドシステムはパーキングブレーキのようにお車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 停車するときのブレーキペダルの踏みかたが不十分であったり、乗車人数、荷物の重さによっては、ヒルホールドシステムが作動しない場合があります。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

VSC・TRC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ ABS 警告灯、またはスリップ表示灯が点灯しているときは

エマージェンシーストップシグナルが作動しないことがあります。

 警告**■ VSC や TRC を OFF にするとき**

VSC や TRC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は VSC・TRC を作動停止状態にしないでください。VSC や TRC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■ フルタイム 4WD について★

●このお車の 4WD（フルタイム 4WD）は、オンロード専用です。オフロード走行やラリー走行などが目的ではなく、一般道での優れた走行安定性に寄与することを目的とした 4WD ですので、無理な運転はしないでください。

●脱輪などにより、いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。

前・後輪の回転差が激しい状態が続くと、駆動系部品に無理な力が加わり焼き付きなどの損傷を受けたり、焼き付きにより、車両が急に飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ タイヤまたはホイールを交換するとき

4 輪とも指定されたサイズで、同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、指定された空気圧にしてください。（→ P. 372）

異なったタイヤを装着すると、ABS・VSC・TRC・フルタイム 4WD★が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、ダイハツサービス工場に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える準備

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものを使用してください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前輪用）を使用してください。
タイヤは 4 輪とも同一サイズ、同一銘柄で著しい摩耗差のないものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
(タイヤについて：→ P. 282)

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス、車両の屋根、タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- お車の下まわりをのぞいて、足まわりなどに氷塊が付着していないか確認してください。付着している氷塊は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうかも確認してください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

運転するとき

- ゆっくりスタートし、車間距離を十分に取って控えめな速度で走行してください。
- 積雪、寒冷時ではブレーキ装置に付着した水が凍結し、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪い場合は、周囲の安全に十分注意して効きが回復するまで、数回ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。
- 雪道走行時、タイヤハウス裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルの切れが悪くなることがあります。ときどき異常のないことを確認してください。ランプ類などは、走行中に雪のために暗くなることがあるので、ときどき異常のないことを確認してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPに入れて駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。
輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーをPに入れた状態でシフトレバーが動かないこと※²を確認してください。

※¹ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

※² ブレーキペダルを踏まないでPからシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

 知識■ **タイヤチェーンについて**

取り付け・取り外し・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

■ **寒冷地用ワイパーブレードについて**

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。ダイハツサービス工場で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を下げてください。

 警告■ **ブレーキが凍結したとき**

万一、ブレーキの効きが回復しないときは、ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ **冬用タイヤ装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用する
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて装着しない
- 空気圧を指定値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ **タイヤチェーン装着時の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全にお車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したタイヤチェーンに定められた制限速度、または 30km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない

 警告

- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、お車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、お車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

- ダイハツ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
ダイハツ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体に当たり、走行の妨げとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。
- タイヤチェーン装着時は、次のシステムが正確に作動しない場合があります。
 - ・ VSC
 - ・ TRC
- タイヤチェーンを装着するとホイールキャップに傷が付くおそれがあります。ホイールキャップを取り外した状態で、タイヤチェーンを装着してください。

■ ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

■ ドアやワイパー、ガラスが凍結したとき

- ぬるま湯をかけるなどして氷を解かしてください。
熱湯をかけると部品が破損したり、変形するなどのおそれがあります。
- 凍結したまま、または雪が固まったままワイパー、ドアミラー、ドアガラスなどを無理に作動させると、ワイパーゴムを損傷したり、モーターなどが故障するおそれがあります。

室内装備・機能**5****5-1. エアコンの使い方**

マニュアルエアコン …… 240

オートエアコン …… 245

シートヒーター …… 252

5-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 …… 254

5-3. 収納装備

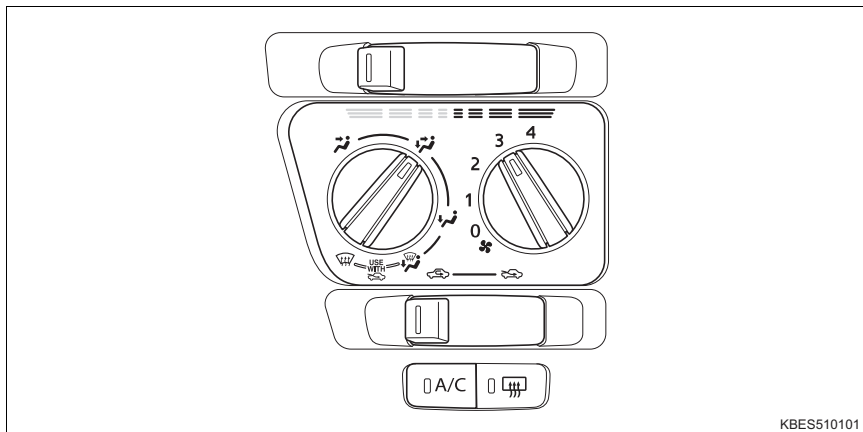
収納装備一覧 …… 256

ラゲージルーム内装備 …… 260

5-4. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 …… 262

マニュアルエアコン★



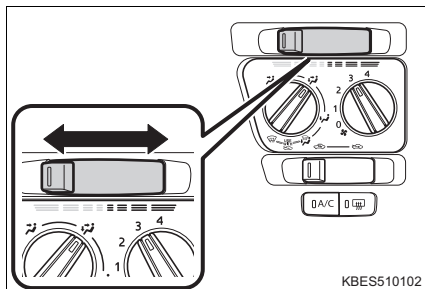
エアコンの操作について

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節レバーを右に、下げるときには左に操作する

☐ A/C を押すと冷房・除湿機能が使用できます。

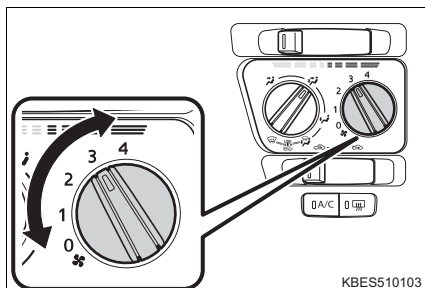
☐ A/C が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。



■ 風量を切り替える

風量を増やすときは風量調節ダイヤルを右に、減らすときは左に回す

送風を止めるときはダイヤルを 0 の位置に合わせる

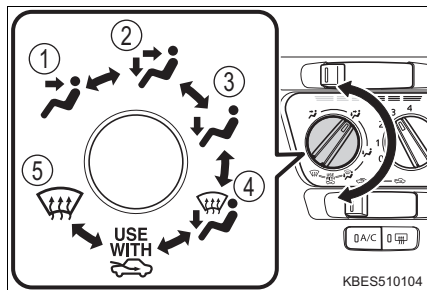


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切り替える

吹き出し口切り替えダイヤルを回す

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る
- ⑤ フロントウインドウガラスの曇りを取る



その他の機能

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

内外気切り替えレバーを の位置に操作すると外気導入、 の位置に操作すると内気循環に切り替わります。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

吹き出し口切り替えダイヤルを に回し、内外気切り替えレバーを に操作する

を押してエアコンを ON にすると曇りが早く取れます。

■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター★

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

を押す

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

吹き出し口について

■ 風が出る位置と風量

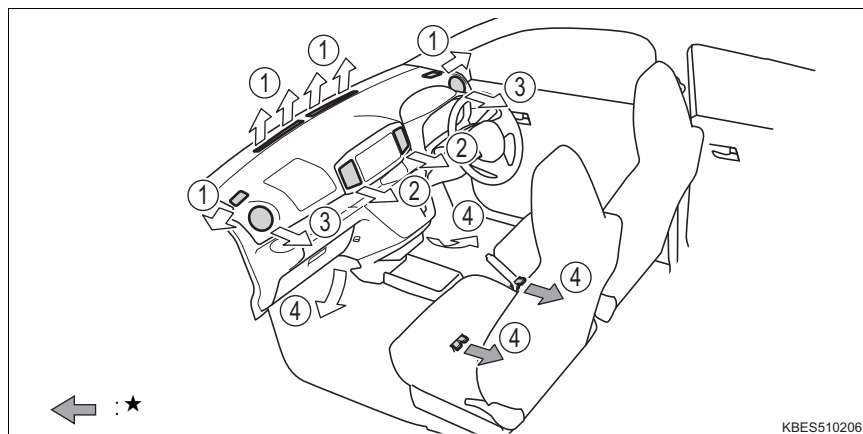
吹き出し口切り替えダイヤルの位置により、風が出る位置や風量が次の表の通り変化します。

風量は吹き出し口によって異なります。

ダイヤル位置					
吹き出し口	② ③	② ③ ④	③ ④ (①)	① ③ ④	① ③

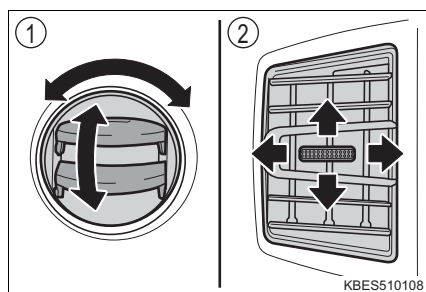
() は特に風量が少ないものを示します。

▶ 吹き出し口の位置



■ 風向きの調整

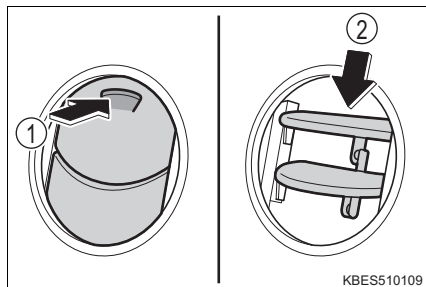
- ① 左右吹き出し口
- ② 中央吹き出し口



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口の開閉

- ① くぼみを押して開ける
- ② カバーを下げて閉じる



知識

■ 冷房で使用しているとき

まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

■ 吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、温度調節レバーの位置によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より温められて送風されます。

■ 外気温度が 0℃ 付近まで下がったとき

 を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■ **USE WITH** について

このマークは、吹き出し口切り替えダイヤルを  または  に合わせるときに内外気切り替えレバーを  にすることをおすすめするためのものです。

内外気切り替えレバーを  にすることでガラスが曇りにくくなります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外の様々な臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

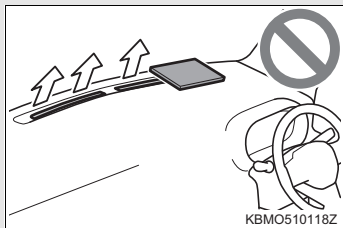
■ エアコンフィルターについて

→ P. 293

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切り替えダイヤルを  または  の位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。
- フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター★作動中の警告

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジン停止中は、必要以上にエアコンを使用しないでください。

■ 吹き出し口について

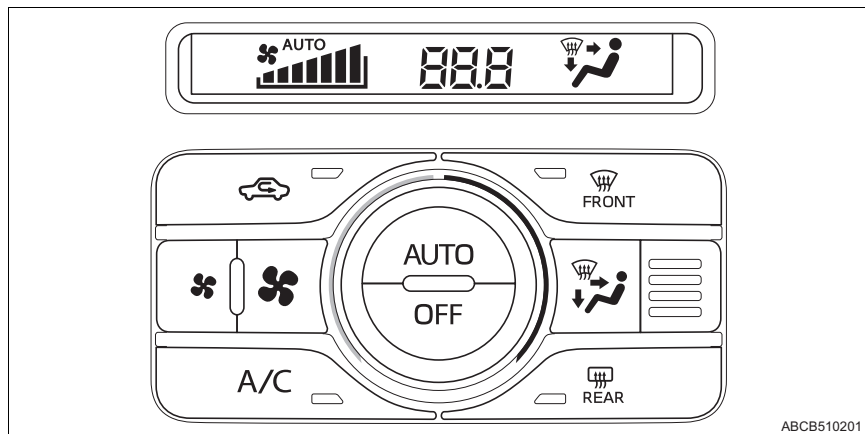
暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

■ 内気循環について

吹き出し口切り替えダイヤルの位置が 、 または  のときに内外気切り替えレバーを  の位置に操作しないでください。ガラスが曇りやすくなります。

オートエアコン★

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

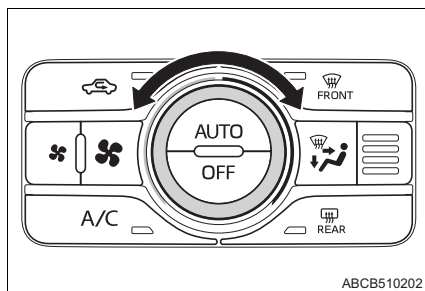


エアコンの操作について

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調節ダイヤルを右に、下げるときは左に回す

A/C  が押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

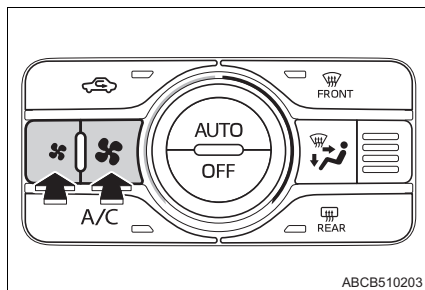


■ 風量を切り替える

風量を調節するには  の

 (増) か  (減) を押す

OFF を押すと、送風が止まります。



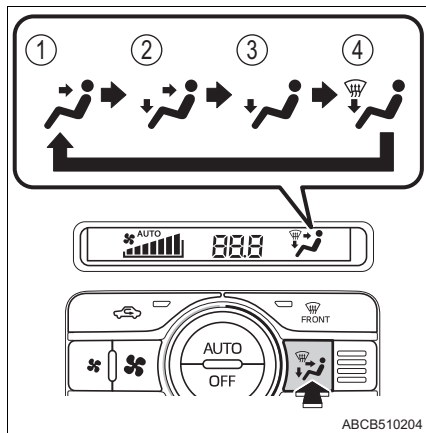
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口を切り替える



押すたびに吹き出し口が切り替わります。

- ① 上半身に送風
- ② 上半身と足元に送風
- ③ 足元に送風
- ④ 足元に送風・フロントウィンドウガラスの曇りを取る



オート設定を使うとき

- 1 AUTO を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

- 2 温度を設定する

- 3 A/C  を押す

押すたびにエアコンの ON / OFF が切り替わります。

- 4 送風を止めたいときは OFF を押す

■ オート設定時の表示について

風量や吹き出し口を切り替えると、AUTO の表示が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

その他の機能

■ 外気導入・内気循環を切り替えるには

  を押す

ボタンを押すたびに外気導入・内気循環が切り替わります。内気循環を選択しているときは、  の表示灯が点灯します。

■ フロントウィンドウガラスの曇りを取るには

  を押す

エアコンが作動し、自動的に外気導入に切り替わります。

曇りが取れたら再度   を押すと、前のモードに戻ります。

■ リヤウインドウデフォグガー & ミラーヒーター★

リヤウインドウの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

  を押す

リヤウインドウデフォグガーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

吹き出し口について

■ 風が出る位置と風量

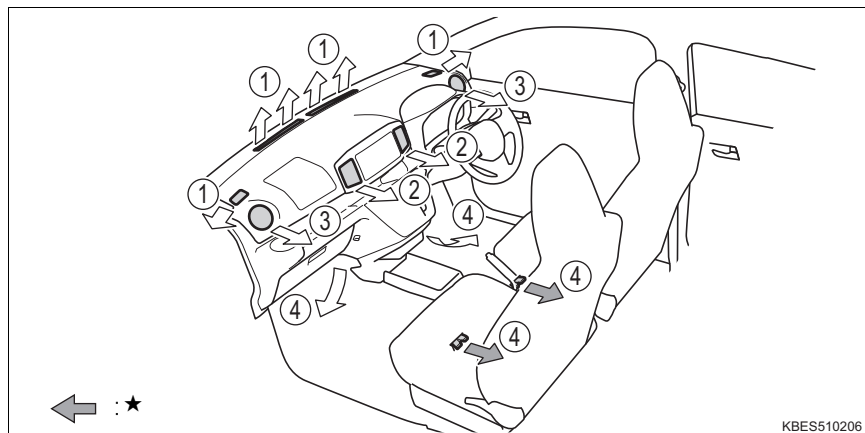
吹き出し口の設定により、風が出る位置や風量が次の表の通り変化します。

風量は吹き出し口によって異なります。

設定					
吹き出し口	② ③	② ③ ④	③ ④ (①)	① ③ ④	① ③

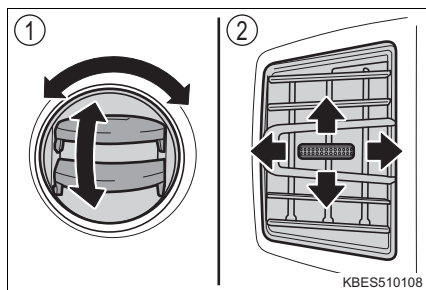
() は特に風量が少ないものを示します。

▶ 吹き出し口の位置



■ 風向きの調整

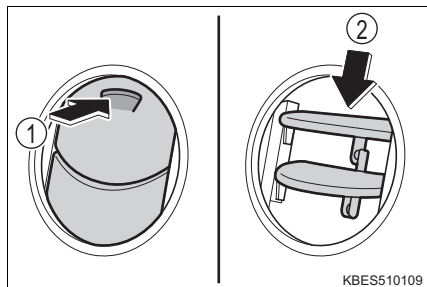
- ① 左右吹き出し口
- ② 中央吹き出し口



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 吹き出し口の開閉

- ① くぼみを押して開ける
- ② カバーを下げて閉じる



知識

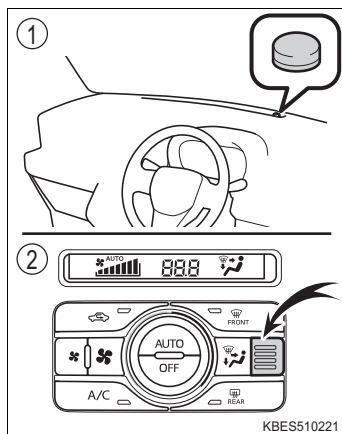
■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO を押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ 温度調節センサーについて

オートエアコンには自動的に温度調節を行うために、センサーが取り付けられています。

- ① 日射センサー
日射量を検知します。
- ② 内気センサー
室内温度を検知します。



日射センサーの上にものを置いたり、内気センサーをシールなどでふさぐなどすると、センサーが正常に作動しなくなることがあります。

 知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。

その場合は A/C  を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

- A/C  を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 冷房で使用しているとき

まれに吹き出し口から霧が吹き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するものであり異常ではありません。

■ 内外気切り替えについて

設定温度や室内温度などにより、自動的に内気循環または外気導入へ切り替わる場合があります。

■ 吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出しのため、設定温度によっては、足元に送られる風が上半身に送られる風より温められて送風されます。

■ 外気温度が 0℃付近まで下がったとき

A/C  を押してもエアコンが作動しない場合があります。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外の様々な臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。また、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

■ エアコンフィルターについて

→ P. 293

■ カスタマイズ機能

オートエアコンの設定を変更できます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 374)

(一部機能はマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 70)

⚠ 警告**■ フロントウインドウガラスの曇りを防止するために**

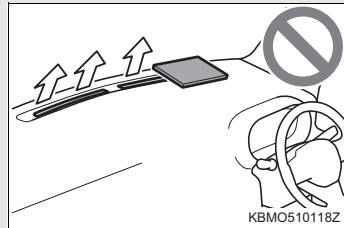
- 湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、



を押さないでください。また、吹き出し口を  に切り替えない

でください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界を妨げる場合があります。

- フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。

**■ リヤウインドウデフォグガー&ミラーヒーター★作動中の警告**

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるので触れないでください。

⚠ 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

■ 吹き出し口について

暖房で使用するときは、吹き出し口が熱くなりますので、注意して調整してください。

シートヒーター★

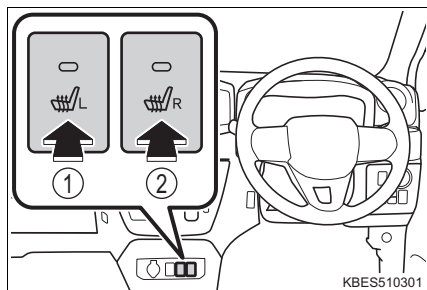
スイッチを押すと、シートヒーターが作動します。

① 助手席を温める

② 運転席を温める

シートヒーター作動中は、スイッチの作動表示灯が点灯します。

再度押すと OFF になり、スイッチの作動表示灯が消灯します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ON” のとき

■ 使用しないときは

スイッチを再度押してください。作動表示灯が消灯します。

警告

- 低温やけどを負うおそれがあるため、次の方がシートヒーターに触れないようにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
 - ・ 皮膚の弱い方
 - ・ 疲労の激しい方
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方
- 異常過熱や低温やけどの原因になるおそれがあるため、シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。
 - ・ 長時間連続で使用しないでください。
 - ・ 毛布・クッションなどを使用しないでください。

 注意**■ シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

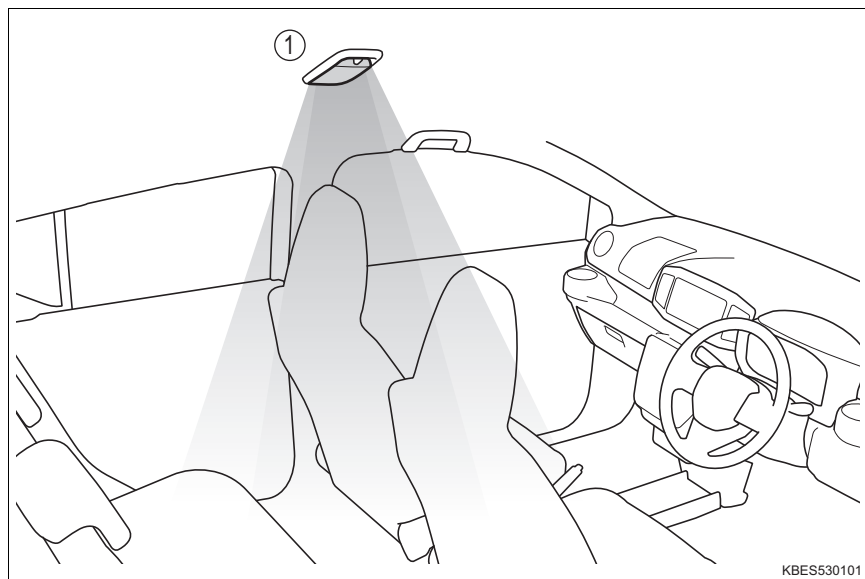
■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態で使用しないでください。

■ 使用中に異常が発生したときは

ただちに作動を停止し、ダイハツサービス工場に連絡してください。

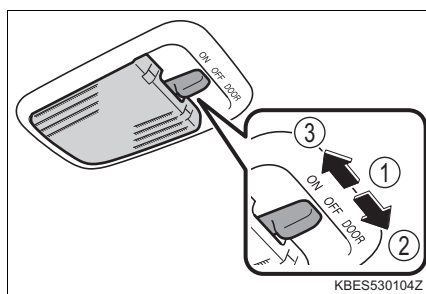
室内灯一覧



① ルームランプ

ルームランプ

- ① ランプを消灯する
- ② ドアポジション（ドア連動）
ドアの開閉動作に連動してランプが点灯・消灯します。
- ③ ランプを点灯する



 知識

■ イルミネーテッドエントリーシステム

ランプのスイッチがドアポジションのとき、次の場合に各部の照明が自動的に点灯、消灯します。

- ドアを施錠したあと、電子カードキー★を携帯して車両に近付いたとき
(ウェルカムランプ設定 (ルームランプ連動)★：→ P. 102)
- ドアを施錠・解錠したとき
- ドアを開閉したとき
- エンジンスイッチを操作したとき

■ バッテリーあがりを防止するために

- 半ドア状態でランプのスイッチがドアポジションのときは約 10 分後に自動消灯します。
- ランプが点灯したままの場合、約 12 分後に自動消灯します。

■ カスタマイズ機能

イルミネーテッドエントリーシステムの消灯までの時間などの設定を変更できます。

(カスタマイズ機能一覧：→ P. 374)

(一部機能はマルチインフォメーションディスプレイの設定画面から変更可能：→ P. 70)

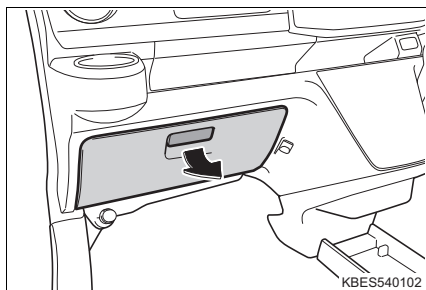
 注意

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

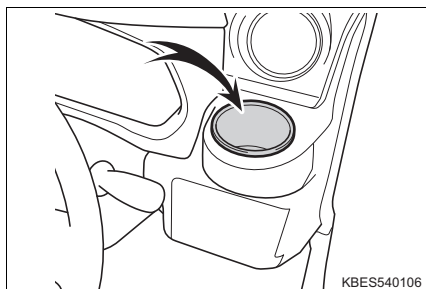
グローブボックス

レバーを引いて開ける

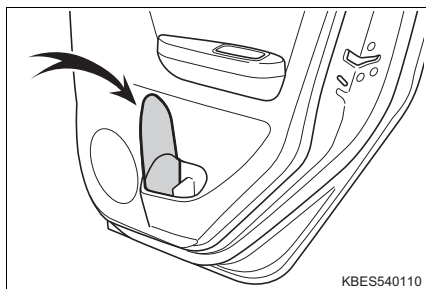


カップホルダー／ボトルホルダー

■ カップホルダー（運転席／助手席）



■ ボトルホルダー（後席）



 知識

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのふたを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

 警告

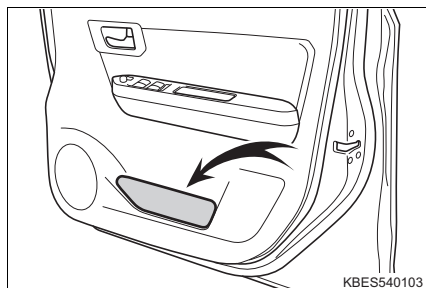
- カップホルダーには、カップ・缶・ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- ボトルホルダーには、ペットボトル以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。
- やけどを防ぐために、カップホルダー・ボトルホルダーに温かい飲みものを置くときはふたを閉めておいてください。
- 運転席側のカップホルダーを使用するとき、背の高いカップを置くと、運転者の視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意

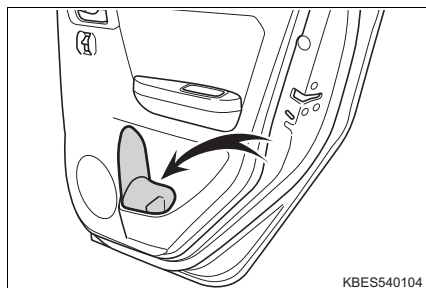
- ペットボトルのふたを必ず閉めてから収納してください。
- ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。
- 故障を防ぐため、飲みものがこぼれたときはただちにふき取ってください。スイッチ類や電気部品にかかると、故障や車両火災の原因となるおそれがあります。

オープントレイ

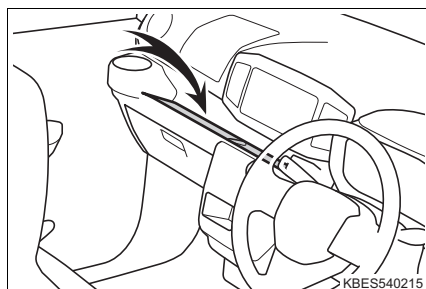
▶ ドアポケット（前席）



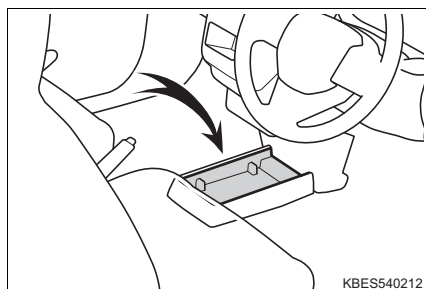
▶ ドアポケット（後席）



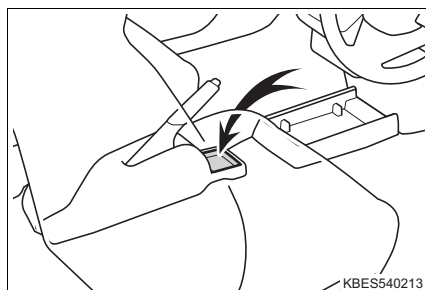
▶ インパネロングアッパートレイ



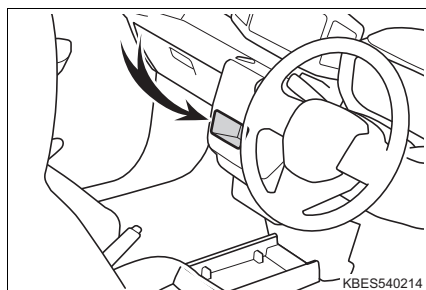
▶ センターフロアトレイ



▶ コイントレイ



▶ インパネセンターポケット （オートエアコン装着車）

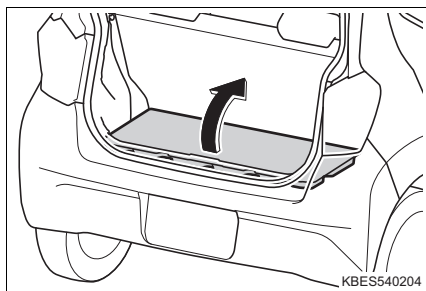


⚠ 警告

走行中はトレイ内に転がりやすいものを置かないでください。収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ラゲージルーム内装備

デッキボード



⚠ 警告

■ デッキボードを操作するときは

荷物を載せた状態で操作しないでください。

指を挟んだり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 走行中の警告

デッキボードを必ず閉じてください。

急ブレーキや急旋回時などに、収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

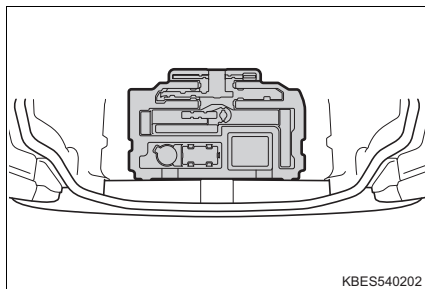
⚠ 注意

■ デッキボードの破損を防ぐために

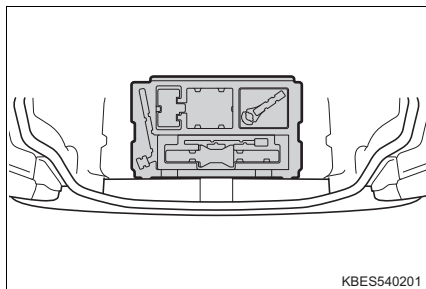
デッキボードの上に立ったり、無理な力をかけたりしないでください。

ラゲージアンダーボックス

▶ 2WD 車



▶ 4WD 車



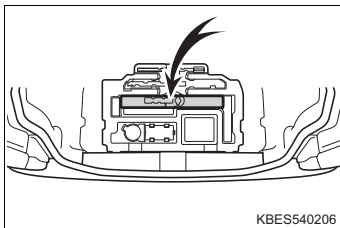
 知識

■ 停止表示板収納について

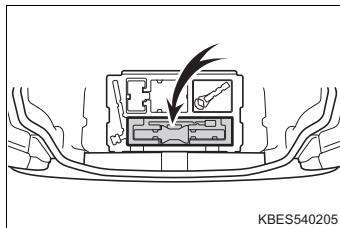
ラゲージアンダーボックスに、停止表示板を収納することができます。

ただし、停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

▶ 2WD 車



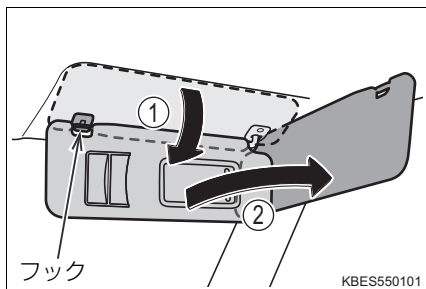
▶ 4WD 車



その他の室内装備

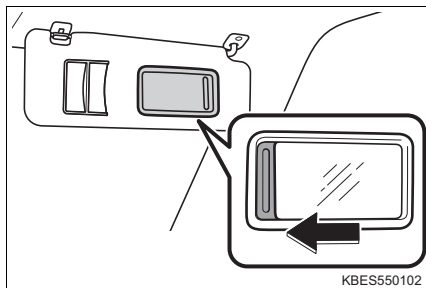
サンバイザー

- ① 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- ② 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックから外し、横へ回す

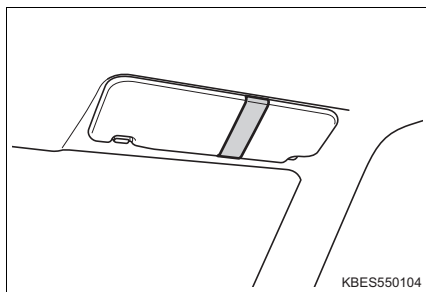


■ バニティミラー★

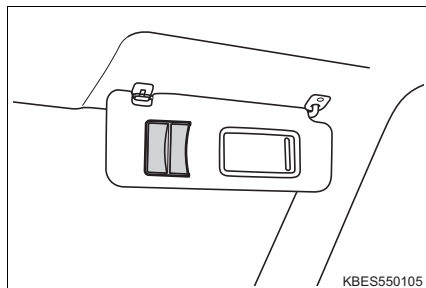
カバーをスライドする



■ チケットホルダー



■ カードホルダー★



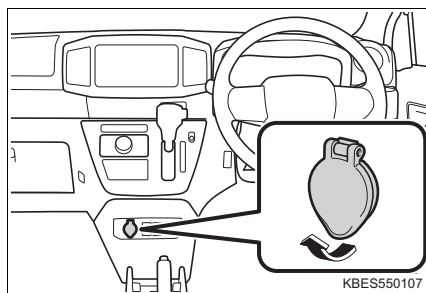
⚠ 警告

- サンバイザーと天井の間にもものを挟まないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあり危険です。
- サンバイザーのチケットホルダー、カードホルダー★には、使用用途以外のものを入れないでください。発進時などにものが落ちるおそれがあり危険です。
- 走行中はバニティミラー★を使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

アクセサリースOCKET

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源として使用してください。

ふたを開けて使用する



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のとき

■ eco IDLE によるエンジン再始動時について

エンジン停止状態から再始動するとき、一時的に使用できないことがあります。が、異常ではありません。

■ エンジンスイッチを“OFF”にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品を外してください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に“OFF”にすることができなくなる場合があります。

 注意

■ 電気容量について

電気容量は、DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）です。この容量を超える電気製品を使用しないでください。最大電気容量を超える電気製品を使用すると、ヒューズが切れるおそれがあります。

■ ショートや故障を防止するために

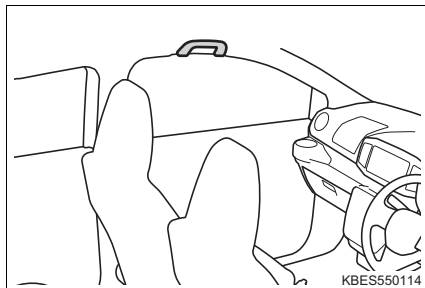
異物が入ったり、液体などがかかったりしないように、使用しないときは、ふたを閉めておいてください。

■ バッテリーあがりを防止するために

- エンジンが停止した状態で、アクセサリソケットを使用しないでください。
- エンジンがかかっている、アイドリング状態で長時間使用しないでください。

格納式アシストグリップ

天井に取り付けられている格納式アシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときに使用してください。



⚠ 警告

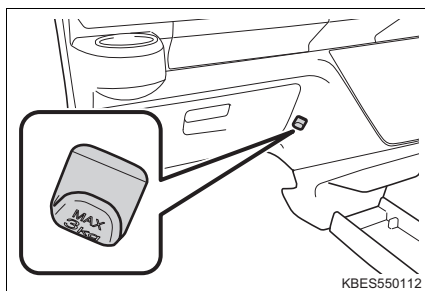
格納式アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

格納式アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

破損を防ぐために、格納式アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけないでください。

ショッピングフック



⚠ 注意

■ ショッピングフックの破損を防ぐために

3kg を超えるものをフックに吊り下げないでください。

フックが折れたり、走行中に外れたりするおそれがあります。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装のお手入れ 268

内装のお手入れ 272

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 275

ガレージジャッキ 278

エンジンオイルについて ... 279

ウォッシャー液の補充 280

タイヤについて 282

タイヤの交換 285

タイヤ空気圧について 291

エアコンフィルターの
交換 293

ワイパーゴムの交換 295

キーの電池交換 300

ヒューズの点検・交換 304

電球（バルブ）の交換 307

外装のお手入れ

お手入れは、次の項目を実施してください。

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う
ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、ダイハツケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。

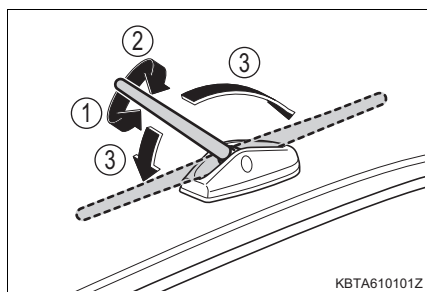
詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。

アンテナの取り扱いについて

洗車時には、アンテナを脱着、または格納することができます。

- ① 取り外す
- ② 取り付ける
- ③ 格納する

ラジオ受信時は、節度感のあるところまで立てて使用してください。



KBTA610101Z

知識

■自動洗車機を使うとき

- お車を洗う前に：
 - ・ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択する
 - ・アンテナを取り外す

車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずアンテナをもと通りに取り付けて、ドアミラーを復帰状態に戻してください。

- ブラシで車体などに傷が付く、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や、傷付いたり、破損するおそれがあります。

 知識

■ 高圧洗車機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付け過ぎたり、同じ場所に連続して当てたりしないでください。

■ 洗車などでお車に水をかけたとき（キーフリーシステム装着車）

電子カードキーが作動範囲内にあるとき、洗車などで水圧にてドアハンドルにあるスイッチが押され、ドアが施錠・解錠することがあります。その場合は、次のような処置をしてください。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠されます）

- キーを車両から約 3m 以上離れた場所に置く（盗難に注意してください）
- キーを節電モードに設定してキーフリーシステムの作動を停止する（→ P. 86）

■ 洗剤やワックスを使うとき

- お使いになる洗剤やワックスの説明をよく読んで、正しくお手入れを行ってください。
- 塗装されていない樹脂部品にワックスを使用しないでください。ワックスが付着すると、白くなったりムラになることがあります。

■ ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。
- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・ 酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・ 硬いブラシを使用しない
 - ・ 夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない
- 光沢を失うおそれがあるため、スチーム洗浄などで熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。

 警告

■ 洗車をするとき

- エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- 下まわり足まわりを洗うときは手をけがしないように注意してください。

■ 排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

 注意**■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり・泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとに戻すときは、必ず助手席側から先に戻してください。

■ ランプの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ ドアミラーの損傷を防ぐために

自動洗車機を使用するときは、ドアミラーを格納して、洗車機の「ドアミラーを洗車しない」モードを選択してください。

■ アンテナの取り扱いについて

アンテナを取り扱うときは無理な力をかけないでください。ボデーの変形やアンテナの破損などにつながるおそれがあります。

■ アンテナの損傷を防ぐために

- 車庫の天井などにアンテナが当たるときはアンテナを格納してください。
- 次のようなときはアンテナを取り外してください。
 - ・ カーカバーをかけるとき
 - ・ 自動洗車機を使用するとき
 - ・ 降雪時に長時間駐車するとき

 注意**■ アンテナの取り外しについて**

- 通常走行時には、必ずアンテナを取り付けてください。
- 自動洗車機を使用するときなどアンテナを取り外したときは、アンテナを紛失しないように注意してください。また、走行前には必ずもと通りに取り付けてください。

■ 洗車時の注意

- 洗車をするときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。車体がへこむおそれがあります。
- 給油扉が閉まっていることを確認してください。高い水圧により給油扉が勢いよく開き、車体や給油扉が損傷するおそれがあります。
- 高温の湯で洗車すると樹脂部品などが損傷するおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをソナー部に近付け過ぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 研磨剤（コンパウンド）入りの洗剤、ワックスは使用しないでください。

■ 自動洗車機を使用するときは

エアコンは“内気循環”にしてください。車内に水が入り、故障の原因になります。

■ 高圧洗車機を使用するときは

- 洗車時に高圧洗車機でカメラ★やカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装備が正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ノズルの先端を、次の部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクター類に近付け過ぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。
 - ・ 駆動系部品
 - ・ ステアリング部品
 - ・ サスペンション部品
 - ・ ブレーキ部品
- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水を当てないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水を当てないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

内装のお手入れ

お手入れは、次の要領で実施してください。

室内のお手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

本革部分のお手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

合成皮革部分のお手入れ

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗浄

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くようにめり込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。

シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

 警告**■車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→ P. 29)
電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装のお手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界を妨げ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シート周辺の注意

車内を清掃するときや、シートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分注意してください。シートレール、シートの土台部分などに当たり、けがをするおそれがあります。

 注意**■清掃するとき使用する溶剤について**

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。
- メーターのレンズカバーにガラスクリーナーやアルコールなどを使用しないでください。
変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。
- 各スイッチの周辺にシリコン系のスプレーを使用しないでください。シリコンが内部の電気部品に付着し、故障の原因となります。

 注意**■ 革の傷みを避けるために**

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰でお車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、お車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■ フロントウィンドウガラスの内側を清掃するとき

ステレオカメラに触れないように注意してください。

誤って傷を付けたり衝撃を与えたりすると、スマートアシストの誤作動や故障につながるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線を引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■ 液体芳香剤を使用するときは

こぼれないように容器を確実に固定してください。また、インストルメントパネルの上やメーターの近くに置かないでください。

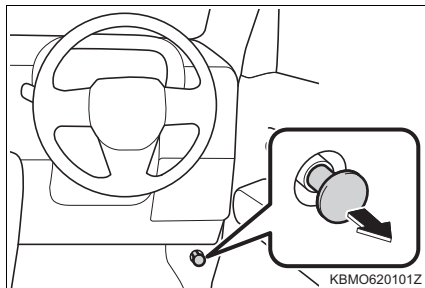
液体がこぼれて樹脂部品や布材、メーターのレンズカバーに付着すると、変色・ひび割れの原因になるおそれがあります。

ボンネット

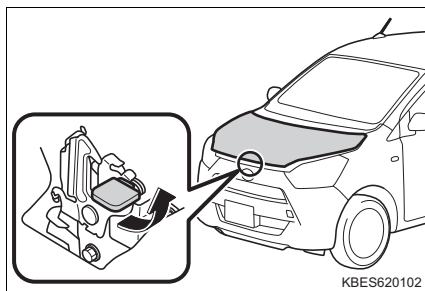
室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットを開ける

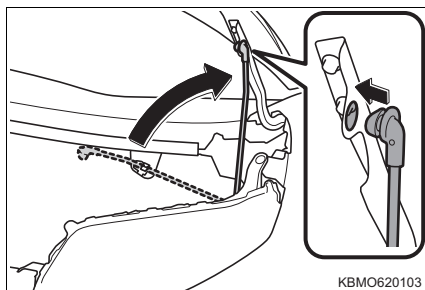
- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける



- 3 ボンネットステーを外し、ステー穴に差し込む



ボンネットを閉める

- 1 ボンネットを片手で支える
2 ボンネットステーを外してもとの位置へ戻す
3 ボンネットを静かに下げ、手で押さえるようにして閉める

 知識**■ バッテリー端子を外すときは**

バッテリー端子を外すと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子を外すときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

 警告**■ 走行前の確認**

- ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ボンネットを開けているとき風にあおられるとボンネットステーが外れボンネットが不意に閉まるおそれがあります。特に風の強い日はご注意ください。

■ けがを防ぐために

走行後のエンジンルーム内は高温になっています。熱くなった部品に触れるとやけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ エンジンルーム点検後の確認

エンジン始動前にエンジンルーム内に可燃物の置き忘れがないことを確認してください。特に長期間使用しなかったときは、エンジンルーム内に小動物や鳥類が持ち込んだ小枝などの可燃物がないことを確認してください。車両の火災につながるおそれがあり危険です。

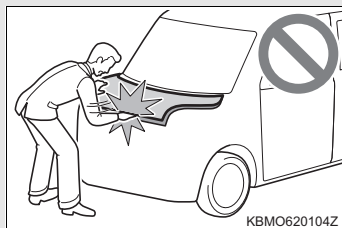
また、走行中にエンジンルーム内からこげた臭いがするときは、ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

■ オイルを点検・交換するとき

オイルがオルタネーターなどに付着しないように行ってください。オイルが付着したときは、ただちにふき取ってください。オイルが付着していると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



 注意**■ ボンネットを開けるとき**

フロントワイパーアームを起こしたままボンネットを開けないでください。ワイパーがボンネットに当たり、傷付くことがあります。

■ エンジンルームを点検するときは

フロントガラス下部周辺にものを置かないでください。エンジン内部にものが落下し、故障につながるおそれがあります。

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットステーをステー穴から取り外し、クリップに正しく戻してください。ステーを正しく戻さない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

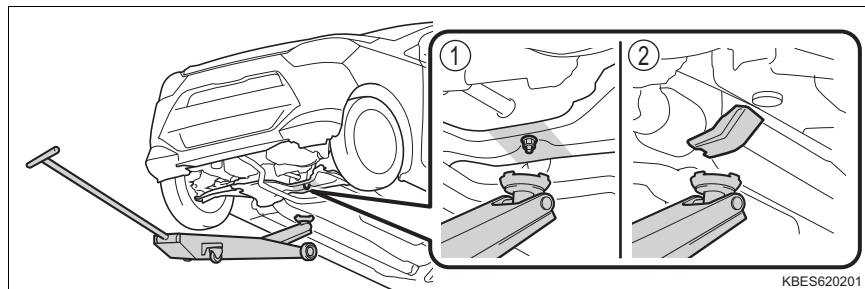
ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

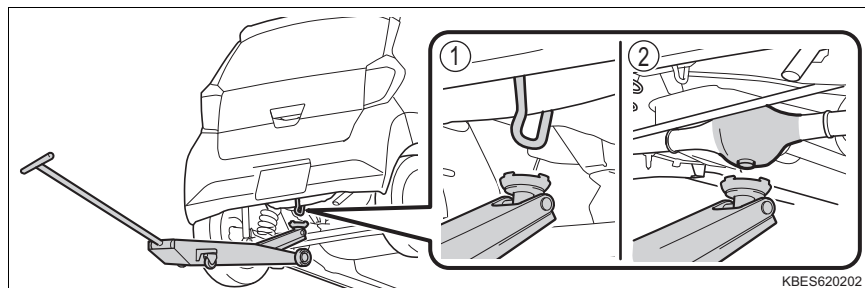
◆ フロント側



① 2WD 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

◆ リヤ側



① 2WD 車（前輪駆動）

② 4WD 車（4 輪駆動）

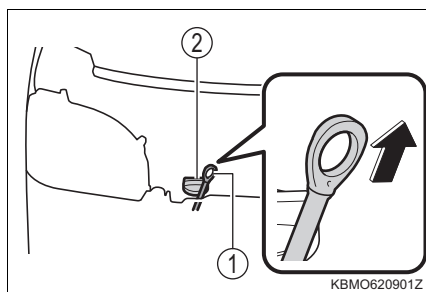
エンジンオイルについて

点検

エンジンオイルの量は、定期的に点検してください。また、高速走行を行う前は、必ず点検してください。

点検はオイルレベルゲージを抜き取って行います。

- ① オイルレベルゲージ
- ② オイルフィルターキャップ



エンジンルームのイラストは代表例です。

知識

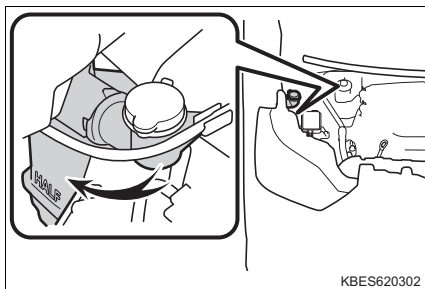
■ エンジンオイルについて

- エンジンオイルはエンジン内部の潤滑、冷却などをする働きがあります。通常の運転をしていてもピストンおよび吸気、排気バルブを潤滑しているオイルの一部が燃焼室などで燃えるためオイル量は走行とともに減少します。また、減少する量は走行条件などにより異なります。
- 外気温が低いときに、オイルフィルターキャップの裏側や、オイル注入口にエンジンオイルが白いクリーム状になって付着していることがあります。これは、エンジン内部の水蒸気が冷却されて水滴になり、エンジンオイルと混ざることにより発生するもので、外気温の上昇、エンジンの暖機などで水分が蒸発すると解消します。この現象によるエンジンオイルの変質はなく、そのまま使用しても、問題はありません。

ウォッシャー液の補充

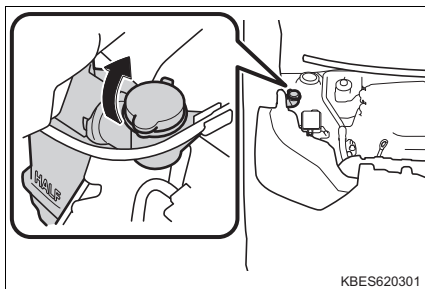
点検のしかた

ウォッシャータンクの側面から、液面を目視により確認します。



補充のしかた

ウォッシャータンクのキャップを外し、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。



知識

■ ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。

ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

 注意**■ ウォッシャー液について**

ウォッシャー液の代わりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

●タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

●タイヤの亀裂・損傷の有無

●タイヤの溝の深さ

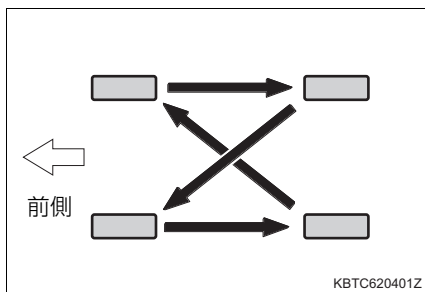
●タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

タイヤローテーションのしかた

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、ダイハツは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーションを行ったあとは、指定された空気圧に調整してください。

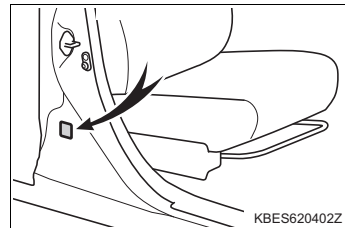


知識

■ タイヤ空気圧の数値

タイヤサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
	前輪	後輪
155/65R14 75S	260 (2.6)	260 (2.6)

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



■ タイヤ空気圧の点検

- 1 か月に 1 回程度は、空気圧ゲージによる点検をおすすめします。
- 空気圧が適正でない場合は、必ず指定空気圧に調整してください。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ タイヤローテーションについて

この車両には、スペアタイヤが搭載されていないため、スペアタイヤを利用するタイヤローテーションができません。ダイハツサービス工場にご相談ください。

警告

■ 点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターン（溝模様）で、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤを混在使用しない

 警告

- ラジアルタイヤ・バイアスペルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- 他車で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横滑りする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■タイヤ交換時の注意

- 必ずナットのテーパ部を内側にして取り付けてください。（→ P. 289）
テーパ部を外側にして取り付けると、ホイールが破損し外れてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ネジ部にオイルやグリースをぬらないでください。
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したりディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがネジ部についている場合はふき取ってください。

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。

走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■走行中に空気漏れが起こったら**

走行を続けしないでください。

タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤの交換

ご自身でタイヤを交換するときは、工具とジャッキをご準備ください。
ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

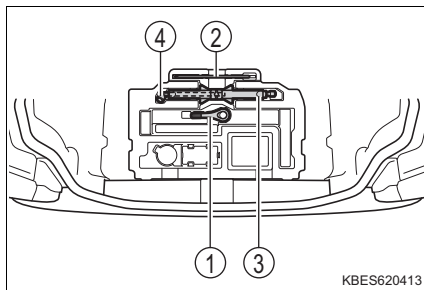
この車両には、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する

工具※とジャッキ※の位置

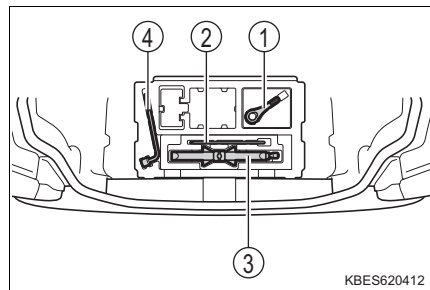
▶ 2WD 車



① けん引フック

② ジャッキハンドル※

▶ 4WD 車



③ ジャッキ※

④ ホイールナットレンチ※

※ ダイハツサービス工場で購入することができます。

 警告**■ ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。

ジャッキの取り扱いを誤ると、お車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

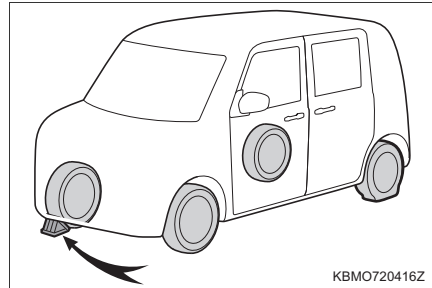
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取り外し以外の目的で使わない
- 備え付けのジャッキは、お客様のお車にしか使うことができないため、他車に使ったり他車のジャッキをお客様のお車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）に正しくかける
- ジャッキで支えられているお車の下に体を入れない
- お車がジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたりお車を走らせない
- 車内に人を乗せたままお車を持ち上げない
- お車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- お車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- お車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- お車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

工具 とジャッキ の取り出し方

デッキボードを上げ（→ P. 260）、ジャッキと工具を取り出す。

タイヤの交換

1 輪止め※をする

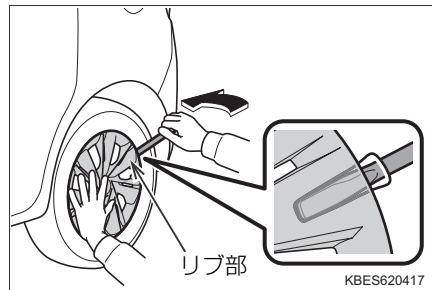


※ 輪止めは車載されていませんので、必要に応じて準備してください。なお、輪止めは、タイヤを固定できる大きさの石などで代用できます。

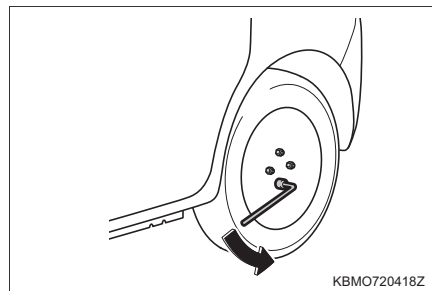
交換するタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

2 ホイールキャップを外す

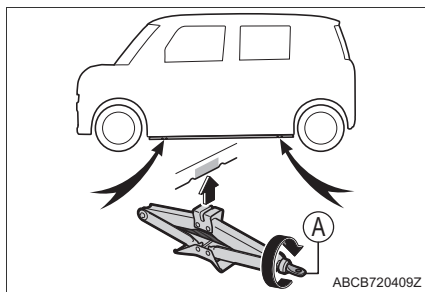
- 傷が付くのを防ぐため、ジャッキハンドルの先端に布などを巻いて保護してください。
- ジャッキハンドルを穴の開いていない部分（リブ部）に差し込んで外します。
- 勢いよく外れることを防ぐため、片手でホイールキャップを支えてください。



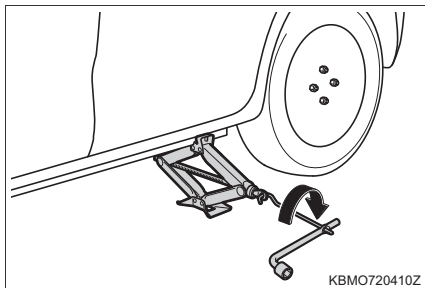
3 ナットを少し(約 1 回転)ゆるめる



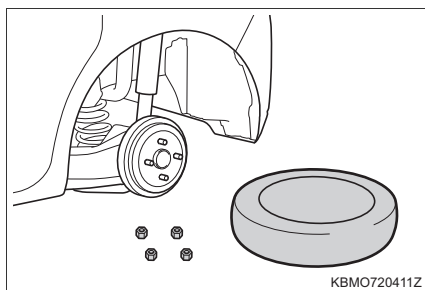
- 4 ジャッキのA部を手で回して、ジャッキ溝をジャッキセット位置（切り欠きと切り欠きの間）にしっかりかける



- 5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる
ジャッキハンドルとホイールナットレンチを図のように組み合わせて使用してください。



- 6 ナットすべてを取り外し、タイヤを取り外す
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



⚠ 警告

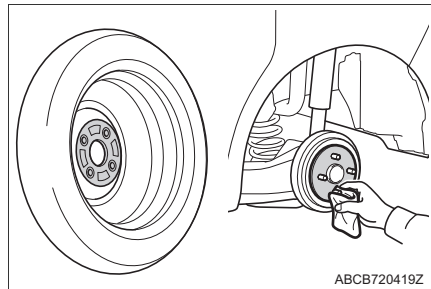
■ タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールが外れ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ ネジ部やナットのテーパ部にはオイルやグリスをぬらない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。ナットを取り付けるときに、オイルやグリスがネジ部に付いている場合はふき取ってください。
 - ・ タイヤを交換したあとは、ただちに締め付けトルクを確認する
お客様ご自身で締め付けトルクの確認ができない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 - ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
 - ・ ボルトやナットのネジ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、ダイハツサービス工場で点検を受ける
 - ・ ナットを取り付けるときは、必ずテーパ部を内側にして取り付ける

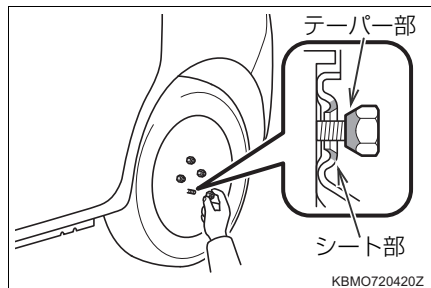
タイヤの取り付け

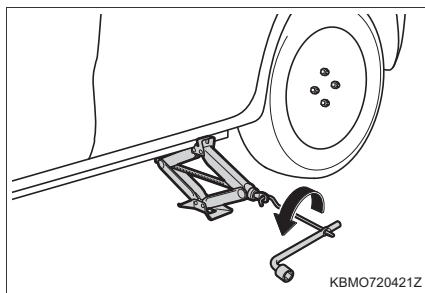
1 ホイール接触面の汚れや異物をふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあります。

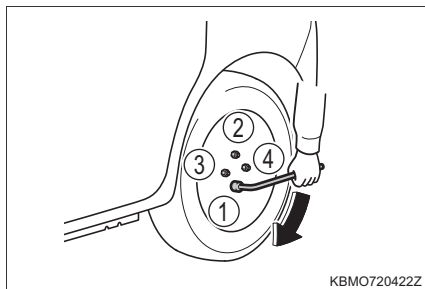


2 タイヤを取り付け、がたつかない程度まで手でナットを仮締めする ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽く当たるまで回す

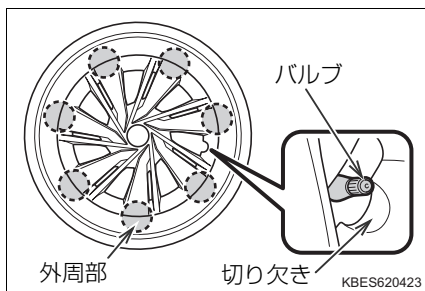


3 車体を下げる**4** ホイールナットレンチを使用し、
図の番号順でナットを2、3度しっ
かり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m (1050kgf・cm)

**5** 車両に装着されていたホイールに
戻したときは、ホイールキャップ
を取り付ける

タイヤのバルブ（空気口）とフルホイール
キャップの切り欠き部を合わせ、フル
ホイールキャップの外周部を押して取
り付けます。

**6** すべての工具・ジャッキを収納する

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。(→ P. 372)

知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

頻繁にタイヤ空気圧が低下する場合は、ダイハツサービス工場でのタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積むとき、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

 警告**■ タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールの間からの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
(路上障害物、道路のつなぎ目や段差など)

 注意**■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップを外していると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

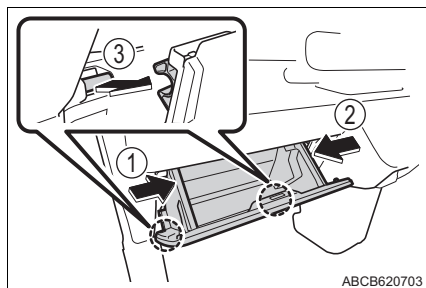
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換のしかた

- 1 エンジンスイッチを“OFF”にする

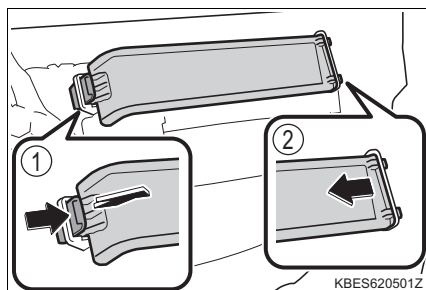
- 2 グローブボックスを取り外す

- ① 左側面を内側に押して上部のツメを外す
- ② 右側面を内側に押して上部のツメを外す
- ③ 下部のツメを外す



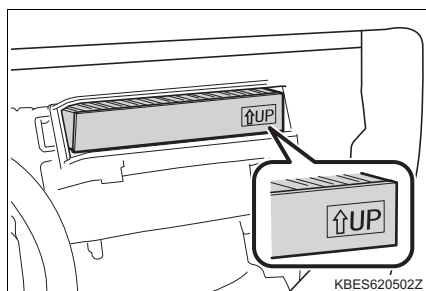
- 3 フィルターカバーを取り外す

- ① フィルターカバーの固定を解除する
- ② フィルターカバーを矢印の方向にずらし、フィルターカバーを抜く

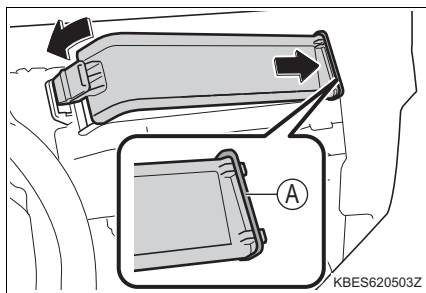


- 4 フィルターを取り外し、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



- 5 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で取り付ける
フィルターカバーはA部に入れてから、
取り付けてください。



知識

■ エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは次の時期を目安に交換してください。

20,000km [10,000km※] ごと

※ 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■ エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

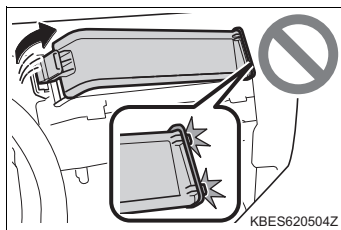
⚠ 注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■ フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーの固定を解除するときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力が加わらないよう注意してください。
ツメが破損するおそれがあります。



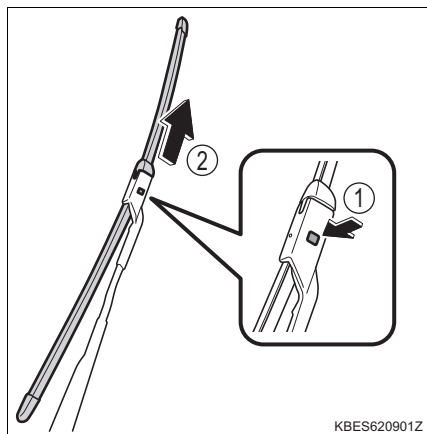
ワイパーゴムの交換

ワイパーゴムを交換する際は、次の要領でワイパーの各部品を操作してください。

フロントワイパー

■ フロントワイパーブレードの脱着

- ① ワイパーアームを起こし、ボタンを押しながら①、ブレードをスライドさせてアームから取り外す②

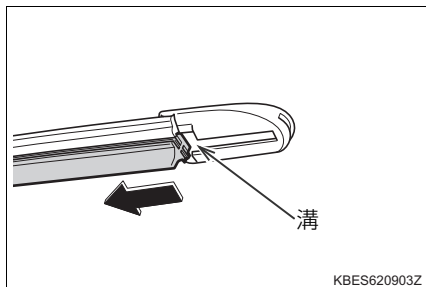


- ② 取り付けるときは、逆の手順で取り付ける

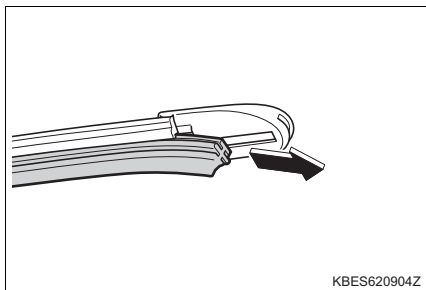
起こしたワイパーアームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。

■ フロントワイパーゴムの交換

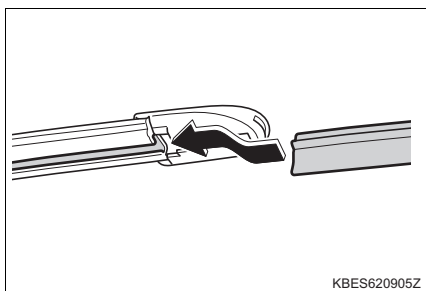
- 1 ワイパーゴムをワイパーブレードの溝が見える位置まで引っ張る



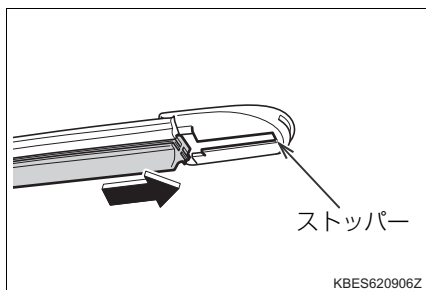
- 2 ワイパーゴムをワイパーブレードの溝から引き抜く



- 3 取り付けるときは、ワイパーゴムをワイパーブレードの溝から挿入する



- 4 ワイパーゴムをすべて挿入したあと、ワイパーブレードのストッパーに当たるまでワイパーゴムを引いて確実に固定する



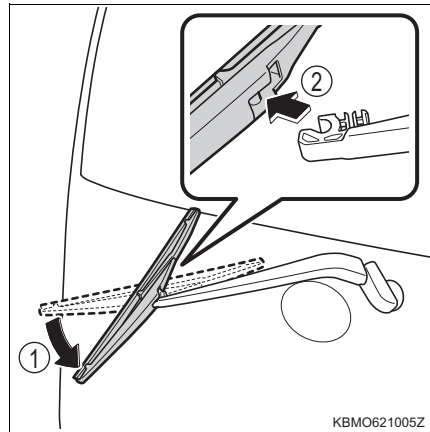
リヤワイパー

■ リヤワイパーブレードの脱着

- ① ワイパーアームを起こし、ワイパーブレードを取り外す

① ツメのかん合が外れる位置までワイパーブレードを回す

② ワイパーアームからワイパーブレードを取り外す

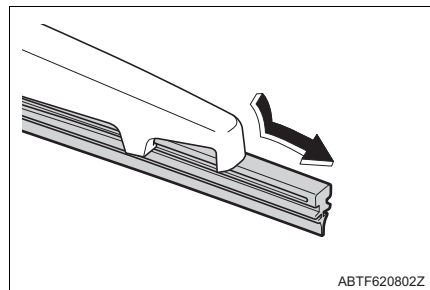


- ② ワイパーブレードを取り付けるときは ① と逆の手順で取り付ける

起こしたワイパーアームを戻すときは、手を添えながらゆっくりと戻してください。ワイパーブレードを取り付けたあとは、接続部が確実にロックされていることを確認してください。

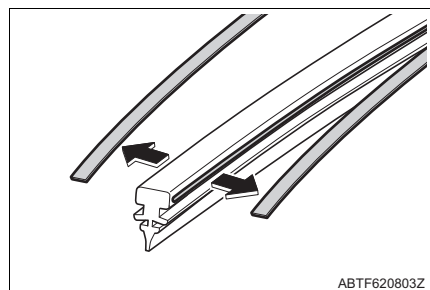
■ リヤワイパーゴムの交換

- ① ワイパーブレードのストッパーからワイパーゴムを引き出し、そのまま引き抜く

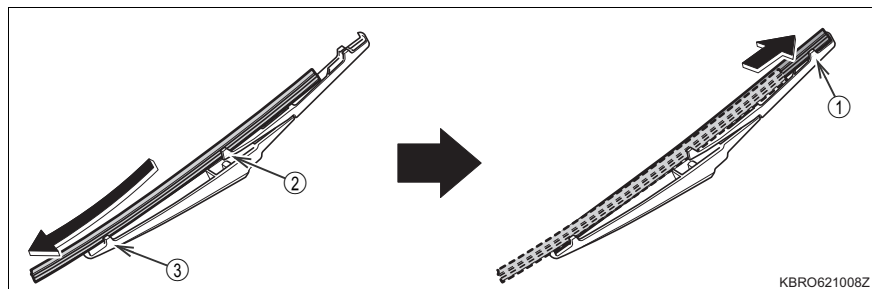


- ② 古いワイパーゴムから金属プレート 2 枚を取り外し、新しいワイパーゴムに付け替える

金属プレートの反りの向きに注意して取り付けてください。

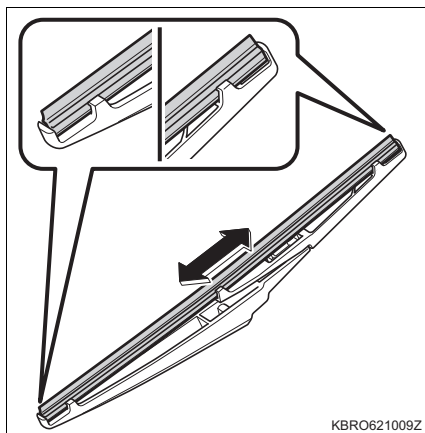


- ③ ワイパーブレードの②のツメを通してワイパーゴムを挿入し、③のツメに通したらストッパーからはみ出させ、残った①のツメに通すワイパーゴムにウォッシャー液を少量塗布すると、溝に入れやすくなります。



- ④ ワイパーブレードのツメがワイパーゴムの溝に入っているか確認する

- ワイパーゴムの溝にワイパーブレードのツメが入っていない場合は、ワイパーゴムをつまみ、数回スライドすると溝に入れることができます。
- ワイパーゴムの中央部を軽く持ち上げると、スライドさせやすくなります。



 知識

■ ワイパーブレード・ワイパーゴムの取り扱いについて

誤った取り扱いをすると、ワイパーブレード、またはワイパーゴムが損傷するおそれがあります。ご自身でのワイパーブレード・ワイパーゴムの交換に不安がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

 注意

- ワイパーブレードの部分だけを持って起こすと、ブレードが変形するおそれがあります。必ずワイパーアームの部分を持って起こしてください。
- ワイパーを交換するときはツメの破損に注意してください。
- ワイパーアームからワイパーブレードを取り外したあとはウインドウガラスが傷付かないように、ウインドウガラスとワイパーアームの間に布などを挟んでください。
- 無理にワイパーゴムを引き出したり、ワイパーゴムの金属プレートが変形しないようにしてください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

用意するもの

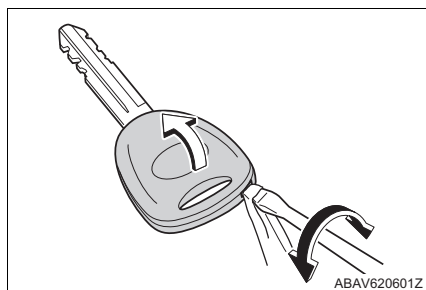
- 薄刃のマイナスドライバーなど（くぼみに入る程度の幅のもの）
- エマージェンシーキー（キーフリーシステム装着車）
- リチウム電池 CR2032

電池交換のしかた

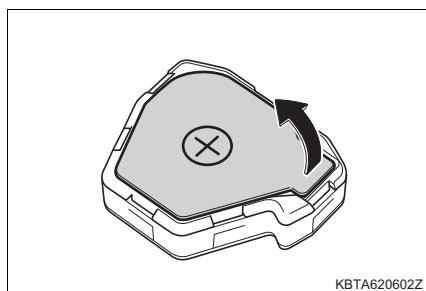
▶キーフリーシステム非装着車

1 カバーを外す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

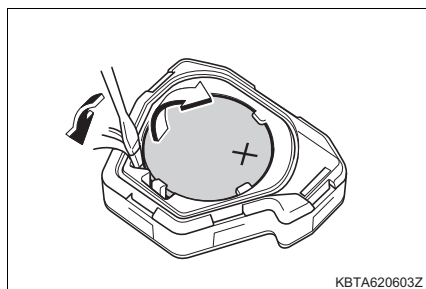


2 モジュール裏側のゴムカバーを外す



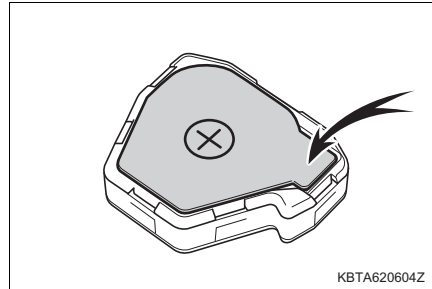
3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。



4 モジュールにゴムカバーを取り付ける

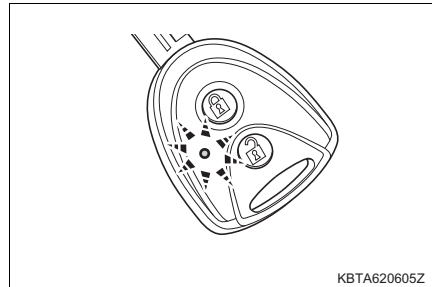
ゴムカバーをはめ込むときは、突起部からはめ込み、全体を均等に押さえてください。ゴムカバーが確実にはめ込まれていないと、水、ほこりなどが入り、故障の原因になるおそれがあります。



KBTA620604Z

5 カバーを取り付ける

スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認してください。



KBTA620605Z

▶キーフリーシステム装着車

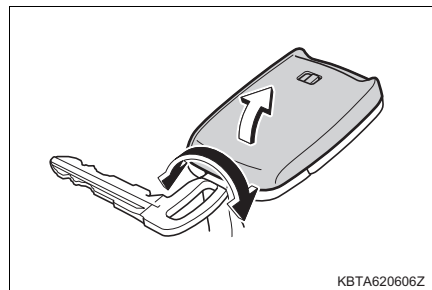
1 エマージェンシーキーを取り出す (→ P. 81)

2 カバーを外す

ダイハツマーク側を下にして外してください。

エマージェンシーキーをしっかりと奥まで差し込んでください。

傷が付くのを防ぐため、エマージェンシーキーに布などを巻いて保護してください。



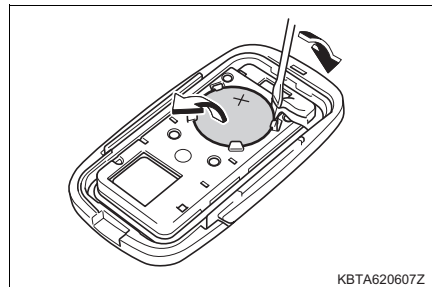
KBTA620606Z

3 消耗した電池を取り出す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。

カバーを外したときに、上側のカバーに電子カードキーのモジュール（基板）が貼り付き、電池面が隠れている場合があります。この場合、電子カードキーのモジュール（基板）をひっくり返し、図のように電池が見える状態で作業してください。

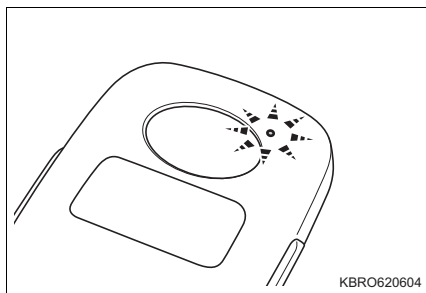
新しい電池は + 極を上にして取り付けます。



KBTA620607Z

4 カバーを取り付ける

スイッチを押したとき、インジケーターが点滅することを確認する



KBRO620604

知識

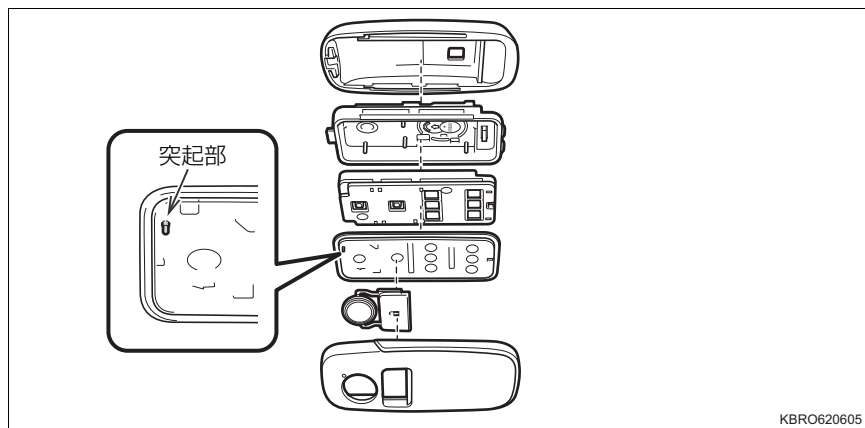
■ 電池の交換について

誤った取り扱いをすると、キーが損傷するおそれがあります。ご自身での電池の交換に不安がある場合は、ダイハツサービス工場にご相談ください。

■ 電子カードキー★の部品がばらばらになったときは

図を参考に組み付けてください。

組み付けるときは、突起部を下に向けてください。



KBRO620605

■ リチウム電池 CR2032 の入手

電池はダイハツサービス工場・時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ 電子カードキー★の電池が消耗していると

次のような状態になります。

- キーフリーシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる
- インジケーターが点滅しない

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告**■ ワイヤレスキー★、または電子カードキー★の電池について**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- ワイヤレスキー★、または電子カードキー★にはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取り外した電池は、お子さまに触れさせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■ 電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

⚠ 注意**■ 電池交換の留意事項**

電池交換をする場合は、必ず体や衣類に帯電している静電気を放電してください。静電気により、キーが損傷するおそれがあります。静電気を放電する場合は、静電気が除去できるものをあらかじめ用意しておくか、金属部分などに手を触れてください。

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

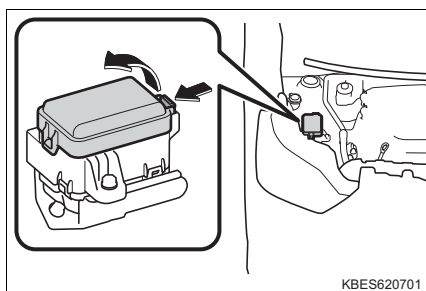
ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

- ① エンジンスイッチを“OFF”にする
- ② ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

(ヒューズボックス A)

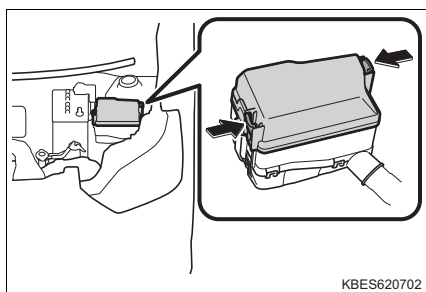
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



▶ エンジンルーム

(ヒューズボックス B)

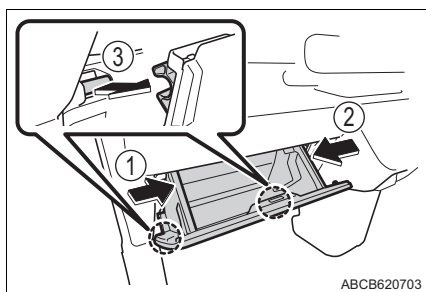
ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



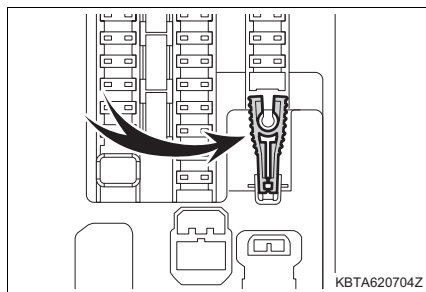
▶ 助手席足元

グローブボックスを外す

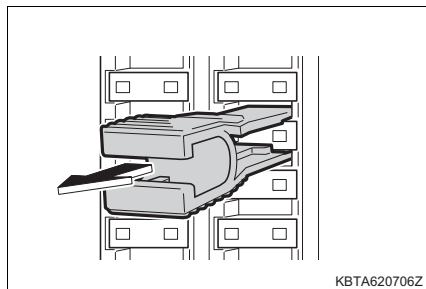
- ① 左側面を内側に押して上部のツメを外す
- ② 右側面を内側に押して上部のツメを外す
- ③ 下部のツメを外す



- ③ ヒューズ外しを助手席足元のヒューズボックスから取り出す



- ④ ヒューズをヒューズ外しで挟んで外す



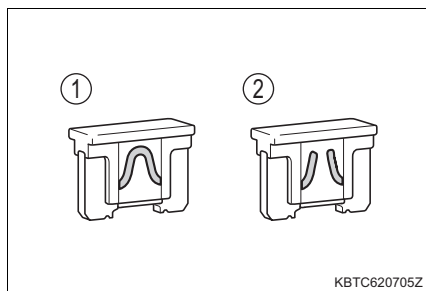
- ⑤ ヒューズが切れていないか点検する

① 正常

他に原因が考えられます。ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

② ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



- ⑥ 取り付けるときは、取り外したときと逆の手順で取り付ける

 知識**■ ヒューズを交換したあとは**

- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
(→ P. 307)
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合、または電気系統の装置が動かない場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているダイハツ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のダイハツ純正品以外は使用できない場合があります。

 警告**■ お車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、お車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずダイハツ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

 注意**■ ヒューズを交換する前に**

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

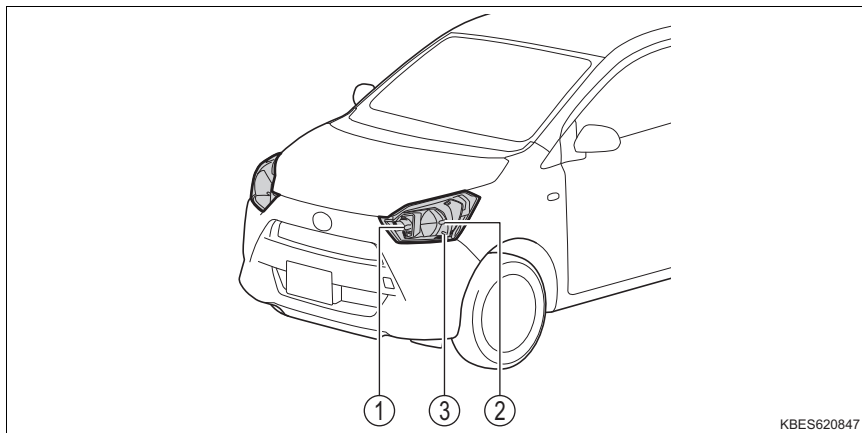
次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。部品が破損するおそれがあるので、ダイハツサービス工場で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→ P. 372）

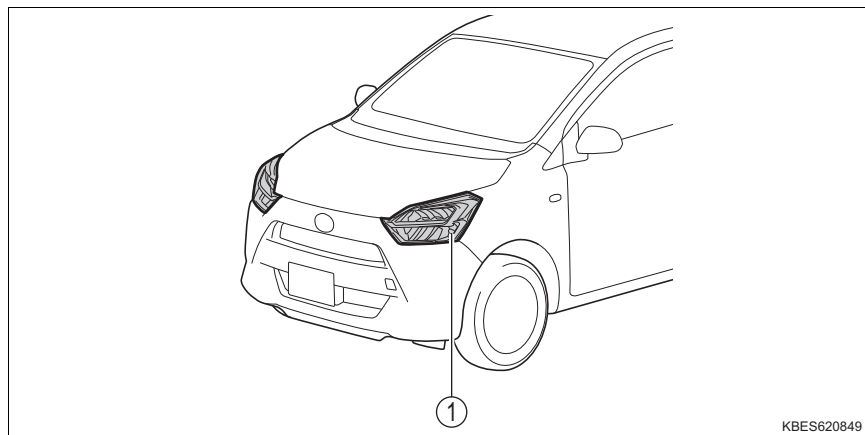
バルブ位置

■ フロント（ハロゲンヘッドランプ装着車）



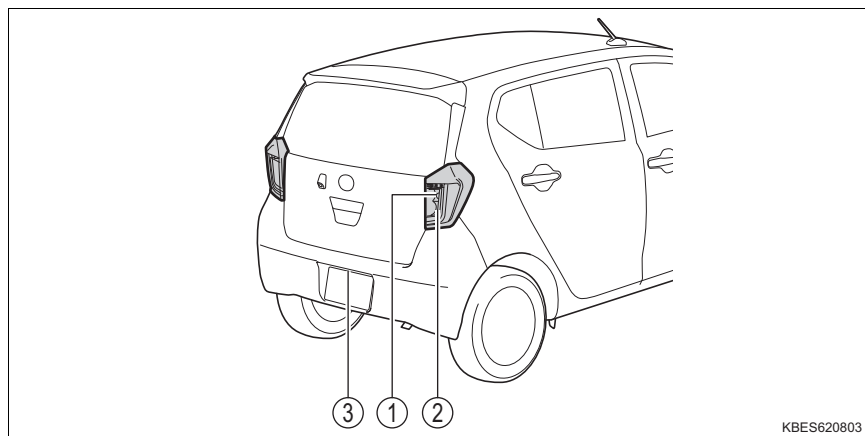
- ① フロント方向指示／非常点滅灯
- ② ヘッドランプハイビーム／ロービーム
- ③ 車幅灯

■ フロント (LED ヘッドランプ装着車)



① フロント方向指示／非常点滅灯

■ リヤ



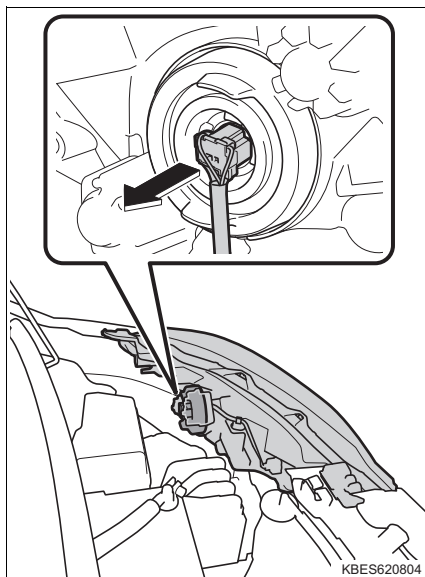
① リヤ方向指示／非常点滅灯

② 後退灯

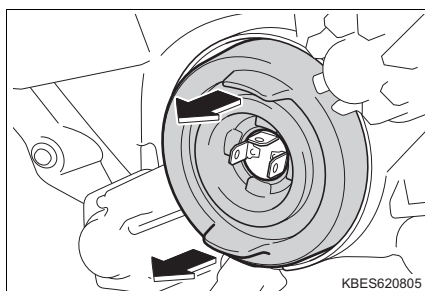
③ 番号灯

電球交換のしかた**■ ヘッドランプハイビーム／ロービーム（ハロゲンヘッドランプ装着車）**

- 1 ボンネットを開けて、コネクターを取り外す

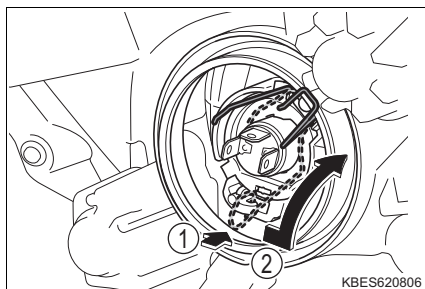


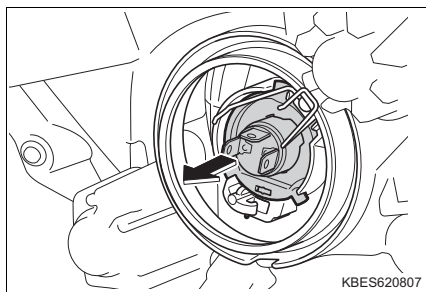
- 2 ゴムカバーを取り外す



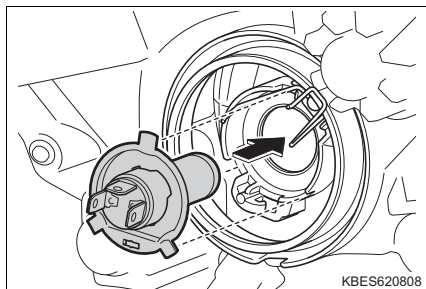
- 3 留め金を外す

- ① 留め金を押してフックから外す
- ② 留め金を起こす



4 電球を取り外す**5** 電球を交換し取り付ける

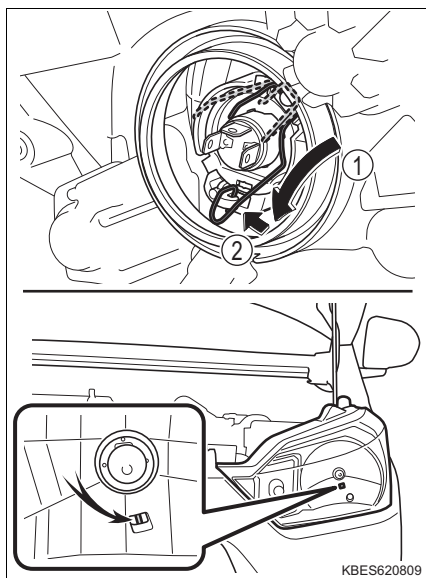
取り付け部と電球のツメ（3 か所）を合わせて差し込み、固定します。

**6** 留め金を取り付ける

- ① 留め金を倒す
- ② 留め金を押しフックにひっかけて固定する

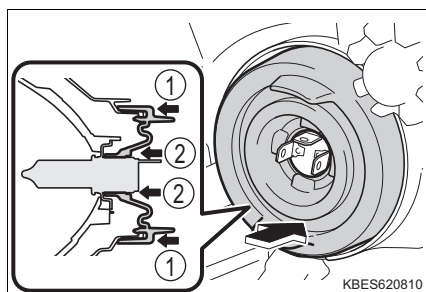
バルブの固定状態は、車両前側のレンズ面からも確認できます。

確実に固定されている場合は、留め金が見えます。

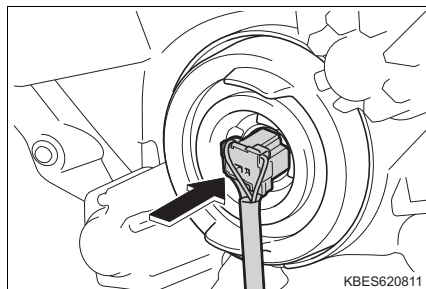


7 ゴムカバーを取り付ける

- ① ゴムカバーの外周をしっかりとめ込む
- ② ゴムカバーの内周（電球まわり）を全周にわたり電球の金属部分が確認できるまで押し込む

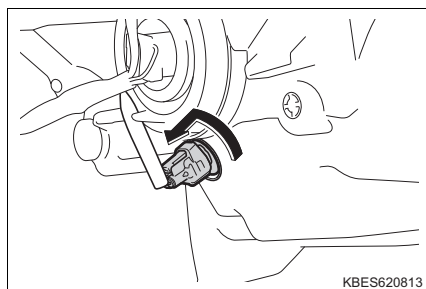


8 コネクターを取り付ける

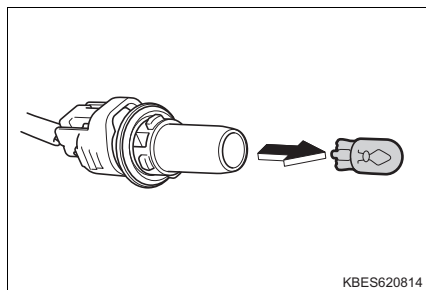


■ 車幅灯（ハロゲンヘッドランプ装着車）

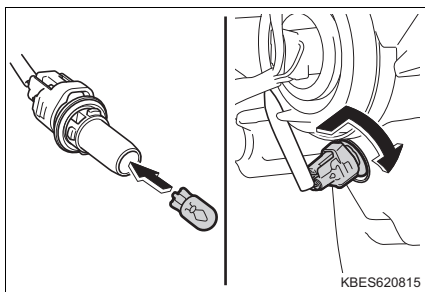
- 1 ボンネットを開ける
- 2 ソケットを回して取り外す



3 電球を取り外す

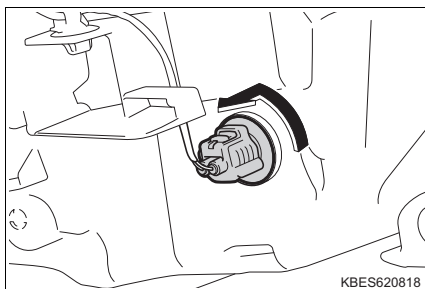


- 4 新しい電球を取り付け、ソケットを回して取り付ける

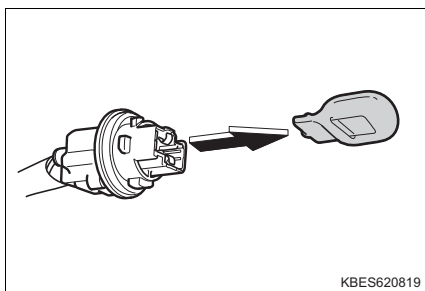


■ フロント方向指示／非常点滅灯

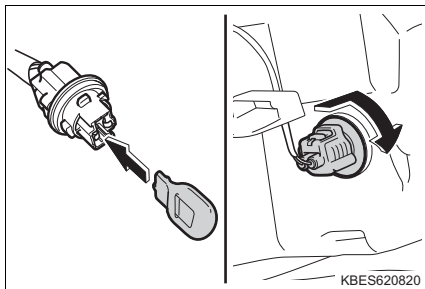
- 1 ボンネットを開ける
- 2 ソケットを回して取り外す



- 3 電球を取り外す

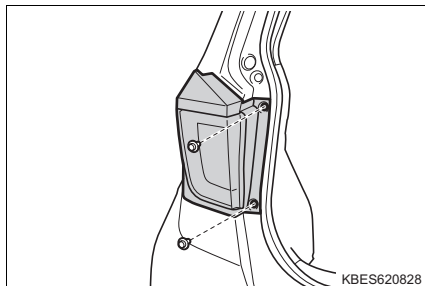


- 4 新しい電球を取り付け、ソケットを回して取り付ける



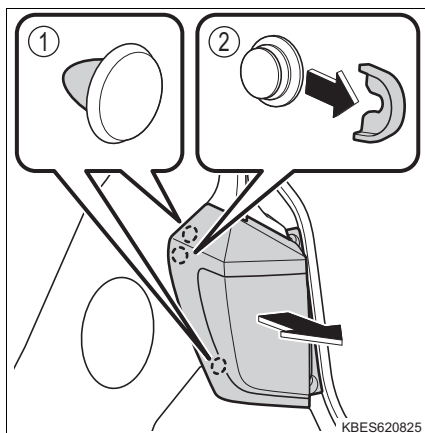
■ 後退灯・リヤ方向指示／非常点滅灯

- 1 バックドアを開けて、ボルト
(2本)を外す



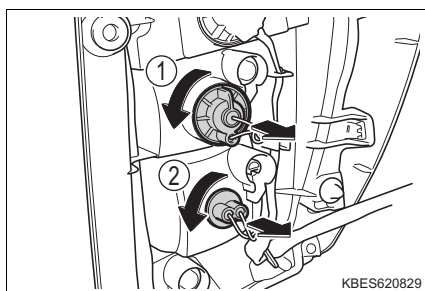
- 2 ランプ本体をまっすぐ後方に引き、内部にあるかん合を外す

- ① クリップ
- ② ガイド



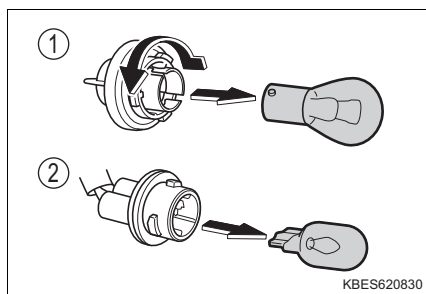
- 3 ソケットを取り外す

- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯

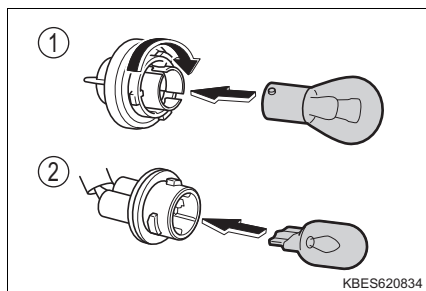


4 電球を取り外す

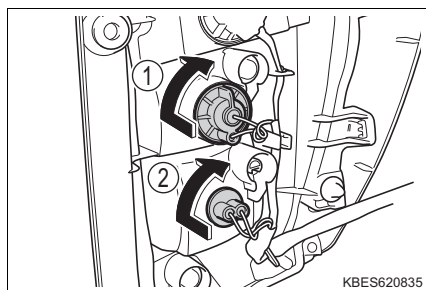
- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯

**5** 電球を交換し取り付け

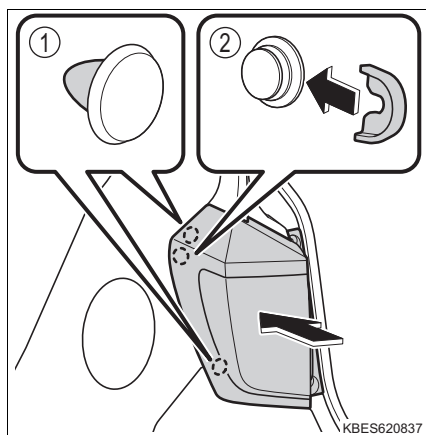
- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯

**6** ソケットを取り付ける

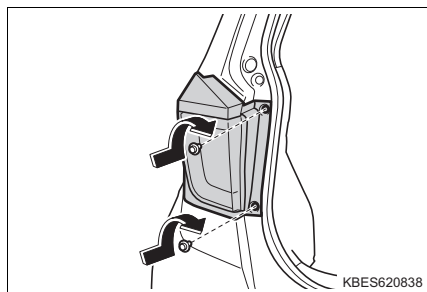
- ① リヤ方向指示／非常点滅灯
- ② 後退灯

**7** ランプ本体を取り付ける

ランプ本体側のクリップ (①) と車両側の穴の位置を合わせ、ガイド (②) がはまるようにランプ本体をまっすぐ押し込んでください。

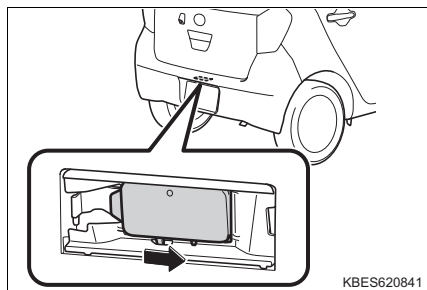


8 ボルト（2 本）を取り付ける

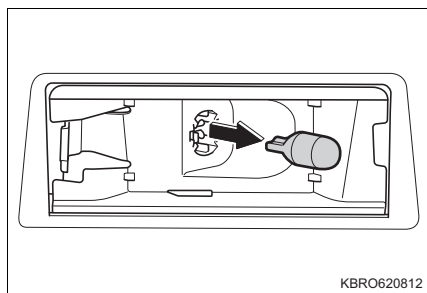


■ 番号灯

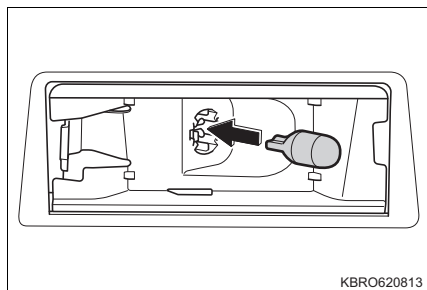
1 レンズをスライドして取り外す



2 電球を取り外す

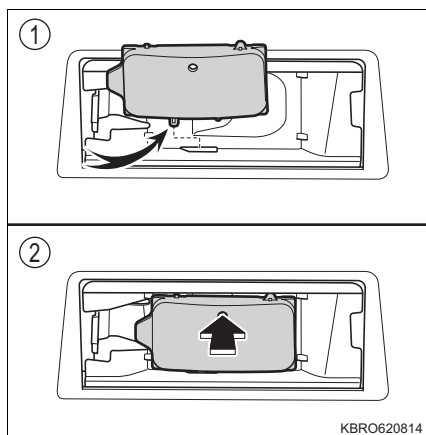


3 新しい電球を取り付ける



4 レンズを取り付ける

レンズの突起部をランプ本体の溝に入れ (①)、矢印の方向に押して (②) 取り付ける



■ その他の電球

次の電球が切れたときは、ダイハツサービス工場で交換してください。

- ヘッドランプハイビーム／ロービーム (LED ヘッドランプ装着車)
- 車幅灯 (LED ヘッドランプ装着車)
- サイド方向指示／非常点滅灯
- 制動灯／尾灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、ダイハツサービス工場にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■ 電球 (バルブ) を交換するとき

→ P. 306

⚠ 警告

■ 電球を交換するときは

- ランプは消灯してください。消灯直後は電球が高温になっているため、交換しないでください。
やけど・感電をするおそれがあり危険です。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。
また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、またはランプ内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球・ソケット・電気回路および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

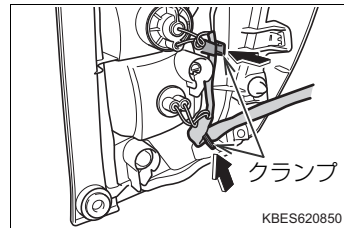
■ お車の故障や火災を防ぐために

- 電球が正しい位置にしっかり取り付けられていることを確認ください。
- 発熱による損傷を防ぐため、バルブを取り付ける前にバルブのワット数を確認してください。

⚠ 注意

■ 後退灯・リヤ方向指示／非常点滅灯の電球交換について

ランプ本体を取り付けるときは、必ず配線のテーピング部を目印にしてクランプに取り付けてください。クランプに取り付けていないと配線が車体に挟み込まれ、損傷するおそれがあります。



万ーの場合には

7

7-1. まず初めに

故障したときは	320
非常点滅灯 (ハザードランプ)	321
発炎筒	322
車両を緊急停止するには	324
水没・冠水したときは	326
車中泊が必要なときは	327

7-2. 緊急時の対処法

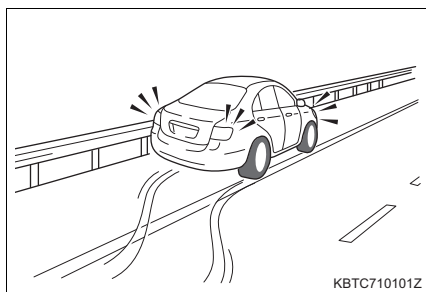
けん引について	328
フューエルポンプ シャットオフシステム	334
警告灯がついたときは	335
「スマアシ停止」が 表示されたときは	342
パンクしたときは	344
エンジンが かからないときは	356
電子カードキーが 正常に働かないときは (キーフリーシステム 装着車)	357
バッテリーが あがったときは	359
オーバーヒート したときは	363
スタックしたときは	366

故障したときは

故障のときはただちに次の指示に従ってください。

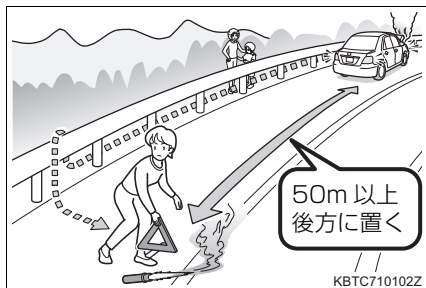
非常点滅灯（→ P. 321）を点滅させながら、お車を路肩に寄せ停車する。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

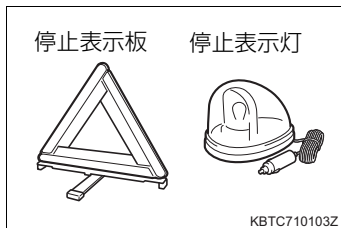
- 同乗者を避難させる
- 車両の 50m 以上後方に発炎筒（→ P. 322）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する
 - ・見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・発炎筒は、燃料漏れの際やトンネル内では使用しないでください。
- その後、ガードレールの外側などに避難する



知識

■停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板のご購入については、ダイハツサービス工場にお問い合わせください。



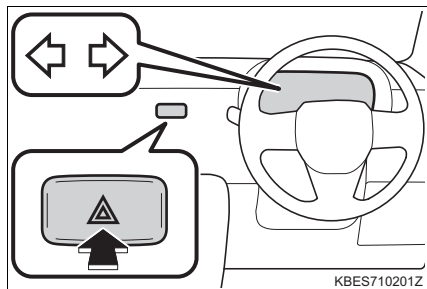
非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。

再度押すと消灯します。



⚠ 注意

■ 非常点滅灯について

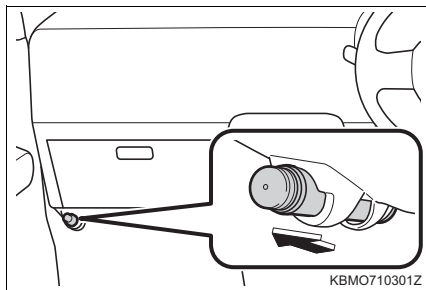
エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

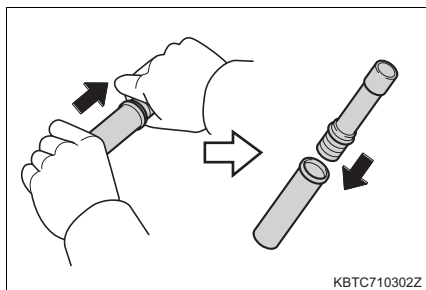
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
(トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください)

発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

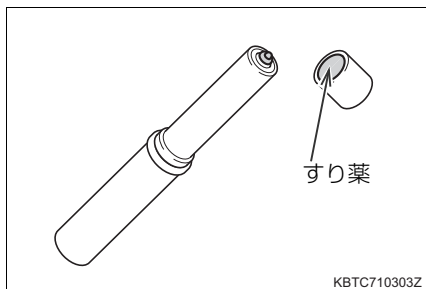
- ❶ 助手席足元の発炎筒を取り出す



- ❷ 本体を回しながら抜き、本体を逆さにして差し込む



- ❸ 先端のふたを取り、すり薬で発炎筒の先端をこすり、着火させる
必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。



知識

■ 発炎筒の有効期限

本体に表示してある有効期限が切れる前に、ダイハツサービス工場でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

 警告**■ 発炎筒を使用してはいけない場所**

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまに触れさせない

車両を緊急停止するには

万一、お車が止まらなくなったときの非常時のみ、次の手順で車両を停止させてください。

1 ブレーキペダルを両足でしっかり踏み続ける

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトレバーを N に入れる

▶シフトレバーが N に入った場合

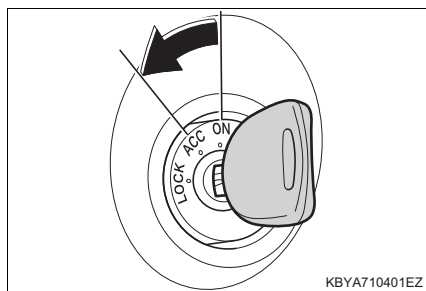
3 減速後、お車を安全な道路脇に停める

4 エンジンを停止する

▶シフトレバーが N に入らない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 キーフリーシステム非装着車：エンジンスイッチを“ACC”にして、エンジンを停止する



キーフリーシステム装着車：エンジンスイッチを3秒以上長押しするか、素早く3回以上連続で押してエンジンを停止する



5 お車を安全な道路脇に停める

 警告**■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき**

- ブレーキの効きが悪くなるとともにハンドル操作が重くなるため、お車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。
- キーフリーシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドアの高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。



知識

■ 水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、エンジンが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。

この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはダイハツサービス工場にお問い合わせください。



警告

■ 走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

車中泊が必要なときは

警告

車中泊としてお車をご利用になる場合は、エコノミークラス症候群や熱中症、一酸化炭素中毒などのリスクを伴うため十分注意してください。

けん引について

けん引は、できるだけダイハツサービス工場または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

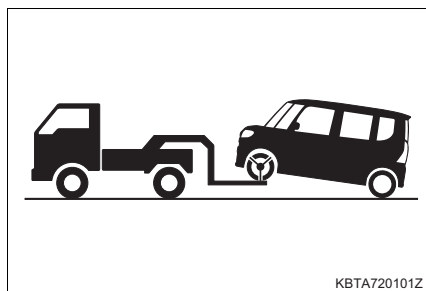
けん引の前にダイハツサービス工場への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、ダイハツサービス工場または専門業者へご連絡ください。

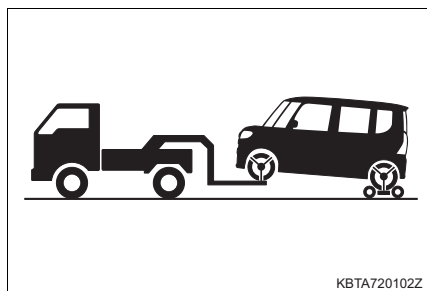
- エンジンはかかるがお車が動かない
- 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

- ▶ 前向きにけん引するときは(2WD車) ▶ 前向きにけん引するときは(4WD車)

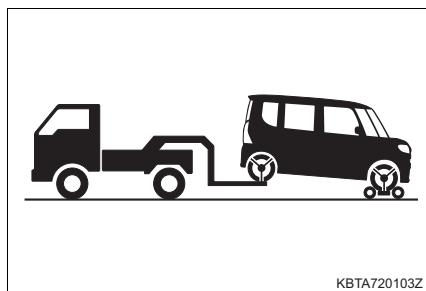


パーキングブレーキを解除する



台車を使用して後輪を持ち上げる

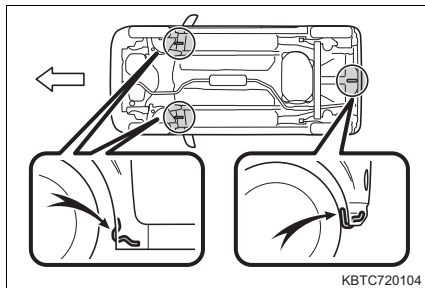
- ▶ 後ろ向きにけん引するときは



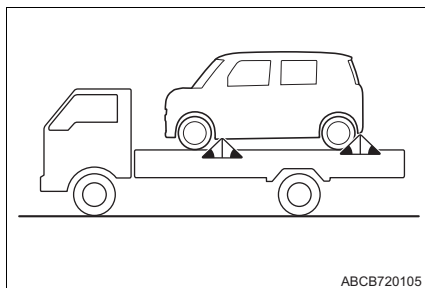
台車を使用して前輪を持ち上げる

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が目安で 45° になるように固縛する



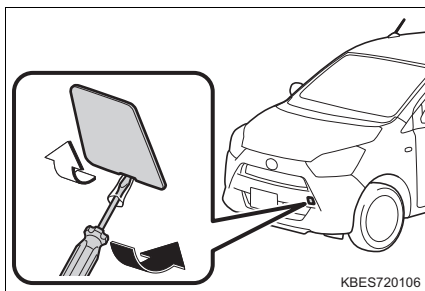
他車にけん引してもらうとき

① けん引フックを取り出す (→ P. 285)

② けん引フックを取り付ける

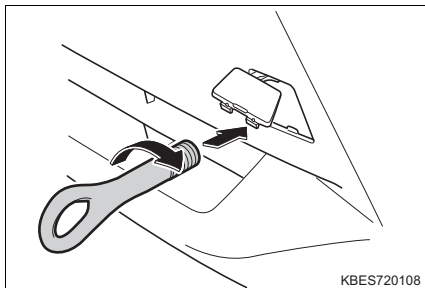
マイナスドライバーなどを使って
ふたを外す

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーなどの先端に布などを巻いて保護してください。



KBES720106

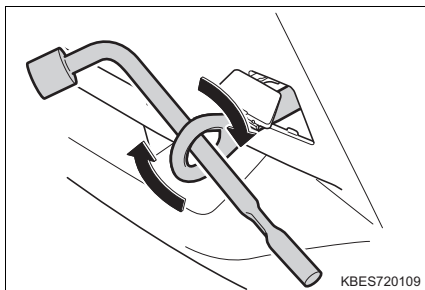
けん引フックを穴に差し込んで回し、軽く締める



KBES720108

ホイールナットレンチ※ や金属の
固い棒などを使い確実に取り付け
る

※ ダイハツサービス工場で購入する
ことができます。



KBES720109

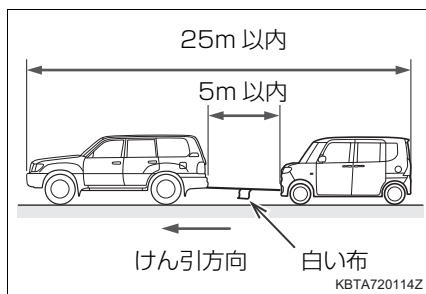
③ 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

4 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



5 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ON”にしてください。

6 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→ P. 143

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

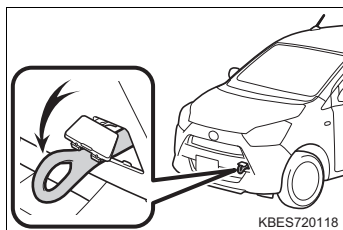
■ホイールナットレンチについて

ダイハツサービス工場で購入することができます。

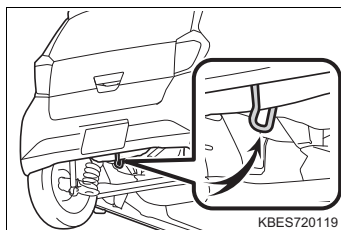
■輸送用フックについて

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するためのものです。また、リヤ側のフックで他車に引っ張り出してもらったり、他車をけん引することはできません。

▶ フロント



▶ リヤ



知識

■けん引が終わったら

けん引フックを取り外し、カバーを確実に取り付けてください。

警告

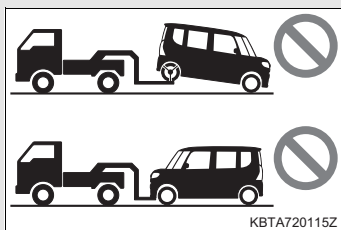
次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

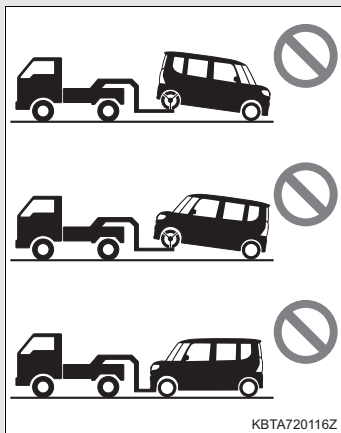
▶2WD 車

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶4WD 車

4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したりお車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- キーフリーシステム非装着車: エンジンスイッチを“OFF”にしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。
- 他車をけん引する能力はありません。車体のいずれかにロープをかけるなどのけん引はしないでください。

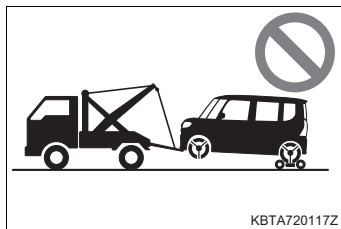
⚠ 警告**■けん引フックを車両に取り付けるとき**

指定の位置にしっかり取り付けてください。

指定の位置にしっかり取り付けていないと、けん引時にフックが外れるおそれがあります。

⚠ 注意**■レッカー車でけん引するとき**

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

**■車両運搬車にお車を固縛するとき**

ケーブルなどを過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

■車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度は 30km/h 以下、距離 50km 以内でけん引する
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（2WD 車）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■輸送用フックについて

輸送用フックで他車をけん引したり、リヤ側のフックで他車に引っ張り出してもらったりしないでください。装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

フューエルポンプシャットオフシステム

外部から強い衝撃を受けてエンジンが停止してしまった場合、フューエルポンプシャットオフシステムが作動している可能性があります。フューエルポンプシャットオフシステムはエンジンへの燃料の供給を停止させることにより火災などの二次災害を防止する装置です。

システム作動後にエンジンを再始動するには

- 1 エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”にする
- 2 エンジンを再始動する

警告

■ エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。

地面に燃料漏れを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザー一覧

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	ブレーキ警告灯（警告ブザー※¹） ・ブレーキ液の不足 ・ブレーキ系統の異常 →ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。走行を続けると危険です。
	充電警告灯 充電系統の異常 →ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常 →ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
 （赤色点滅または点灯）	高水温警告灯（警告ブザー） エンジン冷却水温の異常 （水温の上昇に伴い、点滅から点灯に変わります。→ P. 363） →ただちに安全な場所に停車し、ダイハツサービス工場へ連絡してください。
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 →ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	CVT 警告灯 CVT 電子制御システムの異常 →ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・ SRS エアバッグシステムの異常 ・ シートベルトプリテンショナー & フォースリミッターの異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
	ABS 警告灯 ABS の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (赤色)	パワーステアリング警告灯 (警告ブザー) EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常 → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
※2  (黄色)	パワーステアリング警告灯 (警告ブザー) 電圧不足・パワーステアリングのオーバーヒート → ハンドル操作が重くなりますので、しばらくハンドル操作を控えてください。約 10 分経過すると通常の重さに戻ります。
	キーフリー警告灯★ キーフリーシステムの異常 (キーフリー警告灯が点滅したときは→ P. 340) → ただちにダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (黄色)	AHB 警告灯 AHB の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点滅)  (点滅)  ※3 スマアシ故障	スマートアシスト OFF 表示灯 車線逸脱警報 OFF 表示灯 マスターウォーニング スマートアシスト故障警告灯 スマートアシストの一部機能の異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
 (点灯)  (点灯) 	スマートアシスト OFF 表示灯 車線逸脱警報 OFF 表示灯 スマートアシスト停止警告灯 スマートアシストの機能停止 → 表示された各機能停止コードごとに対処してください。 (→ P. 342)
 	コーナーセンサー表示灯 (警告ブザー) マスターウォーニング コーナーセンサーの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点灯)	スリップ表示灯 ・ ブレーキアシストの異常 ・ VSC システムの異常 ・ TRC システムの異常 (VSC・TRC 作動時は点滅します→ P. 230) ・ ヒルホールドシステムの異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点滅)	eco IDLE OFF 表示灯 ・ eco IDLE システムの異常 ・ スターターの交換時期 (eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 207) → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
※4  (点滅→消灯)	eco IDLE OFF 表示灯 バッテリーの交換時期 (eco IDLE 非作動時は点灯します→ P. 207) → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点滅)	ブレーキオーバーライドシステム警告灯 ブレーキオーバーライドシステム異常 → ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
 (点灯)	ブレーキオーバーライドシステム警告灯 ブレーキオーバーライドシステムの作動時 → アクセルペダルから足を離す

警告灯	警告灯名・警告内容・対処方法
	半ドア警告灯※5（警告ブザー※6） いずれかのドアまたはボンネットが確実に閉まっていない → 全ドアまたはボンネットを閉める
	燃料残量警告灯（警告ブザー） 燃料の残量が 2WD 車は約 4.5L 以下、4WD 車は約 5.5L 以下になった → 燃料を補給する
	運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告灯※8（警告ブザー※7） 運転席・助手席シートベルトの締め忘れ → シートベルトを着用する
 (黄色)	プラスサポート警告灯★ プラスサポートの異常 → ダイハツサービス工場での点検を受けてください。
	急アクセル時加速抑制警告灯（警告ブザー）★ 速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、急アクセル時加速抑制が作動 → アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。
	パーキングブレーキ未解除警告灯（警告ブザー※9） パーキングブレーキがかかっているとき → パーキングブレーキを解除する

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- ※1 ブレーキ液警告ブザー：
警告灯が点灯している状態で、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。ブザーが鳴ったときは、ブレーキ液の不足が考えられます。
- ※2 パワーステアリング警告灯（黄色）：
消灯しない場合、繰り返し点灯する場合はダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- ※3 「スマアシ故障」の表示：
ステレオカメラ、ソナーに異常があると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- ※4 eco IDLE OFF 表示灯：
エンジン始動時に、数秒間点滅します。
- ※5 半ドア警告灯：
開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
- ※6 半ドア走行時警告ブザー：
各ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h を超えたときにブザーが鳴ります。
- ※7 運転席・助手席シートベルト締め忘れ警告ブザー：
運転席・助手席シートベルトを締め忘れたまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを締め忘れたままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。
- ※8 助手席シートベルト締め忘れ警告灯の乗員検知センサー：
助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。
- ※9 パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキをかけたまま、車速が約 5km/h 以上になると警告ブザーが鳴ります。

ただちに処置してください（キーフリーシステム装着車）

それぞれの対処方法に従って処置し、キーフリー警告灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー (車内)	警告灯	警告内容・対処方法
—	 (高速点滅)	キーフリー警告灯 電子カードキーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした → 電子カードキーを携帯する※1
5 回	 (高速点滅)	キーフリー警告灯 エンジンスイッチが“ACC”または“ON”のときにいずれかのドアを開けて、電子カードキーを車外に持ち出し、ドアを閉めた → 電子カードキーを携帯して乗車する
3 回	 (点滅)	キーフリー警告灯 電子カードキーの電池切れが近いときにエンジンスイッチを OFF にした → 新しい電池に交換する※2 (→ P. 300)

※1 電子カードキーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れている可能性があります。(→ P. 300)

※2 電池切れが近い状態を継続すると、エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にしたときも点滅します。

ただちに処置してください

それぞれの対処方法に従って処置し、eco IDLE 表示灯が消灯するのを確認してください。

警告ブザー (車内)	警告灯	警告内容・対処方法
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	eco IDLE 表示灯 eco IDLE によるエンジン停止中に運転席ドアを開けた → 運転席ドアを閉める
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	eco IDLE 表示灯 eco IDLE によるエンジン停止中に運転席シートベルトを外した → 運転席シートベルトを着用する
連続音 (約 5 秒間)	 (高速点滅)	eco IDLE 表示灯 eco IDLE によるエンジン停止中にボンネットを開けた → ボンネットを閉めたあと、シフトレバーを P にして、エンジンスイッチでエンジンを始動する

知識

■ 半ドア警告灯が点灯したときは

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンスイッチを“ACC”または“OFF”でドアを開けたまま約 10 分が経過すると、警告灯が自動で消灯します。

警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかり持ち、通常より強く操作してください。

「スマアシ停止」が表示されたときは

スマートアシストの機能が停止すると、「スマアシ停止」と機能停止コードがディスプレイに表示され、スマートアシスト OFF 表示灯と車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯します。その場合は、次のように対処してください。

機能停止コード一覧

機能停止コード※	警告内容・対処方法
スマアシ 停止 5E	雨、雪、氷、汚れなどがフロントソナー部に付着している → ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰
スマアシ 停止 6E	フロントワイパーを“高速”で作動させている → 原因状態が解消されると復帰
スマアシ 停止 1E	ステレオカメラが視界不良により前方を認識できない → 原因状態が解消されると復帰
スマアシ 停止 12E	ステレオカメラ（車両前側）内が高温になった → 原因状態が解消されると復帰
スマアシ 停止 14E	スマートアシスト初期学習中 → しばらく走行すると復帰
スマアシ 停止 15E	雨、雪、氷、汚れなどがリヤソナー部に付着している → ソナー部を清掃し、原因状態が解消されると復帰
スマアシ 停止 16E	フロントワイパーを“高速”で作動させている → 原因状態が解消されると復帰

※ グレード、オプションなどにより、ディスプレイに表示される文字の配列が異なります。

 知識

■ 機能停止コードについて

- 処置をしても、機能停止コードが表示されたままのときは、システムに異常があるおそれがあります。
通常の走行に支障はありませんが、ダイハツサービス工場で点検を受けてください。
- 「5E」「6E」「15E」「16E」は、車速が上がると消灯します。
- 「5E」「6E」はシフトレバーが P・R・N 以外有的时候に表示します。
- 「11E」はシフトレバーが R 以外有的时候に表示します。
- 「15E」「16E」はシフトレバーが R 有的时候に表示します。
- 「5E」が表示されていても、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。
- 「5E」が表示されていても、スマートアシスト OFF 表示灯および車線逸脱警報 OFF 表示灯が表示されないことがあります。
- 「15E」「16E」が表示されていても、車線逸脱警報 OFF 表示灯が点灯しないことがあります。
- シフトレバーが D・S・B 的時候は、フロントワイパーを“高速”で作動させていても、「6E」、「スマアシ停止」が表示されないことがあります。
- グレード、オプションなどによる装備の有無によっては、表示されない停止コードがあります。

パンクしたときは

この車両には、スペアタイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理セットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。(パンク修理剤ボトル 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です) パンクしたタイヤの損傷状況により、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できない場合があります。(→ P. 345)

タイヤパンク応急修理セットで応急修理したタイヤの修理・交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。タイヤパンク応急修理セットによる応急修理は、一時的な処置です。できるだけ早くタイヤを修理・交換してください。

⚠ 警告

■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。

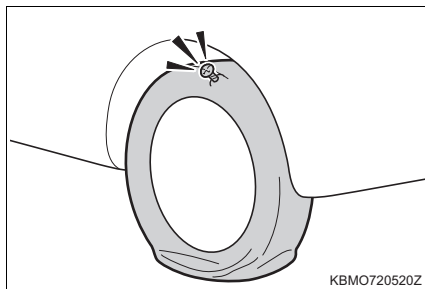
短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなり過ぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク修理剤が漏れないようにするため、パンク箇所がわかっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



知識

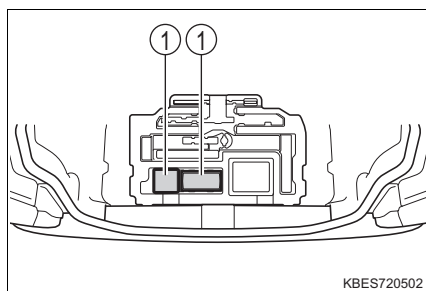
■ タイヤパンク応急修理セットで修理できないパンク

次の場合は、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理できません。ダイハツサービス工場にご連絡ください。

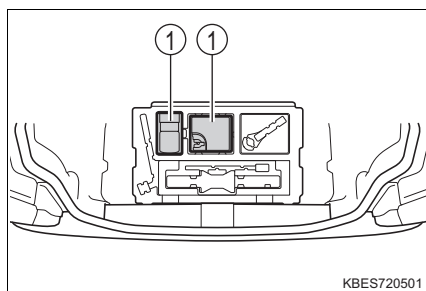
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかに外れているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 か所以上の切り傷や刺し傷があるとき
- パンク修理剤の有効期限が切れているとき

タイヤパンク応急修理セットの搭載位置

▶ 2WD 車

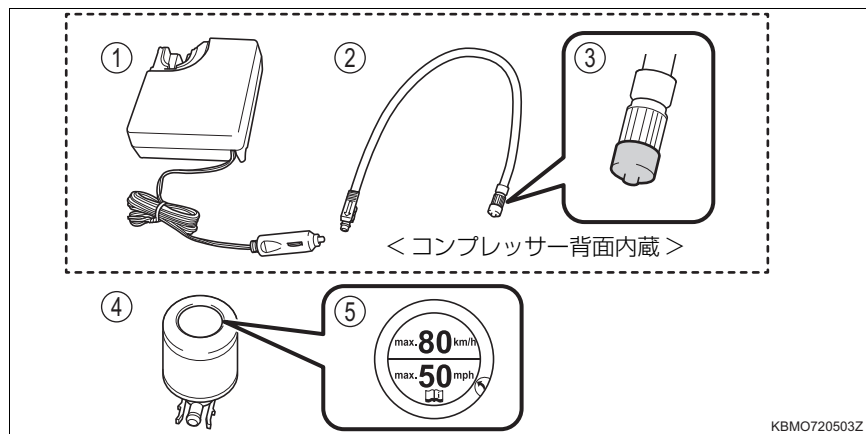


▶ 4WD 車



① タイヤパンク応急修理セット

タイヤパンク応急修理セットの内容／各部の名称



タイヤパンク応急修理セットの取り出し方

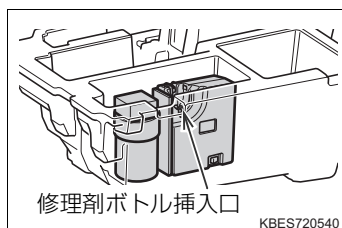
- 1 デッキボードを持ち上げる (→ P. 260)
- 2 タイヤパンク応急修理セットを取り出す

⚠ 注意

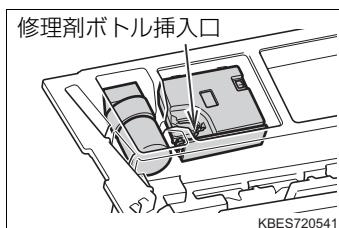
■ タイヤパンク応急修理セットを取り出したときは

- 図のように収納してください。誤った方向で収納すると、ラゲージアンダーボックスに正しく収納することができず、飛び出すおそれがあります。
- 修理剤ボトル挿入口が図の向きになるように注意してコンプレッサーを収納してください。

▶ 2WD 車



▶ 4WD 車

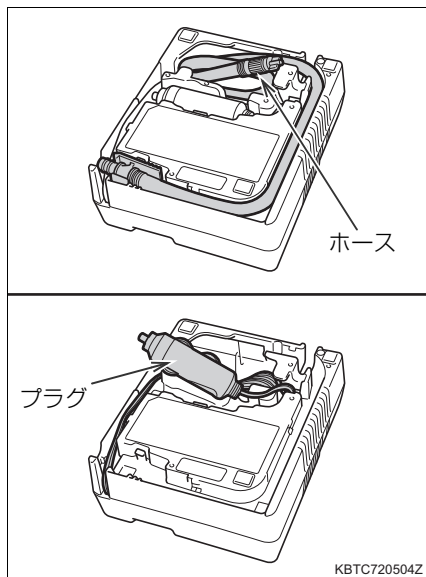


応急修理するとき**1** パンク修理剤ボトルとコンプレッサーを取り出す

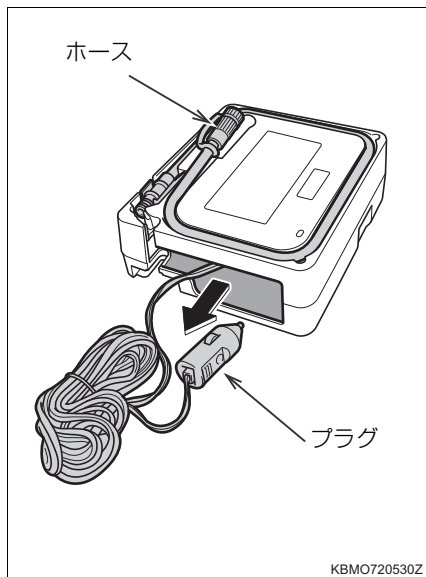
緩衝材が入っている場合は、応急修理後に破棄しないよう注意してください。
(新しく購入したパンク修理剤ボトルには、緩衝材が入っていません)

2 コンプレッサーからホースと電源プラグを取り出す

▶タイプ A

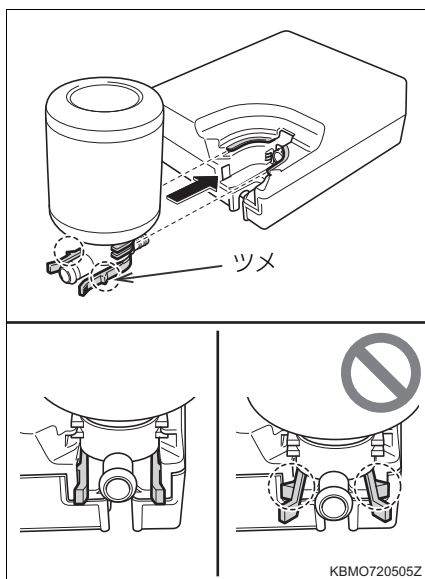


▶タイプ B

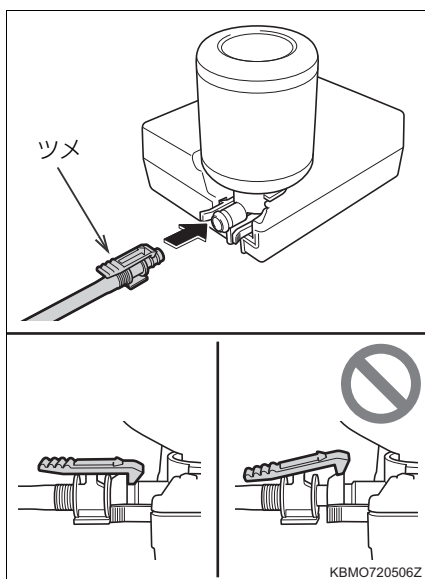
**3** パンク修理剤ボトルをよく振る

パンク修理剤ボトルはホース、およびコンプレッサーに固定する前に振ってください。

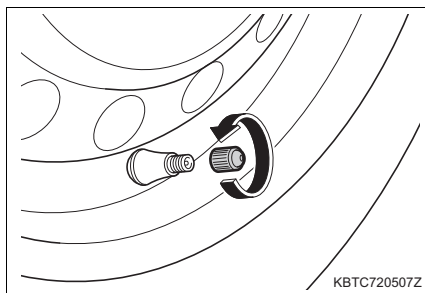
- 4 コンプレッサーにパンク修理剤ボトルを強く押し込み固定する
ボトルのツメが固定されるまで、しっかり押し込んでください。



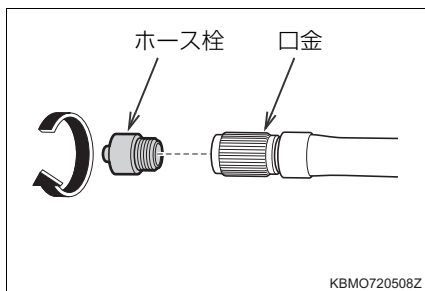
- 5 パンク修理剤ボトルにホースを差し込む
ホースのツメが固定されるまでしっかり差し込んでください。
接続部が確実に固定されていることを確認してください。



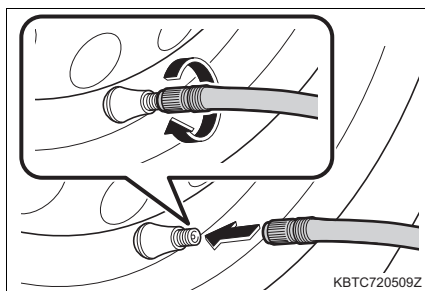
- 6 パンクしたタイヤのバルブキャップを取り外す



- 7 ホースの口金からホース栓を取り外す

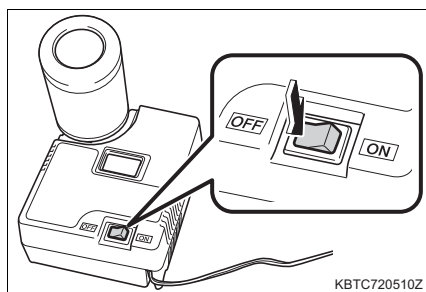


- 8 ホースの口金をパンクしたタイヤのバルブに接続する
ホースの口金を回して最後までしっかりねじ込みます。

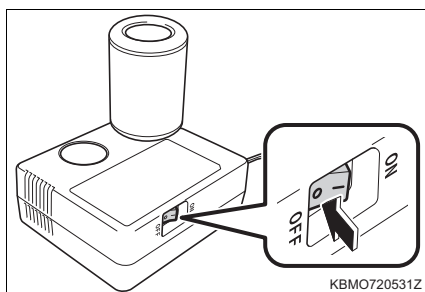


- 9 コンプレッサーの電源が“OFF”になっていることを確認する

▶タイプ A

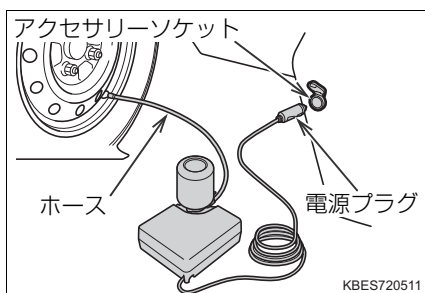


▶タイプ B

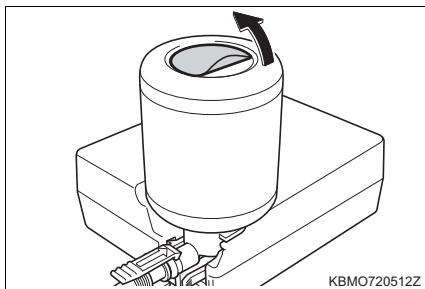


- 10 コンプレッサーの電源プラグを車両のアクセサリースOCKETに差し込む

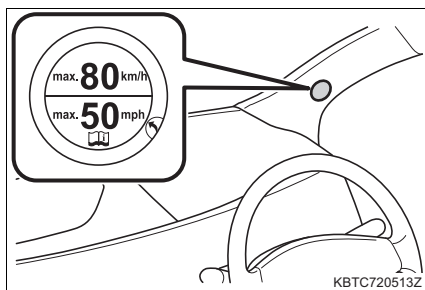
手順 9 までの作業を終えてから、アクセサリースOCKETに差し込んでください。



- 11 パンク修理剤ボトルの速度制限シールをはがす



- 12 速度制限シールを運転者のよく見えるところに貼る



- 13 タイヤの指定空気圧を確認する

タイヤの指定空気圧は、運転席側ドア開口部のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

- 14 エンジンを開始する

- 15 コンプレッサーの電源を“ON”にし、パンク修理剤と空気を充填する

- 16 空気圧ゲージで確認しながら、指定空気圧になるまで昇圧する

- ① コンプレッサーの電源を“ON”にしたあと、しばらくはパンク修理剤を注入するため、一時的に空気圧ゲージが約 300 ～ 400kPa まで上がります。
- ② 1 分程度(低温の場合は 5 分程度)で実際の空気圧表示になります。
- ③ 指定空気圧になるまで昇圧します。

次の場合は、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があるため、タイヤパンク応急修理セットで修理することができません。ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

- ・パンク修理剤が 5 分以内に充填できない
- ・25分以内に指定空気圧まで上がらない

- 17 指定の空気圧まで昇圧できれば、コンプレッサーの電源を“OFF”にする

- 18 アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースの口金を取り外す

ホースの口金を取り外すときにパンク修理剤が漏れることがあります。

- 19 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

- 20 ホースの口金にホース栓を取り付ける

- 21 一旦パンク修理剤ボトル、コンプレッサー、ホースを接続したまま、ラゲージルームに収納する

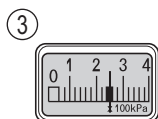
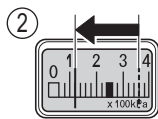
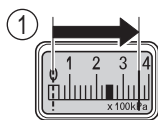
コンプレッサーに取り付けたボトル、ホース、ホース栓は取り外さないでください。取り外すとボトル内に残ったパンク修理剤がこぼれるおそれがあります。

- 22 空気が抜けるのを防ぐため、ただちに走行を開始する

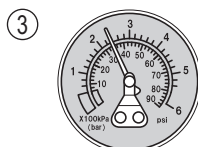
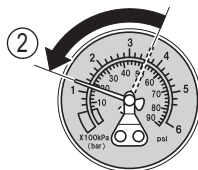
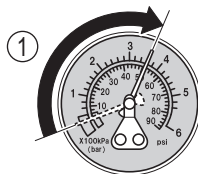
急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下で慎重に運転してください。

- 23 約 5km 程度走行後、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンスイッチを“OFF”にする

タイプ A



タイプ B



KBMO720515Z

[24] タイヤの空気圧を空気圧ゲージで確認する

- ・コンプレッサーを車両に接続する
- ・エンジンを始動する
- ・コンプレッサーの電源を“ON”にして作動させたあと、電源を“OFF”にして空気圧ゲージで確認する

[25] 指定空気圧であれば、パンク応急修理を完了する

- ▶ 空気圧が 130kPa 以上で指定空気圧に満たない場合
手順 [6] ～ [23] を繰り返し行って、指定空気圧まで昇圧してください。
- ▶ 空気圧が 130kPa 以下に低下していた場合
タイヤパンク応急修理セットによる修理はできません。走行を中止し、ダイハツサービス工場、または JAF などにご連絡ください。

[26] 異常がなければ、ただちにダイハツサービス工場まで走行する

- ・急加速・急ブレーキ・急ハンドルを避け、80km/h 以下の車速で慎重に運転してください。
- ・100km 以上の距離を走行しないでください。

**知識****■ 応急修理後のタイヤのバルブについて**

タイヤパンク応急修理セットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ タイヤパンク応急修理セットの点検について

- パンク修理剤の有効期限の確認は定期的に行ってください。
有効期限はパンク修理剤ボトルに表示されています。
- 有効期限が切れたパンク修理剤は使用しないでください。タイヤパンク応急修理セットによる修理が正常にできない場合があります。
- 有効期限が切れる前に交換してください。交換については、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- コンプレッサーの電源プラグをアクセサリソケットに差し込み、エンジンスイッチを“ACC”にして、作動の確認をしてください。

■ タイヤパンク応急修理セットについて

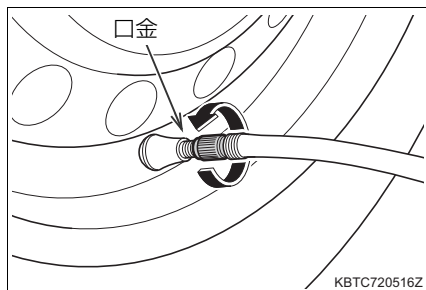
- タイヤパンク応急修理セットは自動車タイヤの空気充填用です。
- タイヤパンク応急修理セットのパンク修理剤ボトルとホースは、1 本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク修理剤ボトルとホースの交換は、ダイハツサービス工場にご相談ください。
- 外気温度が -30℃～60℃のときに使用できます。
- タイヤパンク応急修理セット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

知識

- パンク修理剤が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク修理剤がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などでただちにふき取ってください。
- コンプレッサー作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- コンプレッサーをタイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。
- 新しいパンク修理剤ボトルは、ダイハツサービス工場でご購入ください。

■空気を入れ過ぎてしまったとき

ホースの口金をゆるめて空気を抜いてください。



警告

■タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などにタイヤパンク応急修理セットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- タイヤパンク応急修理セットはお客様のお車専用です。他車には使わないでください。他車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク修理剤について

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

 警告**■パンクしたタイヤを応急修理するとき**

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどには触れないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- コンプレッサーは、長時間作動させると過熱する可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。
- コンプレッサーの使用中に、作動がにぶくなったり、本体が熱くなったりしたときは、ただちに電源を“OFF”にし、30 分以上放置してください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に速度制限シールを貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。また、メーターやウィンドウガラスなど、運転の妨げになるようなところに貼らないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク修理剤を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。
- お車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルを取られたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・タイヤを確認してください。タイヤがホイールから外れている可能性があります。
 - ・空気圧を確認してください。130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

 注意**■ 応急修理をするとき**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。
取り除いてしまうと、タイヤパンク応急修理セットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- タイヤパンク応急修理セットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

■ タイヤパンク応急修理セットについて

- タイヤパンク応急修理セットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- タイヤパンク応急修理セットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- タイヤパンク応急修理セットは砂ぼこりや水を避けて収納してください。
- タイヤパンク応急修理セットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手を触れないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧ゲージなどに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→ P. 135, 138）に従っても、エンジンがかからないときは、次のことを確認してください。

スターターは正常に回っているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込み過ぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→ P. 135, 138）に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステム★に異常がある可能性があります。
（→ P. 54）

スターターがゆっくり回る／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 359）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターが回らない場合（キーフリーシステム装着車）

- 電装品の断線やヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。
（→ P. 357）

スターターが回らない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルが外れている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 359）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンがかからないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電子カードキーが正常に働かないときは (キーフリーシステム装着車)

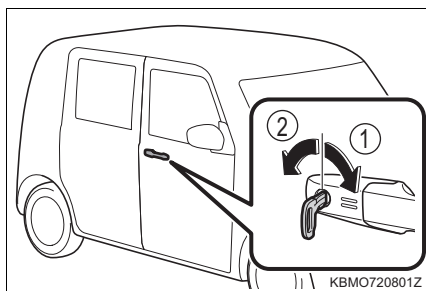
電子カードキーと車両間の通信が妨げられたり(→ P. 87)、電子カードキーの電池が切れたときは、キーフリーシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠

エマージェンシーキー(→ P. 81)を使って次の操作ができます。

- ① 全ドア施錠
- ② 全ドア解錠

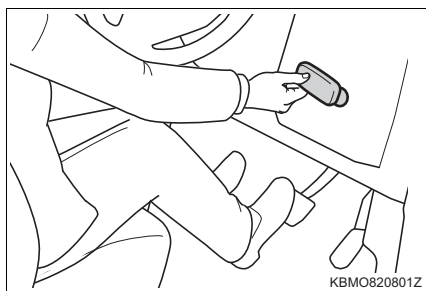
セキュリティアラームがセットされている場合は、セキュリティアラームが作動します。(→ P. 55)



エンジン始動の方法

- ① シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む
- ② 電子カードキーを図のようにエンジンスイッチに接触させる

- エンジンスイッチの表示灯が緑色に点灯します。
- セキュリティアラームの作動が停止します。(→ P. 55)



- ③ エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、ダイハツサービス工場にご連絡ください。

 知識

■ エンジンの停止方法

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にしてエンジンスイッチを押します。

■ 電池交換について

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→ P. 301)

■ エンジンスイッチモードの切り替え

エンジン始動方法の手順 [3](#) で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切り替わります。(→ P. 139)

■ 電子カードキーが正常に働かない場合

電子カードキーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は、解除してください (→ P. 86)

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

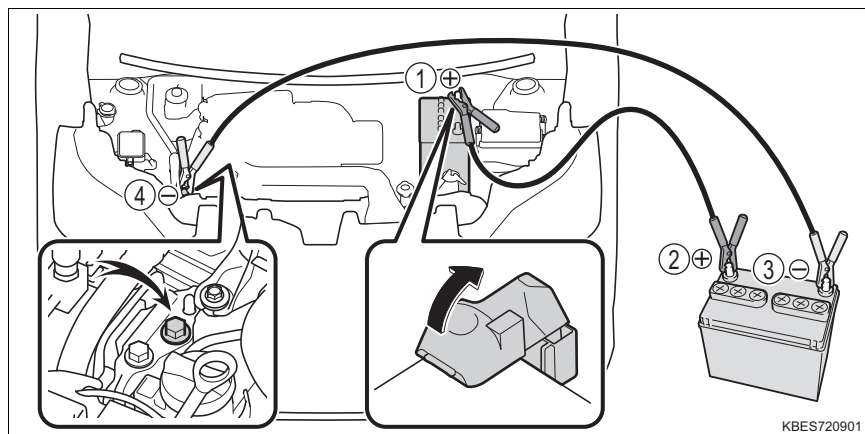
ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、エンジンを始動させることができます。

① バッテリーの + 端子のカバーを開ける

ツメを押しながら開けます。

② ブースターケーブルを次の順につなぐ

- ① 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの + 端子につなぐ
- ② 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの + 端子につなぐ
- ③ 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの - 端子につなぐ
- ④ 黒色のブースターケーブルのもう一方の端を図に示す位置につなぐ
ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所へ届くものを使用してください。



- ③ 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- ④ 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチを一旦“ON”にしてから自車のエンジンをかける
- ⑤ 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順で外す

6 +端子のカバーを閉める

エンジンがかかっても、早めにダイハツサービス工場で点検を受けてください。



知識

■ バッテリーあがりのときの始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはダイハツサービス工場で点検を受けてください。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していない間も、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーあがりのときや取り外し時など（キーフリーシステム装着車）

- バッテリーがあがったあとの、最初のエンジン始動は失敗することがあります。2回目以降のエンジン始動は正常に作動しますので、問題ではありません。
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがりのとき、バッテリー脱着後は、バッテリーを外す前の状態に復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを“OFF”にしてから行ってください。

バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。

 警告**■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

救援車のバッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- +端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない
- バッテリーの液量がバッテリー側面に表示されている下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用または充電をしない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

■ バッテリーを固定する金具やバッテリー端子のナットを外したあとは

確実に締め付けてください。走行中にゆるんで外れると、ショートの原因となり、火災につながるおそれがあり危険です。

■ お車の損傷を防ぐために

車両を押したり、引いたりして始動させないでください。

触媒コンバーターが過熱し、火災の原因になるおそれがあります。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

- エンジンがかかっていないときは、ランプやエアコンの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーを交換するとき

装着されているバッテリーは、eco IDLE 専用品です。

同等の性能のものと交換してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくはダイハツサービス工場にご相談ください。

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリーの端子から直接電装品の電源を取らないでください。eco IDLE によるアイドリングストップが正常に作動しなくなります。

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取り外すときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

■ ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯 (→ P. 335) が赤色に点滅または点灯した
- エンジンの出力が低下した (スピードが出ないなど)
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

■ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

- 1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、エンジンを停止する

- 2 蒸気が出ている場合：

蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける

蒸気が出ていない場合：

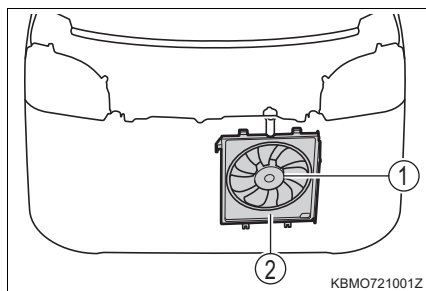
注意してボンネットを開ける

- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部 (放熱部) やホースなどからの冷却水漏れを点検する

① ファン

② ラジエーター

多量の冷却水漏れがある場合は、ただちにダイハツサービス工場に連絡してください。



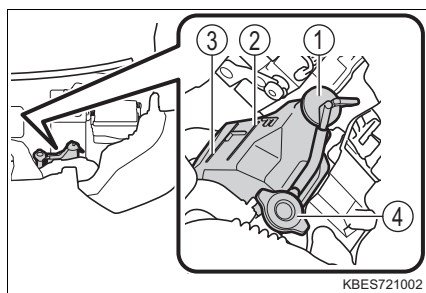
- 4 冷却水の量がリザーバタンクの“F” (上限) と“L” (下限) の間にあるかを点検する

① リザーバタンク

② “F” (上限)

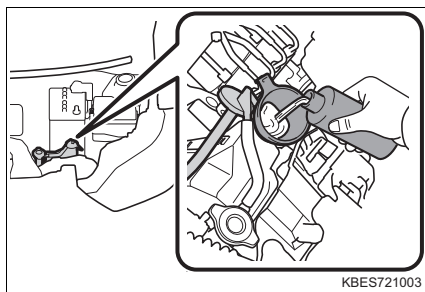
③ “L” (下限)

④ ラジエーターキャップ



- 5 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6 エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水漏れがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF を繰り返してください。

(ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります)

- 7 ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを停止し、ダイハツサービス工場に連絡する

ファンが作動している場合：

最寄りのダイハツサービス工場で点検を受ける

警告

■ 処置を行う前に

水温が高いときは、ラジエーターキャップを外さないでください。冷却水の圧力がラジエーターキャップにかかっているため、蒸気や熱湯が吹き出し、やけどなど重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- エンジンおよびラジエーターが熱い場合はラジエーターキャップおよび冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって吹き出すおそれがあります。

 注意**■ 冷却水を入れるとき**

エンジンが十分に冷えてから入れてください。

冷却水はゆっくり入れてください。

エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水用添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

- ① パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにして、エンジンを停止する
シフトレバーをPにしたあとは、シフトレバーのボタンを押さないでください。
- ② タイヤ前後の土や雪を取り除く
- ③ タイヤの下に木や石などをあてがう
- ④ エンジンを再始動する
- ⑤ シフトレバーをDまたはRに確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む
VSC・TRCの作動で脱出しにくいときは、TRCまたはVSC・TRCを停止してください。(→ P. 230, 231)

警告

■ 脱出するとき

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、お車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。

お車が急発進したり、トランスミッションなどに重要な損傷を与えるなどして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- アクセルペダルを過度に踏んで空ぶかししたり、タイヤを空転させないでください。トランスミッションなどを損傷し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを高速で回転させないでください。タイヤが破裂したり、異常過熱するため思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報**8****8-1. 仕様一覧**

メンテナンスデータ
(指定燃料・
オイル量など) 368

8-2. カスタマイズ機能

カスタマイズ機能一覧 374

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 380

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。
お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものを使用してください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）	
	2WD 車	4WD 車
無鉛レギュラーガソリン 無鉛プレミアムガソリン	28	30

エンジンオイル

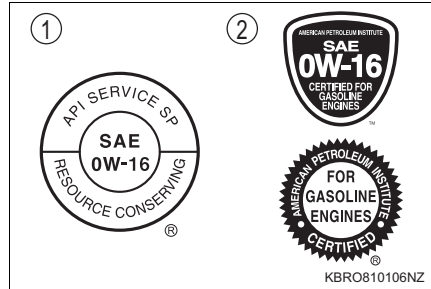
指定銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値※）	
		オイルのみ交換	オイルと オイル フィルター交換
推奨：アミックス EXTRA 0W-16 適合：アミックス EXTRA 0W-20	KF-VE	3.05	3.25

※ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖機後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

■ 指定エンジンオイル

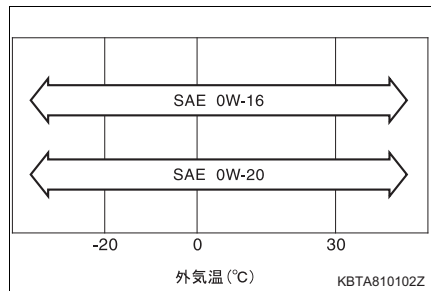
API 規格 SP/RC、SN PLUS/RC、SN/RC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION (イルサックサーティフィケーション) マークがついています。

- ① API マーク
- ② ILSAC CERTIFICATION マーク



■ エンジンオイル推奨粘度

次の図に基づき、外気温に適した粘度のものを使用してください。



オイル粘度について（例として 0W-16 で説明します）：

- 0W-16 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-16 の 16 は、高温時の粘度特性を示しています。
粘度の高い（数値が大きい）オイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

指定銘柄	エンジン	容量 [L] (参考値)
アミックスロングライフクーラント (高防錆力タイプ) 凍結保証温度 濃度 50% - 35℃	KF-VE	3.3

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値※ ¹)
アミックス CVT フルード-DFE※ ² または DC	5.7

※¹ 容量は参考値です。交換が必要な際はダイハツサービス工場にご相談ください。

※² 省燃費性に優れるオイルです。

トランスファー (4WD 車)

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
アミックスディファレンシャル ハイポイドギヤオイル (API GL-5 SAE 80W-90)	0.57

リヤディファレンシャル (4WD 車)

指定銘柄 (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
アミックス ATF D3-SP	0.73

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
アミックスブレーキフルード（DOT3 相当）

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	0.5 ～ 3
踏み込んだときの床板とのすき間※	73.8 以上

※ エンジン回転時に 294 N（30 kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 196N（20kgf）のときのノッチ※ 数	4 ～ 7

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

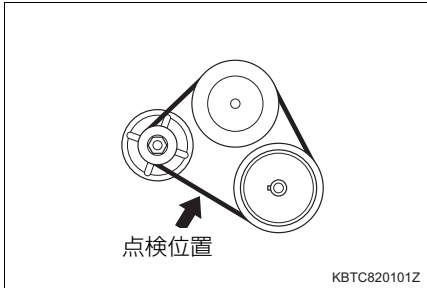
バッテリー

形式
M-42

ウォッシャータンク

容量 [L]（参考値）
1.5

V リブドベルト

項目	エンジン	基準値 [mm]
たわみ量  押力 98N (10kgf) (冷間時)	KF-VE	7.9 ~ 9.7

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ	ホイール サイズ	タイヤが冷えている ときの空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
155/65R14 75S	14×4 1/2J	260 (2.6)	260 (2.6)

電球 (バルブ)

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドランプ (ハロゲンヘッドランプ装着車)	60/55
	車幅灯 (ハロゲンヘッドランプ装着車)	5
	フロント方向指示／非常点滅灯	21
	サイド方向指示／非常点滅灯	5
	リヤ方向指示／非常点滅灯	21
	後退灯	16
	番号灯	5
車内	ルームランプ	8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
LA350S	KF-VE（ガソリン）	FF（前輪駆動）
LA360S	KF-VE（ガソリン）	4WD（4 輪駆動）

カスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてダイハツサービス工場で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更できる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはダイハツサービス工場へお問い合わせください。

カスタマイズ設定一覧

① マルチインフォメーションディスプレイで設定可能 (→ P. 70)

② ダイハツサービス工場で設定可能

■ マルチインフォメーションディスプレイ (→ P. 66)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
平均燃費の給油時リセット	なし	あり	○	—
給油時のトリップメーター A リセット	なし	あり	○	—
アイドリングストップ時間の表示自動切り替え	あり	なし	○	—
時刻の自動補正 (純正ナビゲーションシステム装着車)	あり	なし	○	—
エコドライブインジケータランプ	表示	非表示	○	—
ブザー音量※	小	大	○	—

※一部機能のブザー音量は変更されません。

■ キーフリーシステム★、ワイヤレスドアロック共通 (→ P. 83, 92)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし	○	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	○
		120 秒		
作動の合図 (音量)	レベル 5	OFF	○	○
		レベル 1～7		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ キーフリーシステム★ (→ P. 83)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
キーフリーシステムの作動	あり	なし	—	○
電子カードキーの室外自動検知機能の作動	あり	なし	—	○

■ ドアロック (→ P. 96)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	○
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	なし	あり	○	○
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	あり	なし	○	○
エンジンスイッチを "ACC" または "OFF" にしたときの全ドア解錠 (エンジンスイッチ "OFF" 連動オートドアアンロック)	なし	あり	○	○
電子カードキーを携帯して解錠範囲に入ったときの全ドア解錠 (ウェルカムドアロック解除★)	なし	あり	—	○
ウェルカムドアロック解除★が作動してから 15 秒後に自動再ロック	あり	なし	—	○

■ バックドア (→ P. 103)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
バックドアの右側スイッチ操作による作動	施錠のみ	施錠・解錠	—	○

■ 衝突警報機能 (→ P. 173)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
衝突警報機能の警報タイミング	標準	早い	○	○
		遅い		

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 車線逸脱警報機能・路側逸脱警報機能（→ P. 196）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
車線逸脱警報機能の警報タイミング	標準	早い	○	○

■ ふらつき警報（→ P. 201）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ふらつき警報の作動	あり	なし	○	○

■ 先行車発進お知らせ機能（→ P. 204）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
先行車発進お知らせ機能の作動	あり	なし	○	○
先行車発進お知らせ機能の 発進告知タイミング	標準	やや早い 早い	○	○

■ オートエアコン★（→ P. 245）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AUTO スイッチが ON のとき、連動して 外気導入と内気循環を自動的に切り替える	する	しない	—	○
オートエアコン使用時の eco IDLE によるアイド リングストップの設定	標準	空調※	○	○

※ エアコンの作動が優先され、eco IDLE によるエンジン停止が可能な状態になるまでの時間が長くなったり、エンジン停止の時間が短くなったりする場合があります。（→ P. 207）

■ コーナーセンサー（→ P. 215）

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
コーナーセンサーのブザー（音量）	レベル 2	レベル 1 レベル 3	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ (→ P. 102, 146)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ランプ消し忘れ防止機能	エンジンスイッチと連動	運転席ドアと連動	—	○
電子カードキーで全ドア解錠時に車幅灯、番号灯、尾灯が自動点灯（ウェルカムランプ設定（テールランプ連動））★	しない	する	○	○

■ ヘッドランプ点灯延長機能 (→ P. 147)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ヘッドランプが自動的にオフになるまでの経過時間	30 秒	60 秒	—	○
		90 秒		
		120 秒		

■ AHB (→ P. 150)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
AHB の作動	あり	なし	○	○

■ イルミネーション (→ P. 254)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ドア開閉後に点灯している室内灯が自動で消灯する時間	15 秒	OFF	—	○
		7.5 秒		
		30 秒		
室内灯が自動で消灯する	する	しない	—	○
エンジンスイッチ“OFF”後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	—	○
電子カードキーを携帯して車両に近付いたときの室内灯自動点灯（ウェルカムランプ設定（ルームランプ連動））★	する	しない	○	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアミラー (→ P. 116)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
ドアミラースイッチの操作によるドアミラーの格納・復帰	エンジンスイッチが“ACC”または“ON”で格納・復帰できる	エンジンスイッチが“ON”で格納・復帰できる	—	○
オート作動によるドアミラーの復帰	ワイヤレス機能、キーフリーシステム★によるドアの解錠と連動して復帰する	エンジンスイッチの操作と連動して復帰する	—	○
エンジンスイッチの操作によるドアミラーの復帰※	エンジンスイッチを“ACC”または“ON”にすると復帰する	エンジンスイッチを“ON”にすると復帰する	—	○

※ オート作動によるドアミラーの復帰の設定をエンジンスイッチの操作と連動に変更した場合

■ フロントワイパー (車速感应式間欠ワイパー装着車) (→ P. 154)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
車速感应間欠作動機能	する	しない	○	○

■ リヤワイパー&ウォッシャー (→ P. 156)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
リバース連動機能	する	しない	○	○
間欠作動時間の調整	標準	早い 遅い	—	○
間欠作動開始時に 4 秒間の低速作動	する	しない	—	○
リヤウォッシャー連動機能	しない	する	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 方向指示レバー (→ P. 144)

機能の内容	初期設定	変更後	①	②
レバーを途中まで動かしたときの3回点滅する機能	する	しない	○	○
逆方向にレバーを操作して点滅を中止させるときの、逆方向の3回点滅が始まるまでのレバー保持時間	レベル2	レベル1 ～4	—	○
右左折後に消灯させるハンドルの角度調整	レベル3	レベル1 ～9	—	○

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく動かせるために初期設定が必要です

項目	機能の内容	参照
パワーウィンドウ	●バッテリーの充電・交換後の再接続 ●ヒューズ交換時	P. 121

さくいん

こんなときは （症状別さくいん）	382
お車から音が鳴ったときは （音さくいん）	385
アルファベット順さくいん	386
五十音順さくいん	387

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、ダイハツサービス工場にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- キーまたはエマージェンシーキーをなくした場合、ダイハツサービス工場
でダイハツ純正の新しいキーまたはエマージェンシーキーを作ることができます。（→ P. 81）
- キーまたは電子カードキー★をなくすと盗難の危険性が極めて高くなる
ため、ただちにダイハツサービス工場にご相談ください。（→ P. 82）



施錠・解錠できない

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→ P. 300）
- キーフリーシステム装着車
エンジンスイッチが“ON”になっていませんか？
施錠するときはエンジンスイッチを“OFF”にしてください。（→ P. 139）
- キーフリーシステム装着車
電子カードキーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは電子カードキーを携帯していることを確認してください。
- キーフリーシステム装着車
電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
（→ P. 87）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていますか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
一旦車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。
（→ P. 96）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

故障かな？と思ったら**エンジンがかからない
（キーフリーシステム非装着車）**

- シフトレバーはPになっていますか？（→ P. 135）
- ハンドルロックされていませんか？（→ P. 136）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 359）

**エンジンがかからない
（キーフリーシステム装着車）**

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→ P. 138）
- シフトレバーはPになっていますか？（→ P. 138）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→ P. 84）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。
（→ P. 357）
- バッテリーがあがっていませんか？（→ P. 359）

**ブレーキペダルを踏んでもシフトレバーがPから動かない**

- エンジンスイッチが“ON”になっていますか？
エンジンスイッチが“ON”でブレーキを踏んでも解除できないときは
（→ P. 143）を参照してください。

**エンジンを停止したあとにハンドルが回せなくなった**

- キーフリーシステム非装着車
盗難防止のため、キーをエンジンスイッチから抜くとロックされます。
（→ P. 135）



パワーウィンドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウィンドウロックスイッチが押されていませんか？

ウィンドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウィンドウは操作できなくなります。（→ P. 120）



エンジンスイッチが自動的に OFF になった （キーフリーシステム装着車）

- 一定時間“ACC”または“ON”（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→ P. 140）



警告音が鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「お車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→ P. 385）をご確認ください。



警告灯が点灯したとき

- 警告灯が点灯したときは、（→ P. 335）をご確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- お車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理セットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→ P. 344）



立ち往生した

- むかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→ P. 366）

お車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、お車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

お車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
ドアを開閉したとき	エンジンスイッチにキーが差してある★	P. 136
	車幅灯・ヘッドランプが点灯している	P. 149

走行しているとき

状況	原因	詳細
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P. 130

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン)..... P. 240, 245

ABS

(アンチロックブレーキシステム)..... P. 229

ACC

(アクセサリ)..... P. 135, 139

AHB

(オートハイビーム)..... P. 150

EDR

(イベントデータレコーダー)..... P. 8

EPS

(エレクトリックパワーステアリング)..... P. 229

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーション)..... P. 369

ISOFIX

(アイソフィックス／イソフィックス)..... P. 38

SRS

(サブリメンタルレストレイントシステム)..... P. 29

TRC P. 229

VSC P. 229

五十音順さくいん

あ

アイドリングストップ	207
アイドリングストップ	
時間	69
eco IDLE	
(エコアイドル)	207
eco IDLE OFF スイッチ ..	207
eco IDLE OFF 表示灯	207
eco IDLE 表示灯	207
アウターハンドル	
(ドアハンドル)	94
アウターミラー	116
オート作動	118
調整	116
アクセサリソケット	263
アシストグリップ	265
アンチロックブレーキシステム	
(ABS)	229
アンテナ	268

い

イグニッション	
スイッチ	135, 138
位置交換	
(タイヤローテーション)	282
イベントデータレコーダー	
(EDR)	8
イモビライザー機能	54
イモビライザーシステム表示灯	
(セキュリティ表示灯)	54
イルミネーテッドエントリーステム	
(ドア連動)	
カスタマイズ機能	374
作動について	255
点灯する部位	254
インジケーター	63

インナーミラー

(ルームミラー)	115
----------------	-----

う

ウインカー (方向指示灯)

電球 (バルブ) の交換	307
方向指示レバー	144
ワット数	372

ウインドウ

ウォッシャー	154, 156
パワーウインドウ	120
リヤウインドウ	
デフォッガー	241, 247

ウインドウロックスイッチ

(パワーウインドウ	
OFF スイッチ)	120

ウェルカムドアロック解除

ウォッシャー	154, 156
液の補給	280
スイッチ	154, 156
タンク容量	371
冬の前の準備・点検	235

ウォーニングランプ

(警告灯)	335
-------------	-----

動けなくなったときは

(スタックした)	366
----------------	-----

運転

環境に配慮した運転	128
寒冷時の運転	235
正しい運転姿勢	22
手順	126

運転席シートベルト

締め忘れ警告灯	338
---------------	-----

え

エアコン	
オートエアコン	245
フィルターの交換	293
マニュアルエアコン	240
エアバッグ	29
SRS エアバッグ警告灯	336
作動条件	32
配置	29
エマージェンシーキー	
(メカニカルキー)	81
エマージェンシーストップシグナル	
(緊急ブレーキシグナル)	230
エンジン	
イグニッション	
スイッチ	135, 138
エンジンがかからない	356
エンジン警告灯	335
エンジンスイッチ	135, 138
オーバーヒート	363
かけ方	135, 138
ボンネット	275
エンジンイモビライザーシステム	
表示灯 (セキュリティ表示灯)	54
エンジンオイル	368
定期点検	279
冬の前の準備・点検	235
メンテナンスデータ	368
油圧警告表示	335
エンジンスイッチ	
操作方法	135, 138

お

オイル	
油脂類の容量と銘柄	368
応急修理セット	344
お子さまを乗せるとき	37
ウインドウロックスイッチ	
(パワーウインドウ	
OFF スイッチ)	120
エアバッグに関する警告	30
お子さまのシートベルト	
着用	27
お子さまを乗せるときの	
警告	27, 50
キーの電池に関する警告	303
シートベルトに関する警告	27
チャイルドシート	38
チャイルドシートの	
取り付け	48
発炎筒の取り扱いに関する	
警告	323
バックドアに関する警告	105
バッテリーに関する警告	361
パワーウインドウに関する	
警告	122
お手入れ	
外装	268
シートベルト	272
内装	272
オドメーター	68
機能	68
表示切り替えスイッチ	67
オートエアコン	245
オートドアロック・	
アンロック機能	96
オートライト	
(自動点灯・消灯機能)	146
オーバーヒート	363

オープナー	
給油口	160
バックドア	103
ボンネット	275
オープントレイ	259

か

外気温度表示	69
外装の電球（バルブ）	307
交換要領	307
ワット数	372
格納式アシストグリップ	265
カスタマイズ機能	374
ガソリンスタンドでの情報	402
型式	373
カップホルダー	257
ガラスの曇り取り （リヤウインドウ デフォッガー）	241, 247
ガレージジャッキ	278
冠水路走行	133
寒冷時の運転	235
カーベット	272
洗浄	272
フロアマットの取り付け方	20

き

給油	158
給油のしかた	160
メンテナンスデータ	368
緊急時のシートベルト固定機構	25
緊急時の対処 イベントデータレコーダー （EDR）	8
エンジンがかからない	356
オーバーヒートした	363
キーの電池が切れた	300, 357
キーを失くした	81, 82

警告灯がついた	335
けん引	328
故障したときは	320
車中泊が必要なときは	327
車両を緊急停止する	324
水没したときは	326
スタックした	366
電子カードキーが 正常に働かない	357
発炎筒	322
バッテリーがあがった	359
パンクした	344
非常点滅灯 （ハザードランプ）	321
緊急ブレーキシグナル （エマージェンシー ストップシグナル）	230
キー	80
イグニッション スイッチ	135, 138
エンジンが始動できない	356
エンジンスイッチ	135, 138
キーナンバープレート	80
キーの構成	80
キーの電池が切れた	300, 301
キーレスエントリー	92
キーを失くした	81, 82
正常に働かない	357
施錠・解錠ができない	357
電子カードキー	80
電子カードキーの 作動範囲	84
電池交換	300, 301
メカニカルキー （エマージェンシー キー）	81, 357
ワイヤレスリモコン	92

キーフリーシステム	83
アンテナの位置	84
エンジンスイッチ (ブッシュボタン スタートスイッチ)	138
エンジンの始動	138
カスタマイズ機能	374
警告ブザー	85
作動範囲	84
正常に働かない	357
節電機能	86
電波がおよぼす影響に ついて	91
ドアの施錠・解錠	83
キーレスエントリー	
(ワイレス機能)	83, 92, 94
キーフリーシステム	83
ワイレスドアロック	92

く

空気圧 (タイヤ)	372
空調 (エアコン)	
オートエアコン	245
フィルターの交換	293
マニュアルエアコン	240
区間距離計	
(トリップメーター)	68
機能	68
表示切り替えスイッチ	67
曇り取り	
フロントウインドウ ガラス	241, 247
リヤウインドウ デフォグガー	241, 247
クラクション (ホーン)	113
クリアランスランプ (車幅灯)	146

ランプスイッチ (ライトスイッチ)	146
電球 (バルブ) の交換	307
クリップ	
フロアマット	20
クリーンエアフィルター	293
グローブボックス	257

け

警告器 (ホーン)	113
計器類 (メーター)	65
マルチインフォメーション ディスプレイ	66
警告灯	335
アンチロックブレーキシステム (ABS)	336
運転席シートベルト 締め忘れ	338
eco IDLE OFF 表示灯	337
SRS エアバッグ	336
エンジン	335
AHB	150, 336
高水温	335
コーナーセンサー表示灯	337
車線逸脱警報 OFF 表示灯	336
充電	335
助手席シートベルト 締め忘れ	338
CVT	335
スマートアシスト OFF 表示灯	336
スマートアシスト故障	336
スリップ表示灯	337
燃料残量	338
パワーステアリング	336
半ドア	338
パーキングブレーキ 未解除	338

プリテンショナー	336
ブレーキ	335
ブレーキオーバーライド システム	337
マスターウォーニング	336
油圧	335
警告ブザー	
運転席シートベルト 締め忘れ	338
eco IDLE	212, 341
キー抜き忘れ	136
キーフリーシステム	85
コーナーセンサー	216
車線逸脱警報機能・ 路側逸脱警報機能	169
衝突回避支援ブレーキ 機能	168
衝突警報機能	168
助手席シートベルト 締め忘れ	338
セキュリティアラーム	55
先行車発進 お知らせ機能	169
パワーステアリング	336
半ドア走行時	338
パーキングブレーキ 未解除走行時	64, 338
ふらつき警報	169
ブレーキ	335
ブレーキ制御付 誤発進抑制機能（前方・後方）	168
ランプ消し忘れ	149
リバース	143
化粧ミラー （バニティミラー）	262

けん引 けん引されるとき	328
フック	330

こ

交換 エアコンフィルター	293
キーの電池	300
タイヤ	285
電球（バルブ）	307
ヒューズ	304
ワイパーゴム	295
工具（ツール）	285
光軸調整ダイヤル	148
航続可能距離	68
後退灯（バックアップランプ） 電球（バルブ）の交換	307
ワット数	372
小物入れ	259
コンライト （自動点灯・消灯装置）	146
コーナーセンサー	215

さ

サイドエアバッグ	29
サイド方向指示灯（側面方向指示灯） 電球（バルブ）の交換	307
方向指示レバー	144
ワット数	372
サイドミラー（ドアミラー） 操作	116
ミラーヒーター	241, 247
三角表示板収納スペース	261
サンバイザー	262

し

室内灯（インテリアランプ）	254
ルームランプ	254
ワット数	372
始動のしかた	135, 138
シフトポジション	142
シフトレバー	
シフトレバーが	
シフトできない	143
CVT	142
リバース警告ブザー	143
シフトロックシステム	143
車線逸脱警報機能・	
路側逸脱警報機能	196
車速	
スピードメーター	65
車中泊が必要なときは	327
ジャッキ	
ガレージジャッキ	278
車載ジャッキ	285
タイヤ交換	285
ジャッキハンドル	285
車幅灯	146
ランプスイッチ	
（ライトスイッチ）	146
電球（バルブ）の交換	307
車両カスタマイズ機能	374
車両型式	373
車両仕様（スペック）	373
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには	324
収納装備	256
手動光軸調整ダイヤル	148
ジュニアシート	38
仕様（車両仕様）	373
衝突回避支援ブレーキ機能	
（対車両・対歩行者）	173

衝突警報機能

（対車両・対歩行者）	173
初期設定	380
パワーウインドウ	121
マルチインフォメーション	
ディスプレイ	74
助手席シートベルト	
締め忘れ警告灯	338
ショッピングフック	265
シート	
お手入れ	273
シートに関する警告	108, 110
シートの調整に関する	
警告	108, 110
シートヒーター	252
正しい運転姿勢	22
チャイルドシート	38
チャイルドシートの固定	48
調整	108
フロントシート	108
ヘッドレスト	111
リヤシート	109
シートヒーター	252
シートベルト	24
お子さまの着用	27
お手入れ	272
緊急時のシートベルト	
固定機構	25
シートベルト	
締め忘れ警告灯	338
正しく着用するには	24
チャイルドシートの固定	48
着け方・外し方	24
妊娠中の方の着用	27
シートベルト締め忘れ警告灯	338

シートベルトプリテンショナー	… 25
機能	… 25
プリテンショナー警告灯	… 336
CVT	… 142
シフトレバーが	
シフトできない	… 143

す

スイッチ

アイドリングストップシステム	
(eco IDLE)	… 207
イグニッション	… 135, 138
ウインドウロック	… 120
ウォッシャー	… 154, 156
エンジンスイッチ	… 135, 138
コーナーセンサー	… 215
シートヒーター	… 252
スマートアシスト	
OFF スイッチ	… 166
ドアミラー	… 116
パワーウインドウ	… 120
非常点滅灯	
(ハザードランプ)	… 321
VSC・TRC OFF	… 230
メーター操作スイッチ	… 67
ランプスイッチ	
(ライトスイッチ)	… 146
リヤウインドウ	
デフォグガー	… 241, 247
ワイパー	… 154, 156
スタック	… 366
スターター	
エンジンの始動	… 135, 138
スターターが回らない	… 356

ステアリングホイール	
(ハンドル)	… 113
位置調整	… 113
パワーステアリング	
警告灯	… 336
ステレオカメラ	… 165
ストップランプ(制動灯)	
電球(バルブ)の交換	… 307
スノータイヤ(冬用タイヤ)	… 235
スピードメーター	… 65
スペック(車両仕様)	… 373
スマートアシスト	… 162
スマートアシスト	
機能停止コード	… 342
スモールランプ(車幅灯)	… 146
電球(バルブ)の交換	… 307
ランプスイッチ	
(ライトスイッチ)	… 146
ワット数	… 372

せ

清掃

外装	… 268
シートベルト	… 272
内装	… 272

制動灯

電球(バルブ)の交換	… 307
------------	-------

積算距離計

(オドメーター)	… 68
機能	… 68
表示切り替えスイッチ	… 67

セキュリティアラーム

停止方法	… 55
------	------

セキュリティ表示灯

先行車発進お知らせ機能	… 204
-------------	-------

洗車

前照灯(ヘッドランプ)	… 146
-------------	-------

手動光軸調整ダイヤル	… 148
------------	-------

電球（バルブ）の交換……………	307
ヘッドランプ	
点灯延長機能……………	147
ライトセンサー……………	149
ランプ消し忘れ	
警告ブザー……………	149
ランプ消し忘れ防止機能……………	149
ランプスイッチ	
（ライトスイッチ）……………	146

そ

速度計	
（スピードメーター）……………	65
側面方向指示灯	
（サイド方向指示灯）……………	144
ソナー……………	165, 215

た

タイヤ……………	282
空気圧……………	372
交換……………	285
締め付けトルク……………	290
点検……………	282
パンク応急修理セット……………	344
パンクしたときは……………	344
冬用タイヤ……………	235
ホイールサイズ……………	372
ローテーション	
（位置交換）……………	282
タイヤが空回りする	
（スタックした）……………	366
タイヤチェーン……………	235
ターンシグナルランプ	
（方向指示灯）……………	144
電球（バルブ）の交換……………	307
方向指示レバー……………	144
ワット数……………	372

ち

チェンジレバー（シフトレバー）	
シフトレバーが	
シフトできない……………	143
CVT……………	142
リバース警告ブザー……………	143
チェーン（タイヤチェーン）…	235
チャイルドシート……………	38
ISOFIX バーでの取り付け ……	51
シートベルトでの固定……………	49
選択方法……………	38
取り付け方……………	48
チャイルドプロテクター……………	96
駐車ブレーキ	
（パーキングブレーキ）……………	145
操作……………	145
未解除走行時警告ブザー ……	64
メンテナンスデータ……………	371
チルトステアリング……………	113

つ

ツール（工具）……………	285
--------------	-----

て

デッキボード……………	260
デフォッガー	
フロントガラス……………	241, 247
リヤウインドウ	
デフォッガー……………	241, 247
電球（バルブ）	
交換要領（外装バルブ）……………	307
ワット数……………	372
電球（バルブ）の交換……………	307
点検基準値	
（メンテナンスデータ）……………	368

電子カードキー

- キーの電池が切れた…………… 357
- 作動範囲…………… 84
- 正常に働かないとき…………… 357
- 電池交換…………… 300, 301

電池交換（キー）…………… 300

テールランプ（尾灯）…………… 146

- 電球（バルブ）の交換…………… 307
- ランプスイッチ
（ライトスイッチ）…………… 146

と

ドア…………… 94

- オートドアロック・
アンロック機能…………… 96
- キーフリーシステム…………… 83
- チャイルドプロテクター…………… 96
- ドアガラス…………… 120
- ドアポケット…………… 259
- 半ドア警告灯…………… 338
- ロックレバー
（パワードアロック）…………… 95
- ワイヤレスリモコン…………… 92

ドアガラス…………… 120

ドアハンドル

- （アウターハンドル）…………… 94

ドアポケット…………… 259

ドアミラー…………… 116

- オート作動…………… 118
- 操作…………… 116
- ミラーヒーター…………… 241, 247

ドア連動（イルミネーテッド

- エントリースystem）…………… 255

盗難防止装置

- エンジンイモビライザー
システム…………… 54
- セキュリティアラーム…………… 55

時計…………… 66

時計の調整…………… 67

トップテザーアンカー…………… 52

トランスミッション…………… 142

- 操作…………… 142

- メンテナンスデータ…………… 370

トリップ

- インフォメーション…………… 68

トリップメーター…………… 68

- 機能…………… 68

- 表示切り替えスイッチ…………… 67

な

内装

- お手入れ…………… 272
- 収納装備…………… 256

に

荷物

- 積むときの注意…………… 134
- ラゲージルーム…………… 260

ぬ

ぬかるみにはまった

- （スタックした）…………… 366

ね

燃料

ガソリンスタンドでの

- 情報…………… 402
- 給油…………… 158
- 種類…………… 368
- 燃料計…………… 65
- 燃料残量警告灯…………… 338
- 容量…………… 368

は

排気ガス	36
ハイビーム（ヘッドランプ）	146
電球（バルブ）の交換	307
ランプスイッチ	
（ライトスイッチ）	146
ワット数	372
挟み込み防止装置	
パワーウインドウ	121
ハザードランプ	
（非常点滅灯）	321
スイッチ	321
電球（バルブ）の交換	307
ワット数	372
発炎筒	322
バックアップランプ（後退灯）	
電球（バルブ）の交換	307
ワット数	372
バックカメラ	221
バックドア	103
バッテリー	
バッテリーあがり	
防止するために	362
バッテリーがあがった	359
冬の前の準備・点検	235
バニティミラー	
（化粧ミラー）	262
バルブ（電球）	
交換要領（外装のバルブ）	307
ワット数	372
パワーウインドウ	120
ウインドウロックスイッチ	
（パワーウインドウ	
OFF スwitch）	120
閉めることが	
できないときは	121
操作	120

挟み込み防止機能	121
パワーステアリング	229
パワーステアリング	
警告灯	336
パワードアロック	
（ロックレバー）	95
バンクした	344
番号灯（ライセンスプレート	
ランプ）	146
電球（バルブ）の交換	307
ランプスイッチ	
（ライトスイッチ）	146
ワット数	372
ハンドル	
（ステアリングホイール）	113
位置調整	113
パワーステアリング	
警告灯	336
ハンドルロック	136
パーキングブレーキ	145
操作	145
パーキングブレーキ	
未解除警告灯	338
未解除走行時	
警告ブザー	64, 338
メンテナンスデータ	371

ひ

非常点滅灯	
(ハザードランプ)	321
スイッチ	321
電球 (バルブ) の交換	307
ワット数	372
尾灯 (テールランプ)	146
電球 (バルブ) の交換	307
ランプスイッチ	
(ライトスイッチ)	146
ヒューズ	304
表示灯	63
日よけ (サンバイザー)	262
ヒルホールドシステム	229
ヒーター	
オートエアコン	245
シートヒーター	252
マニュアルエアコン	240

ふ

ファンベルトの点検基準値	372
V リブベルトの点検基準値	372
ブザー	
運転席シートベルト	
締め忘れ	338
eco IDLE	212, 341
キー抜き忘れ	136
キーフリーシステム	
.....	85
コーナーセンサー	216
車線逸脱警報機能	
路側逸脱警報機能	169
衝突回避支援ブレーキ	
機能	168
衝突警報機能	168
助手席シートベルト	
締め忘れ	338

セキュリティアラーム	55
先行車発進	
お知らせ機能	169
パワーステアリング	336
半ドア走行時	338
パーキングブレーキ	
未解除走行時	64, 338
ふらつき警報	169
ブレーキ	335
ブレーキ制御付	
誤発進抑制機能 (前方・後方)	
.....	168
ランプ消し忘れ	149
リバース	143
フック	
けん引フック	330
ショッピングフック	265
フロアマット固定フック	20
プッシュボタン	
スタートスイッチ	138
冬の前の準備	
(寒冷時の運転)	235
冬用タイヤ	235
フューエルメーター (燃料計)	65
フューエルリッド (給油口)	
給油のしかた	158
プラスサポート	224
ふらつき警報	201
ブレーキ	
パーキングブレーキ	145
ブレーキ警告灯	335
メンテナンスデータ	371
ブレーキアシスト	229
機能	229
スリップ表示灯	337
ブレーキ制御付	
誤発進抑制機能	186

ブレーキ付近から	
キーキー音が聞こえる	130
ブレーキフルード	371
フロアマット	20
フロントシート	108
お手入れ	273
シートヒーター	252
正しい運転姿勢	22
調整	108
フロントシート調整に 関する警告	108
フロントターン	
シグナルランプ	144
電球（バルブ）の交換	307
方向指示レバー	144
フロント方向指示灯	144
電球（バルブ）の交換	307
方向指示レバー	144
ブースターケーブルの つなぎ方	359

へ

平均燃費	68
ヘッドランプ	146
手動光軸調整ダイヤル	148
電球（バルブ）の交換	307
ヘッドランプ	
点灯延長機能	147
ライトセンサー	149
ランプ消し忘れ警告	
ブザー	149
ランプ消し忘れ防止機能	149
ランプスイッチ	
（ライトスイッチ）	146
ワット数	372
ヘッドレスト	111
ベビーシート	38

ほ

ホイール	
交換	285
メンテナンスデータ	372
ホイールナットレンチ	285
方向指示灯	144
電球（バルブ）の交換	307
方向指示レバー	144
ワット数	372
補給口（燃料）	158
保証	9
ボトルホルダー	257
ボンネット	
開けかた	275
ホーン（警音器）	113

ま

マスターウォーニング	336
マニュアルエアコン	240
マルチインフォメーション ディスプレイ	66

み

ミラー	
インナーミラー	115
ドアミラー	116
バニティミラー	262

め

メカニカルキー	
（エマージェンシーキー）	81
メンテナンスデータ	368
メーター（計器類）	65
警告灯	335
表示切り替えスイッチ	67
表示灯	63
マルチインフォメーション ディスプレイ	66

ゆ

雪道で滑って動けない (スタックした)	366
油脂類	368
ユーザーカスタマイズ機能	374

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)	146
電球 (バルブ) の交換	307
ランプスイッチ (ライトスイッチ)	146
ワット数	372
ライトセンサー	149
ラゲージアンダーボックス	260
ラゲージルーム デッキボード	260
ラゲージアンダーボックス	260
ラジエーター (冷却装置) オーバーヒート	363
メンテナンスデータ	370
ランプ 室内灯	254
前照灯 (ヘッドランプ)	146
電球 (バルブ) の交換	307
非常点滅灯 (ハザードランプ)	321
方向指示灯 (ターンシグナル ランプ/ウインカー)	144
ライトセンサー	149
ランプ消し忘れ防止機能	149
ルームランプ	254
ワット数	372
ランプ消し忘れ防止機能	149
ランプスイッチ (ライトスイッチ)	146

り

リヤウインドウデフォッガー スイッチ	241, 247
リヤシート	109
ヘッドレスト	111
リヤシートに関する警告	110
リヤ方向指示灯	144
電球 (バルブ) の交換	307
方向指示レバー	144
ワット数	372
リヤワイパー	156

る

ルームミラー (インナーミラー)	115
ルームランプ	254
スイッチ	254
ワット数	372

れ

冷却水	370
冬の前の準備・点検	235
メンテナンスデータ	370
冷却装置 (ラジエーター) オーバーヒート	363
メンテナンスデータ	370
レバー シフト	142
方向指示	144
ボンネット解除	275
ロック (ドア)	95

ろ

ロック

ウインドウロック…………… 120

ウェルカムドア

 ロック解除…………… 99

キーフリーシステム…………… 83

シフトロックシステム…………… 143

ドア…………… 94

ワイヤレスリモコン…………… 94

わ

ワイパー &

 ウォッシャー…………… 154, 156

ワイパーブレード

 (寒冷地用)…………… 237

ワイヤレスリモコン…………… 92

 作動の合図…………… 92

 操作…………… 94

 電池交換…………… 300

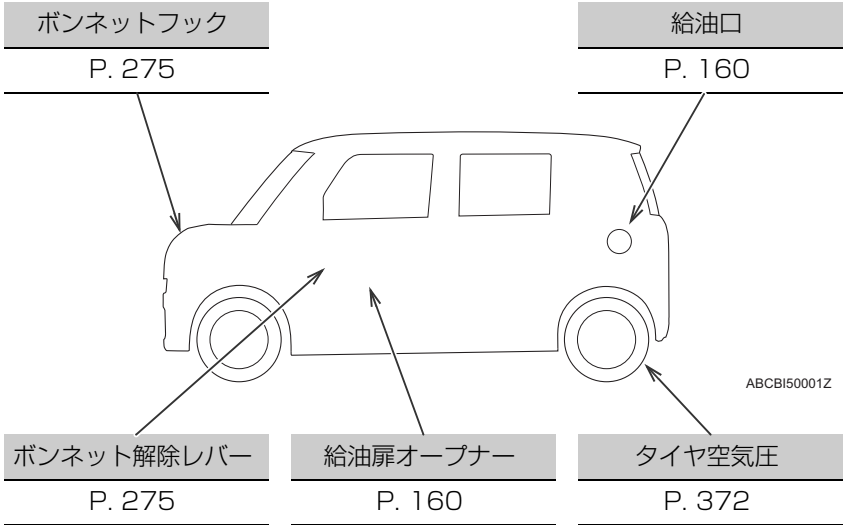
ワックス…………… 268

ワット数…………… 372



ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。



燃料の容量（参考値）	▶ 2WD 車 28L ▶ 4WD 車 30L
燃料の種類	無鉛レギュラーガソリン 無鉛プレミアムガソリン P. 158, 368
タイヤが冷えている ときの空気圧	P. 372
エンジンオイル容量 （参考値）	P. 368
エンジンオイルの種類	P. 368

軽自動車を廃車したときは

自動車検査証返納の手続きが必要になりますので、軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

返納に必要な書類など（**A**は一時使用中止時、**B**は解体返納時に必要です）

- A** 自動車検査証返納証明書交付申請書・自動車検査証返納届出書
- B** 解体届出書
- A B** 自動車検査証
- A B** 車両番号標（ない場合は「車両番号標未処分理由書」）
- A B** 軽自動車税申告書
- A B** 印鑑

A 一時使用中止時

7 番窓口

ナンバー頒布



6 番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



2 番窓口

申請書類の確認



3 番窓口

検査手数料収納



2 番窓口

申請書類の確認

B 解体返納時

7 番窓口

ナンバー頒布



6 番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



2 番窓口

申請書類の確認



5 番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※上記の順序は一般的な例です。

使用者・所有者・使用者の住所を変更したときは

検査証記載事項変更の手続きが必要になりますので、使用中の本拠位置を管轄する軽自動車検査協会事務所で手続きを行ってください。

申請に必要な書類など（**C**は使用者・所有者を変更した場合、**D**は引っ越しなどにより、使用者の住所を変更した場合に必要です）

C D 自動車検査証記入申請書

C D 自動車検査証

C D 使用者の住所を証する書面（印鑑証明書、または住民票抄本などで発行後 3 か月以内のもの）

C 自動車損害賠償責任保険証明書、または自動車損害賠償責任共済証明書（使用者が変わった場合に必要です）

C D 車両番号標（同じ管轄であれば変更する必要がありません）

C 軽自動車税申告書・自動車取得税申告書

D 軽自動車税申告書

C D 印鑑

C D（ナンバー変更あり）

2 番窓口

申請書類の確認



7 番窓口

ナンバー頒布



5 番窓口

申請書の受付、および検査証交付



6 番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



7 番窓口

ナンバー頒布

C D（ナンバー変更なし）

2 番窓口

申請書類の確認



6 番窓口

自動車取得税の納付、および軽自動車税の申告



5 番窓口

申請書の受付、および検査証交付

※上記の順序は一般的な例です。

**お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社、または
ダイハツお客様コールセンターまでお願いいたします。**

**お問い合わせには、あらかじめ次の事項に
ついて確認の上、ご連絡願います。**

- (1) 車名および型式、登録番号
- (2) ご購入年月日
- (3) 走行距離
- (4) お客様のご住所、お名前、電話番号

お問い合わせ、ご相談は、ご購入いただいたお店、
最寄りのダイハツ販売会社または下記までお願いいたします。

ダイハツお客様コールセンター

フリーコール  0800-500-0182

受付時間 9:00~17:00

〒563-8651 大阪府池田市ダイハツ町1番1号



弊社におけるお客様の個人情報の取り扱いについては、ダイハツ工業株式会社ホームページにて掲載しております。(<https://www.daihatsu.com/jp/privacy.html>)

QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

シートベルトを締めましょう

●車両の仕様等の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。